

湖南省介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び 在宅介護実態調査結果報告書

令和 3 年 3 月

湖南省

目次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の概要	1
3 調査結果の表示方法	2
第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果	3
1 調査票の記入者について	3
2 調査対象者の属性	3
3 家族や生活状況について	5
4 からだを動かすことについて	12
5 食べることについて	22
6 毎日の生活について	29
7 地域での活動について	41
8 助け合いについて	48
9 健康状態について	56
10 高齢者の暮らしについて	64
11 高齢者への施策について	65
12 成年後見制度について	66
13 高齢者福祉施策に期待することやご意見等	70
第3章 在宅介護実態調査の結果	72
1 単純集計	72
2 クロス集計・分析	83

第1章 調査の概要

1 調査の目的

(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

令和2年度の「第8期湖南省高齢者福祉計画・介護保険事業計画」の策定に関する基礎資料とするため、高齢者の生活の状況や心身の状態などについて把握し、事業の推進に活用します。

(2) 在宅介護実態調査

「高齢者等の適切な在宅生活の継続」や「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討するため、要介護（支援）認定調査と関連付けて基礎資料とします。

2 調査の概要

(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

①調査対象

湖南省に居住する要介護1～5以外の65歳以上の市民5,200人

②調査期間

令和2年2月14日（金）～令和2年3月10日（火）

③調査方法

郵送配布、郵送回収

④配布数・回収状況

配布数	回収数（回収率）	有効回収数（有効回収率）
5,200	3,415（65.7%）	3,415（65.7%）

（２）在宅介護実態調査

①調査対象

湖南省に居住する在宅で要支援・要介護認定を受けている 65 歳以上の市民 1,200 人

②調査期間

令和 2 年 3 月 13 日（金）～令和 2 年 3 月 31 日（火）

③調査方法

郵送配布、郵送回収

④配布数・回収状況

配布数	回収数（回収率）	有効回収数（有効回収率）
1,136	645（56.8%）	645（56.8%）

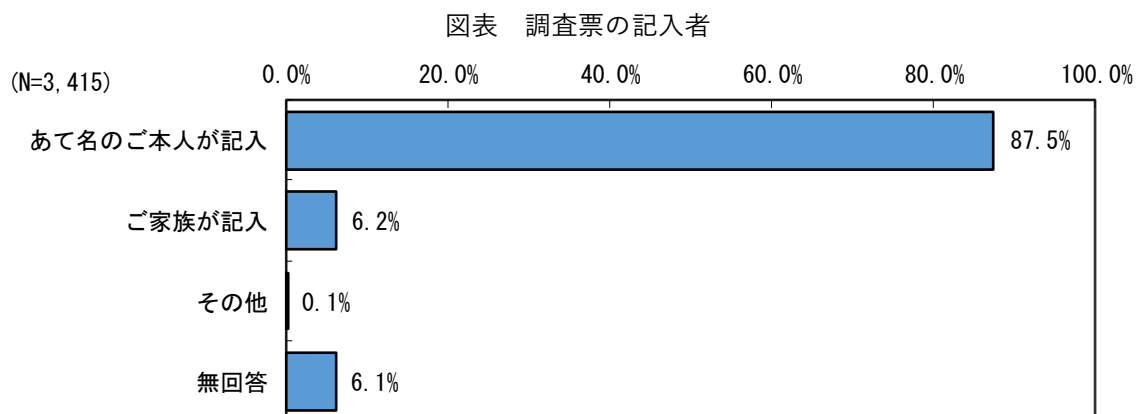
3 調査結果の表示方法

- （１）集計結果は、すべて小数点以下第 2 位を四捨五入しており、比率の合計が 100% とならないことがあります。
- （２）複数の回答を依頼した質問では、比率の合計が 100% とならない場合があります。
- （３）回答比率（%）は、その質問の回答者数を基数（N=Number of case）として算出しています。
- （４）本文中の表などにおいて、選択肢が長い文章となる際に簡略化している場合があります。
- （５）本文中、「回答者」とは調査対象となったあて名のご本人を指します。

第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果

1 調査票の記入者について

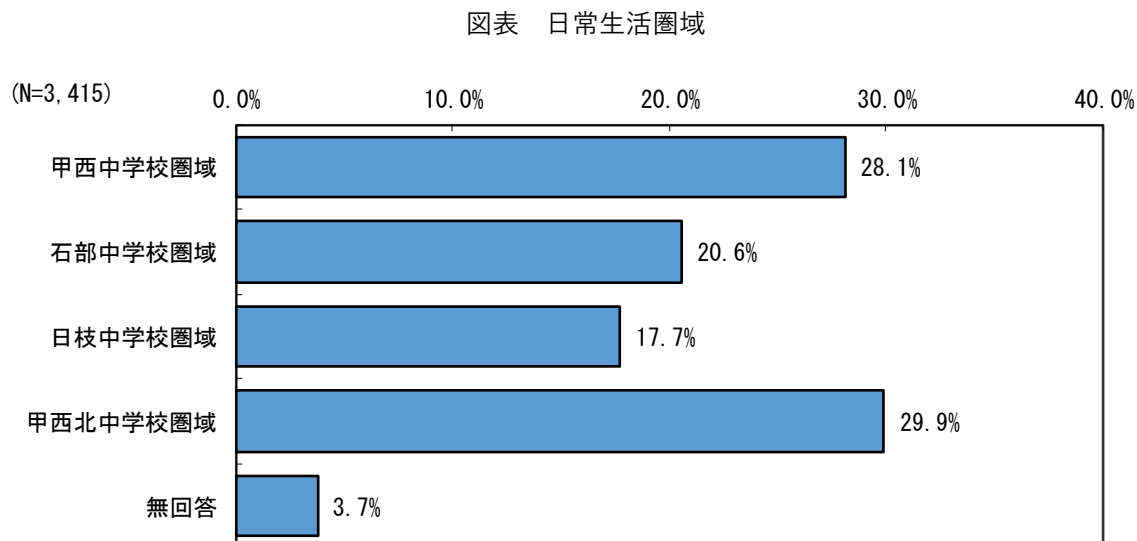
調査票の記入者をみると、「あて名のご本人が記入」が87.5%と最も多くなっています。



2 調査対象者の属性

(1) 日常生活圏域

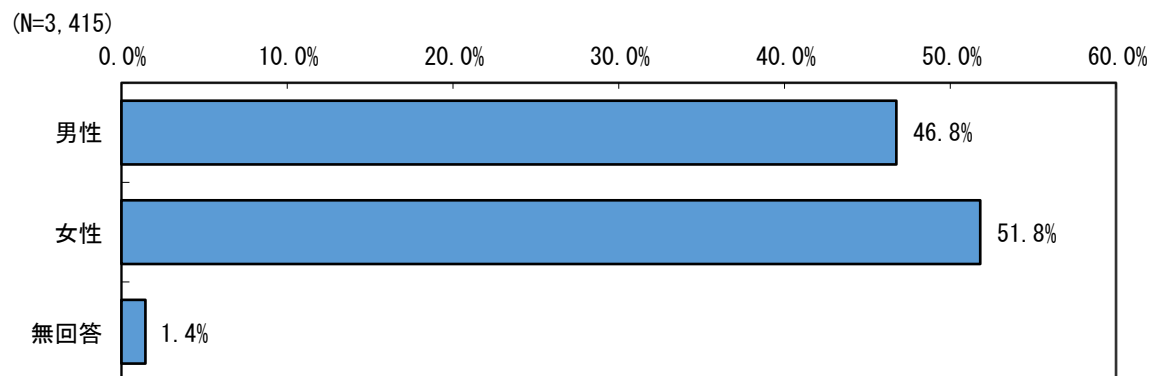
調査対象者の居住地を日常生活圏域別にみると、「甲西北中学校圏域」が29.9%で最も多く、次いで「甲西中学校圏域」が28.1%、「石部中学校圏域」が20.6%となっています。



(2) 性別

調査対象者の性別をみると、「男性」が46.8%、「女性」が51.8%となっています。

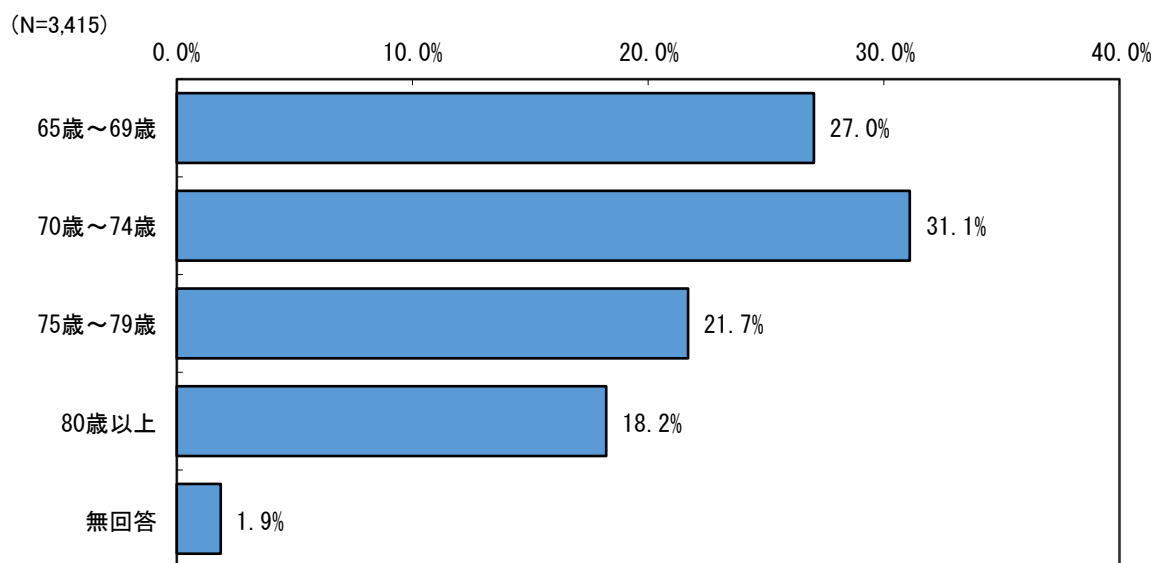
図表 性別



(3) 年齢

調査対象者の年齢をみると、「70～74 歳」が31.1%で最も多く、次いで「65～69 歳」が27.0%、「75～79 歳」が21.7%となっています。

図表 年齢

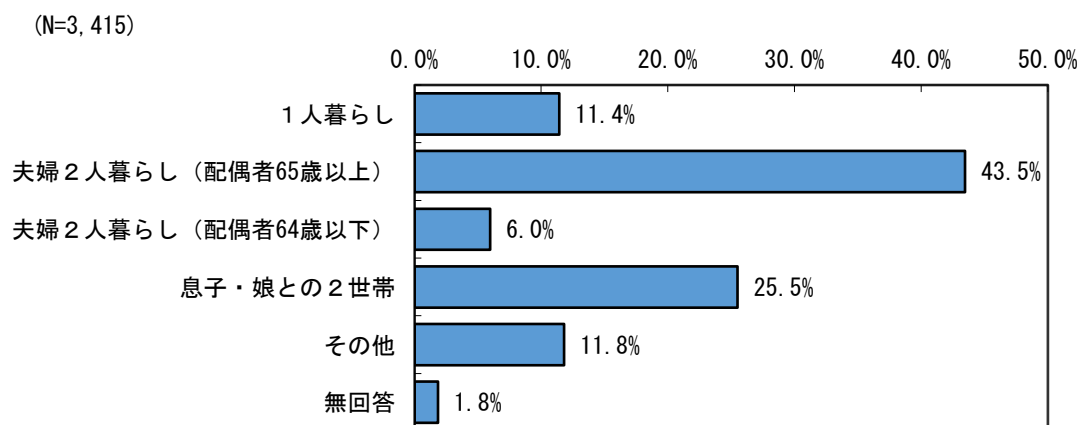


3 家族や生活状況について

(1) 家族構成

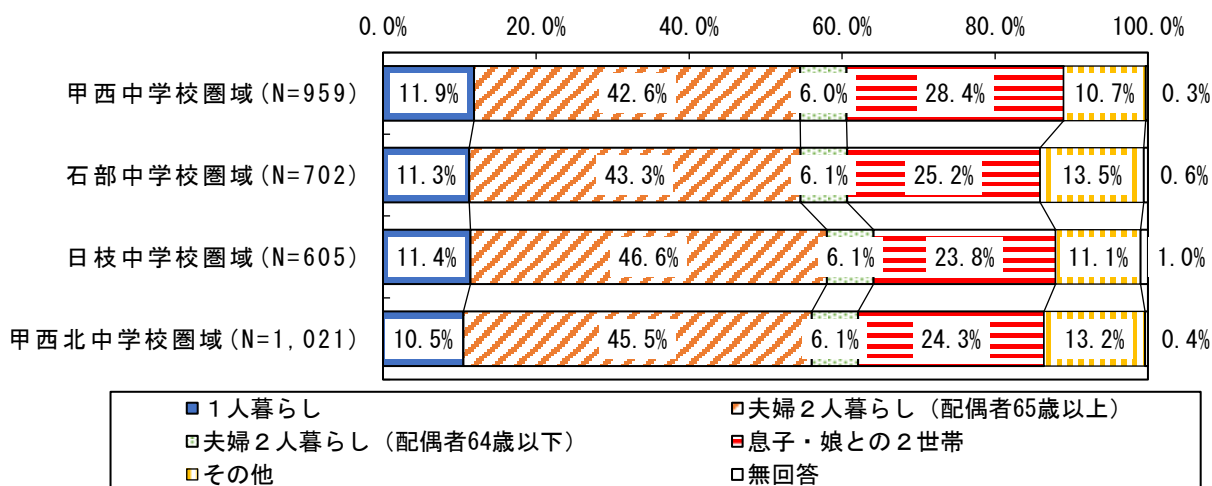
家族構成をみると、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が43.5%で最も多く、次いで「息子・娘との2世帯」が25.5%、「1人暮らし」が11.4%となっています。

図表 家族構成



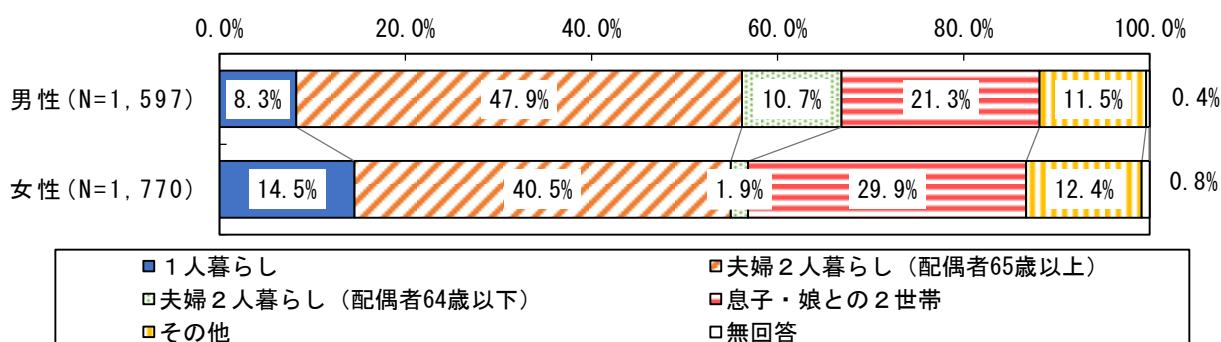
日常生活圏域別にみると、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」がすべての圏域で40%台となっており、次いで「息子・娘との2世帯」が20%台となっています。また、「1人暮らし」はすべての圏域で約1割となっています。

図表 日常生活圏域別 家族構成



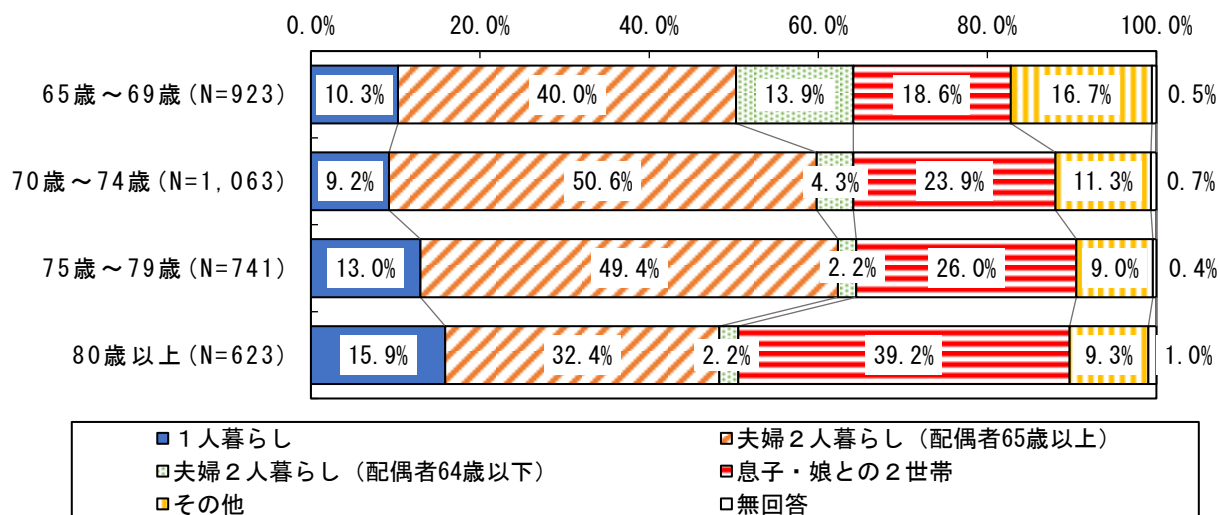
性別にみると、男性と女性ともに「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」がそれぞれ47.9%、40.5%で最も多くなっています。

図表 性別 家族構成



年齢別にみると、「65～69歳」と「70～74歳」、「75～79歳」では「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が最も多く、「80歳以上」では「息子・嫁との2世帯」が最も多くなっています。

図表 年齢別 家族構成

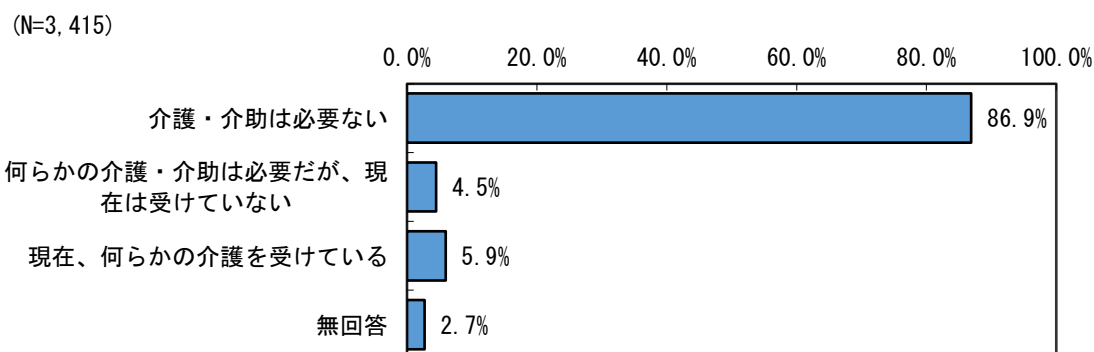


(2) 普段の生活での介護・介助の必要性

① 普段の生活での介護・介助の必要性

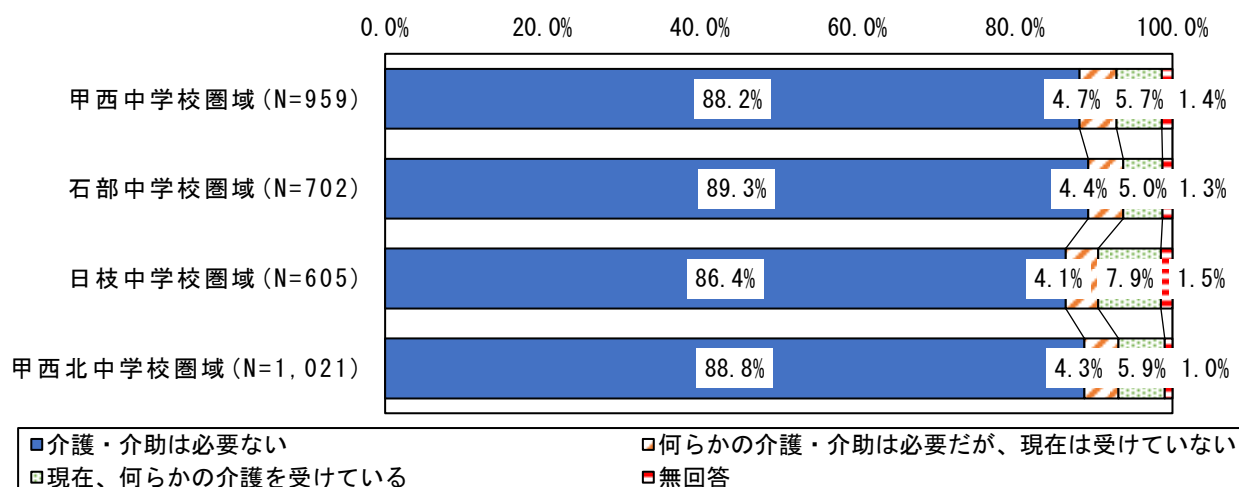
普段の生活での介護・介助の必要性をみると、「介護・介助は必要ない」が86.9%で最も多くなっています。

図表 普段の生活での介護・介助の必要性



日常生活圏域別にみると、「介護・介助は必要ない」がすべての圏域で80%台となっています。

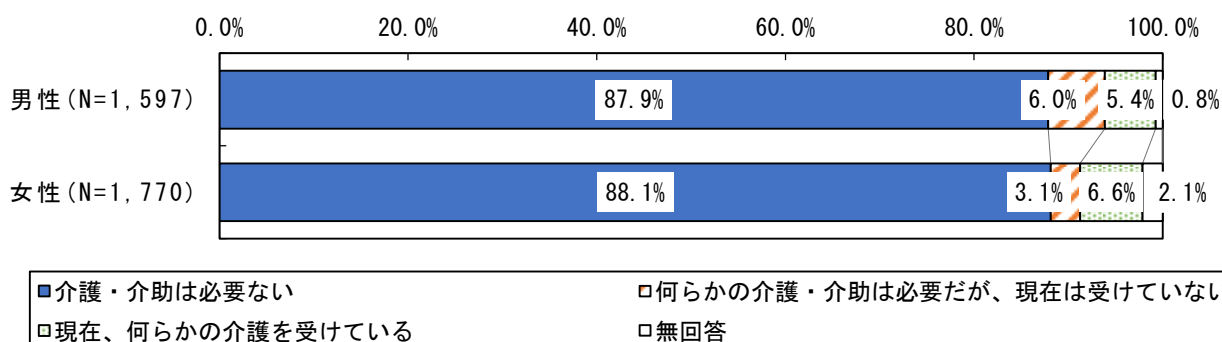
図表 日常生活圏域別 普段の生活での介護・介助の必要性



性別にみると、「介護・介助は必要ない」は男性が87.9%、女性が88.1%となっています。

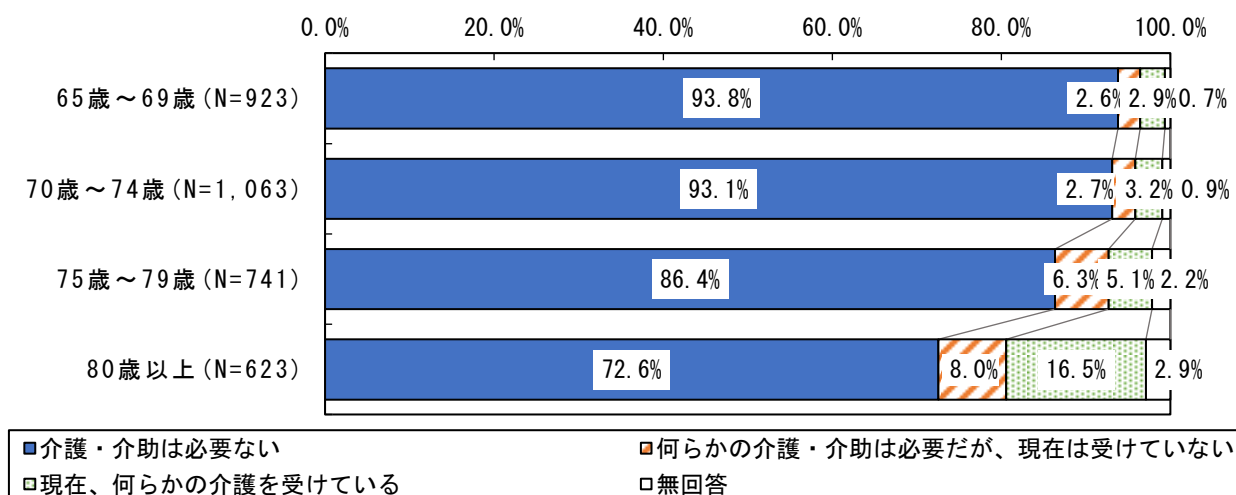
「現在、何らかの介護を受けている」は男性が5.4%、女性が6.6%となっています。

図表 性別 普段の生活での介護・介助の必要性



年齢別にみると、「現在、何らかの介護を受けている」は年齢が上がるにつれて多くなっており、「80歳以上」が16.5%となっています。

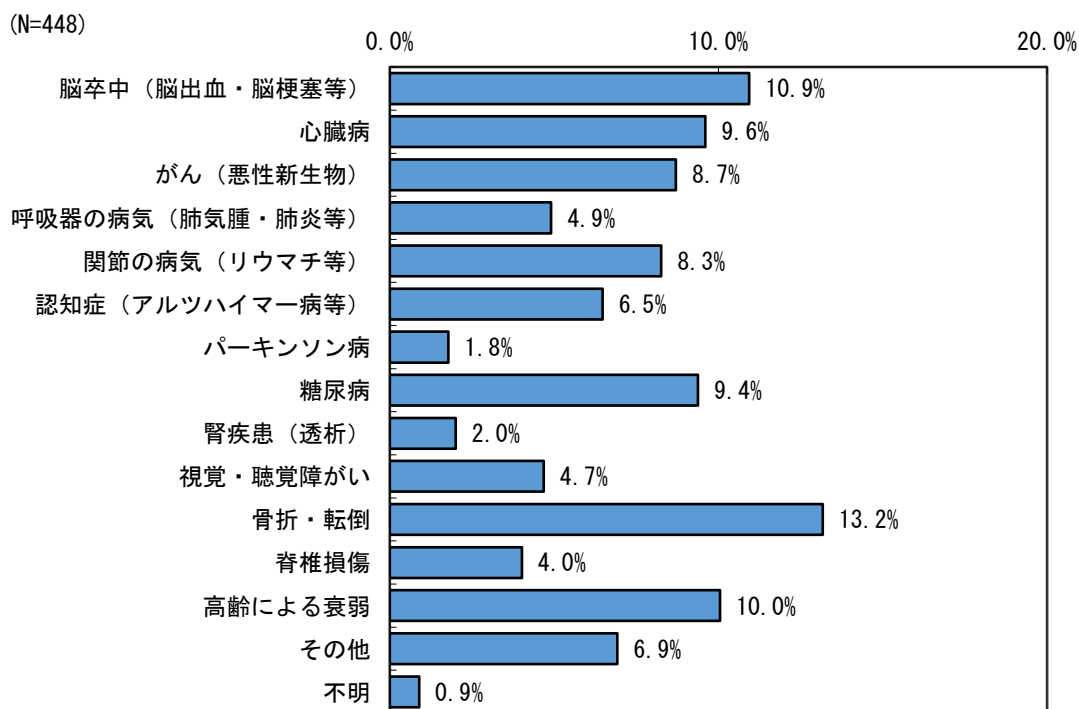
図表 年齢別 普段の生活での介護・介助の必要性



②介護・介助が必要になった主な原因

介護・介助が必要な人について、介護・介助が必要になった主な原因をみると、「骨折・転倒」が13.2%で最も多く、次いで「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が10.9%、「高齢による衰弱」が10.0%となっています。

図表 介護・介助が必要になった主な原因（複数回答）



性別にみると、男性は「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が16.0%、女性は「骨折・転倒」が21.0%で最も多くなっています。

年齢別にみると、「65歳～69歳」と「75歳～79歳」は「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」がそれぞれ17.5%、15.8%で最も多く、「70歳～74歳」は「糖尿病」が16.4%、「80歳以上」は「高齢による衰弱」が19.9%でそれぞれ最も多くなっています。

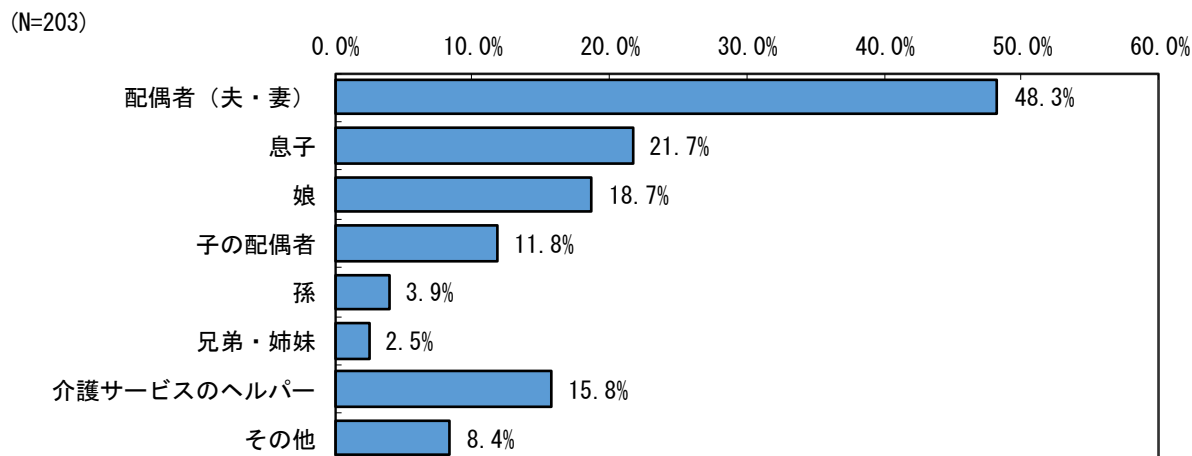
表 性別・年齢別 介護・介助が必要になった主な原因（複数回答）

(有効回答数)		(脳卒中 脳出血・ 脳梗塞等)	心臓病	がん (悪性新生物)	(呼吸器の 病気・肺炎等)	(関節の 病気 リウマチ等)	(認知症 アルツハイマー病等)	パーキンソン病	糖尿病	腎疾患 (透析)	視覚・聴覚障がい	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	不明
全体 (N=402)		10.9%	9.6%	8.7%	4.9%	8.3%	6.5%	1.8%	9.4%	2.0%	4.7%	13.2%	4.0%	10.0%	6.9%	0.9%
性別	男性 (N=194)	16.0%	11.9%	12.4%	7.7%	7.7%	8.2%	1.0%	13.9%	2.6%	4.6%	7.7%	4.6%	11.3%	7.7%	1.5%
	女性 (N=210)	8.6%	9.5%	7.1%	3.3%	10.5%	6.2%	2.9%	7.1%	1.9%	5.7%	21.0%	4.3%	11.0%	7.6%	0.5%
年齢別	65歳～69歳 (N=57)	17.5%	7.0%	7.0%	5.3%	10.5%	3.5%	1.8%	5.3%	1.8%	5.3%	12.3%	3.5%	0.0%	12.3%	0.0%
	70歳～74歳 (N=73)	11.0%	6.8%	13.7%	4.1%	4.1%	5.5%	4.1%	16.4%	5.5%	1.4%	6.8%	4.1%	2.7%	15.1%	0.0%
	75歳～79歳 (N=101)	15.8%	8.9%	8.9%	3.0%	9.9%	6.9%	2.0%	11.9%	1.0%	5.9%	9.9%	3.0%	8.9%	2.0%	1.0%
	80歳以上 (N=171)	8.8%	14.6%	9.4%	7.6%	10.5%	9.4%	0.6%	8.8%	1.8%	6.4%	21.6%	5.8%	19.9%	6.4%	1.8%

③主な介護・介助者

現在介護・介助を受けている人について、主な介護・介助者をみると、「配偶者（夫・妻）」が 48.3% で最も多く、次いで「息子」が 21.7%、「娘」が 18.7%となっています。

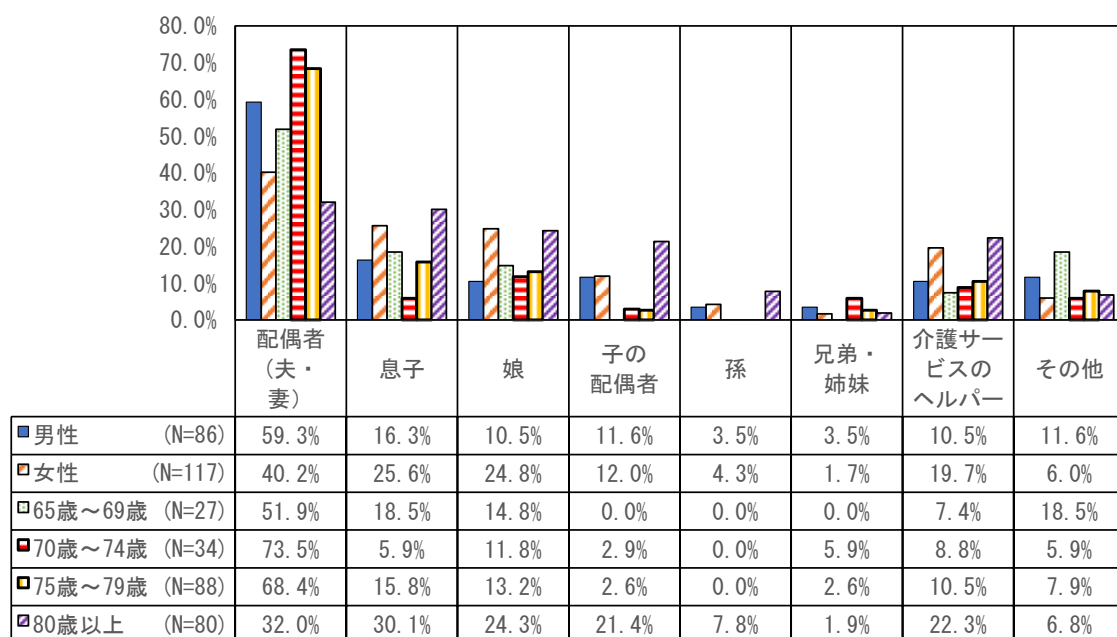
図表 主な介護・介助者（複数回答）



性別にみると、男女ともに「配偶者（夫・妻）」が最も多く、男性が 59.3%、女性が 40.2%となっています。次いで、男女ともに「息子」がそれぞれ 16.3%、25.6%となっています。

年齢別にみても、すべての年齢層で「配偶者（夫・妻）」が最も多くなっています。「介護サービスのヘルパー」は年齢が上がるにつれて多くなっています。

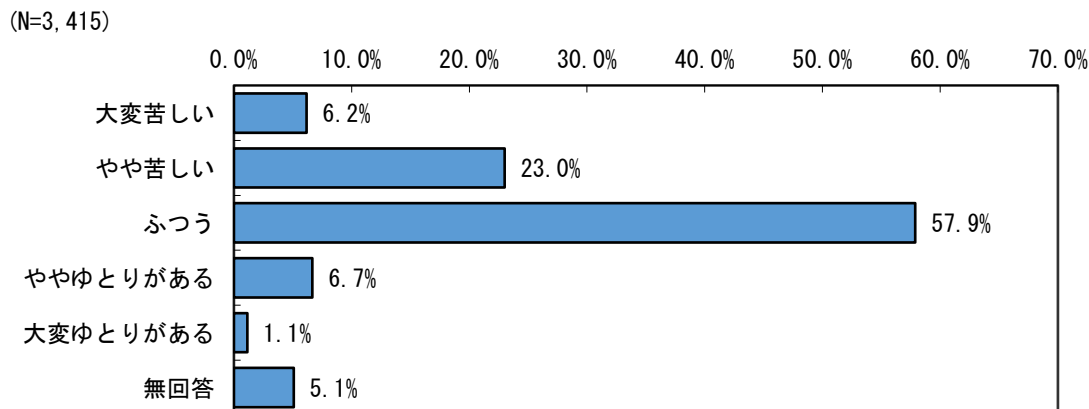
図表 性別・年齢別 主な介護・介助者（複数回答）



(3) 現在の暮らしの状況

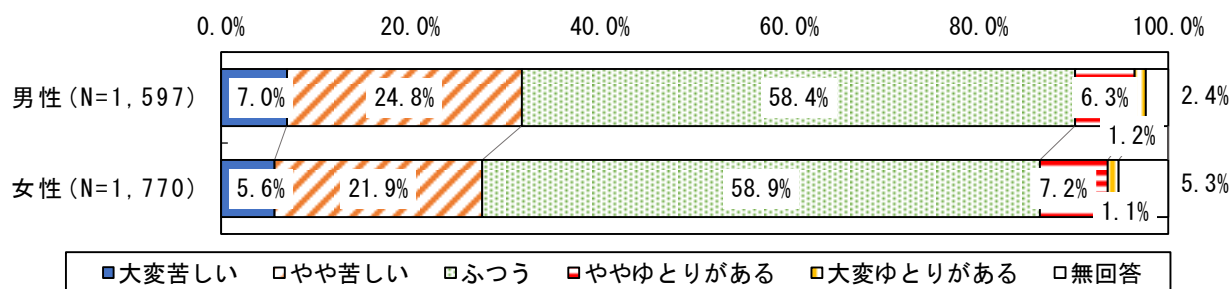
現在の暮らしの状況をみると、「ふつう」が 57.9%で最も多く、次いで「やや苦しい」が 23.0%となっており、「ややゆとりがある」と「大変苦しい」がそれぞれ 6.7%、6.2%となっています。また、「大変苦しい」と「やや苦しい」の合計は 29.2%となっています。

図表 現在の暮らしの状況



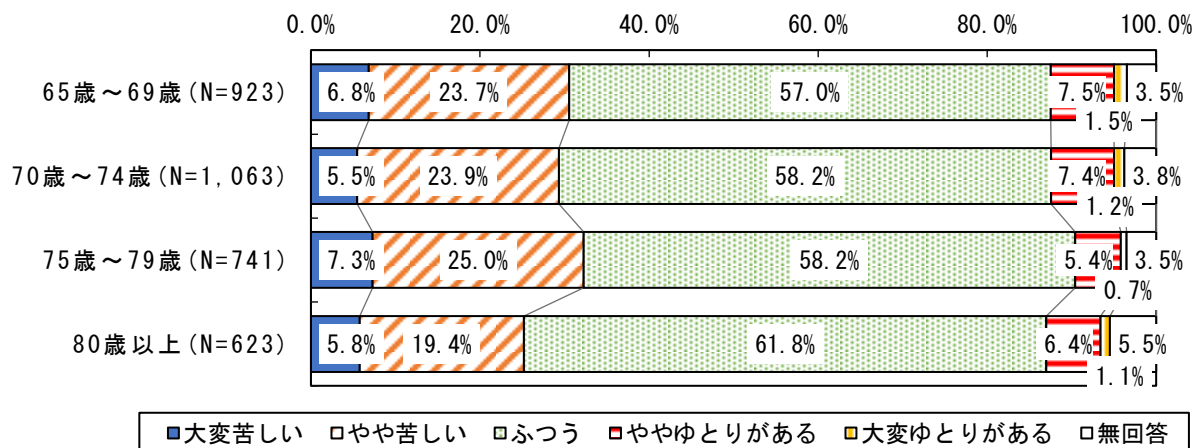
性別にみると、苦しいと感じている人の割合（「大変苦しい」「やや苦しい」を合わせた割合）は男性が 31.8%、女性が 27.5%となっています。

図表 性別 現在の暮らしの状況



年齢別にみると、苦しいと感じている人の割合（「大変苦しい」「やや苦しい」を合わせた割合）は「65歳～69歳」「70歳～74歳」「75歳～79歳」では3割前後を占めていますが、「80歳以上」は 25.2%となっています。

図表 年齢別 現在の暮らしの状況

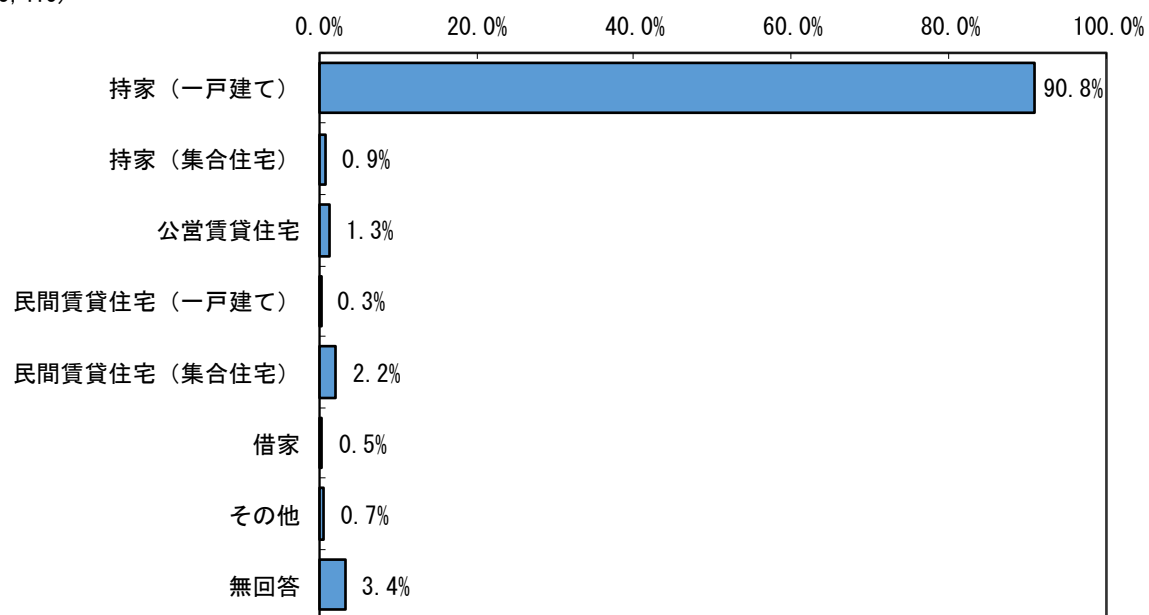


(4) 住居の種類

住居の種類をみると、「持家（一戸建て）」が90.8%で最も多くなっています。

図表 住居の種類

(N=3,415)



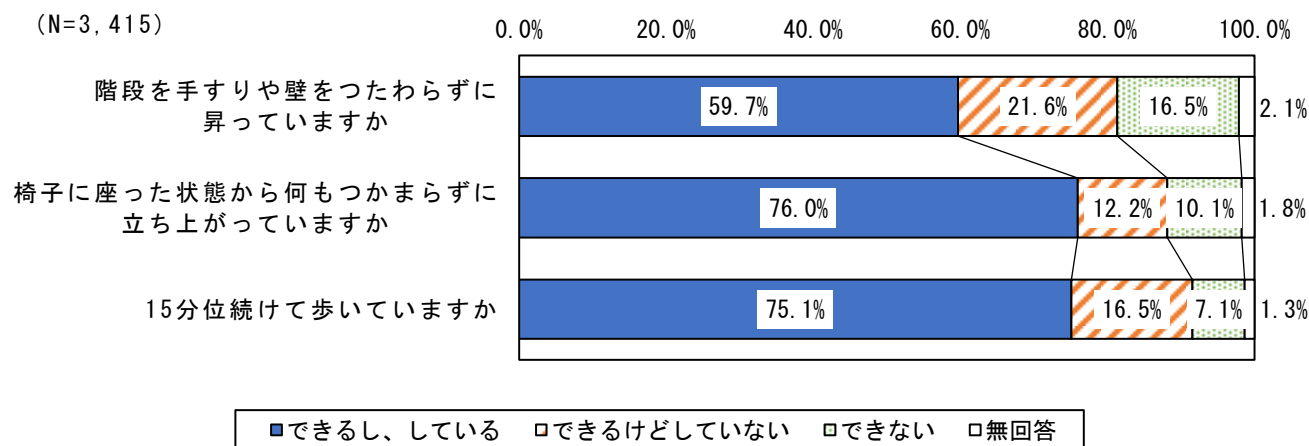
4 からだを動かすことについて

(1) 運動の状況

運動の状況をみると、「できるし、している」は「階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか」が 59.7%で、「椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか」と「15 分位続けて歩いていますか」がそれぞれ 76.0%、75.1%と高い割合となっています。

「できるけどしていない」と「できない」を合わせた割合は、「階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか」が 38.1%で、他の2つの項目に比べて 10 ポイント以上多くなっています。

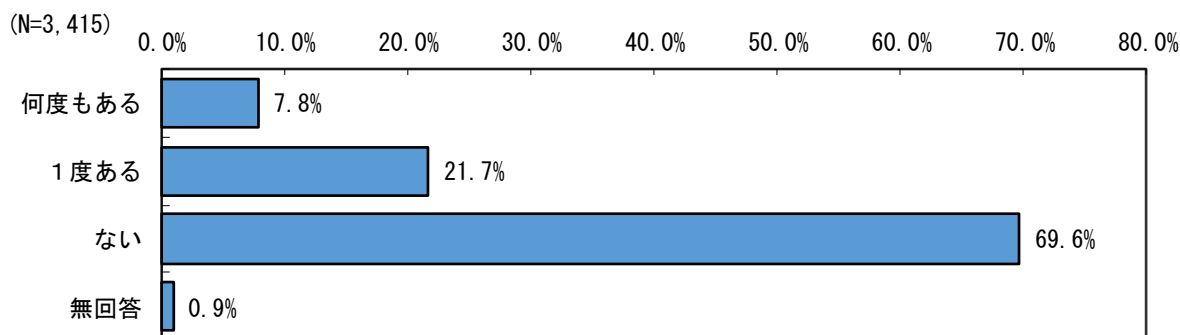
図表 運動の状況



(2) 転倒の状況

転倒の経験をみると、過去1年間に転んだ経験のある人は「ない」が 69.6%と最も多くなっています。過去1年間に転んだ経験のある人（「何度もある」「1度ある」を合わせた割合）は 29.5%となっています。

図表 転倒の経験

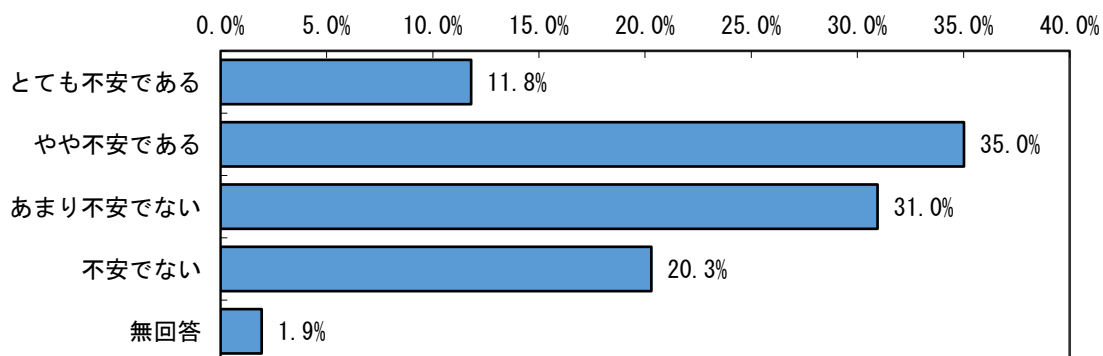


（３）転倒に対する不安

転倒に対する不安をみると、不安である人（「とても不安である」「やや不安である」を合わせた割合）が46.8%、不安でない人（「あまり不安でない」「不安でない」を合わせた割合）が51.3%となっています。

図表 転倒に対する不安

(N=3,415)



<運動器の機能低下状況>

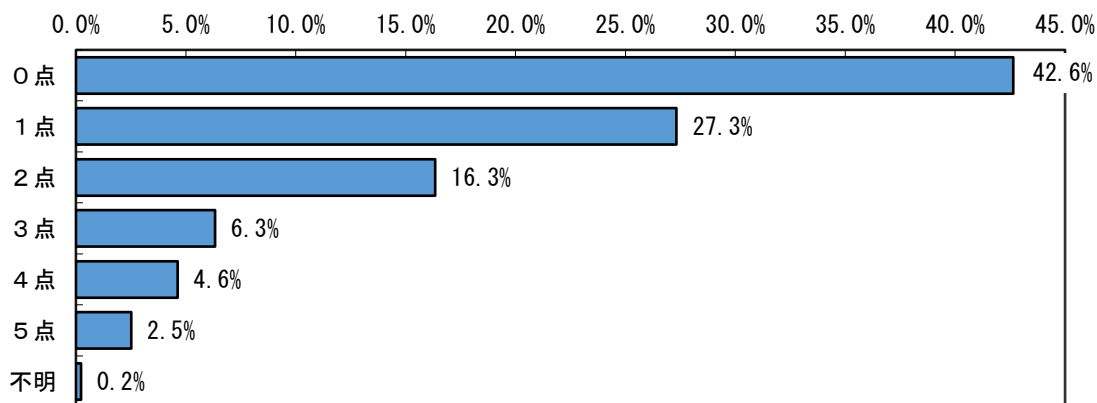
- ・「運動の状況」で「できない」
- ・「転倒の状況」で「何度もある」または「1度ある」
- ・「転倒に対する不安」で「とても不安である」または「やや不安である」

以上の選択肢をそれぞれ1点とし、合計得点が3点以上の方を「運動器機能の低下している高齢者」と判断します。

運動器の機能低下状況をみると、「運動器機能の低下している高齢者」は13.4%となっています。

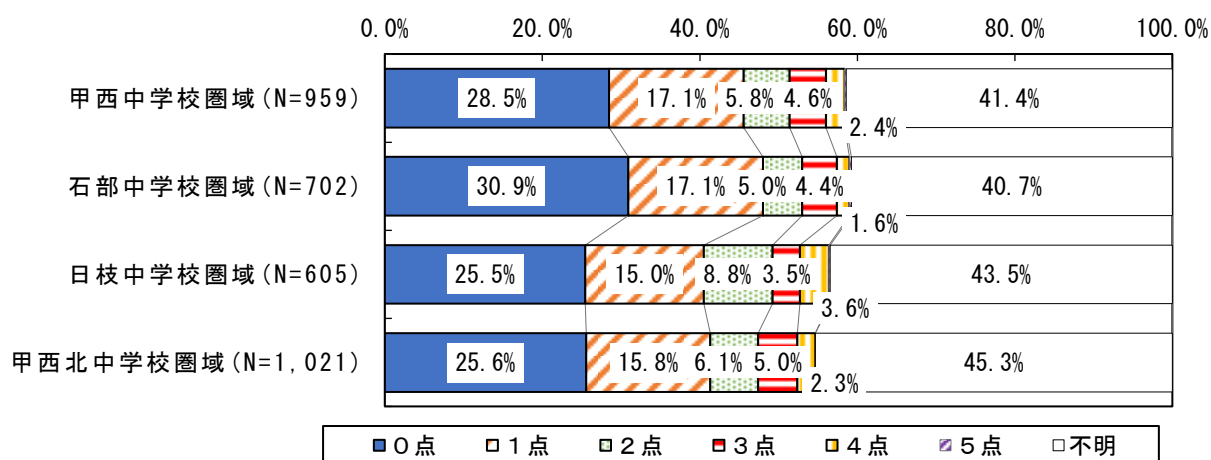
図表 運動器の機能低下状況

(N=3,415)



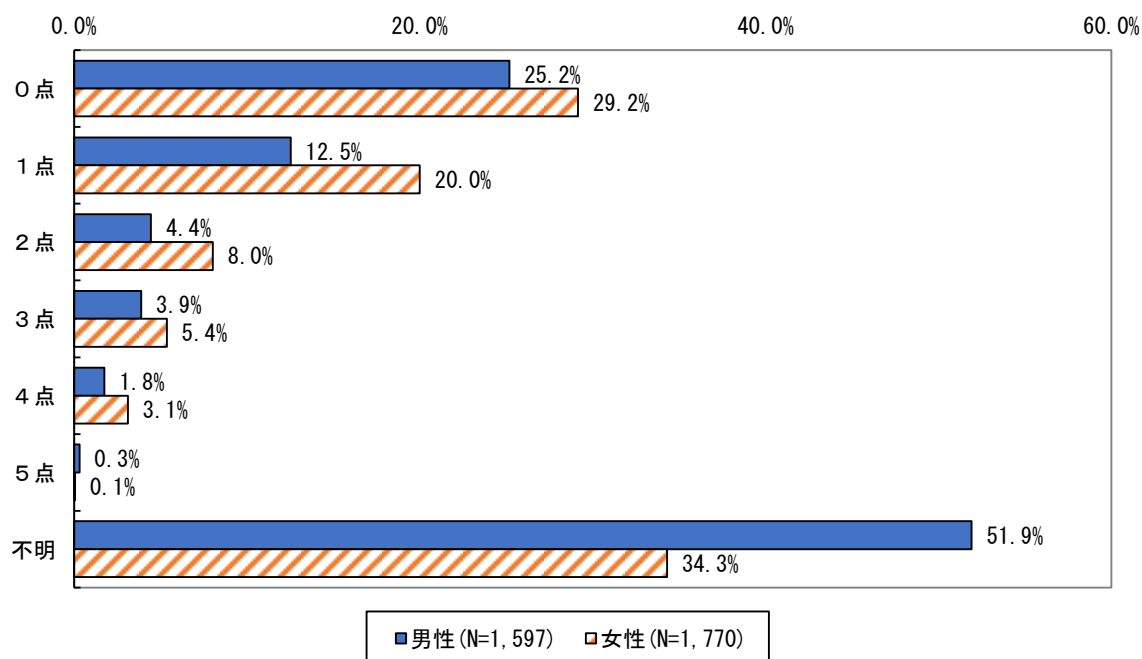
日常生活圏域別にみると、「運動器機能の低下している高齢者」はすべての圏域で2割未満となっています。

図表 日常生活圏域別 運動器の機能低下状況



性別にみると、「運動器機能の低下している高齢者」は「男性」が6.0%、「女性」が8.6%となっています。

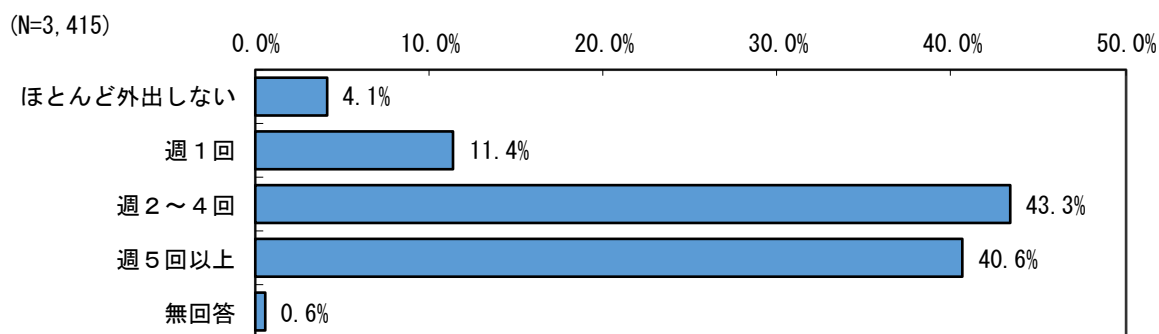
図表 性別 運動器の機能低下状況



(4) 外出頻度

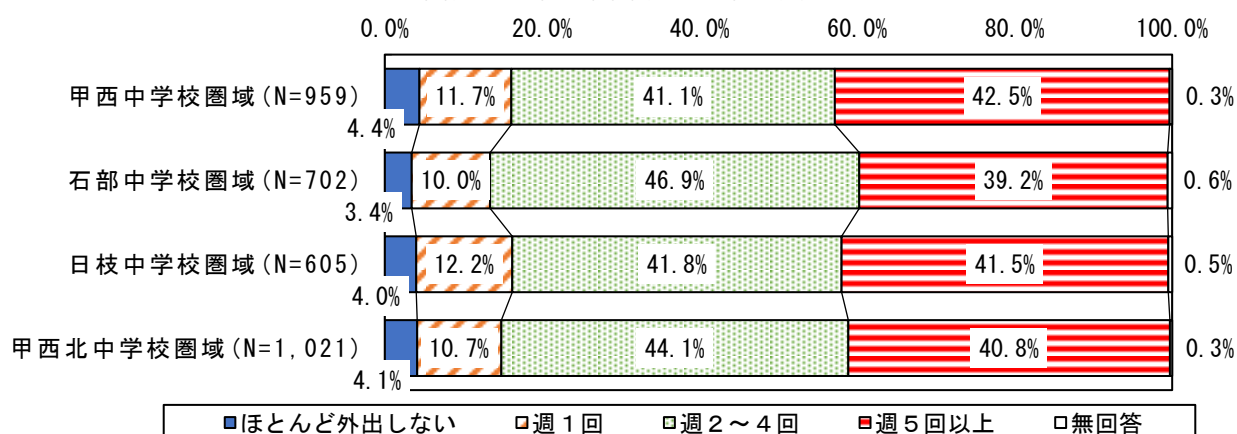
外出頻度をみると、「週2～4回」が43.3%で最も多く、「週5回以上」が40.6%となっています。また、週1回以下（「ほとんど外出しない」「週1回」を合わせた割合）は15.5%となっています。

図表 外出頻度



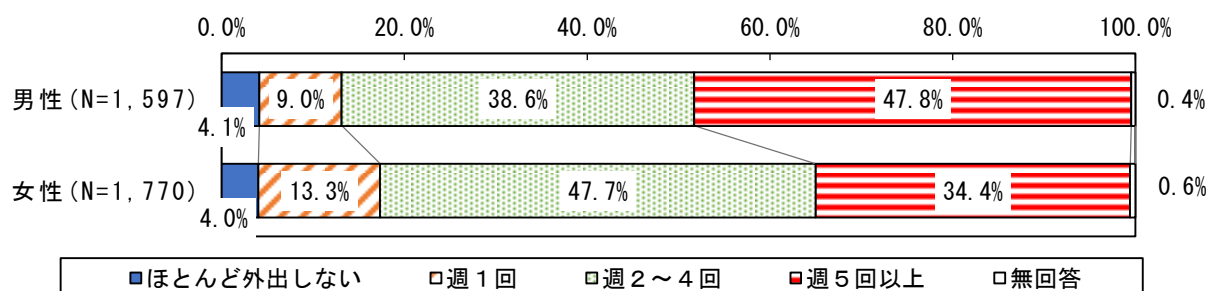
日常生活圏域別にみると、週1回以下しか外出しない人（「ほとんど外出しない」「週1回」を合わせた割合）はいずれの圏域においても10%台となっています。

図表 日常生活圏域別 外出頻度



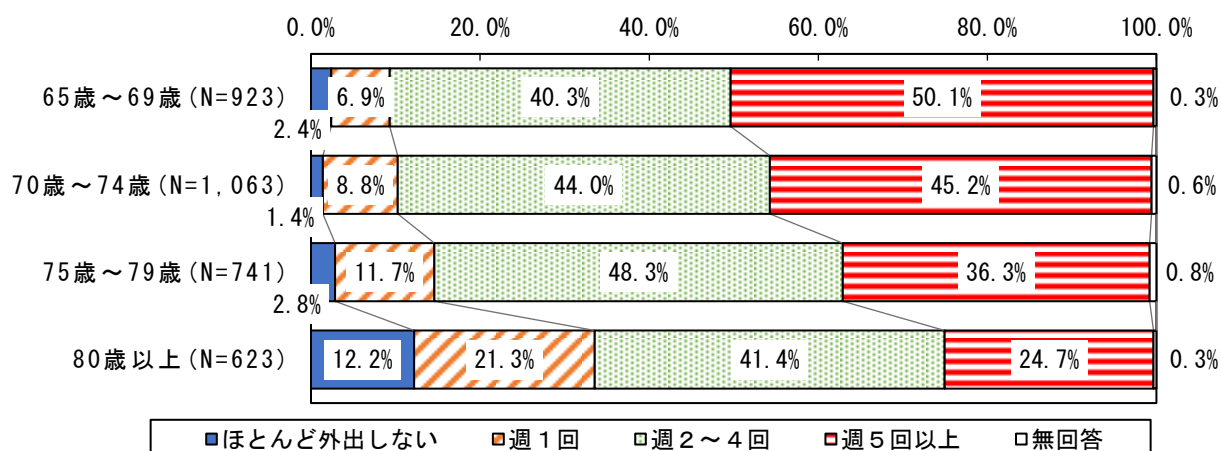
性別にみると、週1回以下しか外出しない人（「ほとんど外出しない」「週1回」を合わせた割合）は「男性」が13.1%、「女性」が17.3%となっています。

図表 性別 外出頻度



年齢別にみると、週1回以下しか外出しない人（「ほとんど外出しない」「週1回」を合わせた割合）は年齢が上がるにつれて多くなり、「80歳以上」は23.5%となっています。

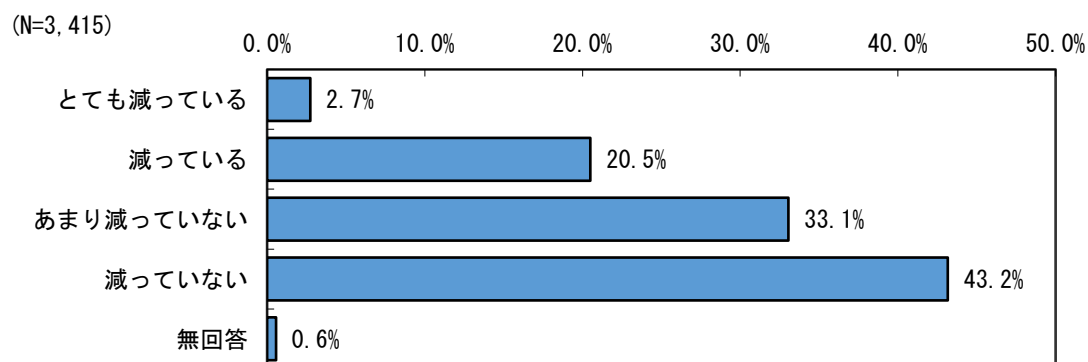
図表 年齢別 外出頻度



(5) 外出頻度の減少

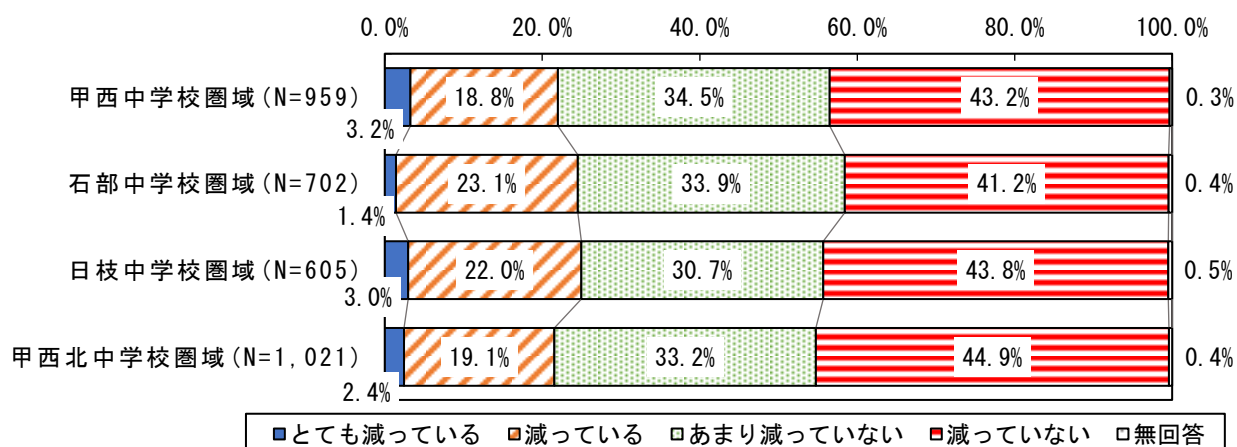
外出頻度の減少をみると、減っている人（「とても減っている」「減っている」を合わせた割合）は23.2%、減っていない人（「あまり減っていない」「減っていない」を合わせた割合）が76.3%となっています。

図表 外出頻度の減少



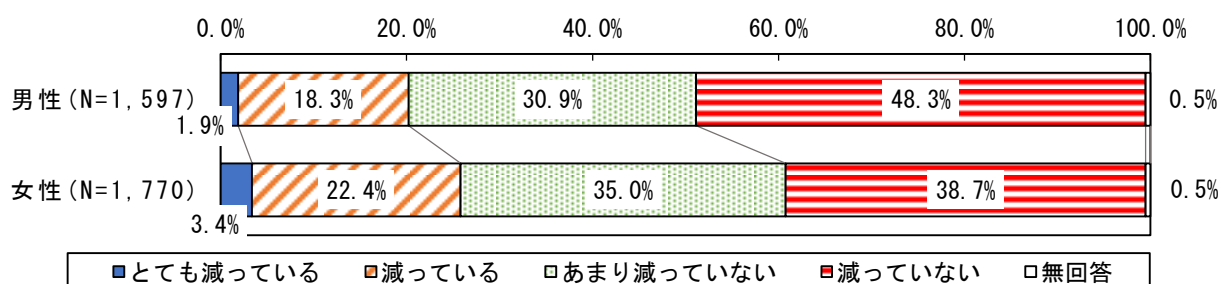
日常生活圏域別にみると、外出頻度が減っている人（「とても減っている」「減っている」を合わせた割合）は各圏域で20～25%台となっています。

図表 日常生活圏域別 外出頻度の減少



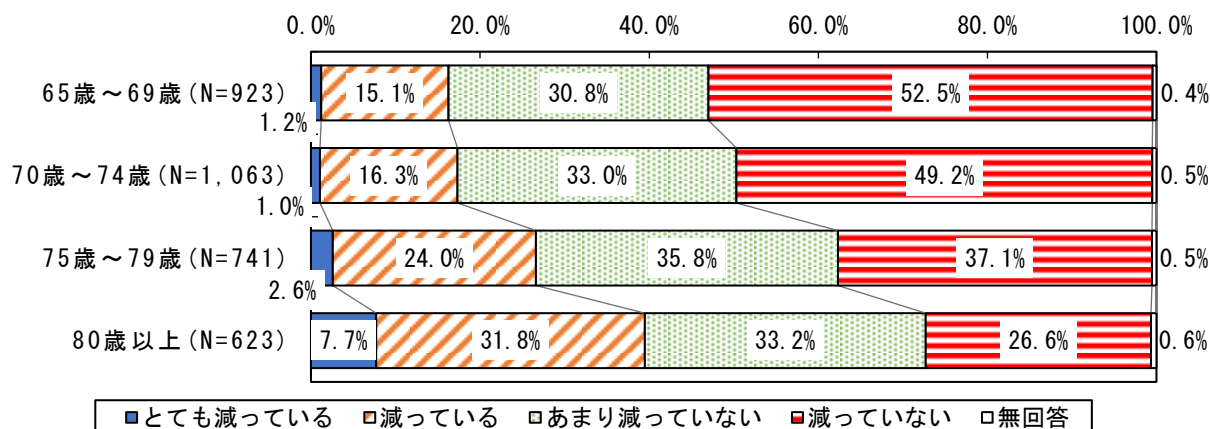
性別にみると、外出頻度が減っている人（「とても減っている」「減っている」を合わせた割合）は「男性」が20.2%、「女性」が25.8%となっています。

図表 性別 外出頻度の減少



年齢別にみると、外出頻度が減っている人（「とても減っている」「減っている」を合わせた割合）は年齢が上がるにつれて多くなり、「80歳以上」は49.5%となっています。

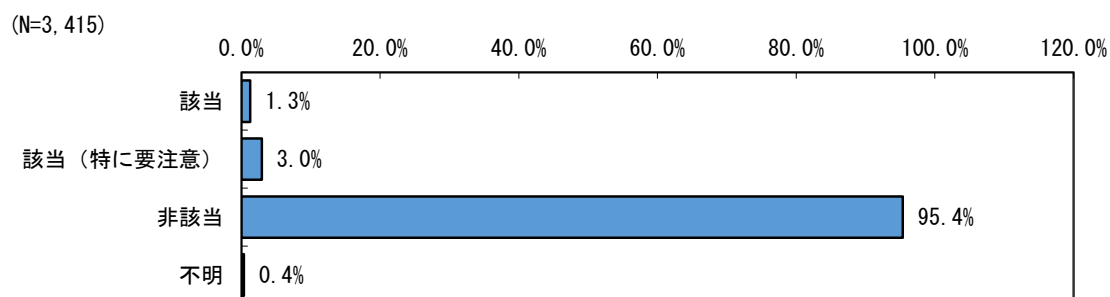
図表 年齢別 外出頻度の減少



・外出頻度が「ほとんど外出しない」または「週1回」に該当する場合は「閉じこもり傾向のある高齢者」と判定します。さらに、外出頻度の減少で「とても減っている」または「減っている」にも該当する場合は「特に要注意」となります。

閉じこもり傾向のある高齢者は4.3%（「該当」「該当（特に要注意）」の合計）となっており、特に要注意は3.0%となっています。

図表 閉じこもり傾向

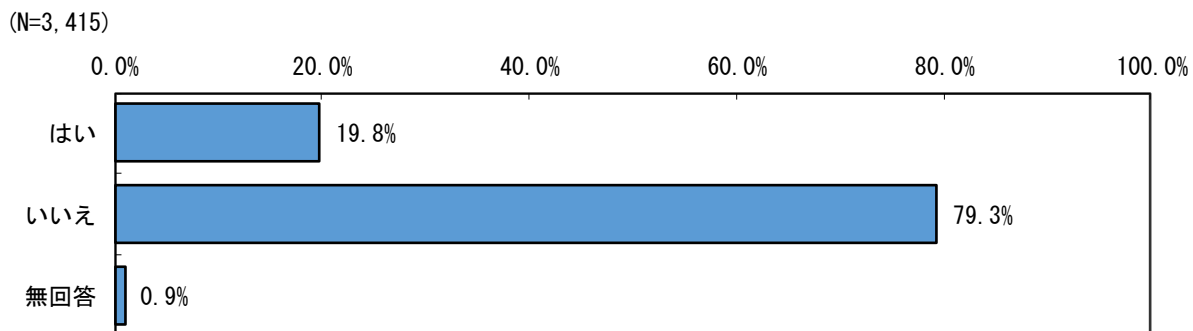


(6) 外出を控えているか

①外出を控えているか

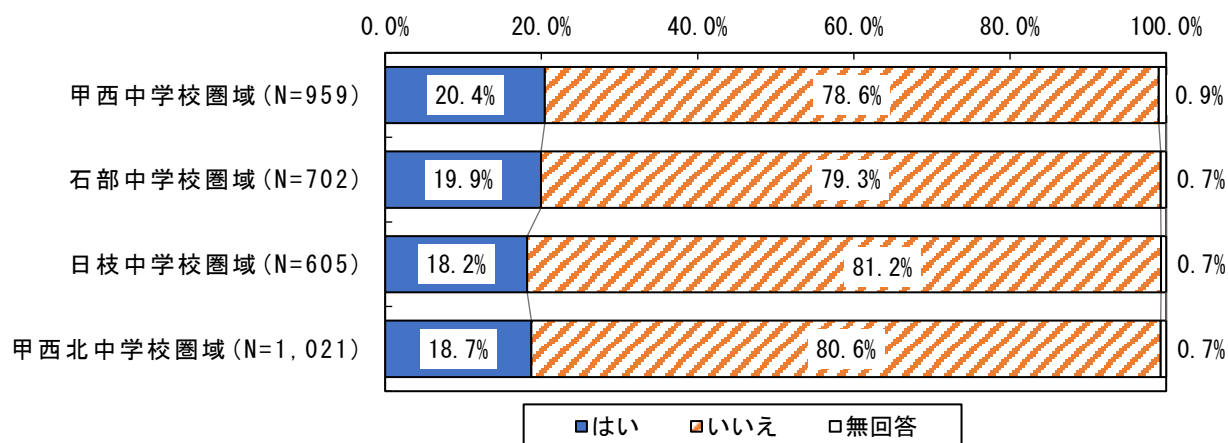
外出を控えているかをみると、「いいえ」が79.3%となっています。

図表 外出を控えているか



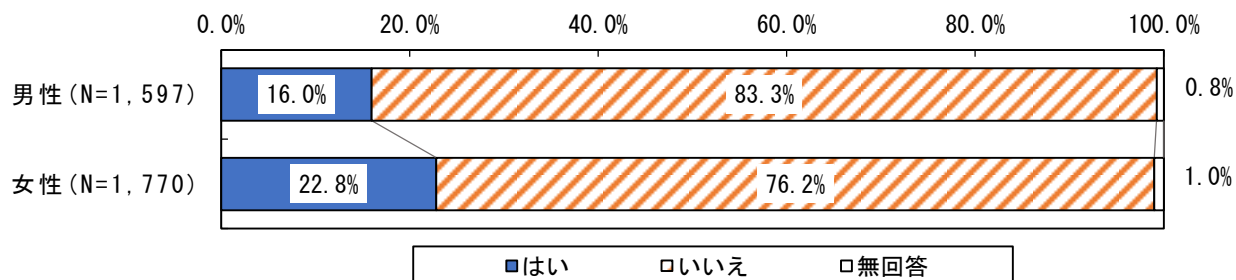
日常生活圏域別にみると、「はい」は各圏域で18～20%台となっています。

図表 日常生活圏域別 外出を控えているか



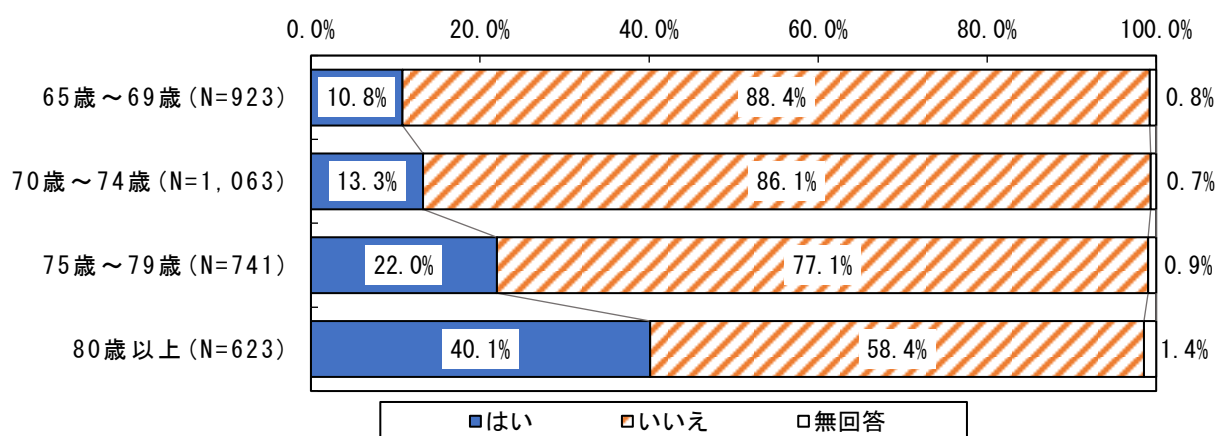
性別にみると、「はい」は「男性」が16.0%、「女性」が22.8%となっています。

図表 性別 外出を控えているか



年齢別にみると、「はい」は年齢が上がるにつれて多くなり、「80歳以上」では40.1%となっています。

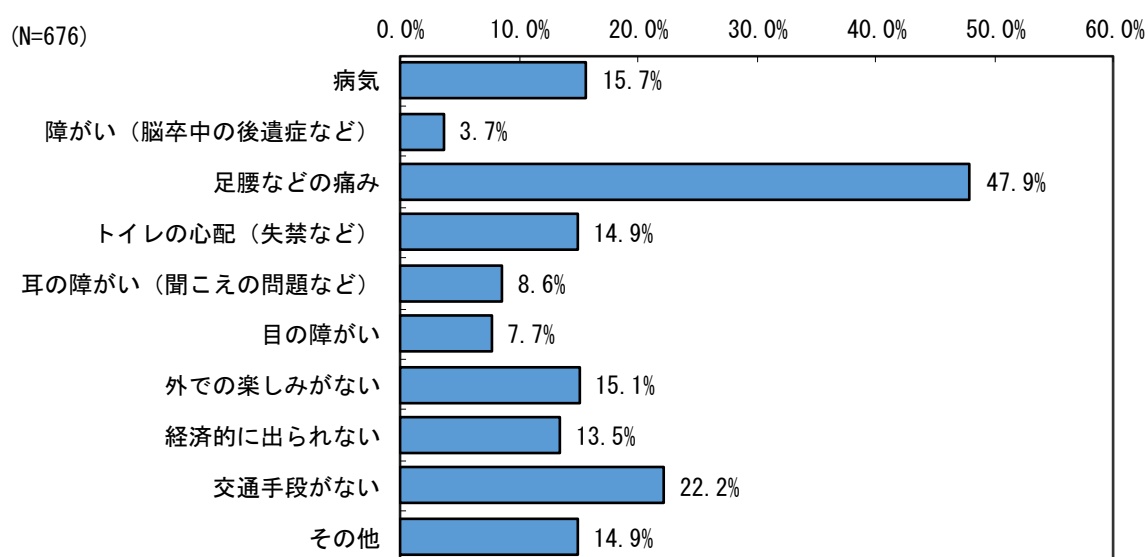
図表 年齢別 外出を控えているか



②外出を控えている理由

外出を控えている人の理由をみると、「足腰などの痛み」が47.9%で最も多く、次いで「交通手段がない」が22.2%、「病気」が15.7%となっています。

図表 外出を控えている理由（複数回答）



「足腰などの痛み」は男女ともに最も多く、また年齢別では年齢が上がるにつれて多くなっています。

なお「65歳～69歳」では「経済的に出られない」が32.0%となっており、他の年齢層に比べて高い割合となっています。さらに「交通手段がない」は「75歳～79歳」が21.5%、「80歳以上」が31.6%と多くなっています。

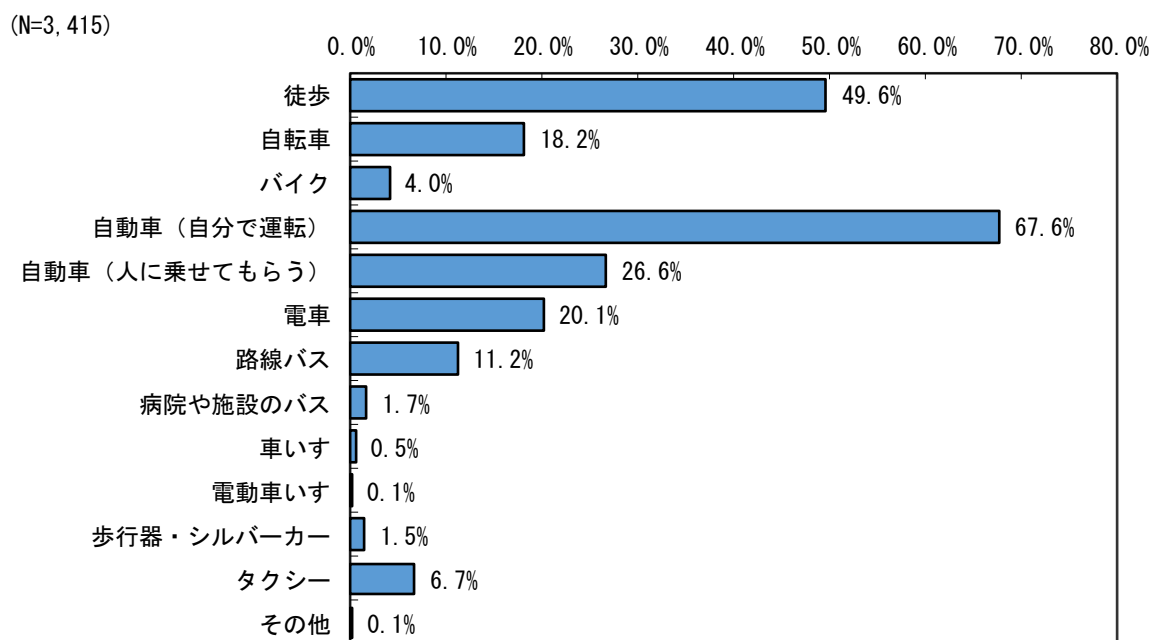
図表 性別・年齢別 外出を控えている理由（複数回答）

(有効回答数)		病気	障害がない (脳卒中の後)	足腰などの痛み	トイレの心配 (失禁など)	耳の問題がない (聞こえ)	目の障がい	外での楽しみがない	経済的に出られない	交通手段がない	その他
全体 (N=676)		15.7%	3.7%	47.9%	14.9%	8.6%	7.7%	15.1%	13.5%	22.2%	14.9%
性別	男性 (N=255)	22.4%	5.5%	42.0%	13.7%	10.2%	10.6%	20.4%	15.7%	15.7%	11.0%
	女性 (N=404)	11.4%	2.7%	51.5%	15.3%	7.4%	5.7%	10.9%	12.1%	26.7%	17.3%
年齢別	65歳～69歳 (N=100)	21.0%	4.0%	30.0%	10.0%	3.0%	8.0%	20.0%	32.0%	15.0%	18.0%
	70歳～74歳 (N=141)	19.9%	2.8%	36.9%	14.9%	2.8%	4.3%	15.6%	16.3%	13.5%	20.6%
	75歳～79歳 (N=163)	14.7%	3.7%	52.8%	14.7%	8.0%	6.1%	16.0%	12.3%	21.5%	15.3%
	80歳以上 (N=250)	12.0%	4.4%	58.4%	16.8%	14.4%	10.4%	11.2%	5.2%	31.6%	9.2%

(7) 外出する際の移動手段

外出する際の移動手段をみると、「自動車(自分で運転)」が67.6%で最も多く、次いで「徒歩」が49.6%、「自動車(人に乗せてもらう)」が26.6%となっています。

図表 外出する際の移動手段（複数回答）



日常生活圏域別にみると、「自動車（自分で運転）」がすべての圏域で6割以上、「徒歩」が4割以上を占め、他の項目についても概ね全体の結果と同様の傾向を示しています。

図表 日常生活圏域別 外出する際の移動手段（複数回答）

	徒歩	自転車	バイク	自動車 （自分で運転）	自動車 （人に乗せてもらう）	電車	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす	歩行器・ シルバーカー	タクシー	その他
（有効回答数）													
全体（N=3,415）	49.6%	18.2%	4.0%	67.6%	26.6%	20.1%	11.2%	1.7%	0.5%	0.1%	1.5%	6.7%	0.1%
甲西中学校（N=959）	50.3%	18.0%	4.3%	67.9%	26.1%	21.9%	6.9%	2.8%	0.6%	0.2%	0.9%	6.7%	0.0%
石部中学校（N=702）	52.8%	24.2%	4.3%	64.8%	26.2%	21.7%	9.3%	0.7%	0.3%	0.3%	2.0%	8.4%	0.1%
日枝中学校（N=605）	43.5%	10.9%	4.3%	66.6%	27.4%	14.7%	14.9%	1.3%	0.7%	0.0%	1.3%	4.6%	0.2%
甲西北中学校（N=1,021）	50.8%	17.9%	3.5%	72.9%	26.2%	21.3%	13.9%	1.6%	0.3%	0.0%	1.7%	6.7%	0.3%
無回答（N=128）	45.3%	21.9%	3.9%	43.0%	32.8%	14.8%	14.8%	1.6%	1.6%	0.0%	2.3%	7.0%	0.0%

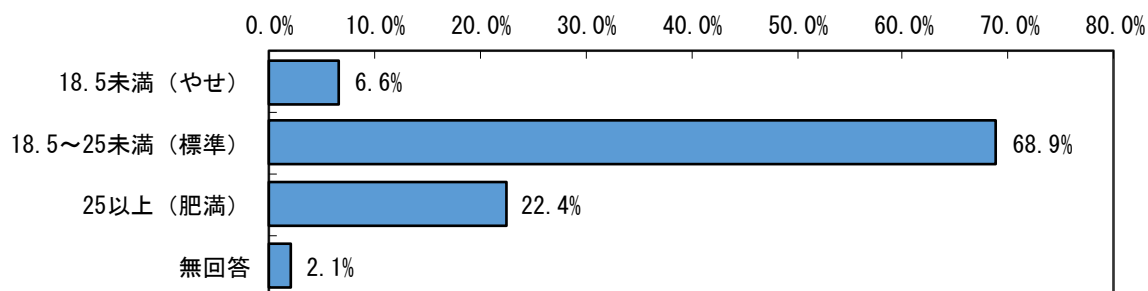
5 食べるについて

(1) 身長・体重

身長・体重から算出したBMI¹（肥満度指数）をみると、「18.5～25未満（標準）」が68.9%、「25以上（肥満）」が22.4%、「18.5未満（やせ）」が6.6%となっています。

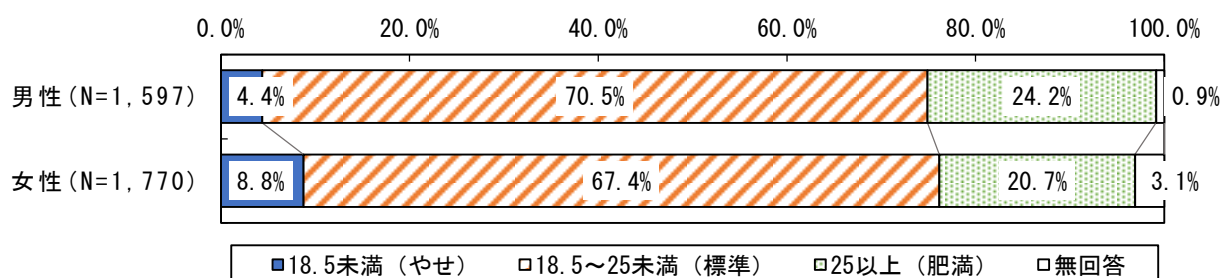
図表 身長・体重（BMI）

(N=3,415)



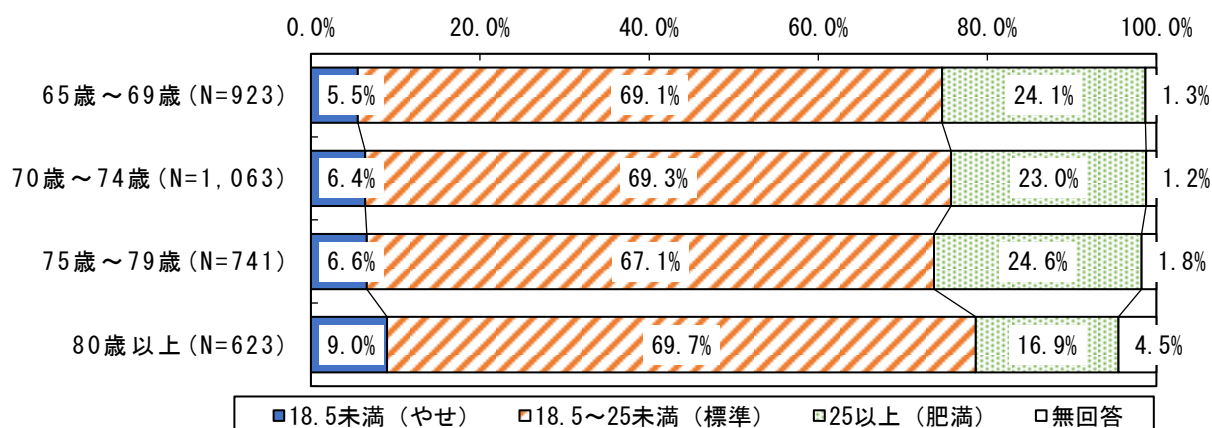
性別にみると、「18.5未満（やせ）」は「女性」が多く8.8%、「25以上（肥満）」は「男性」が多く24.2%となっています。

図表 性別 身長・体重（BMI）



年齢別にみると、すべての年齢層で「18.5～25未満（標準）」が7割近い割合となっています。一方で「80歳以上」をのぞく各年齢層で「25以上（肥満）」が25%（4分の1）を占める割合となっています。「80歳以上」は「18.5未満（やせ）」が9.0%となっています。

図表 年齢別 身長・体重（BMI）



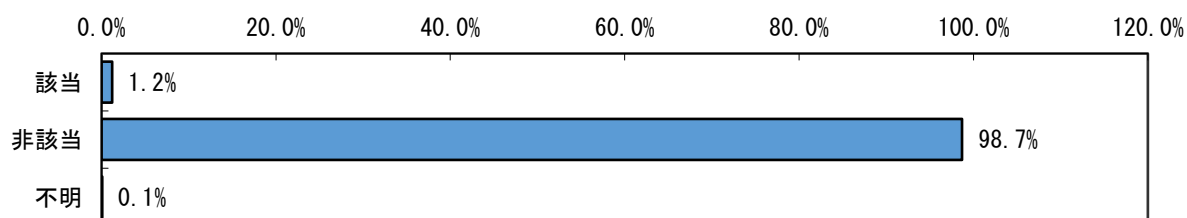
¹ BMI = 体重 (kg) ÷ 身長 (m) ÷ 身長 (m)

・身長・体重で「18.5 未満（やせ）」であり、かつ、過去 6 ヶ月間での体重減少のどちらにも該当する場合は、「低栄養状態にある高齢者」と判定します。

「低栄養状態にある高齢者」は 1.2%となっています。

図表 低栄養状態

(N=3, 415)



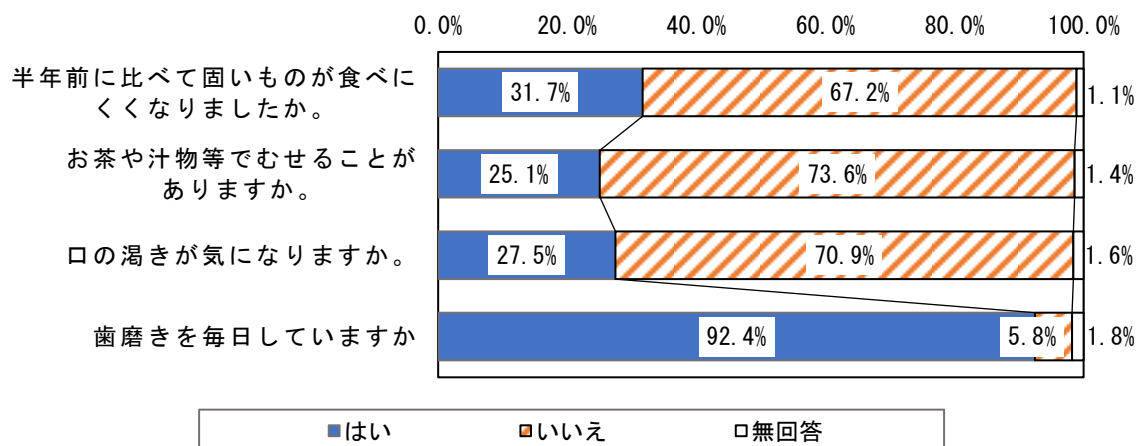
※（４）過去 6 ヶ月間での体重減少の有無は 27 ページを参照。

（２）口腔の機能

口腔の機能をみると、「はい」は「歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか」が 92.4%となっています。それ以外の項目は「いいえ」が「はい」を上回っており、「お茶や汁物等でむせることがありますか」と「口の渇きが気になりますか」は「いいえ」が 7 割を超えています。一方、「半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか」は「はい」が 31.7%となっており、「お茶や汁物等でむせることがありますか」と「口の渇きが気になりますか」より「はい」の割合が多くなっています。

図表 口腔の機能

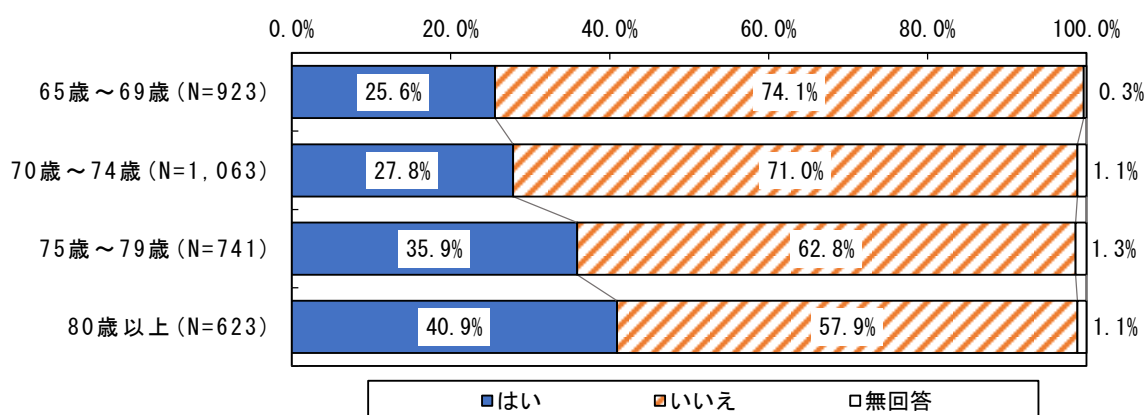
(N=3, 415)



半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか

年齢別にみると、「はい」は年齢が上がるにつれて多くなり、「80歳以上」では40.9%となっています。

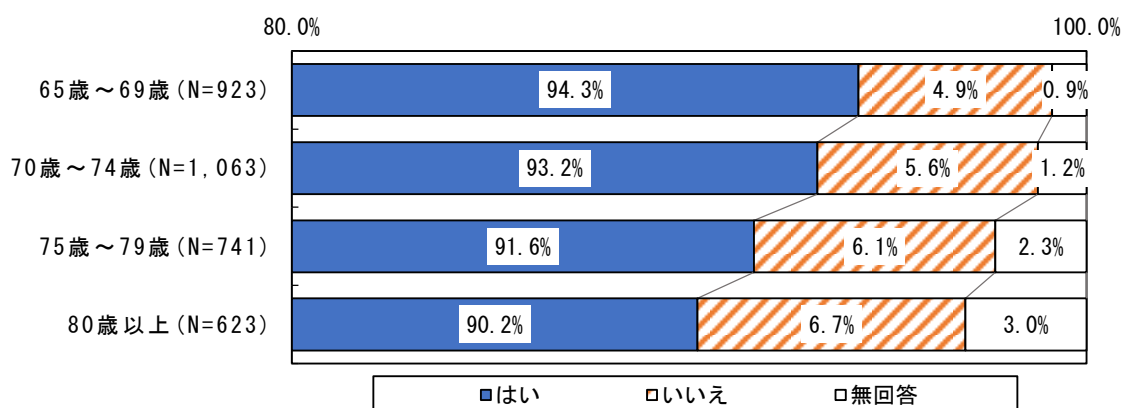
図表 年齢別 口腔の機能



歯磨きを毎日していますか

年齢別にみると、「はい」は各年齢層で90%以上となっています。

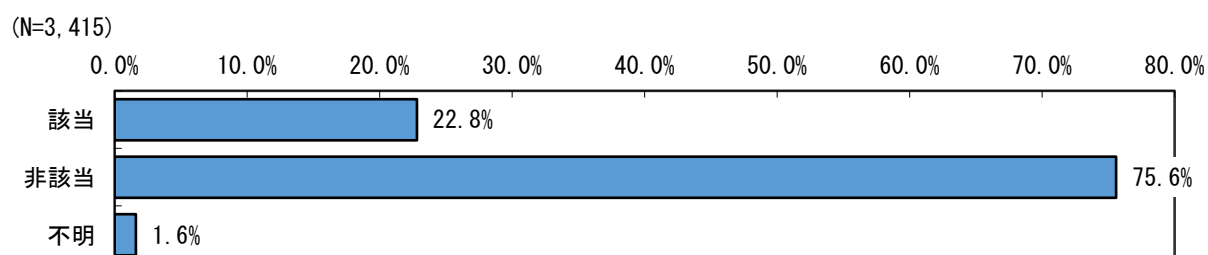
図表 年齢別 口腔の機能



・口腔の機能のうち、「半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか」「お茶や汁物等でむせることがありますか」「口の渇きが気になりますか」の3設問のうち2設問で「はい」に該当する場合は「口腔機能の低下している高齢者」と判定します。

「口腔機能の低下している高齢者」に該当する人は22.8%となっています。

図表 口腔機能の低下



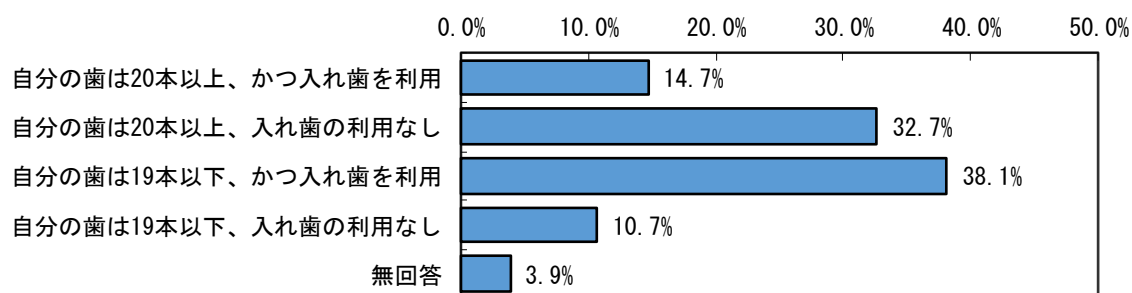
(3) 歯の数と入れ歯の利用

①歯の数と入れ歯の利用状況

歯の数と入れ歯の利用状況をみると、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が38.1%で最も多く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が32.7%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が14.7%となっています。また、入れ歯を利用している人（「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」を合わせた割合）は52.8%となっています。

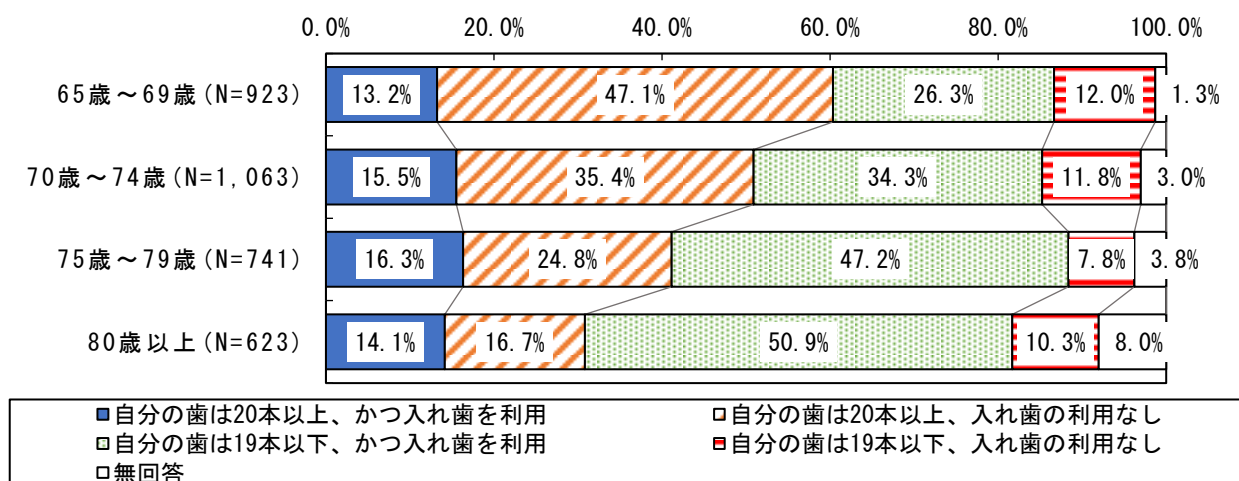
図表 歯の数と入れ歯の利用状況

(N=3,415)



年齢別にみると、入れ歯を利用している人（「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」を合わせた割合）は年齢が上がるにつれて多くなり、「70歳～74歳」は49.8%、「75歳～79歳」は63.5%、「80歳以上」は65.0%となっています。

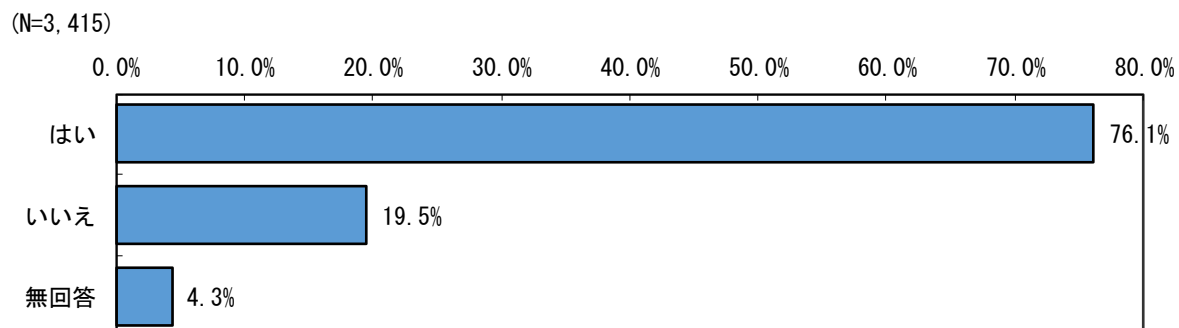
図表 年齢別 歯の数と入れ歯の利用状況



②噛み合わせは良いか

噛み合わせは良いかをみると、「はい」が76.1%、「いいえ」が19.5%となっています。

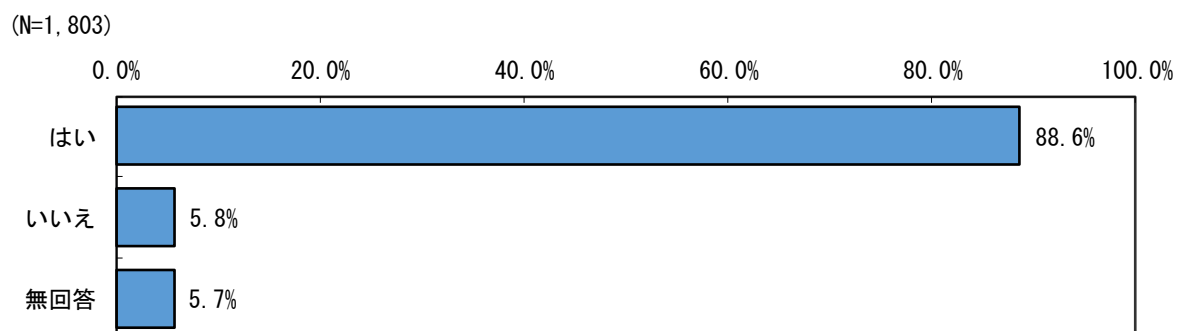
図表 噛み合わせは良いか



③毎日入れ歯の手入れをしているか

毎日入れ歯の手入れをしているかをみると、「はい」が88.6%、「いいえ」が5.8%となっています。

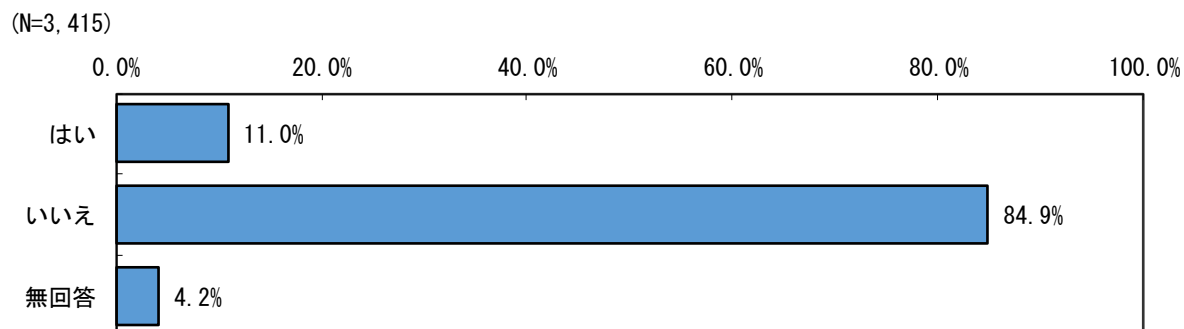
図表 毎日入れ歯の手入れをしているか



(4) 過去6ヶ月間での体重減少の有無

過去6ヶ月間での体重減少の有無をみると、「いいえ」が84.9%、「はい」が11.0%となっています。

図表 過去6ヶ月間での体重減少の有無

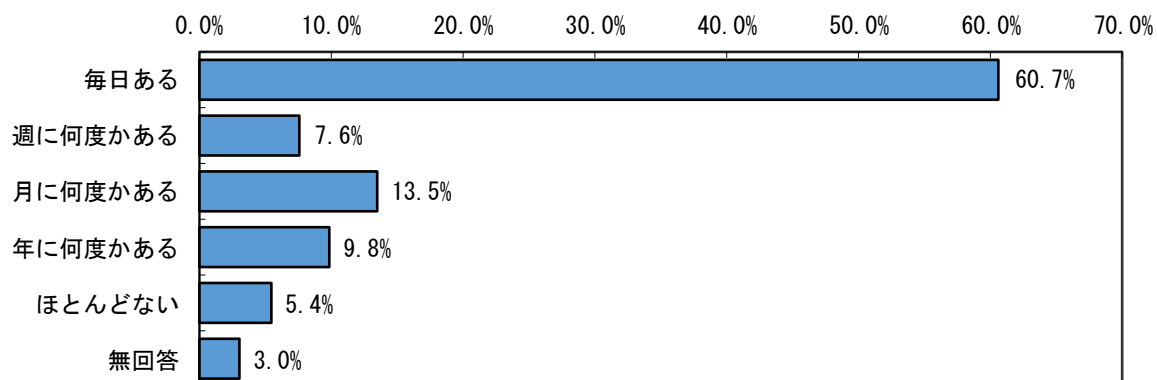


(5) 誰かと食事をとにもする機会

誰かと食事をとにもする機会をみると、「毎日ある」が 60.7%で最も多く、次いで「月に何度がある」が 13.5%となっています。一方、「ほとんどない」は 5.4%となっています。

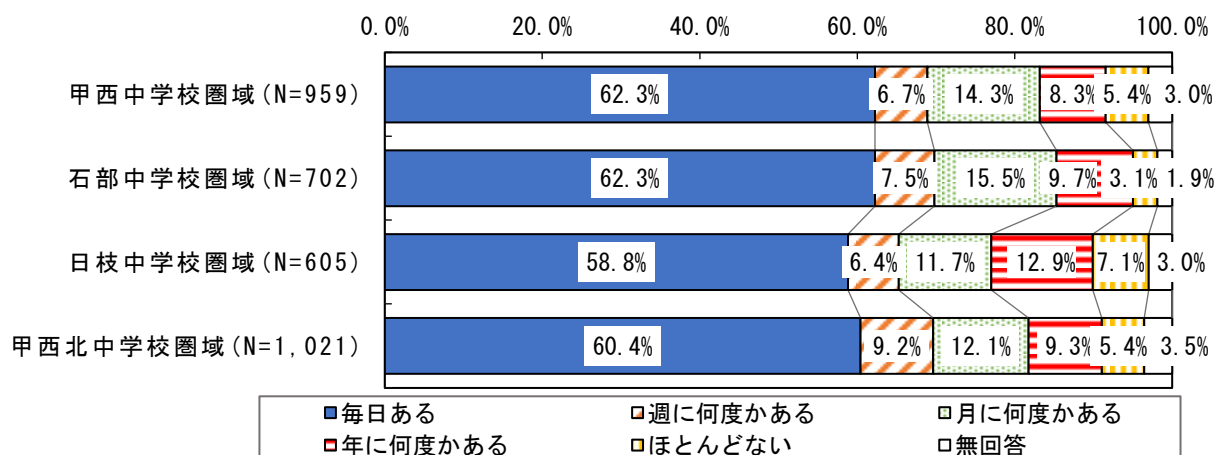
図表 誰かと食事をとにもする機会

(N=3, 415)



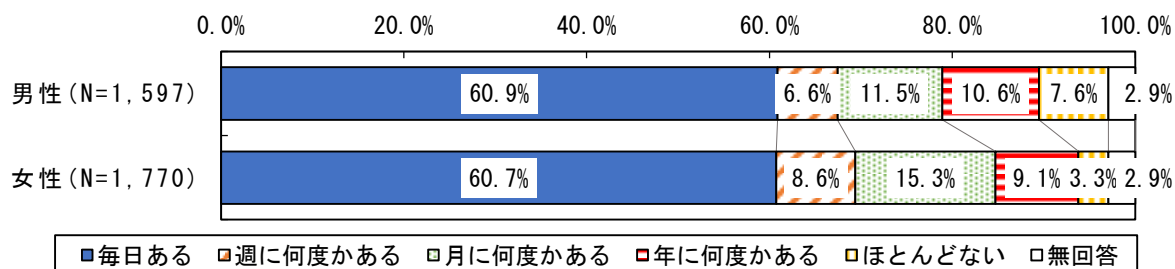
日常生活圏域別にみると、「毎日ある」は「日枝中学校圏域」が 58.8%となっているほかは、すべての圏域で 60%台となっています。

図表 日常生活圏域別 誰かと食事をとにもする機会



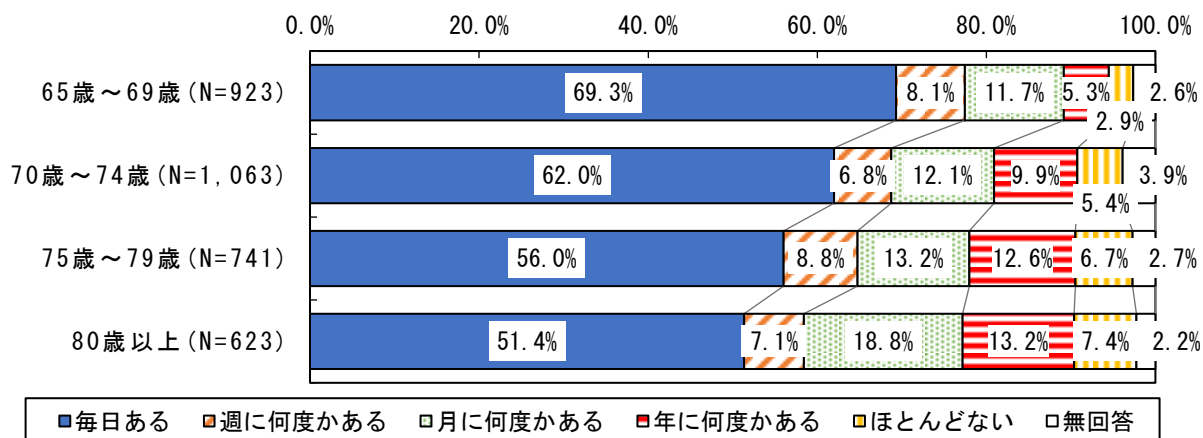
性別にみると、「毎日ある」は「男性」が 60.9%、「女性」が 60.7%となっています。

図表 性別 誰かと食事をとにもする機会



年齢別にみると、「毎日ある」は「65 歳～69 歳」では 69.3%と多くなっていますが、年齢が上がるにつれて少なくなっています。

図表 年齢別 誰かと食事をとる機会



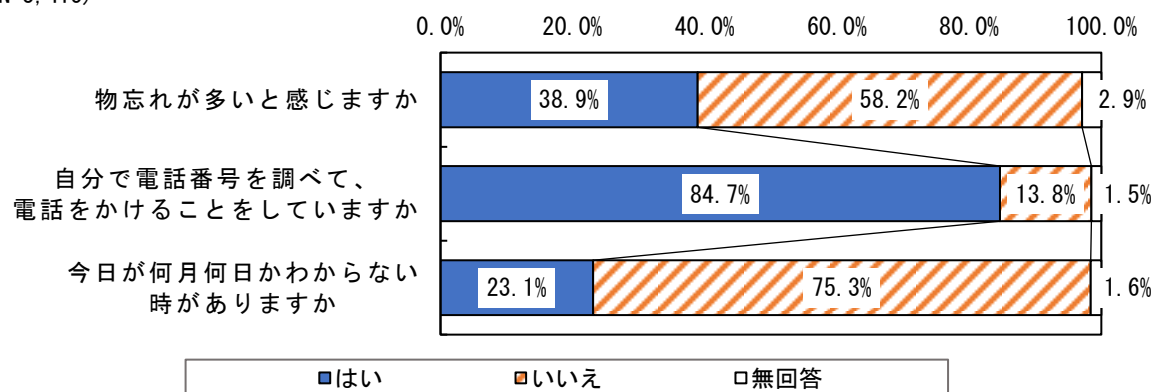
6 毎日の生活について

(1) 認知機能

認知機能についてみると、「はい」は「自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか」では 84.7%と多くなっています。また、「物忘れが多いと感じますか」「今日が何月何日かわからない時がありますか」ではそれぞれ 38.9%、23.1%となっており、「いいえ」の割合が「はい」を上回っています。

図表 認知機能

(N=3,415)

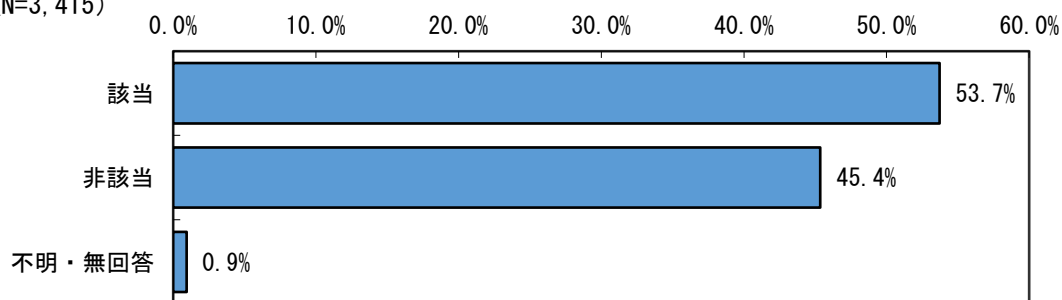


・ 認知機能のうち「物忘れが多いと感じますか」、「自分で電話番号を調べて電話をかけることをしていますか」、「今日が何月何日かわからない時がありますか」のいずれかに該当する場合は「認知機能の低下している高齢者」と判定します。

「認知機能の低下している高齢者」は 53.7%となっています。

図表 認知機能の低下

(N=3,415)

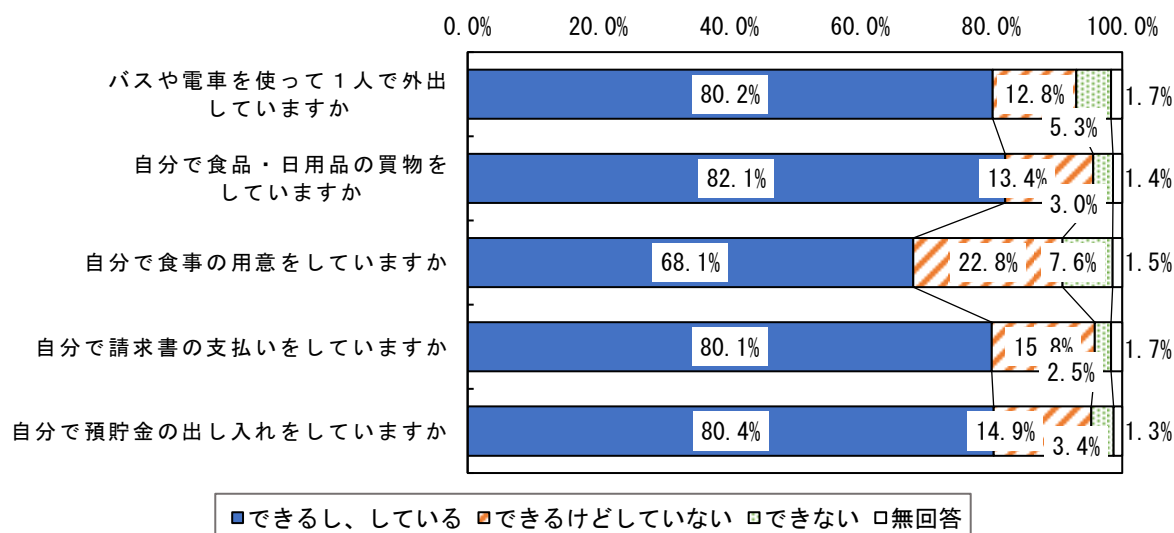


（２）生活機能全般

生活機能全般についてみると、「できるし、している」は「自分で食事の用意をしていますか」が68.1%であるほかは、いずれの項目も80%台となっており、「自分で食品・日用品の買物をしていますか」が82.1%と最も多くなっています。

図表 生活機能全般

(N=3,415)



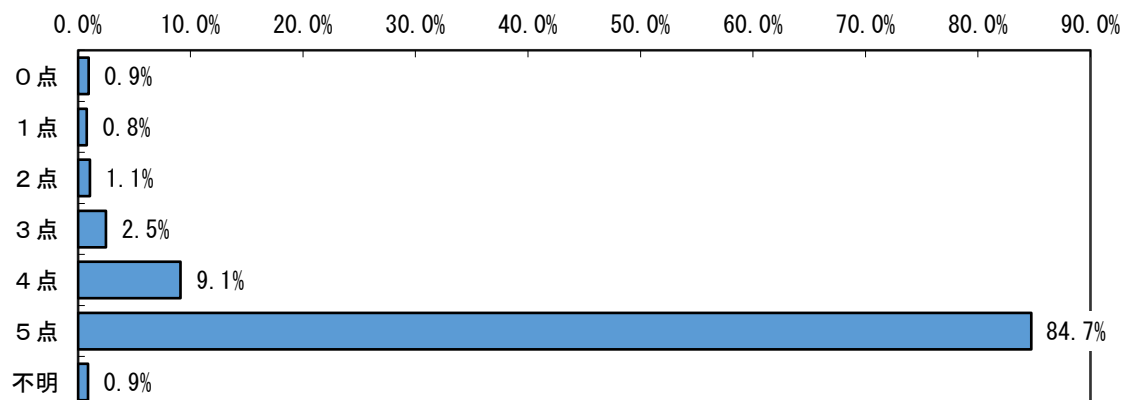
< I A D L ²（手段的日常生活動作）指標 >

・「生活機能全般」で「できるし、している」または「できるけどしていない」以上の選択肢をそれぞれ1点とした合計得点をI A D L（手段的日常生活動作）指標とします。5点が最高点で、3点以下は健康リスク有りとされます。

I A D L（手段的日常生活動作）指標をみると、「5点」が84.7%で最も多く、次いで「4点」が9.1%となっており、3点以下（健康リスク有り）は5.3%となっています。

図表 I A D L（手段的日常生活動作）指標

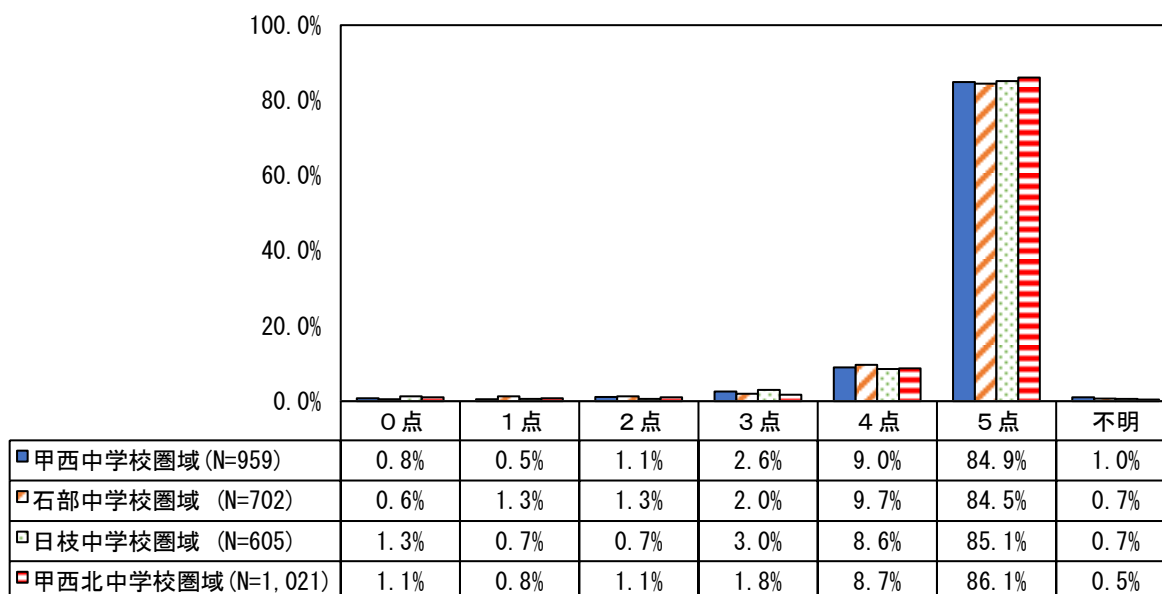
(N=3,415)



² I A D Lとは、「Instrumental Activity of Daily Living」の略語で、交通機関の利用・買物・金銭管理など日常生活でのやや複雑な活動が可能な能力です。

日常生活圏域別にみると、すべての圏域で「5点」が80%台となっています。

図表 日常生活圏域別 IADL（手段的日常生活動作）指標

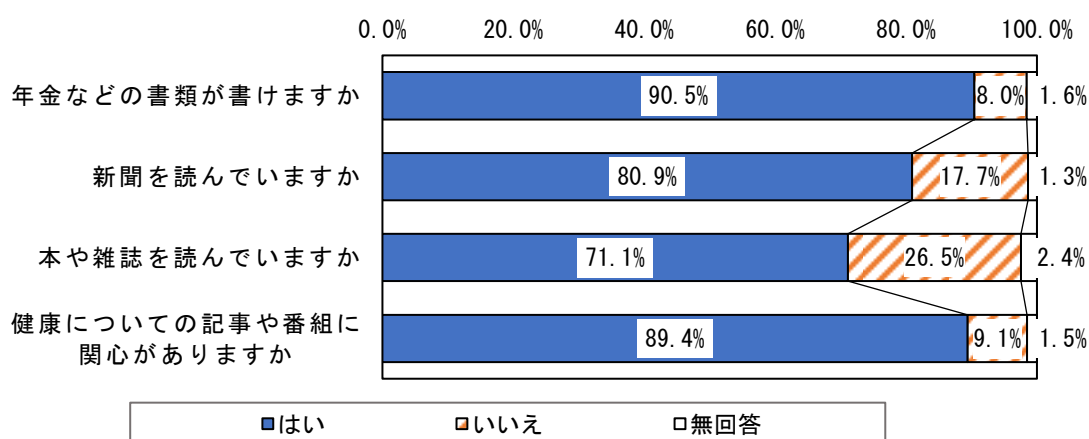


（３）日常生活での読み書き

日常生活での読み書きについてみると、「はい」は「年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか」と「健康についての記事や番組に関心がありますか」、「新聞を読んでいますか」がそれぞれ 90.5%、89.4%、80.9%と高い割合となっています。「本や雑誌を読んでいる」は 71.1%となっています。

図表 日常生活での読み書き

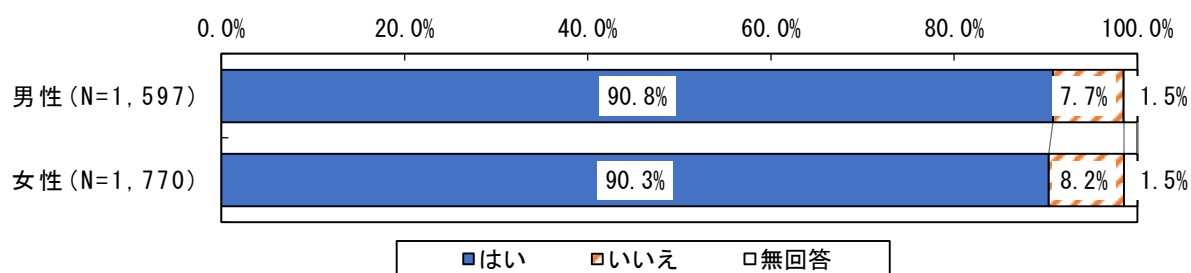
(N=3,415)



年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか

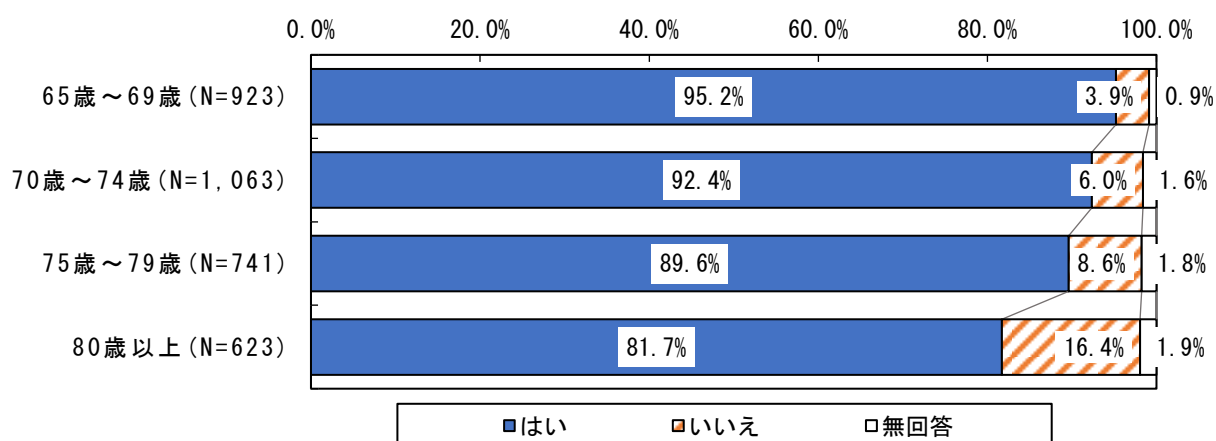
性別にみると、「はい」は「男性」が90.8%、「女性」が90.3%となっています。

図表 性別 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けるか



年齢別にみると、「はい」はすべての年齢層で8割以上となっており、「65歳～69歳」では95.2%と最も多くなっています。

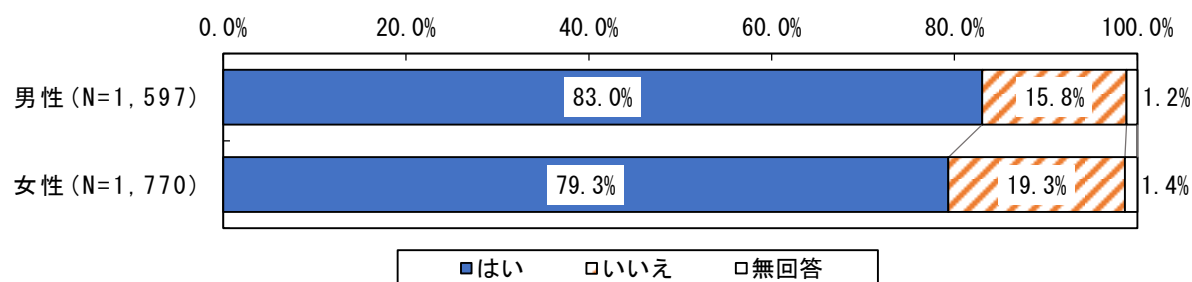
図表 年齢別 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けるか



新聞を読んでいますか

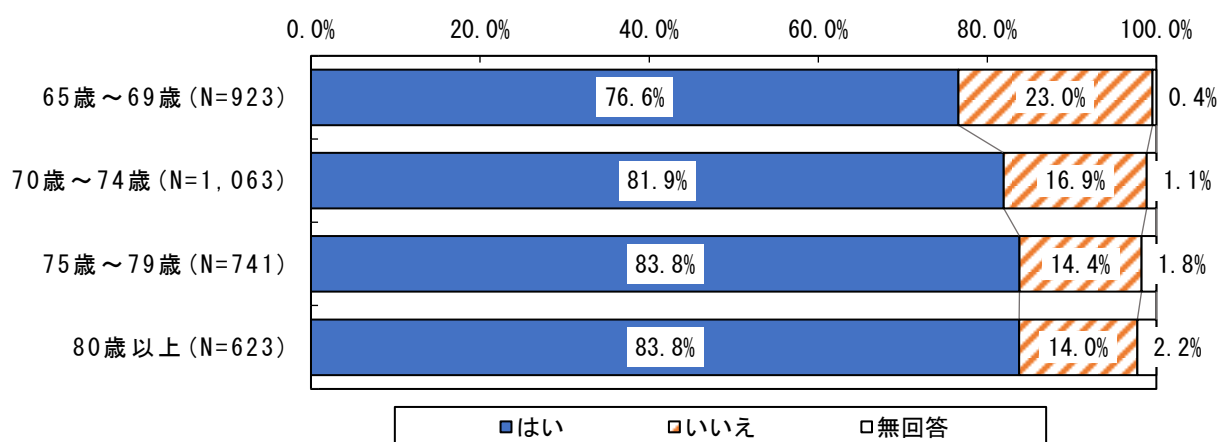
性別にみると、「はい」は「男性」が83.0%、「女性」が79.3%となっています。

図表 性別 新聞を読んでいるか



年齢別にみると、「はい」は「65歳～69歳」が76.6%となっているほかは、各年齢層で80%台となっています。

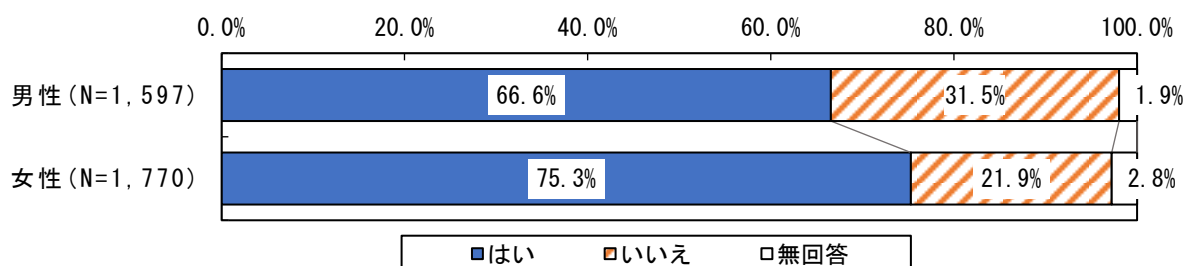
図表 年齢別 新聞を読んでいるか



本や雑誌を読んでいますか

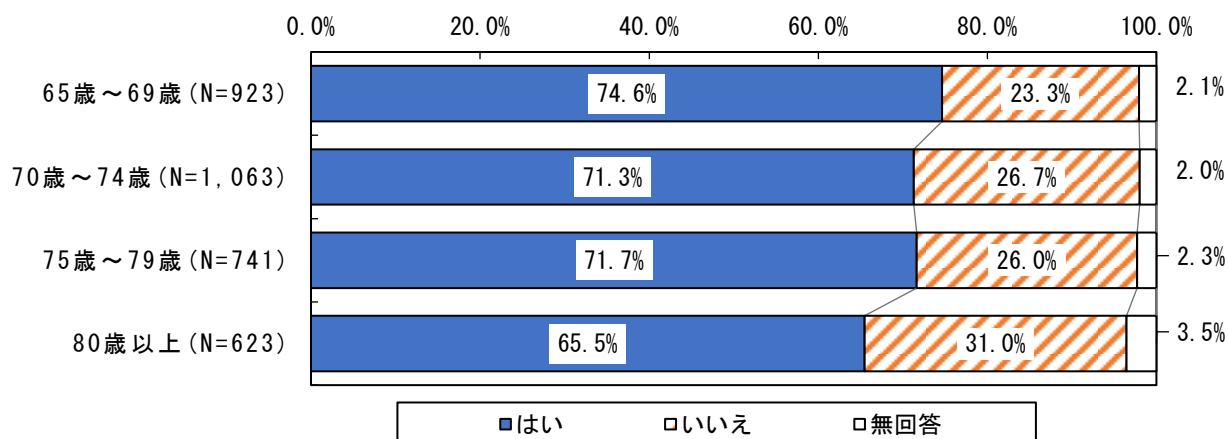
性別にみると、「はい」は「男性」が66.6%、「女性」が75.3%となっています。

図表 性別 本や雑誌を読んでいるか



年齢別にみると、「はい」は「80歳以上」が65.5%となっているほかは、各年齢層で70%台となっています。

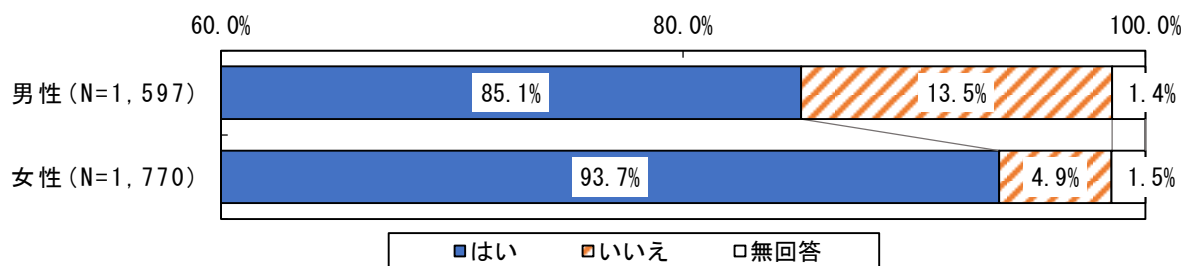
図表 年齢別 本や雑誌を読んでいるか



健康についての記事や番組に関心がありますか

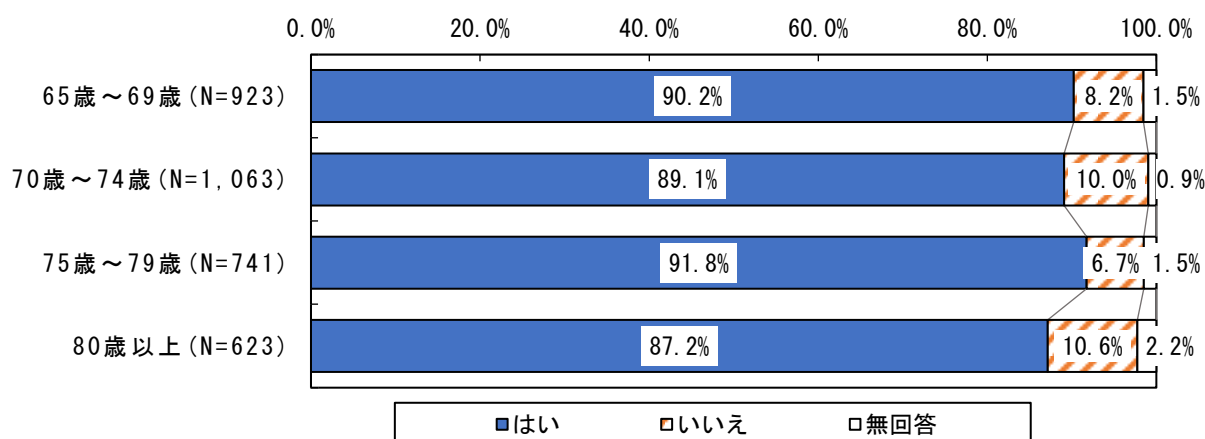
性別にみると、「はい」は「男性」が85.1%、「女性」が93.7%となっています。

図表 性別 健康についての記事や番組に関心があるか



年齢別にみると、「はい」はすべての年齢層で8割以上となっており、「75歳～79歳」では91.8%となっています。

図表 年齢別 健康についての記事や番組に関心があるか

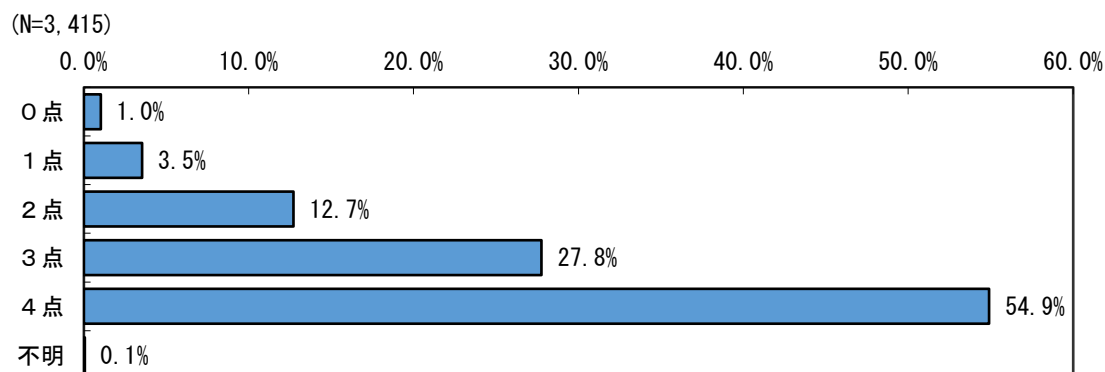


<知的能動性評価>

・日常生活での読み書きについての各設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点の4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」としています。

知的能動性評価をみると、「4点」が54.9%で最も多く、次いで「3点」が27.8%となっており、2点以下は17.2%となっています。

図表 知的能動性評価



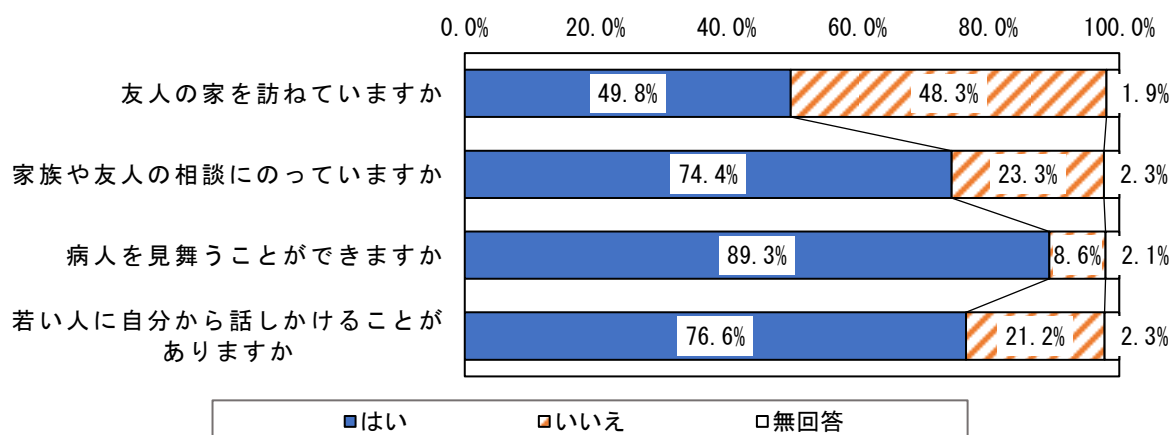
（４）社会的役割

社会的役割についてみると、「はい」は「病人を見舞うことができますか」が 89.3%で最も多く、次いで「若い人に自分から話しかけることがありますか」が 76.6%、「家族や友人の相談にのっていますか」が 74.4%となっています。

なお「友人の家を訪ねていますか」は「はい」と「いいえ」が同程度の割合となっています。

図表 社会的役割

(N=3,415)



<社会的役割評価>

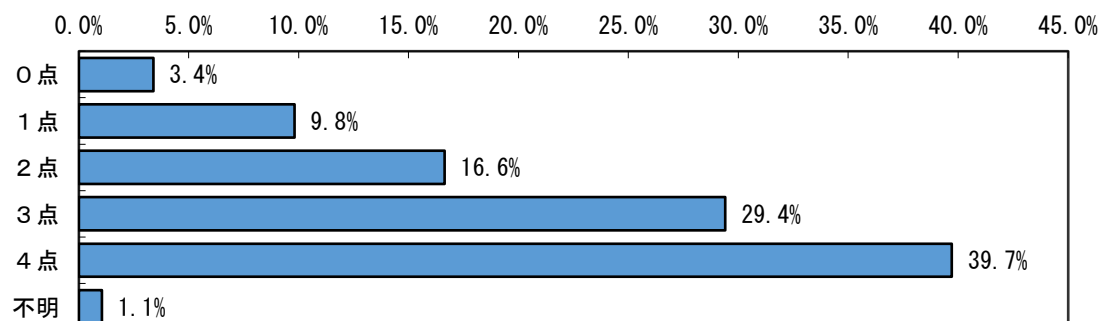
・社会的役割についての各設問に「はい」と回答した場合を 1 点として、4 点満点の 4 点を「高い」、3 点を「やや低い」、2 点以下を「低い」としています。

社会的役割評価をみると、「4 点」が 39.7%で最も多くなっています。

「3 点」と 2 点以下を比べるとそれぞれ 29.4%、29.8%であり、同程度の割合となっています。

図表 社会的役割評価

(N=3,415)

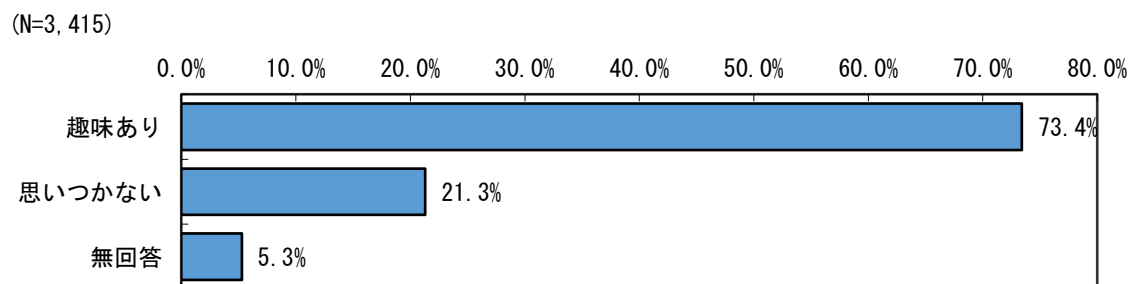


(4) 趣味・生きがい

①趣味の有無

趣味の有無をみると、「趣味あり」が73.4%となっています。

図表 趣味の有無



「趣味あり」と回答した人に具体的内容を自由に記述いただいたところ、以下の通りとなっています。

図表 趣味の具体的内容 自由記述結果

内容	件数
運動、スポーツ	903
園芸	671
手芸（裁縫、刺繍、編み物など）	324
読書	282
カラオケ、歌唱	212
鑑賞（美術、音楽、演劇、テレビ、映画など）	182
旅行、観光、散策、寺社仏閣巡り	161
美術製作（絵画、水墨画、絵手紙、陶芸、造形など）	127
囲碁、将棋、ゲーム	122
釣りなど野外活動	103
演奏	102
工作、物作り	90
料理、食事	76
茶華道、書道、習字	72
パズル、クイズ、ぬり絵	57
パソコン、インターネット	55
ドライブ、自動車	54
詩歌、謡曲、朗読	53
日曜大工、住居修繕、D I Y	42
写真、カメラ	39
スポーツ観戦	34
投資、賭け事	32
生涯学習（各種講座への参加、語学学習など）	25
動物飼育・鑑賞	21
演劇、芸能	20
仕事、農業	19
買物、ウィンドウショッピング	17
作文、日記	11
友人・知人との交流・会話	10
家事	10
家族と過ごすこと	6
収集	6
入浴	6
その他	16
合計	3,986
記述があった件数	2,310

※複数の内容にまたがる記述がある場合は、それぞれに計上しているため、「合計」と「記述があった件数」は一致しません。

「運動・スポーツ」の内訳	件数
ゴルフ	230
グラウンドゴルフ、ゲートボール	154
ウォーキング、散歩	120
体操、ヨガ、筋力トレーニング	92
登山、ハイキング	51
水泳	45
社交ダンス、フォークダンス、フラダンス	42
卓球	27
テニス	26
サイクリング	14
ランニング、ジョギング	14
ボウリング	14
バドミントン	9
ソフトボール	7
野球	6
スキー	5
バレーボール、ビーチボール	3

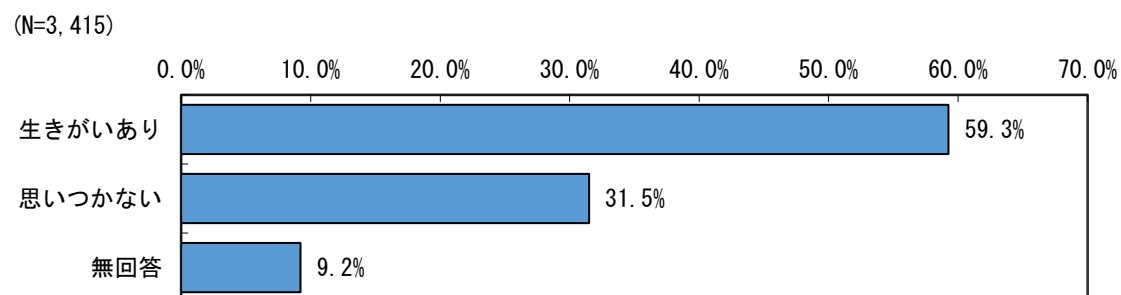
「運動・スポーツ」の内訳	件数
その他運動・スポーツ	44
合計	903

「園芸」の内訳	件数
家庭菜園	212
花、樹木の栽培・手入れ	208
ガーデニング、庭仕事	81
畑仕事	81
盆栽	15
その他園芸	74
合計	671

②生きがいの有無

生きがいの有無をみると、「生きがいあり」が59.3%となっています。

図表 生きがいの有無



「生きがいあり」と回答した人に具体的内容を自由に記述いただいたところ、以下の通りとなっています。

図表 生きがいの具体的内容 自由記述結果

内容	件数
孫・ひ孫に関すること	488
夫婦・家族に関すること	225
仕事	214
運動、スポーツ	187
園芸	164
旅行	141
ボランティア、地域活動	128
友人・知人との交流・会話	123
健康、長寿	117
料理、食事、お酒	96
カラオケ、歌唱、演奏など	85
創作（工作、手芸、美術、詩歌など）	78
現在の生活、毎日が生きがい	58
趣味を楽しむこと	43
鑑賞（美術、音楽、演劇、テレビ、映画など）	31
読書	30
動物飼育・鑑賞	26
自立・自律できていること	26
生涯学習	21
買い物、外出	21
囲碁、将棋、ゲームなど	20
家事	18

内容	件数
信仰	17
茶華道、書道、習字	16
釣	13
パソコン	13
投資、賭け事	11
日曜大工、D I Y	10
その他	20
合計	2,440
記述があった件数	1,693

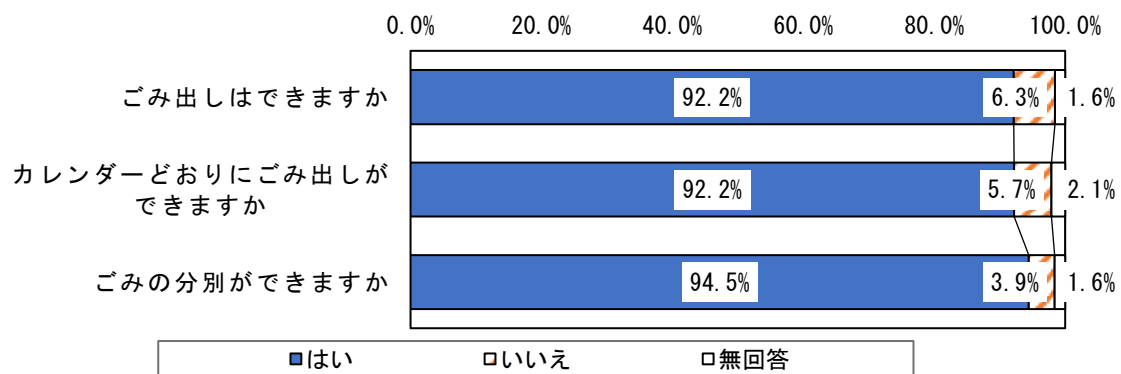
※複数の内容にまたがる記述がある場合は、それぞれに計上しているため、「合計」と「記述があった件数」は一致しません。

(5) ごみ出し

ごみ出しについてみると、いずれの質問項目も「はい」が9割以上を占めています。

図表 ごみ出し

(N=3,415)



7 地域での活動について

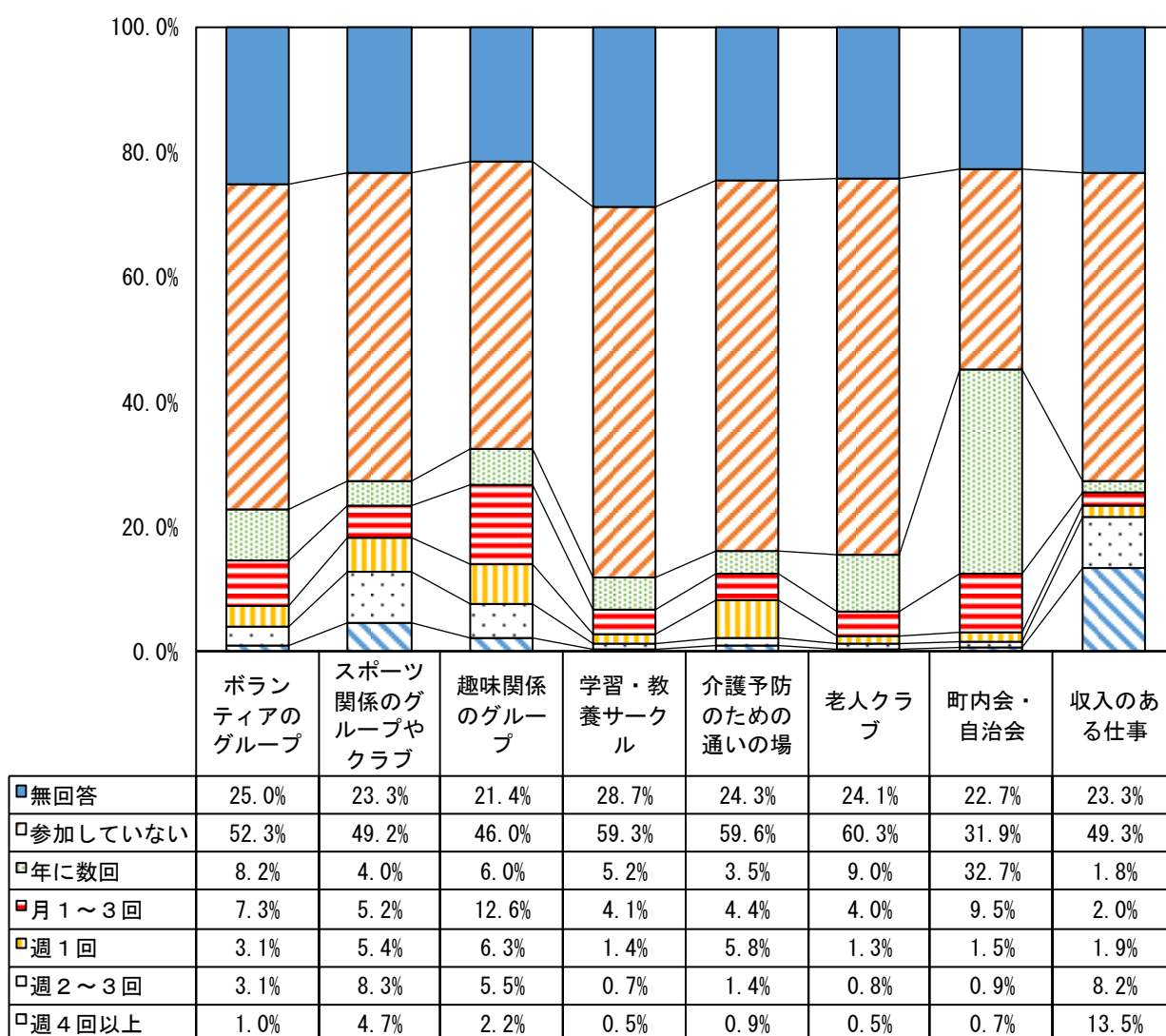
(1) 社会参加の状況

社会参加の状況を見ると、年に数回以上参加している人（「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」を合わせた割合）は、「町内会・自治会」が45.3%で最も多く、次いで「趣味関係のグループ」が32.6%、「スポーツ関係のグループやクラブ」が27.6%となっています。

なお「収入のある仕事」は27.4%で、「週4回以上」が13.5%となっており、他に比べて高い割合を示しています。

図表 社会参加の状況

(N=3,415)

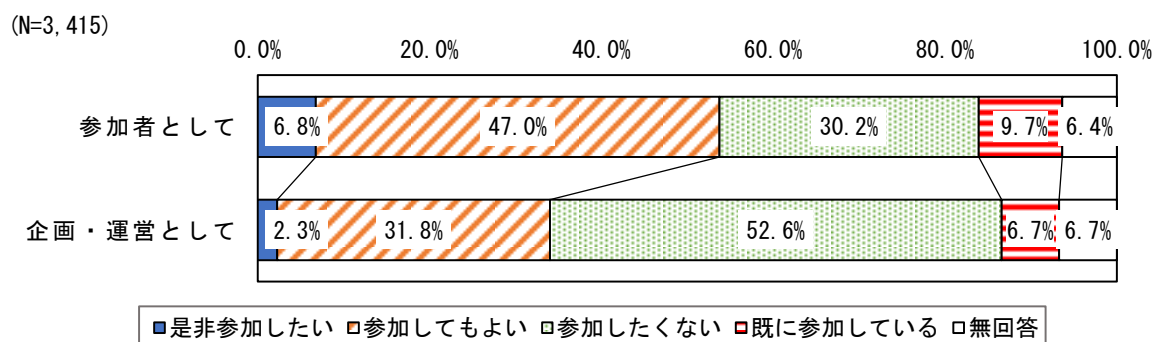


（２）地域住民によるグループ活動への参加意向

地域住民によるグループ活動への参加意向について、参加者としての参加意向をみると、「参加してもよい」が47.0%で最も多く、次いで「参加したくない」が30.2%、「既に参加している」が9.7%となっています。参加意向がある人（「是非参加したい」「参加してもよい」を合わせた割合）は53.8%となっています。

企画・運営としての参加意向をみると、「参加したくない」が52.6%で最も多く、次いで「参加してもよい」が31.8%、「既に参加している」が6.7%となっています。参加意向がある人（「是非参加したい」「参加してもよい」を合わせた割合）は34.1%となっています。

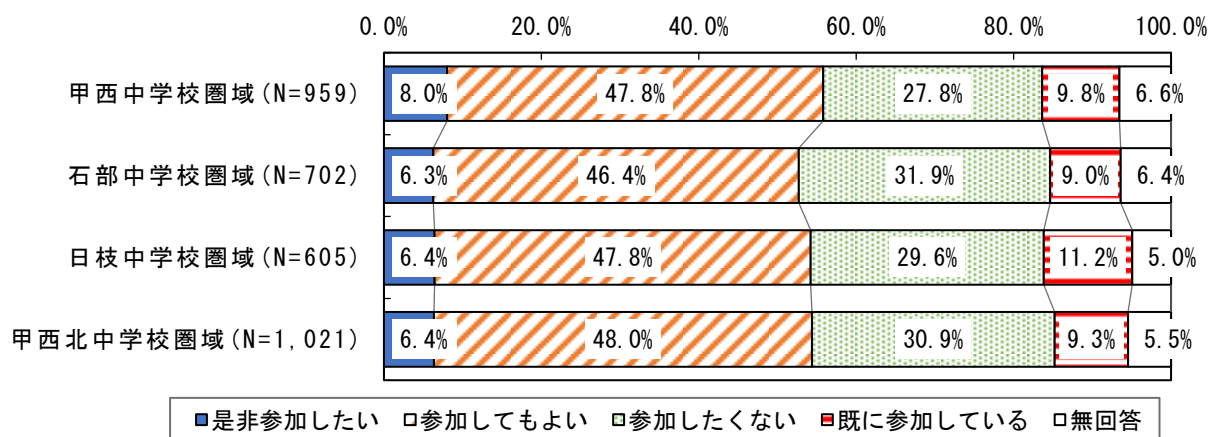
図表 地域住民によるグループ活動の参加意向



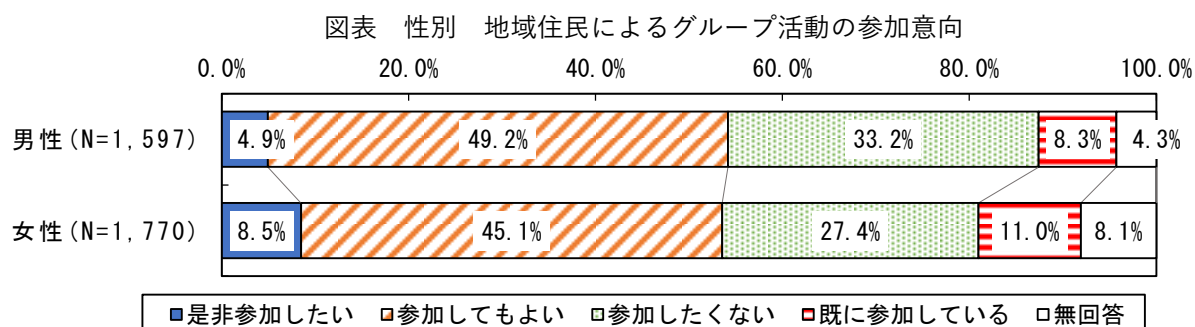
参加者としての参加意向

日常生活圏域別にみると、参加者として参加意向がある人（「是非参加したい」「参加してもよい」を合わせた割合）は、いずれの圏域においても5割を超えています。

図表 日常生活圏域別 地域住民によるグループ活動の参加意向



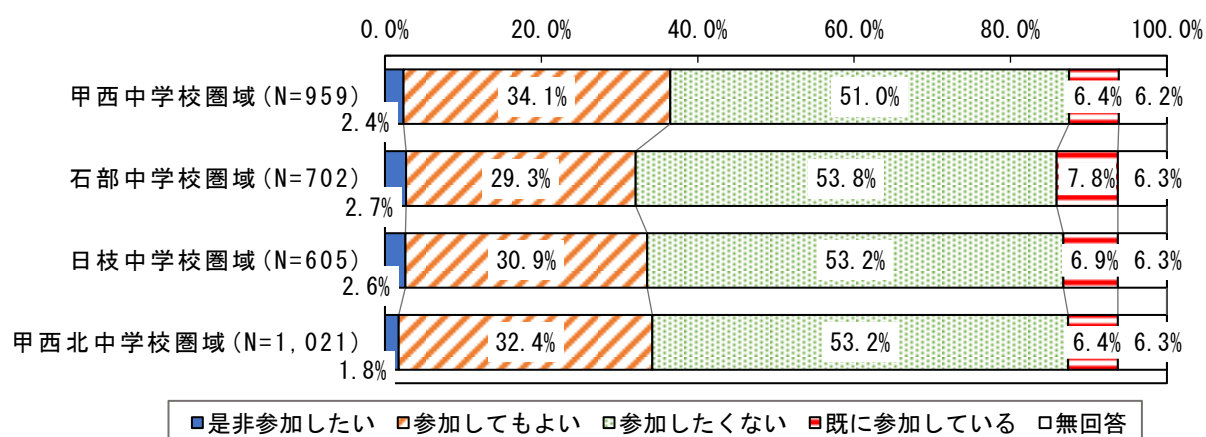
性別にみると、参加者として参加意向がある人（「是非参加したい」「参加してもよい」を合わせた割合）は、「男性」が55.1%、「女性」が53.6%となっています。



企画・運営者としての参加意向

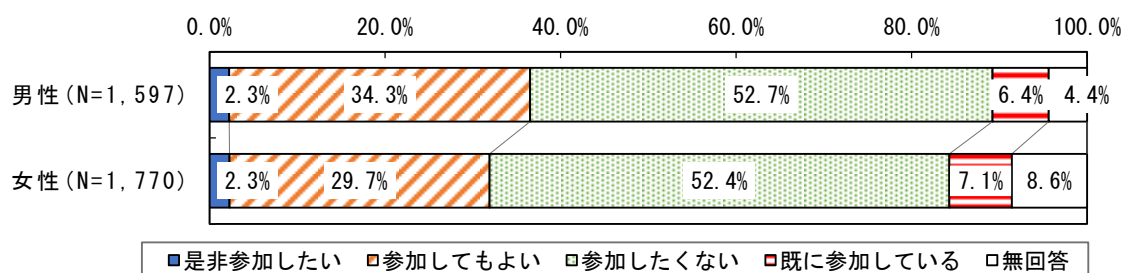
日常生活圏域別にみると、企画・運営者として参加意向がある人（「是非参加したい」「参加してもよい」を合わせた割合）は、いずれの圏域においても3割を超えています。

図表 日常生活圏域別 地域住民によるグループ活動の企画・運営者としての参加意向



性別にみると、企画・運営者として参加意向がある人（「是非参加したい」「参加してもよい」を合わせた割合）は、「男性」が36.6%、「女性」が32.0%となっています。

図表 性別 地域住民によるグループ活動の企画・運営者としての参加意向



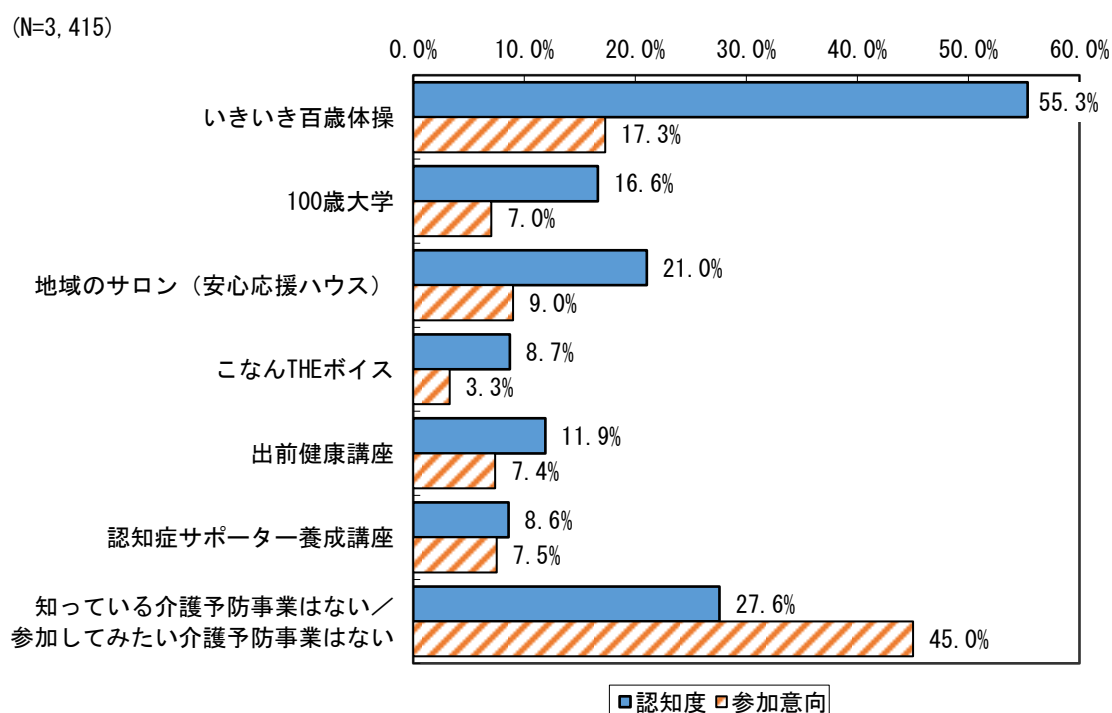
(3) 介護予防事業について

①介護予防事業の認知度と参加意向

市内で実施している介護予防事業の認知度をみると、「いきいき百歳体操」が55.3%で最も多く、次いで「地域のサロン（安心応援ハウス）」が21.0%、「100歳大学」が16.6%となっています。なお、「知っている介護予防事業はない」が27.6%で3割近くを占めています。

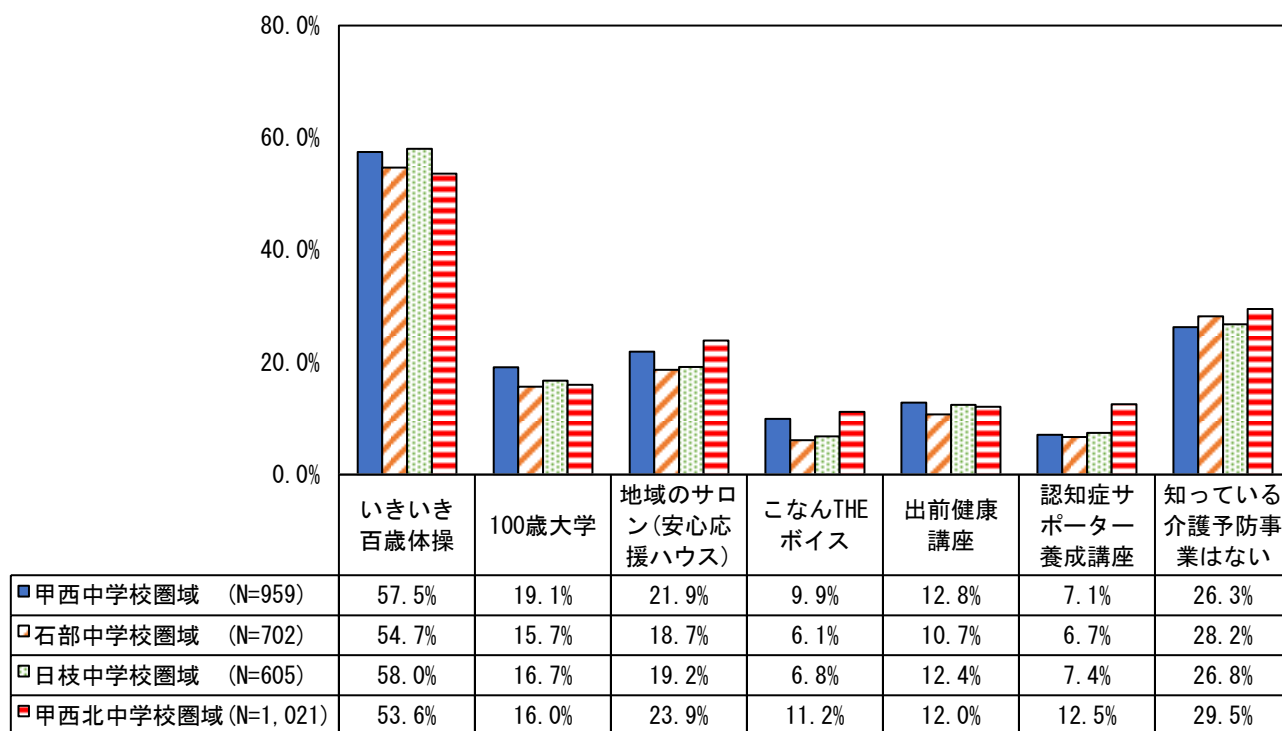
介護予防事業の参加意向をみると、「いきいき百歳体操」が17.3%となっているほかは、いずれの項目も割合は10%以下となっています。なお、「参加してみたい介護予防事業はない」が45.0%で5割近くを占めています。

図表 介護予防事業の認知度／参加意向（複数回答）



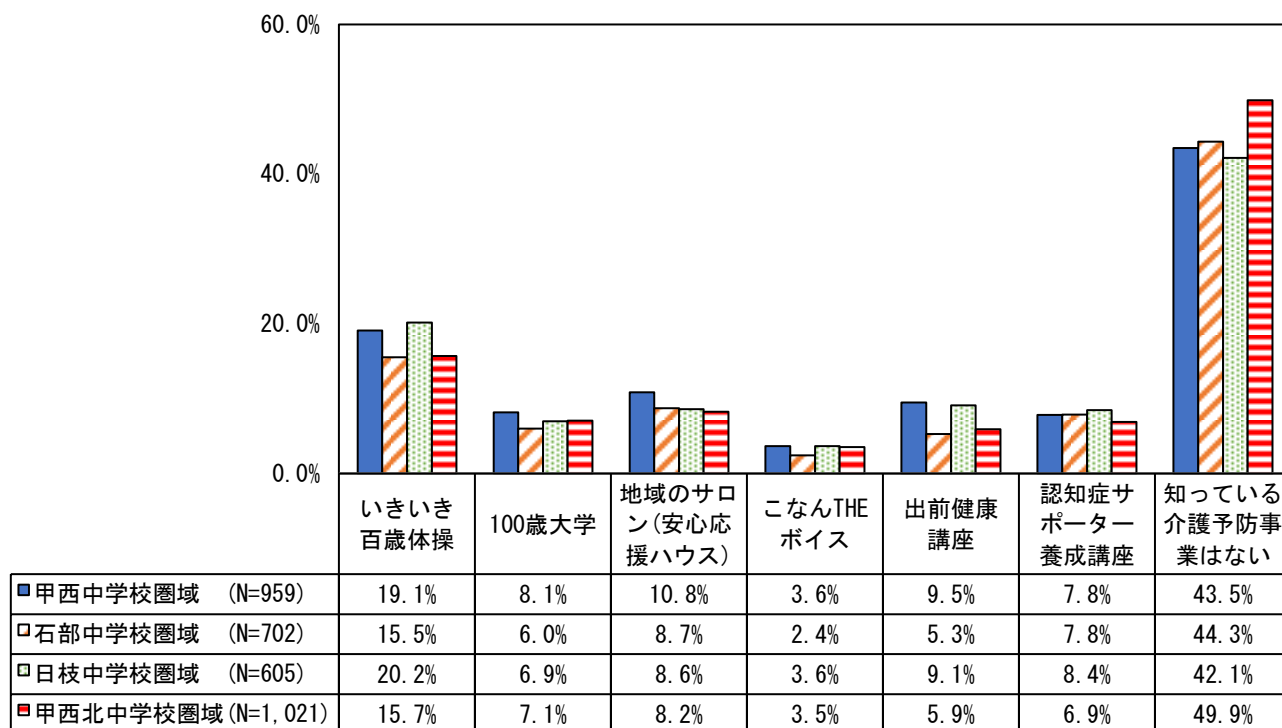
介護予防事業の認知度を日常生活圏域別にみると、すべての圏域で「いきいき百歳体操」が 50%台となっており、他の事業についても、すべての圏域で全体の結果と同様の傾向となっています。

図表 日常生活圏域別 介護予防事業の認知度（複数回答）



介護予防事業の参加意向を日常生活圏域別にみると、「いきいき百歳体操」が各圏域で 10～20%台となっており、他の事業についてもすべての圏域で全体の結果と同様の傾向となっています。

図表 日常生活圏域別 介護予防事業の参加意向（複数回答）

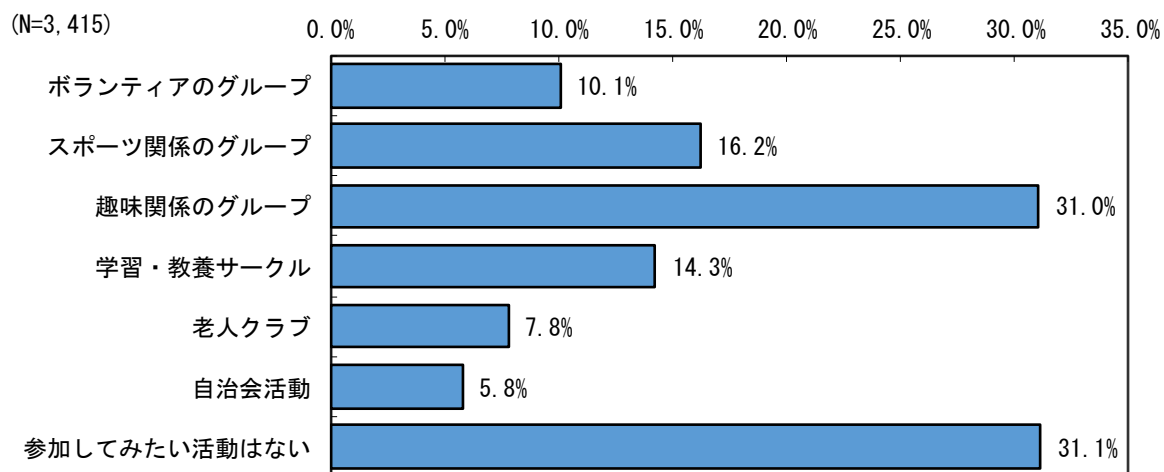


②参加してみたい活動

参加してみたい活動をみると、「趣味関係のグループ」が31.0%で最も多く、次いで「スポーツ関係のグループ」が16.2%、「学習・教養サークル」が14.3%となっています。

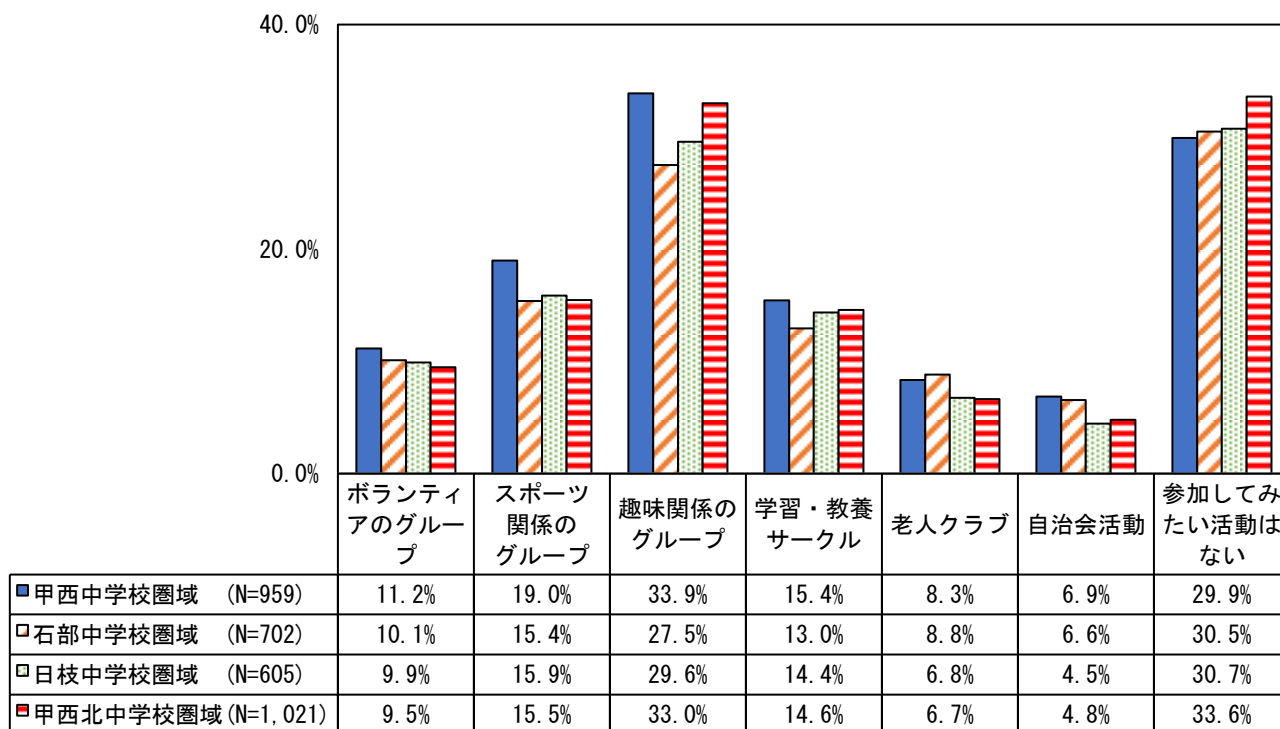
一方で「参加してみたい活動はない」が31.1%となっています。

図表 参加してみたい活動（複数回答）



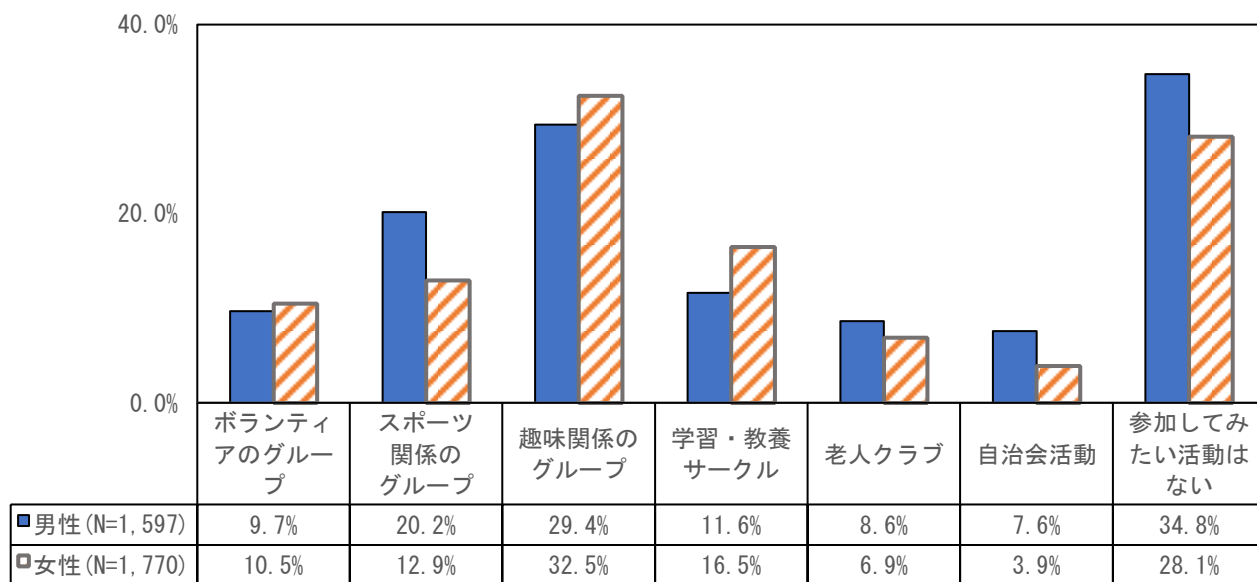
日常生活圏域別にみると、全体の結果と同様に「趣味関係のグループ」が20～30%台で最も多くなっています。「参加してみたい活動はない」についても同様にすべての圏域で20～30%台を占めています。

図表 日常生活圏域別 参加してみたい活動（複数回答）



性別にみると、女性は「趣味関係のグループ」が 32.5%で最も多くなっていますが、男性は「参加してみたい活動はない」が 34.8%で最も多くなっています。

図表 性別 参加してみたい活動（複数回答）



8 助け合いについて

(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人／自分が心配事や愚痴を聞いてあげる人

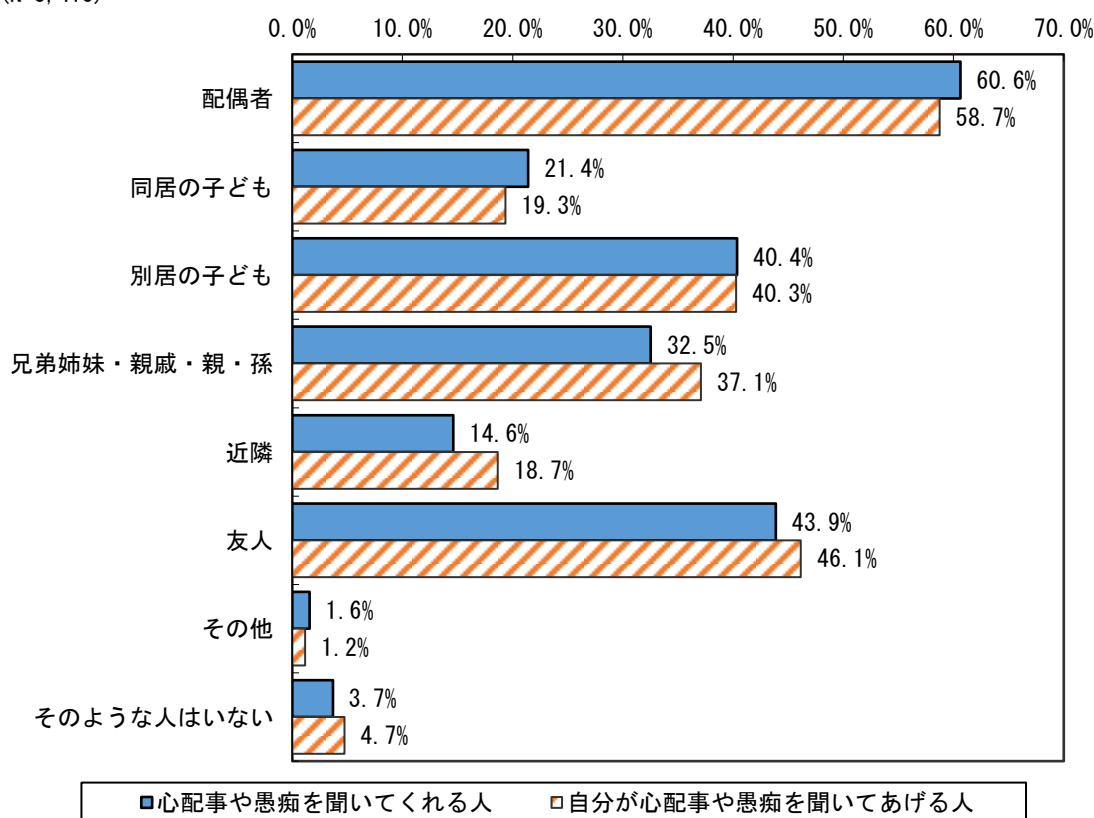
心配事や愚痴を聞いてくれる人を見ると、「配偶者」が60.6%で最も多く、次いで「友人」が43.9%、「別居の子ども」が40.4%となっています。

自分が心配事や愚痴を聞いてあげる人を見ると、先の心配事や愚痴を聞いてくれる人と同様の結果がみられ、「配偶者」が58.7%で最も多く、次いで「友人」が46.1%、「別居の子ども」が40.3%となっています。

心配事や愚痴を聞いてくれる人と自分が心配事や愚痴を聞いてあげる人の対象者の割合に大きな差は見られません。

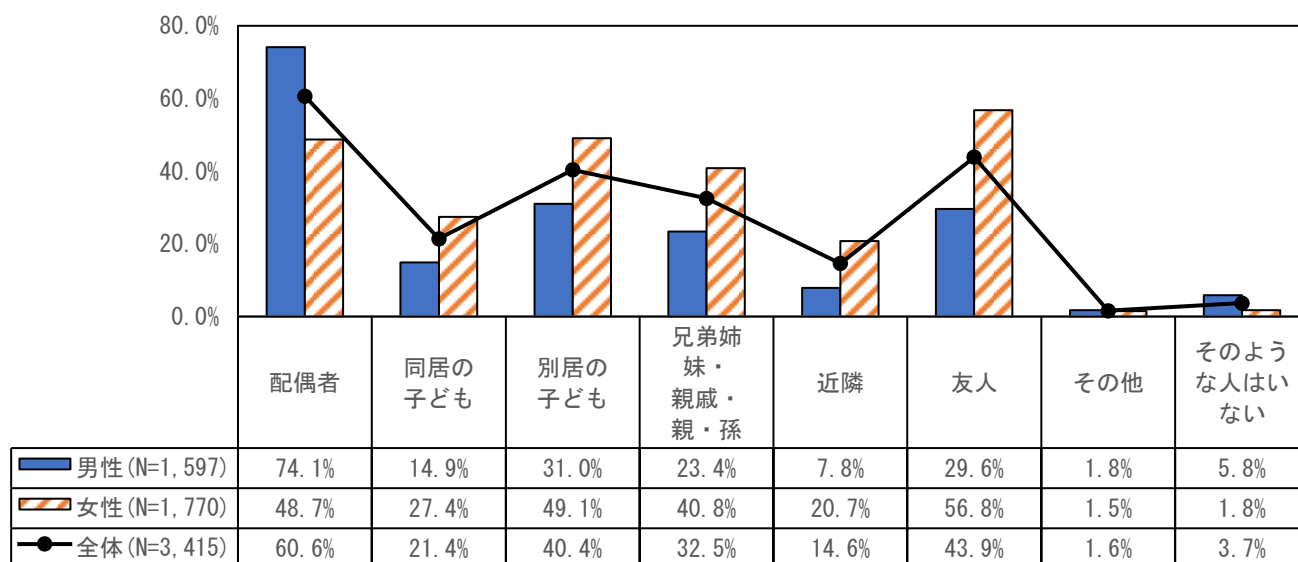
図表 心配事や愚痴を聞いてくれる人／自分が心配事や愚痴を聞いてあげる人（複数回答）

(N=3,415)

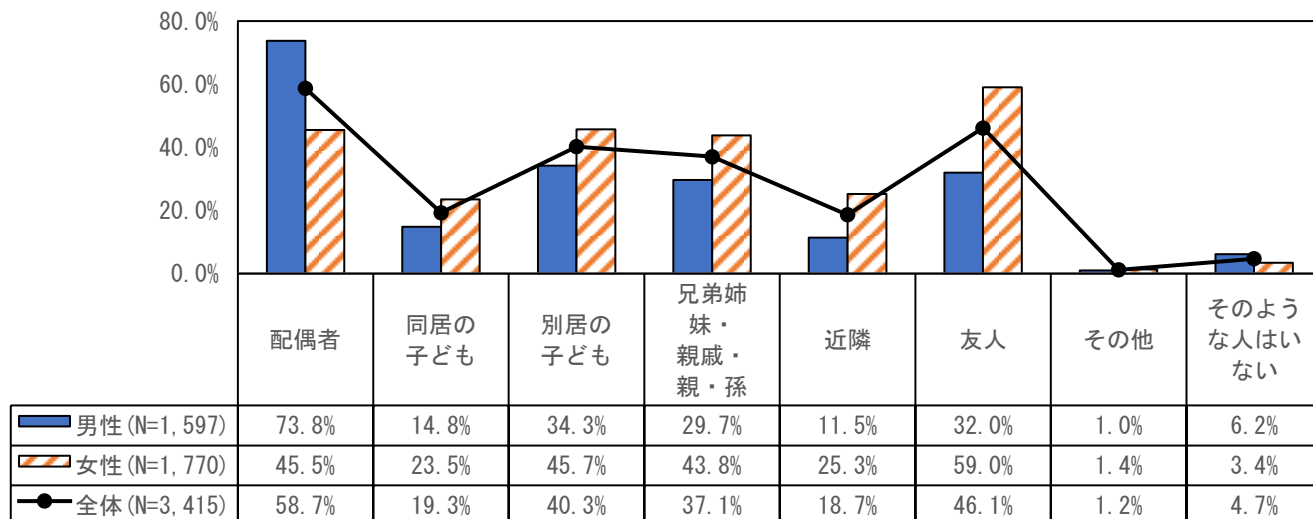


性別にみると、「心配事や愚痴を聞いてくれる人」「心配事や愚痴を聞いてあげる人」とともに男性は「配偶者」が70%台、女性は40%台となっています。また女性は「友人」がいずれの対象においても50%台となっています。「同居の子ども」「別居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」でも女性は男性より割合が高くなっています。

図表 性別 心配事や愚痴を聞いてくれる人（複数回答）



図表 性別 心配事や愚痴を聞いてあげる人（複数回答）



（２）病気の際に看病や世話をしてくれる人／自分が看病や世話をしてあげる人

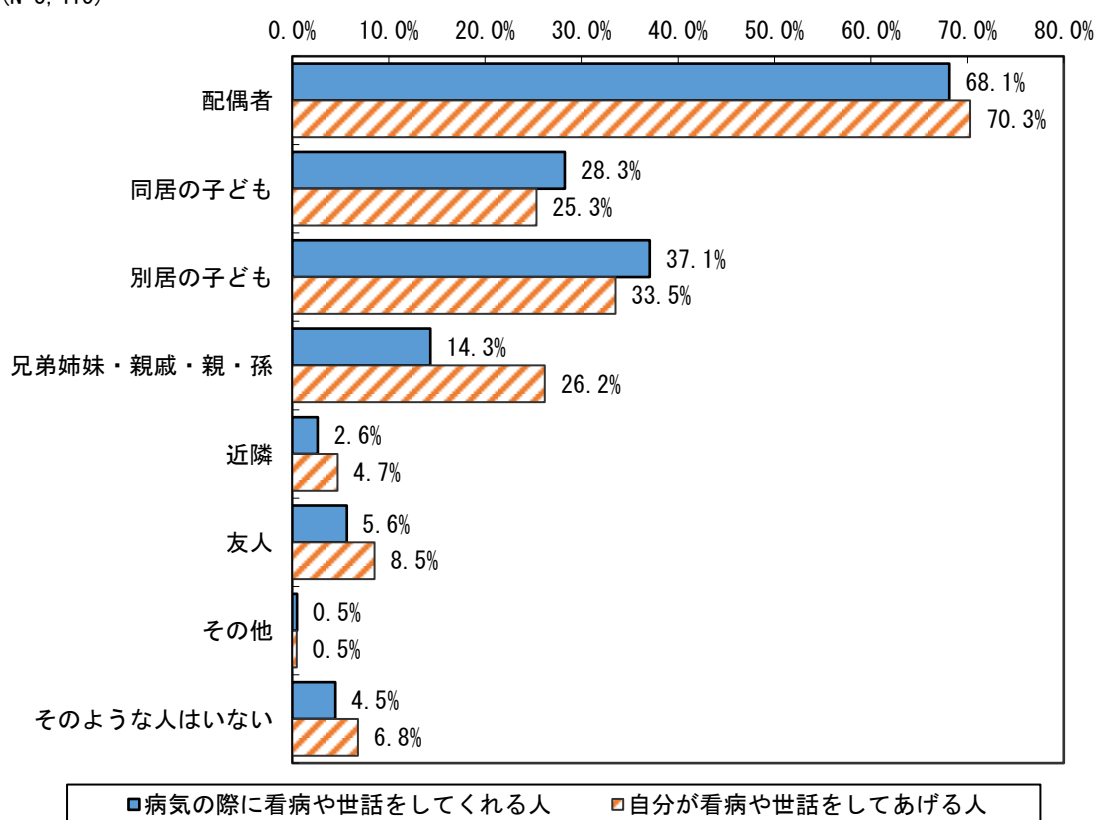
病気の際に看病や世話をしてくれる人をみると、「配偶者」が 68.1% で最も多く、次いで「別居の子ども」が 37.1%、「同居の子ども」が 28.3% となっています。

自分が看病や世話をしてあげる人をみると、「配偶者」が 70.3% で最も多く、次いで「別居の子ども」が 33.5%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 26.2% となっています。

また心配事や愚痴を聞いてくれる人と自分が心配事や愚痴を聞いてあげる人の対象者の割合の差をみると、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」では「看病や世話をしてくれる人」が「自分が看病や世話をしてあげる人」より 11.9 ポイント少なくなっています。

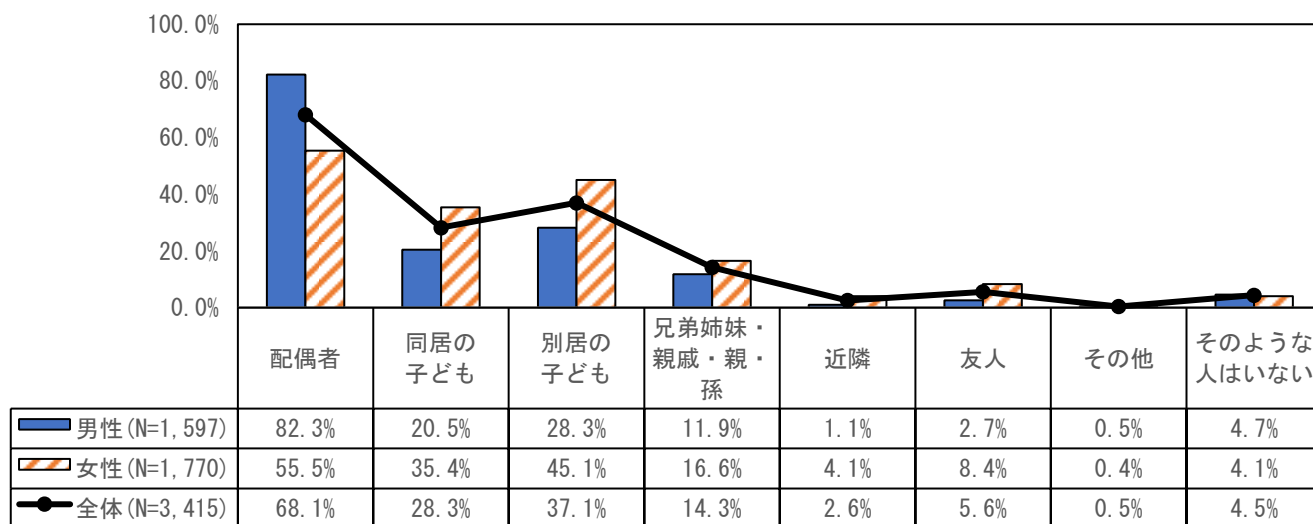
図表 病気の際に看病や世話をしてくれる人／自分が看病や世話をしてあげる人（複数回答）

(N=3,415)

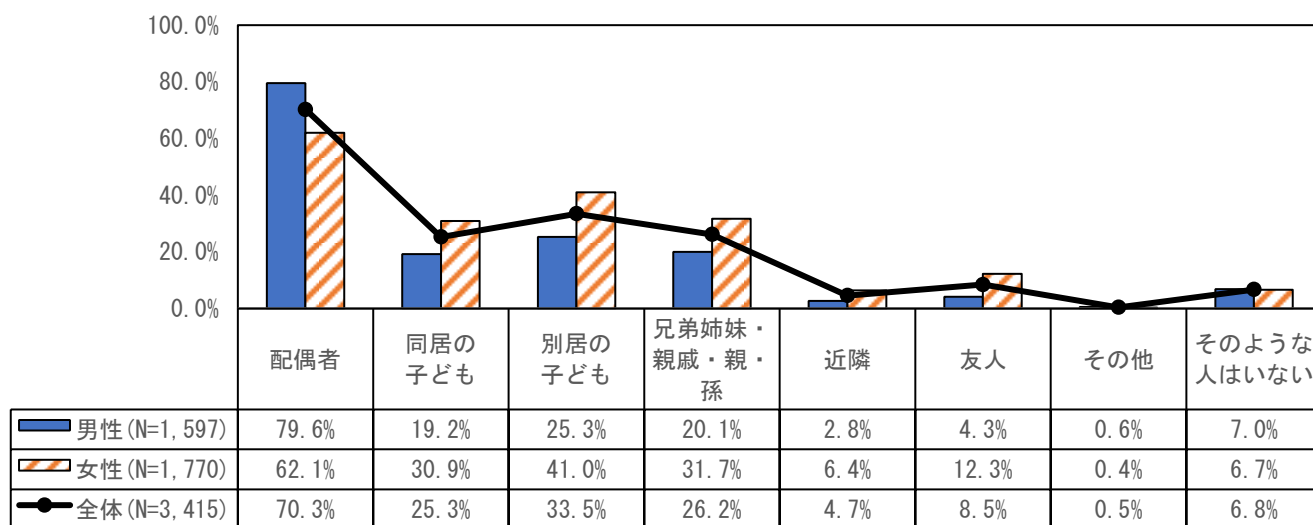


性別にみると、「病気の際に看病や世話をしてくれる人」「自分が看病や世話をしてあげる人」は男性では「配偶者」がそれぞれ82.3%と79.6%、女性ではそれぞれ55.5%、62.1%で最も多くなっています。次いで「別居の子ども」がいずれの対象ともに男性では20%台、女性では40%台となっています。

図表 性別 病気の際に看病や世話をしてくれる人（複数回答）



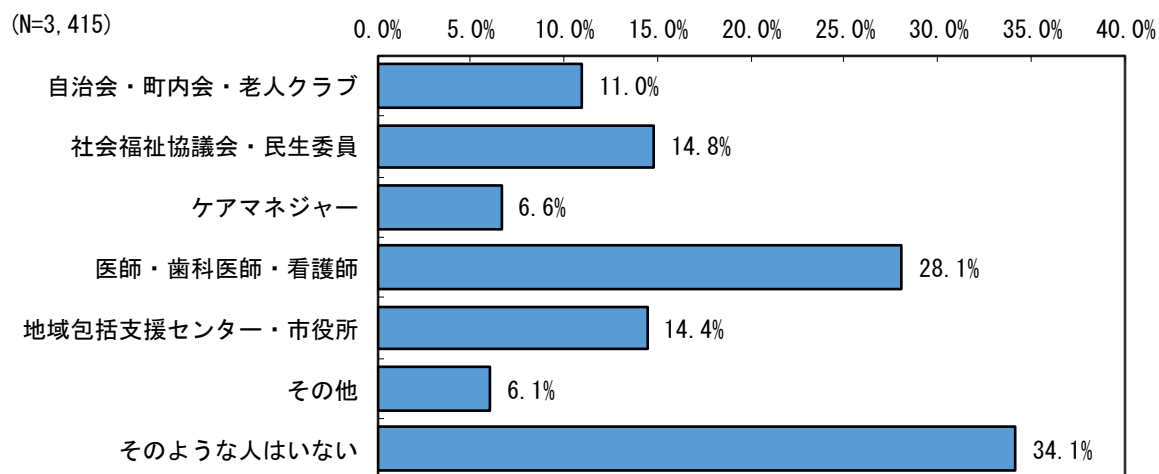
図表 性別 自分が看病や世話をしてあげる人（複数回答）



（３）家族や友人・知人以外の相談相手

家族や友人・知人以外の相談相手をみると、「そのような人はいない」（34.1%）をのぞいて、「医師・歯科技師・看護師」が 28.1%で最も多く、次いで「社会福祉協議会・民生委員」が 14.8%、「地域包括支援センター・市役所」が 14.4%となっています。

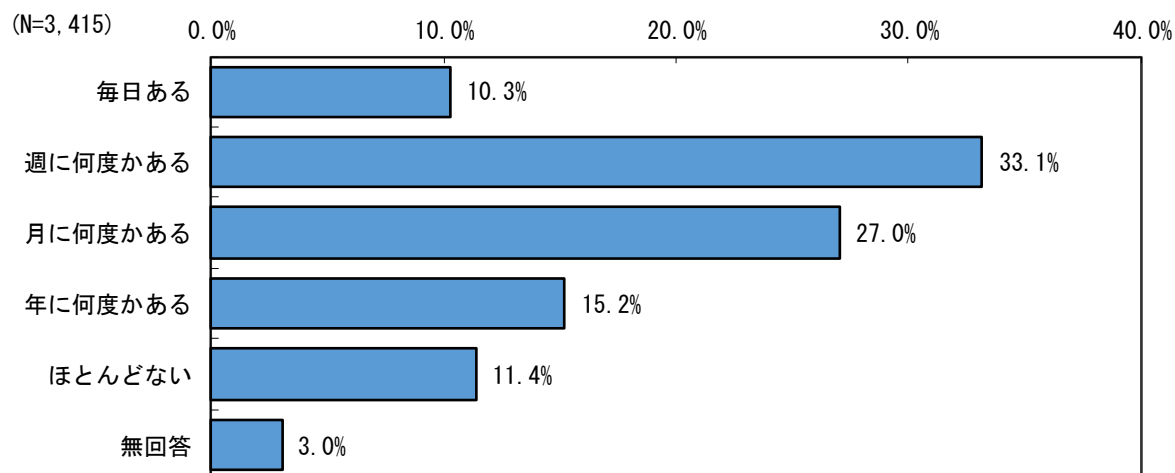
図表 家族や友人・知人以外の相談相手（複数回答）



（４）友人・知人と会う頻度

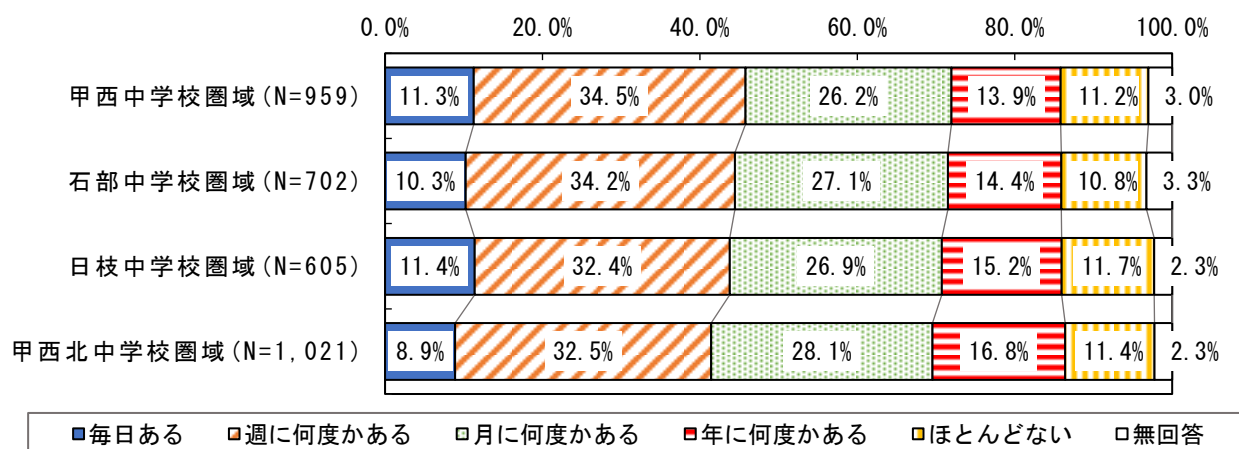
友人・知人と会う頻度をみると、「週に何度かある」が 33.1%で最も多く、次いで「月に何度かある」が 27.0%、「年に何度かある」が 15.2%となっています。一方、「ほとんどない」は 11.4%となっています。

図表 友人・知人と会う頻度



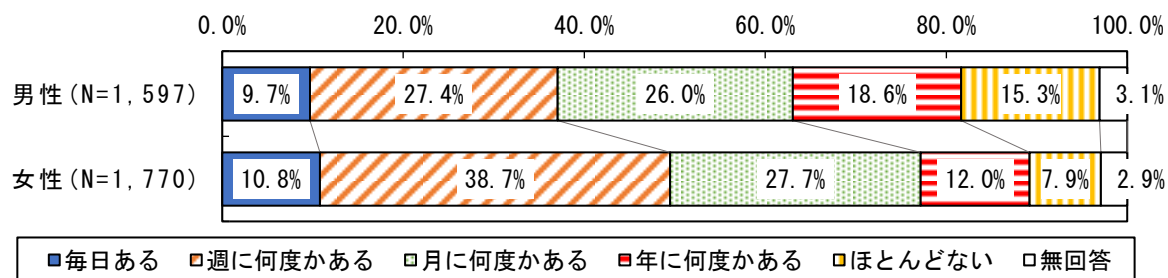
日常生活圏域別にみると、すべての圏域で全体の結果と同様となっており、「ほとんどない」はすべての圏域で約1割となっています。

図表 日常生活圏域別 友人・知人と会う頻度



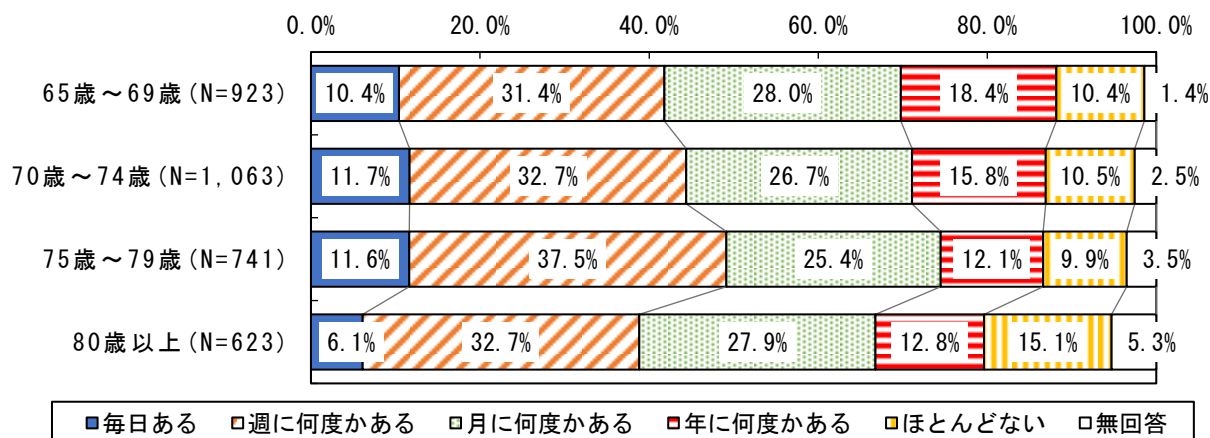
性別にみると、「ほとんどない」が「男性」では15.3%、「女性」では7.9%となっています。

図表 性別 友人・知人と会う頻度



年齢別にみると、「ほとんどない」が「80歳以上」では15.1%となっています。

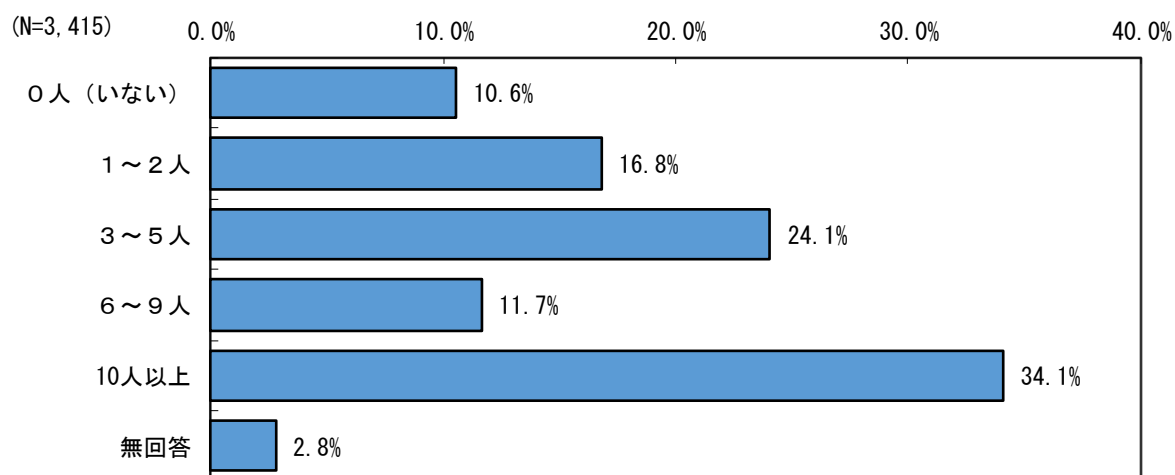
図表 年齢別 友人・知人と会う頻度



(5) 1 か月間で会った友人・知人の人数

1 か月間で会った友人・知人の人数をみると、「10 人以上」が 34.1%で最も多く、次いで「3～5 人」が 24.1%、「1～2 人」が 16.8%となっています。一方、「0 人（いない）」は 10.6%となっています。

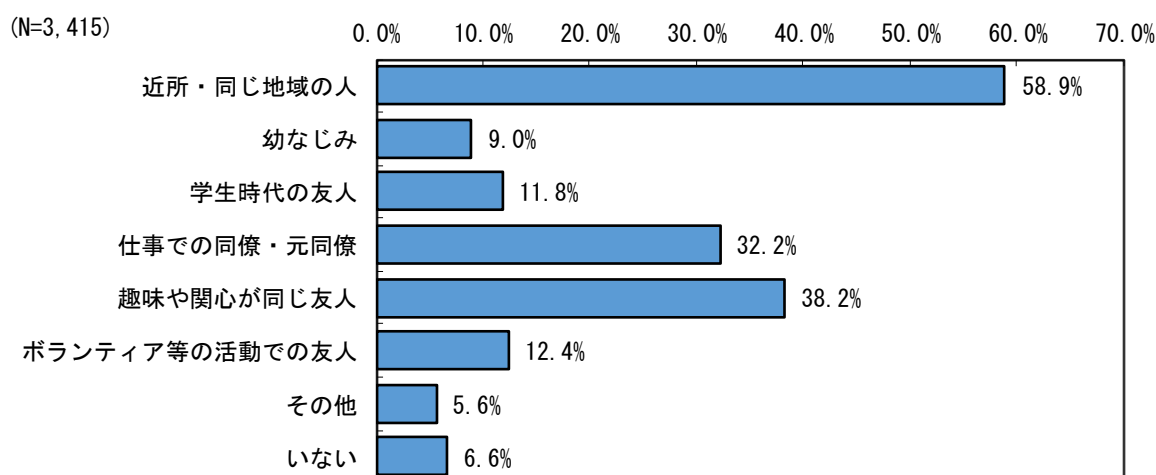
図表 1 か月間で会った友人・知人の人数



(6) よく会う友人・知人

よく会う友人・知人をみると、「近所・同じ地域の人」が 58.9%で最も多く、次いで「趣味や関心と同じ友人」が 38.2%、「仕事での同僚・元同僚」が 32.2%となっています。一方、「いない」は 6.6%となっています。

図表 よく会う友人・知人

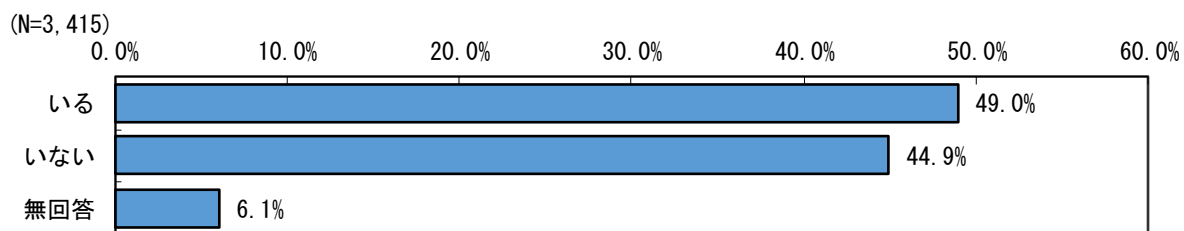


(7) ごみ出しや家事を手伝ってくれる人の有無

① ごみ出しや家事を手伝ってくれる人の有無

ごみ出しや家事を手伝ってくれる人の有無をみると、「いる」が49.0%、「いない」が44.9%となっています。

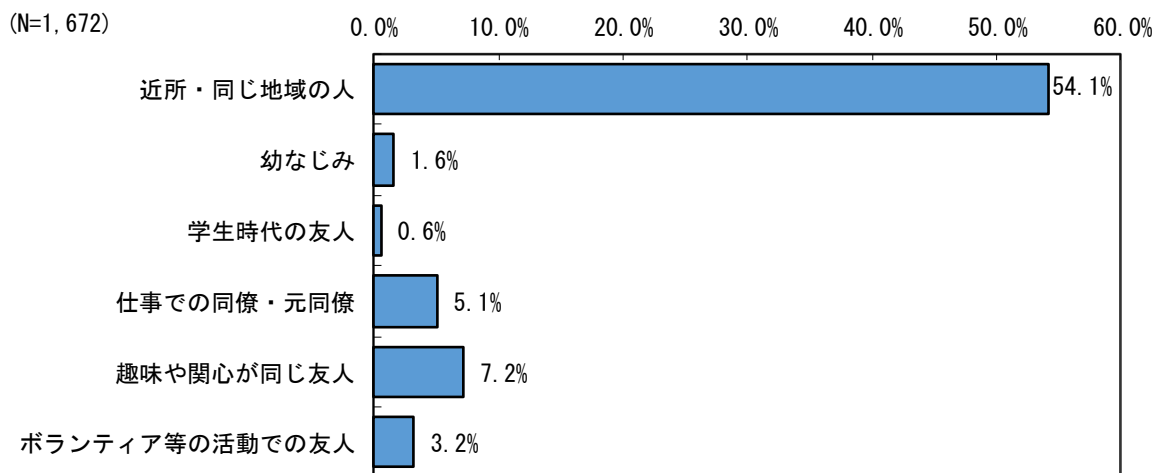
図表 ごみ出しや家事を手伝ってくれる人の有無



② ごみ出しや家事を手伝ってくれる人

ごみ出しや家事を手伝ってくれる人がいる人について、その詳細をみると、「近所・同じ地域の人」が54.1%で最も多くなっています。

図表 ごみ出しや家事を手伝ってくれる人

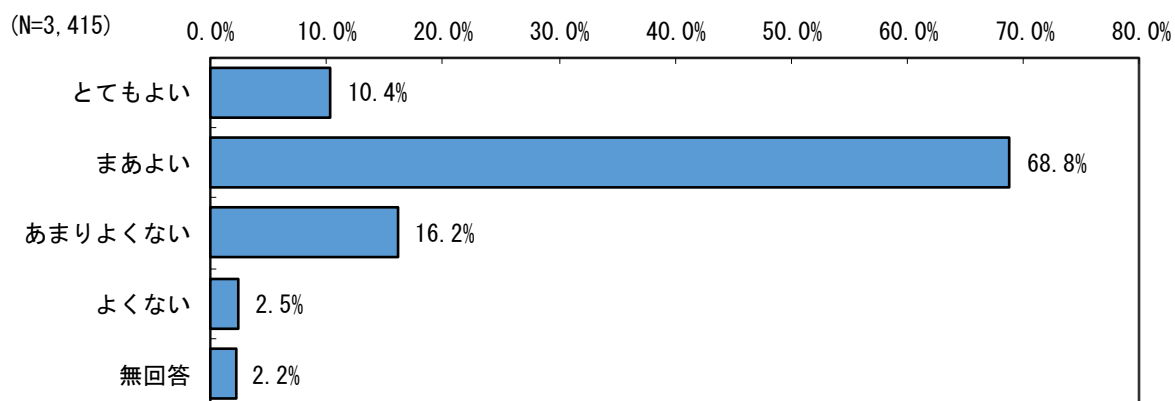


9 健康状態について

(1) 現在の健康状態

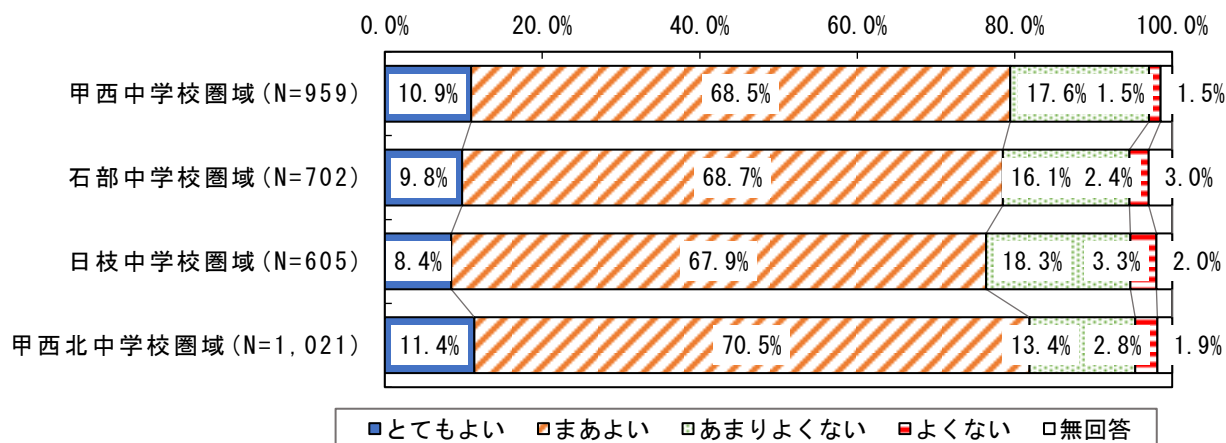
現在の健康状態をみると、「まあよい」が68.8%で最も多く、次いで「あまりよくない」が16.2%、「とてもよい」が10.4%となっています。現在の健康状態がよい人（「とてもよい」「まあよい」合わせた割合）は79.2%となっています。

図表 現在の健康状態

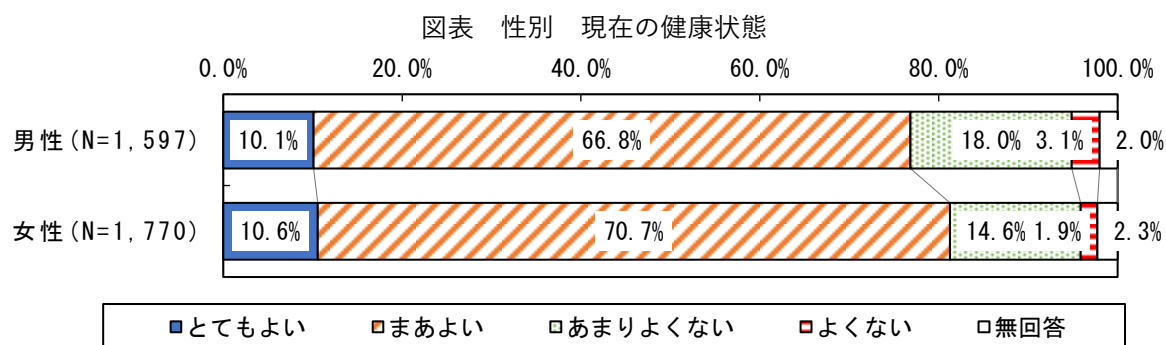


日常生活圏域別にみると、健康状態がよい人（「とてもよい」「まあよい」を合わせた割合）はすべての圏域で7割を超えており、「甲西北中学校圏域」では81.9%となっています。

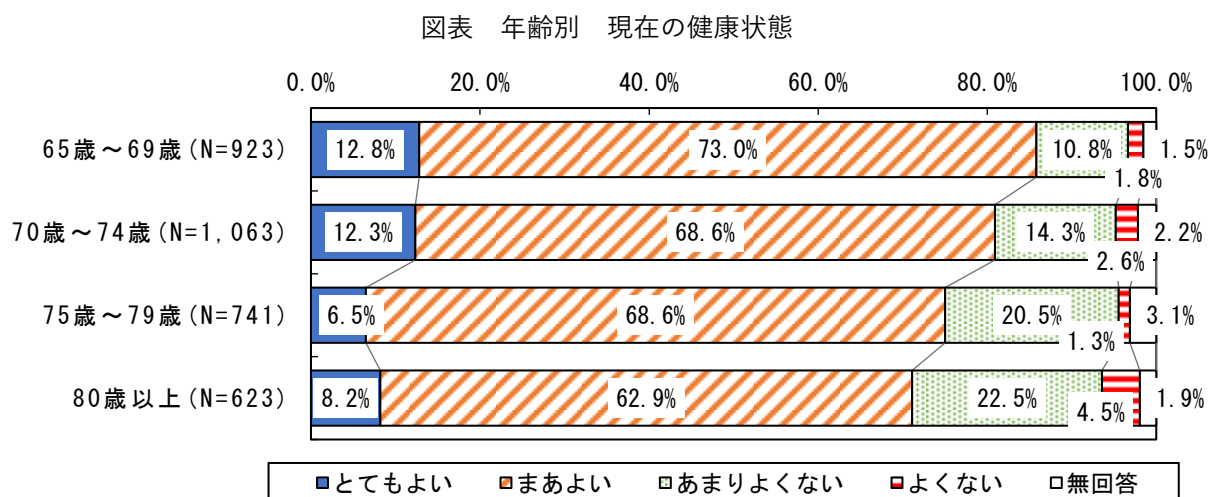
図表 日常生活圏域別 現在の健康状態



性別にみると、健康状態がよい人（「とてもよい」「まあよい」を合わせた割合）は「男性」が76.9%、「女性」が71.3%となっています。

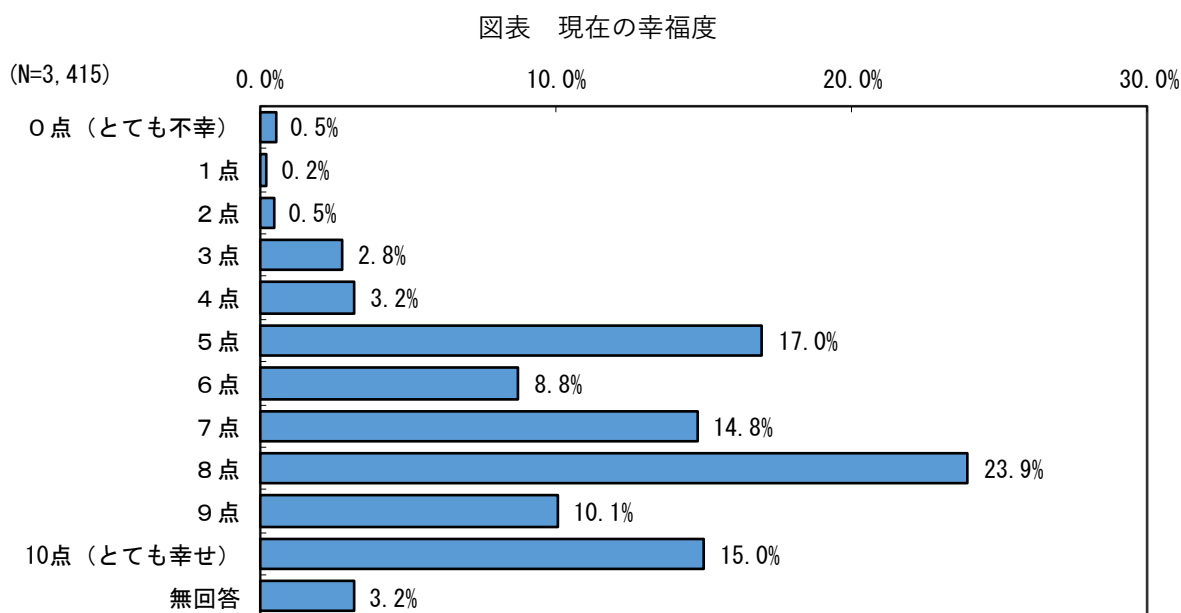


年齢別にみると、健康状態がよい人（「とてもよい」「まあよい」を合わせた割合）は各年齢層で7割以上となっています。



（２）現在の幸福度

現在の幸福度をみると、「8点」が23.9%で最も多く、次いで「5点」が17.0%、「10点（とても幸せ）」が15.0%となっています。また、8点以上の人が約5割となっています。



(3) うつ傾向

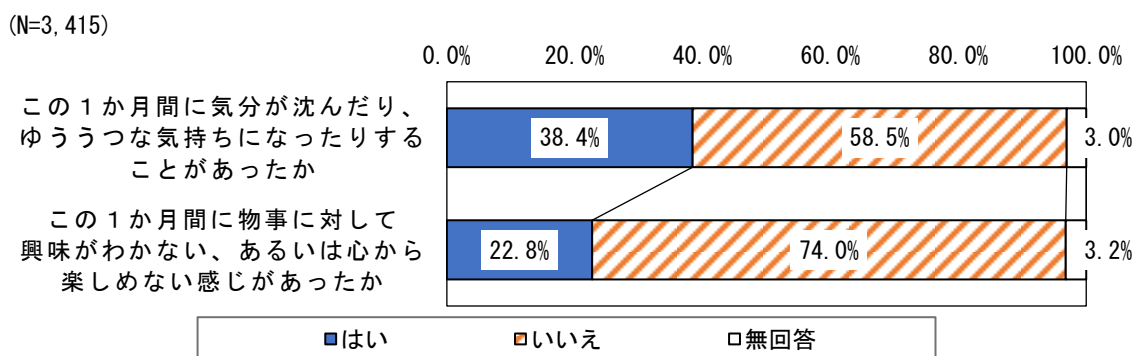
①この1か月間に気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか

この1か月間に気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかをみると、「はい」が38.4%となっています。

②この1か月間に物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがあったか

この1か月間に物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがあったかをみると、「はい」が22.8%となっています。

図表 うつ傾向

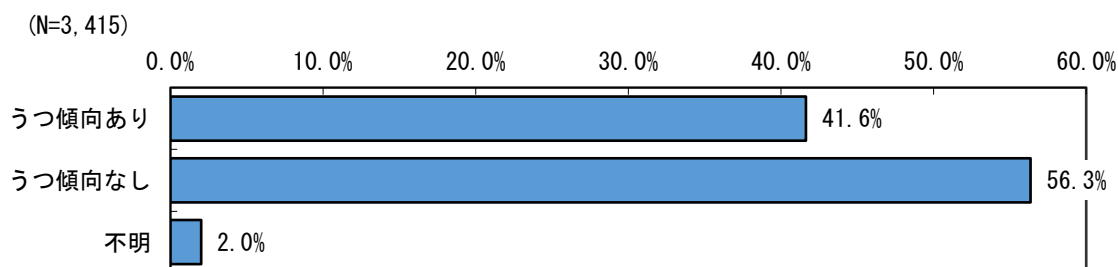


<うつ傾向の有無>

(3) うつ傾向①または②で「はい」と回答した方を、「(うつ傾向あり)」と判定します。

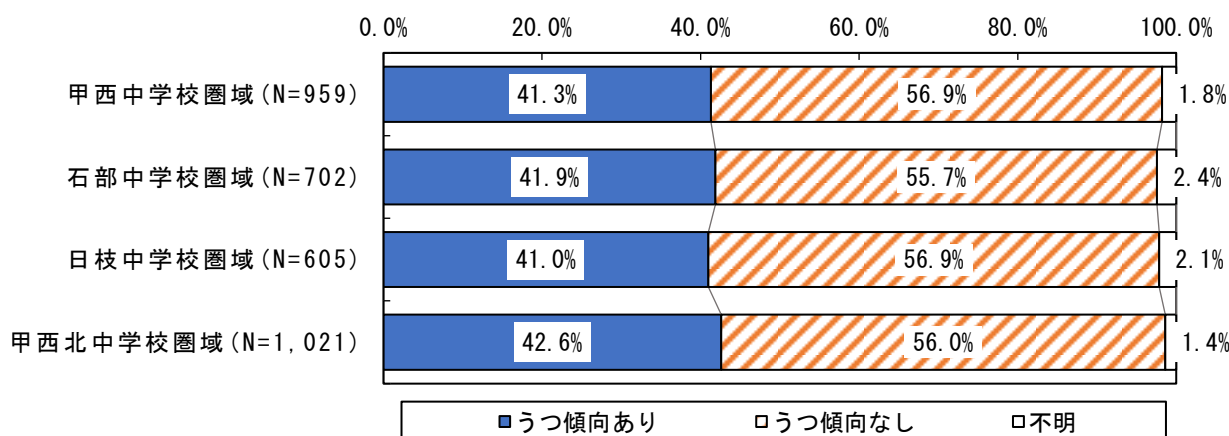
うつ傾向の有無をみると、「うつ傾向あり」は41.6%となっています。

図表 うつ傾向の有無



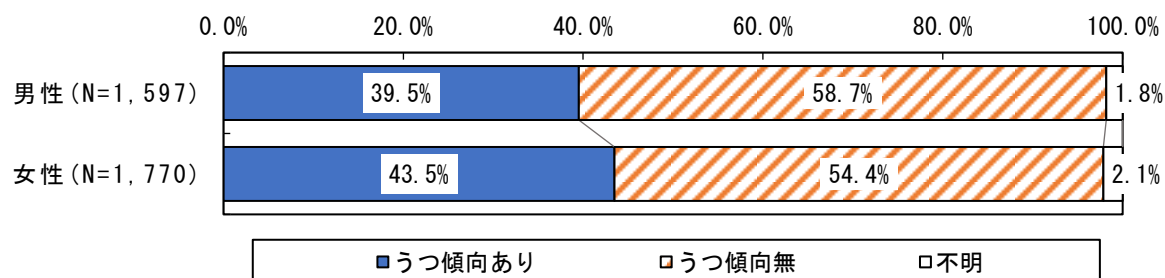
日常生活圏域別にみると、「うつ傾向あり」はすべての圏域で40%台となっています。

図表 日常生活圏域別 うつ傾向



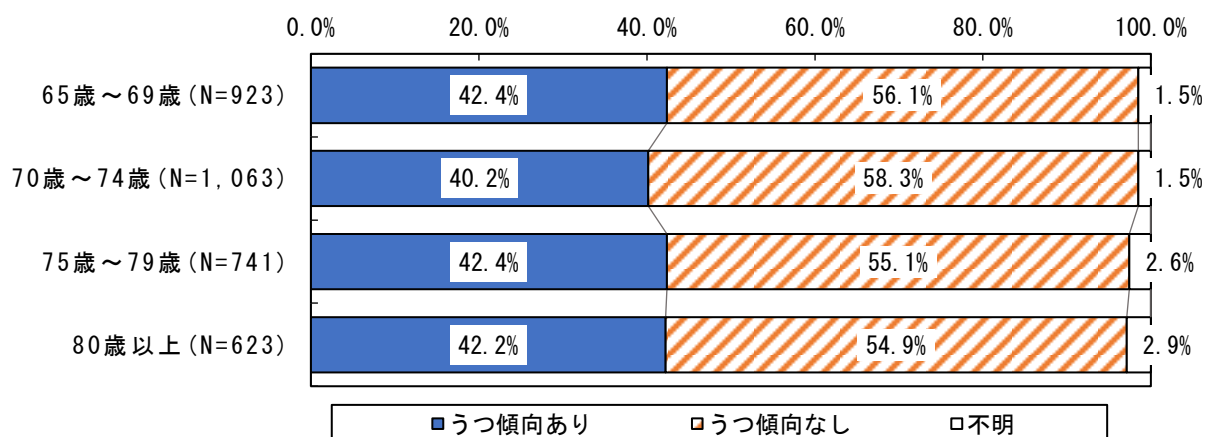
性別にみると、「うつ傾向あり」は「男性」が39.5%、「女性」が43.5%となっています。

図表 性別 うつ傾向



年齢別にみると、「うつ傾向あり」は各年齢層で40%台となっています。

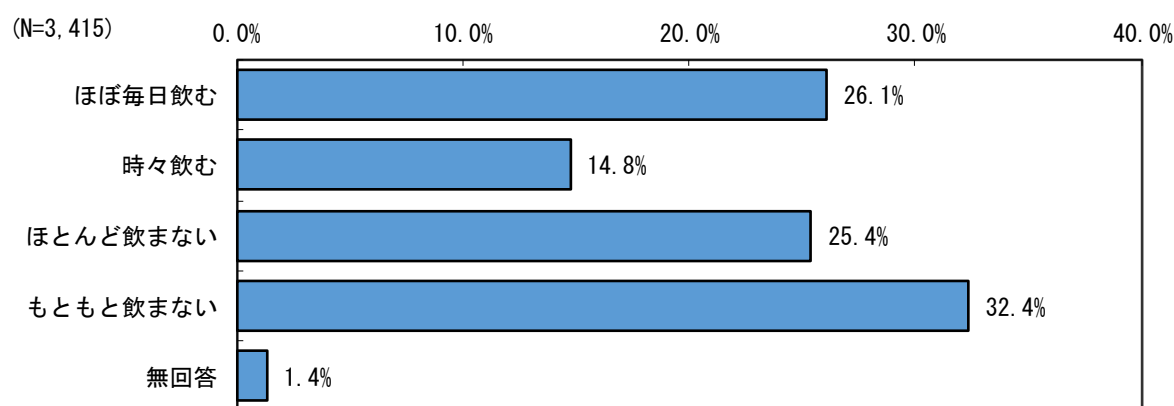
図表 年齢別 うつ傾向



(4) 飲酒の状況

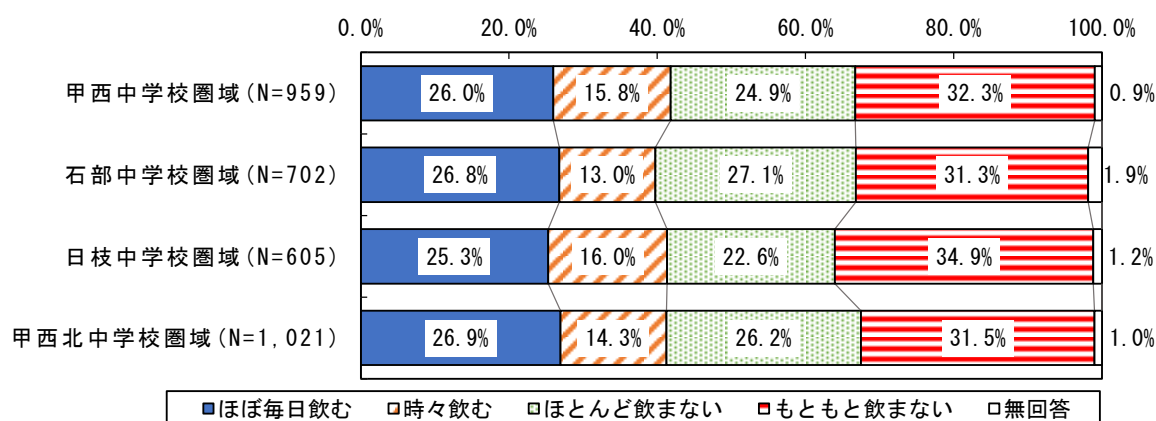
飲酒の状況をみると、「もともと飲まない」が32.4%で最も多く、次いで「ほぼ毎日飲む」が26.1%、「ほとんど飲まない」が25.4%となっています。飲酒習慣のある人（「ほぼ毎日飲む」「時々飲む」を合わせた割合）は40.9%となっています。

図表 飲酒の状況



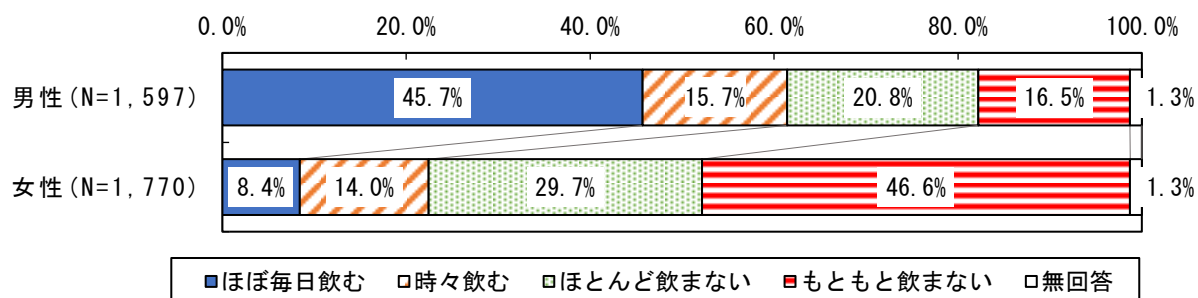
日常生活圏域別にみると、飲酒習慣のある人（「ほぼ毎日飲む」「時々飲む」を合わせた割合）は「石部中学校圏域」(39.8%)をのぞくすべての圏域で40%台となっています。

図表 日常生活圏域別 飲酒の状況



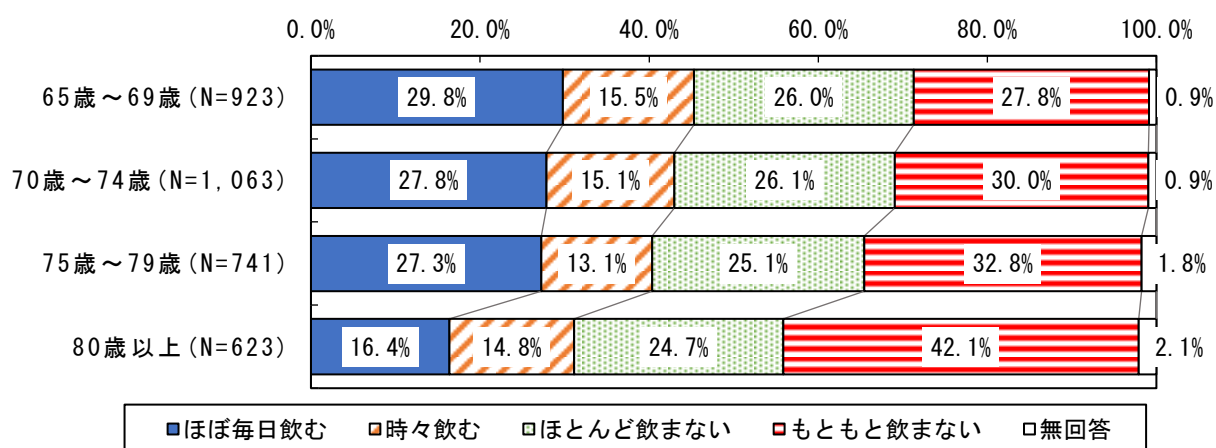
性別にみると、飲酒習慣のある人（「ほぼ毎日飲む」「時々飲む」を合わせた割合）は「男性」が61.4%、「女性」が22.4%となっています。

図表 性別 飲酒の状況



年齢別にみると、飲酒習慣のある人（「ほぼ毎日飲む」「時々飲む」を合わせた割合）は「65歳～69歳」では45.3%となっていますが、年齢が上がるにつれて少なくなり、「80歳以上」では31.2%となっています。

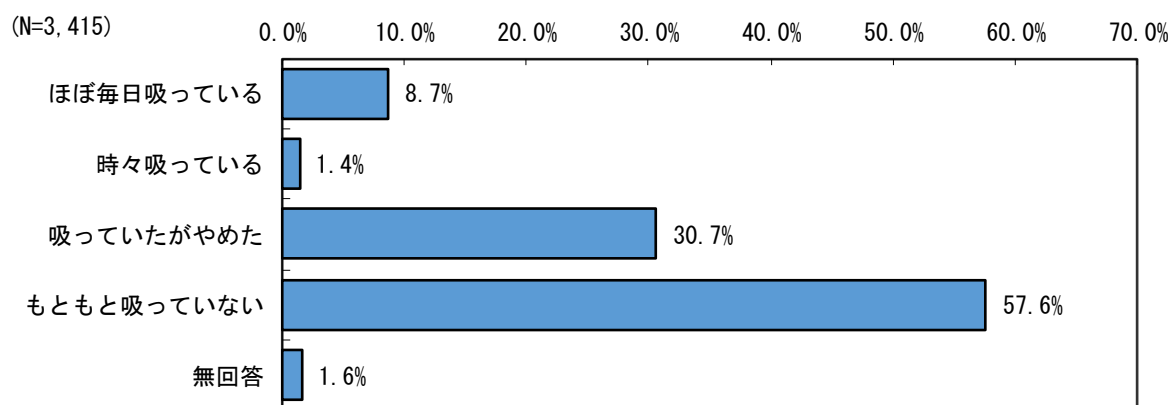
図表 年齢別 飲酒の状況



（５）喫煙の状況

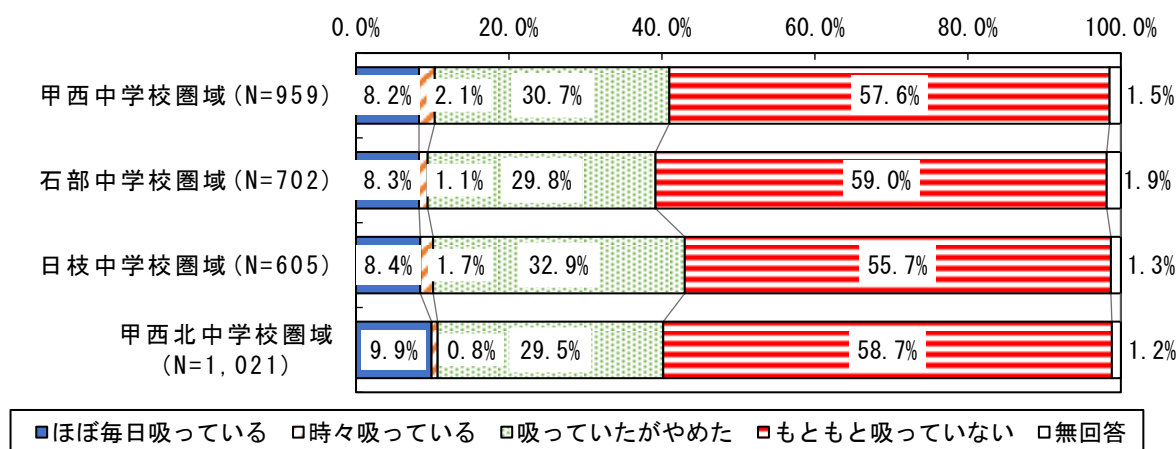
喫煙の状況をみると、「もともと吸っていない」が57.6%で最も多く、次いで「吸っていたがやめた」が30.7%、「ほぼ毎日吸っている」が8.7%となっています。喫煙習慣がある人（「ほぼ毎日吸っている」「時々吸っている」を合わせた割合）は10.1%となっています。

図表 喫煙の状況



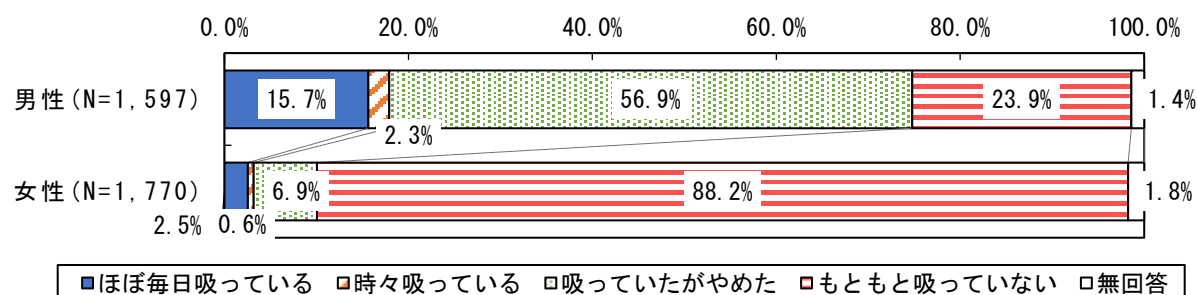
日常生活圏域別にみると、喫煙習慣がある人（「ほぼ毎日吸っている」「時々吸っている」を合わせた割合）はすべての圏域で約1割となっています。

図表 日常生活圏域別 喫煙の状況



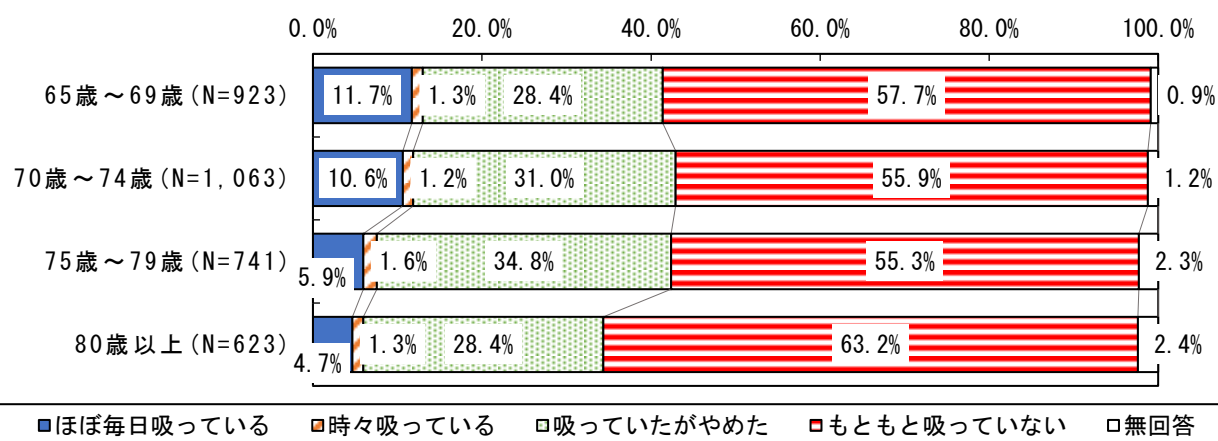
性別にみると、喫煙習慣がある人（「ほぼ毎日吸っている」「時々吸っている」を合わせた割合）は「男性」が18.0%、「女性」が3.1%となっています。

図表 性別 喫煙の状況



年齢別にみると、喫煙習慣がある人（「ほぼ毎日吸っている」「時々吸っている」を合わせた割合）は「65歳～69歳」では13.0%ですが、年齢が上がるにつれて少なくなり、「80歳以上」では6.0%となっています。

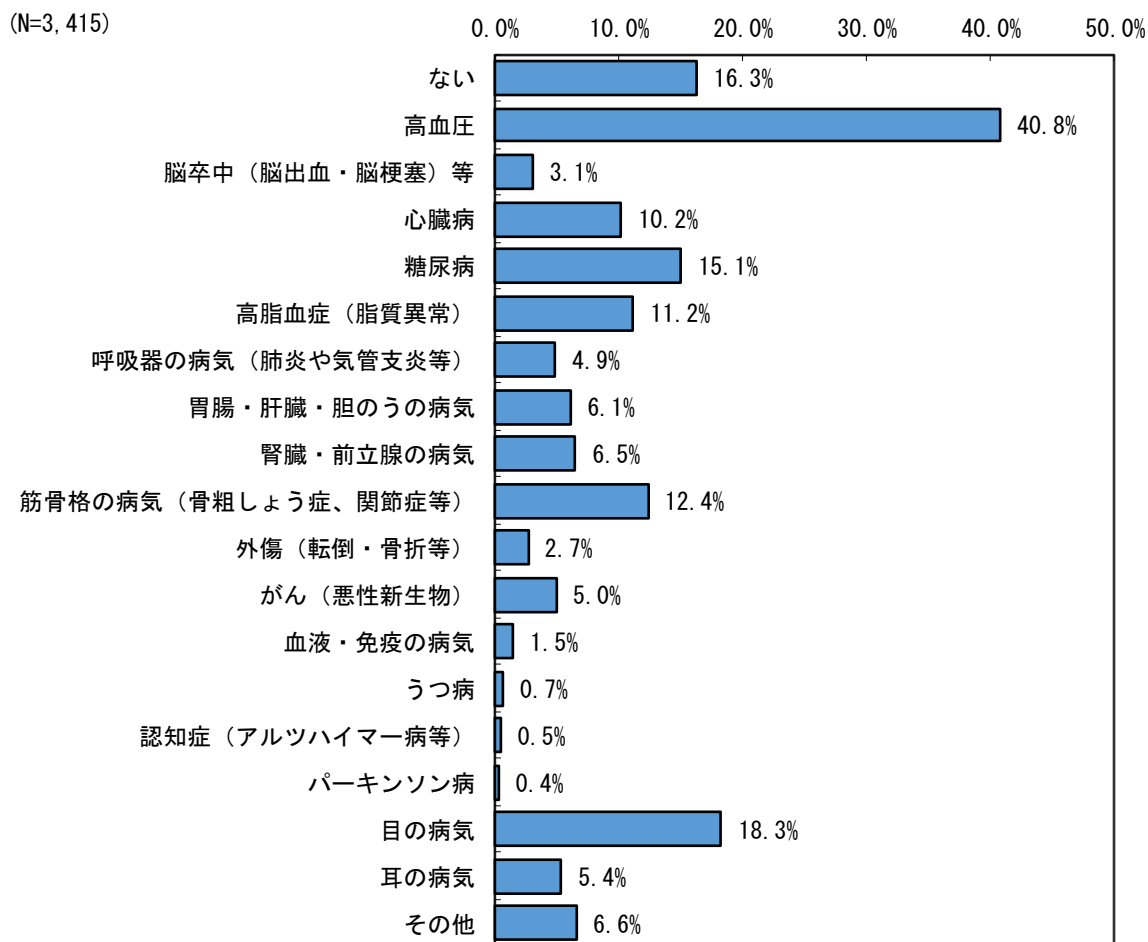
図表 年齢別 喫煙の状況



（６）現在治療中、または後遺症のある病気

現在治療中、または後遺症のある病気をみると、「高血圧」が 40.8%で最も多く、次いで「目の病気」が 18.3%、「糖尿病」が 15.1%となっています。一方「ない」は 16.3%となっています。

図表 現在治療中、または後遺症のある病気（複数回答）

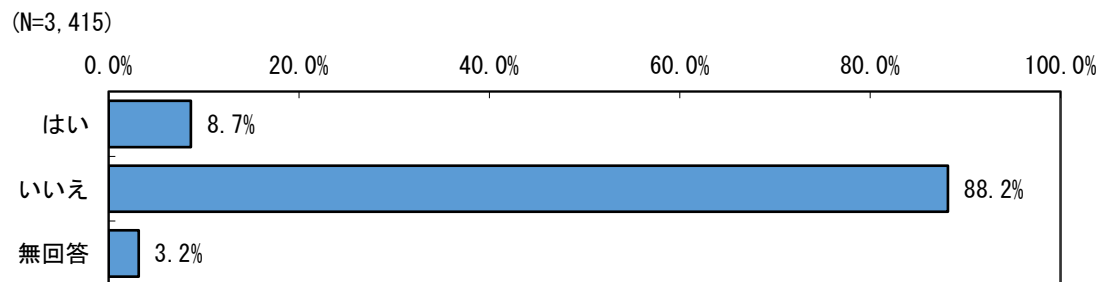


10 高齢者の暮らしについて

(1) 自分または家族に認知症の症状があるか

自分または家族に認知症の症状があるかをみると、「はい」が8.7%となっています。

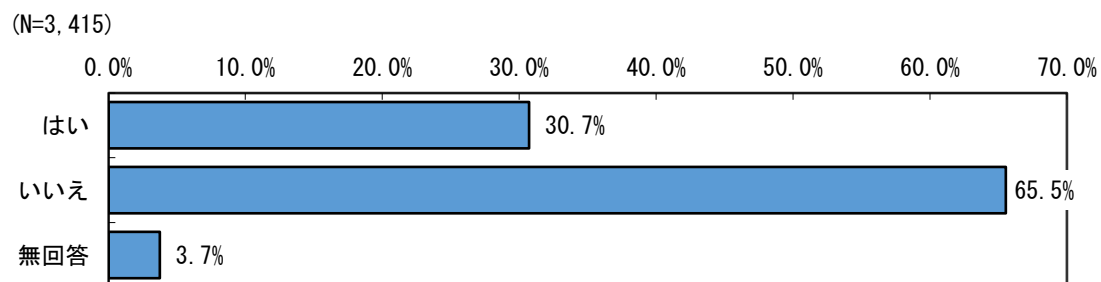
図表 自分または家族に認知症の症状があるか



(2) 認知症に関する相談窓口の認知度

認知症に関する相談窓口の認知度をみると、「はい」が30.7%となっています。

図表 認知症に関する相談窓口の認知度

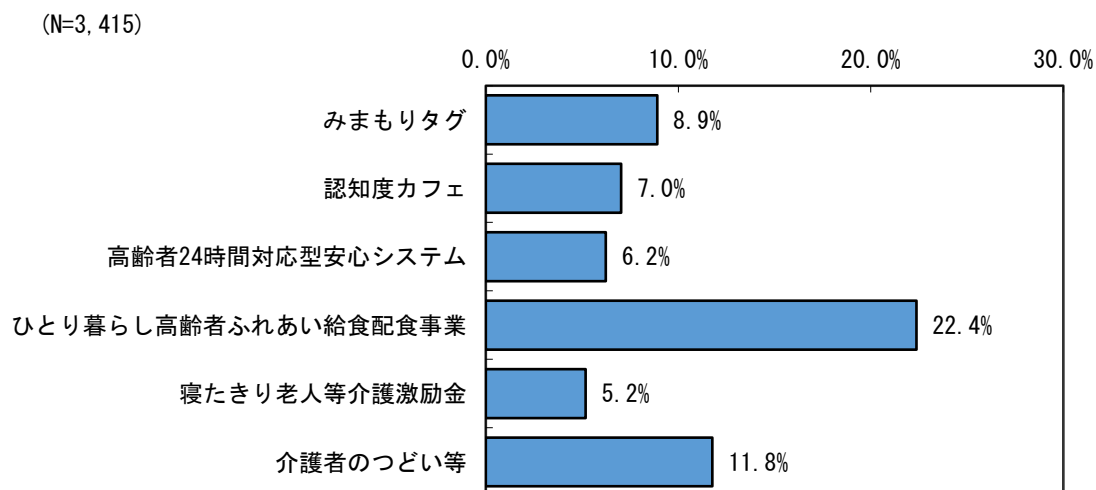


11 高齢者への施策について

(1) 高齢者施策の認知度

高齢者試作の認知度をみると、「ひとり暮らし高齢者ふれあい給食配食事業」が22.4%で最も多く、次いで「介護者のつどい等」が11.8%、「みまもりタグ」が8.9%となっています。

図表 高齢者施策の認知度（複数回答）

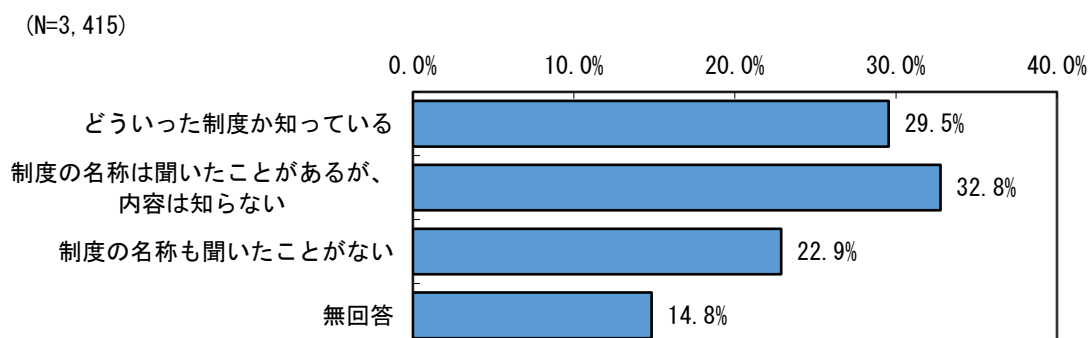


12 成年後見制度について

(1) 成年後見制度の認知度

成年後見制度の認知度をみると、「制度の名称は聞いたことがあるが、内容は知らない」が32.8%で最も多く、次いで「どういった制度か知っている」が29.5%、「制度の名称も聞いたことがない」が22.9%となっています。

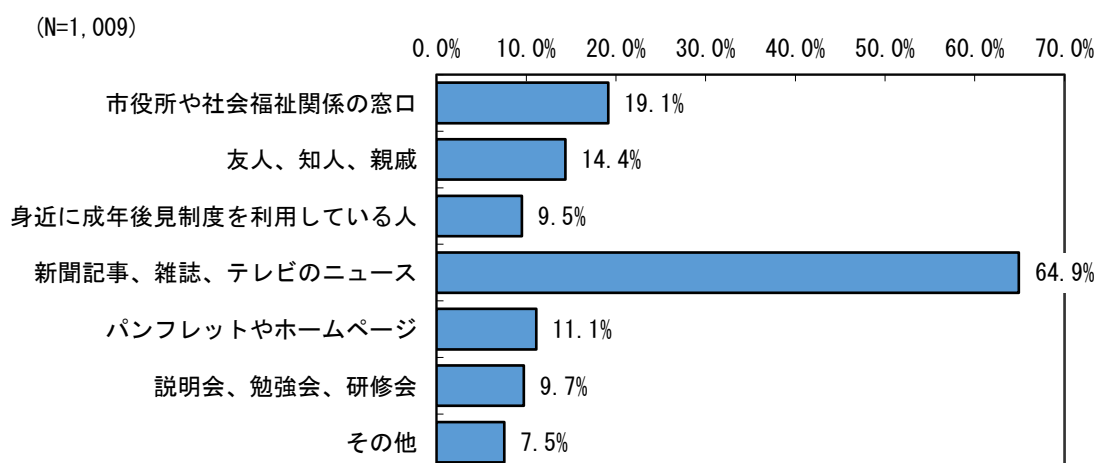
図表 成年後見制度の認知度



(2) 成年後見制度を知ったきっかけ

成年後見制度を知ったきっかけをみると、「新聞記事、雑誌、テレビのニュース」が64.9%となっており、他の媒体に比べて高い割合を占めています。それ以外では、「市役所や社会福祉関係の窓口」が19.1%、「友人、知人、親戚」が14.4%、「パンフレットやホームページ」が11.1%となっています。

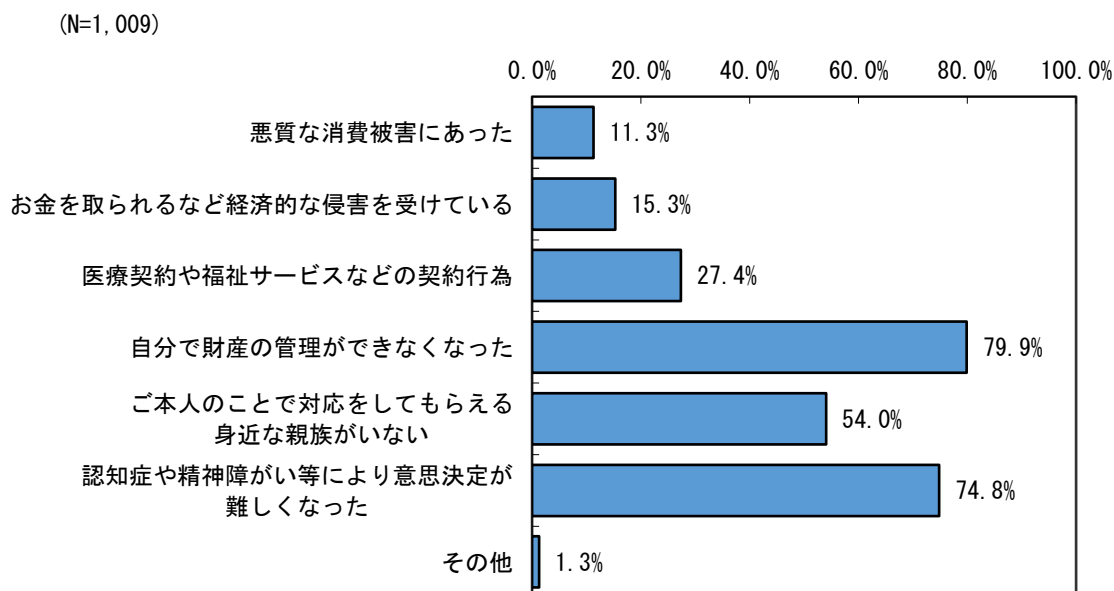
図表 成年後見制度を知ったきっかけ（複数回答）



（３）成年後見制度が必要な状況

成年後見制度が必要な状況をみると、「自分で財産の管理ができなくなった」が79.9%で最も多く、次いで「認知症や精神障がい等により意思決定が難しくなった」が74.8%、「ご本人のことで対応してもらえる身近な親族がいない」が54.0%となっています。

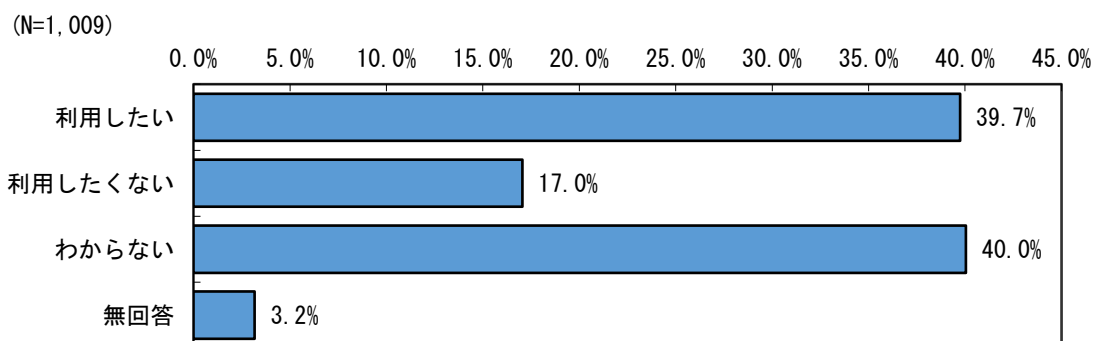
図表 成年後見制度が必要な状況（複数回答）



（４）成年後見制度の利用意向

成年後見制度の利用意向をみると、「利用したい」が39.7%、で「利用したくない」の割合17.0%の2倍以上となっていますが、一方で「わからない」が40.0%を占めています。

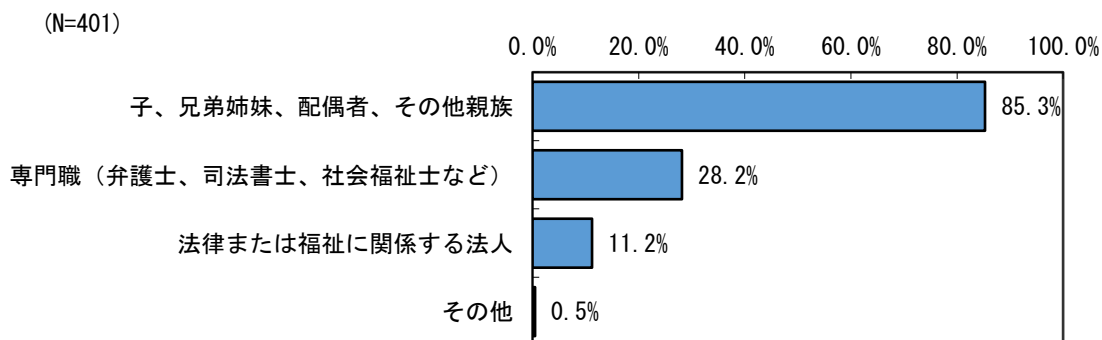
図表 成年後見制度の利用意向



（５）希望する後見人

成年後見制度を利用したい人について、希望する後見人をみると、「子、兄弟親族、配偶者、その他親族」が85.3%と最も多く、次いで「専門職（弁護士、司法書士、社会福祉士など）」が28.2%、「法律または福祉に関係する法人」が11.2%となっています。

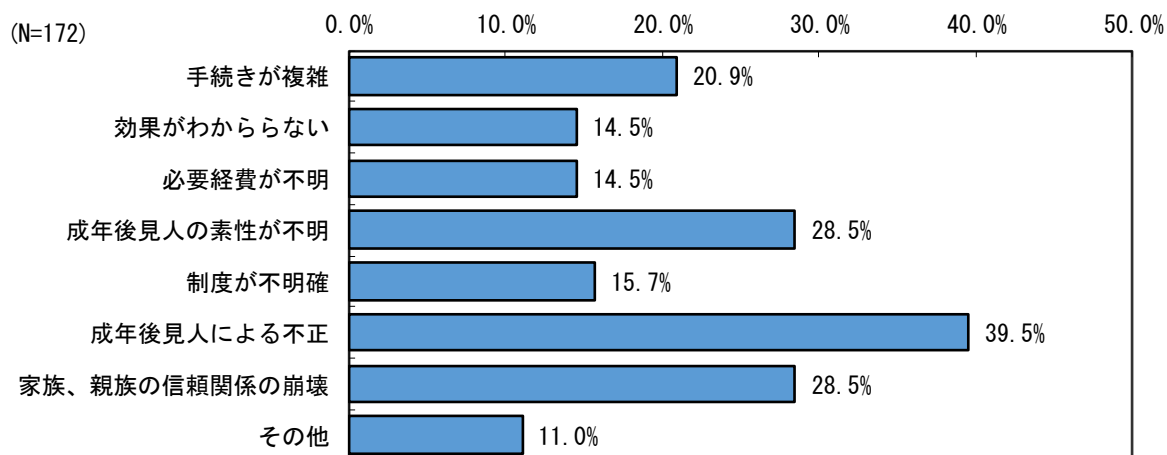
図表 希望する後見人（複数回答）



（６）成年後見制度を利用したくない理由

成年後見制度を利用したくない人の理由をみると、「成年後見人による不正」が39.5%で最も多く、次いで「成年後見人の素性が不明」と「家族、親族の信頼関係の崩壊」が28.5%で同じ割合となっています。

図表 成年後見制度を利用したくない理由（複数回答）

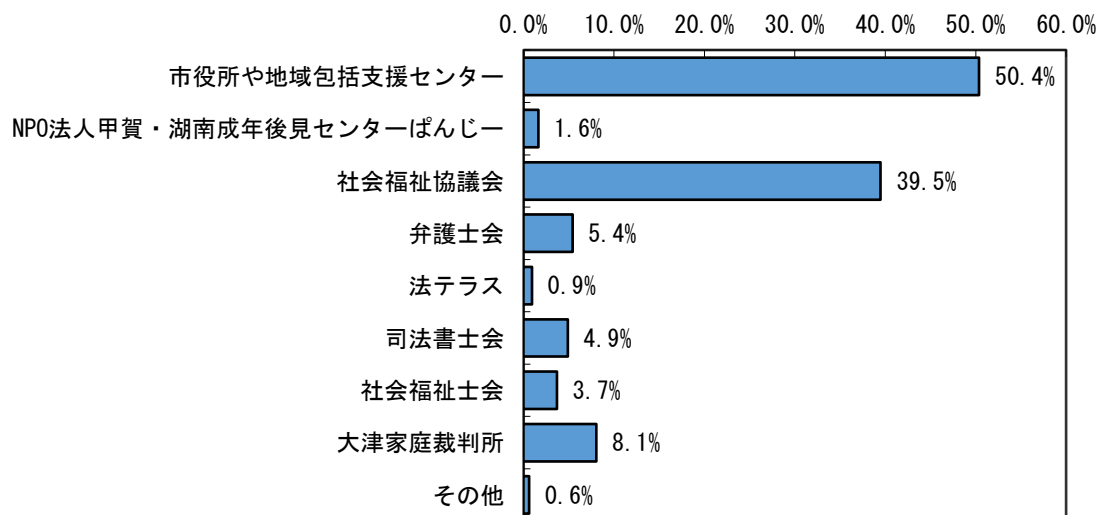


（7）成年後見制度についての相談窓口の認知度

成年後見制度について知っている相談窓口をみると、「市役所や地域包括支援センター」が50.4%で最も多く、次いで「社会福祉協議会」が39.5%となっています。

図表 成年後見制度についての相談窓口の認知度（複数回答）

(N=1,900)



13 高齢者福祉施策に期待することやご意見等

湖南省の高齢者福祉施策に期待することやご意見等を自由に記述いただいたところ、以下の通りとなっています。

図表 高齢者福祉施策に期待することやご意見等 自由記述結果

内容	件数
免許返納後の交通手段に関する意見・要望	90
情報提供に関する意見・要望	70
バスの充実に関する意見・要望	64
湖南省の高齢者福祉施策に関する意見・要望（その他）	51
通院、買い物のための交通手段の充実に関する意見・要望	50
市役所での手続き・相談体制・人材育成に関する意見・要望	39
交通費の負担軽減に関する意見・要望	38
高齢者が気軽に集える場・行事に関する意見・要望	38
自分や家族の現状に関する記述（元気である、楽しいなど）	38
認知症予防、介護予防、健康増進に関する意見・要望	28
交通機関の充実に関する意見・要望（その他）	24
介護施設、高齢者向け施設の充実に関する意見・要望	23
認知症になった時や、介護が必要になった時の不安について	22
経済的負担の軽減に関する意見・要望（その他）	19
自分や家族の現状に関する記述（心配、不安など）	18
自分や家族の現状に関する記述（その他）	18
地域・近隣の助け合いや見守り等に関する意見・要望	18
ひとり暮らしの高齢者に対する支援に関する意見・要望	18
自分や家族の現状に関する記述（治療中である、持病があるなど）	17
将来の過ごし方の希望について（健康維持、自立した生活がしたい）	16
バリアフリーに関する意見・要望	16
買い物、配食サービス、ごみ出し等に関する意見・要望	14
タクシーの充実に関する意見・要望	14
自治会・民生委員などに関する意見・要望	13
高齢者の安否確認や状況把握に関する意見・要望	12
高齢者が活躍できる社会づくりに関する意見・要望（就労、地域活動、ボランティア）	11
介護人材の確保・育成に関する意見・要望	10
成年後見制度に関する意見・要望	9
公共施設の充実に関する意見・要望	8
自分や家族の現状に関する記述（介護・介助をしているなど）	7

内容	件数
介護保険料に関する意見・要望	7
医療体制の充実、医療費負担に関する意見・要望	6
介護施設、高齢者向け施設の利用料の軽減に関する意見・要望	6
行政と関係機関との連携に関する意見・要望	5
「高齢者」の括り方に関する意見・要望	4
公平な福祉サービスの提供に関する意見・要望	4
将来の過ごし方に関する記述(子どもに任せたいなど)	2
謝辞、お世話になった・なりたい、期待しているなどの意見	44
アンケートをきっかけに高齢者福祉について啓発された、今後勉強したいなどの意見	36
アンケートに関する意見・要望	34
その他	6
合計	967
記述があった件数	665

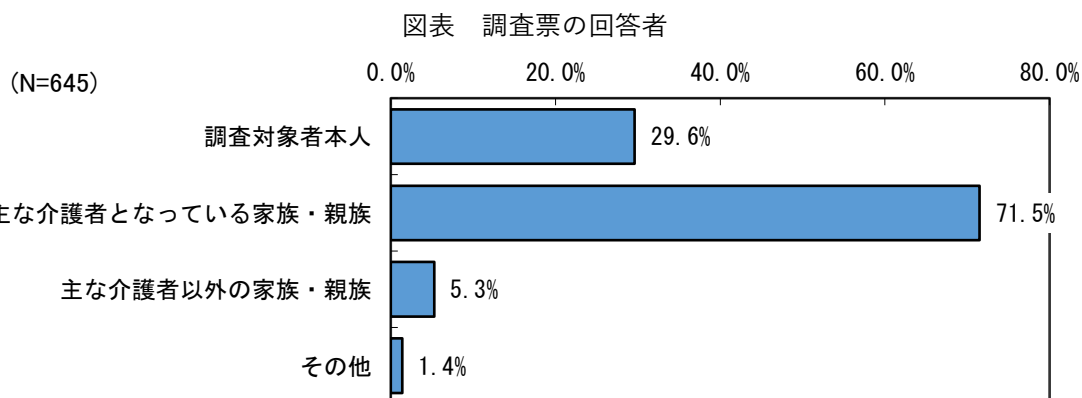
※複数の内容にまたがる記述がある場合は、それぞれに計上しているため、「合計」と「記述があった件数」は一致しません。

第3章 在宅介護実態調査の結果

1 単純集計

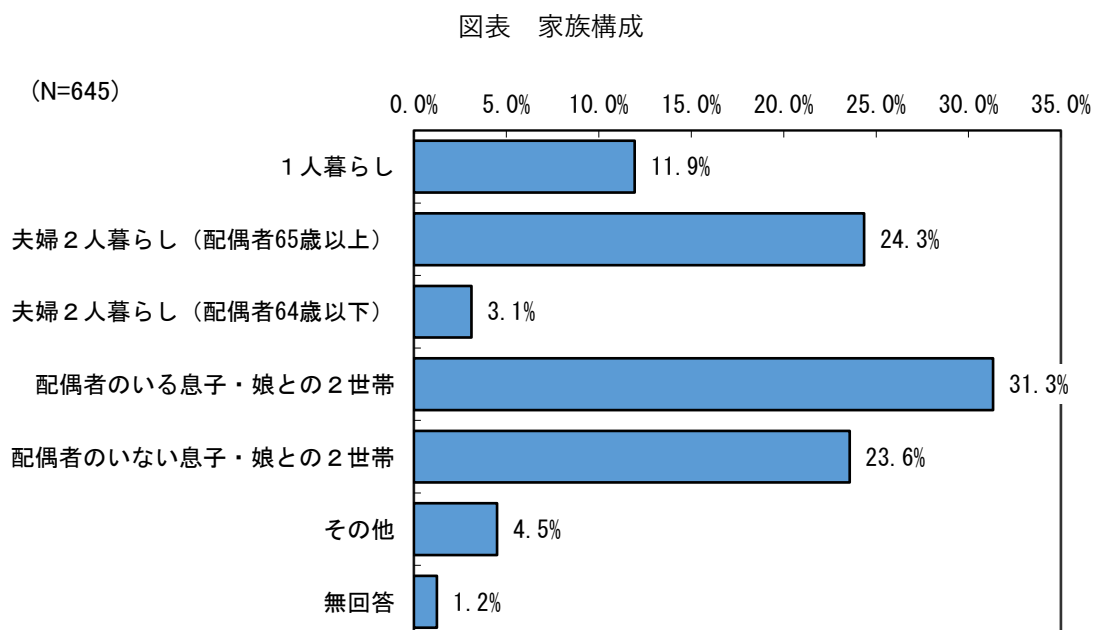
(1) 調査票の回答者

調査票の回答者をみると、「主な介護者となっている家族・親族」が71.5%で最も多く、次いで「調査対象者本人」が29.6%、「主な介護者以外の家族・親族」が5.3%となっています。



(2) 家族構成

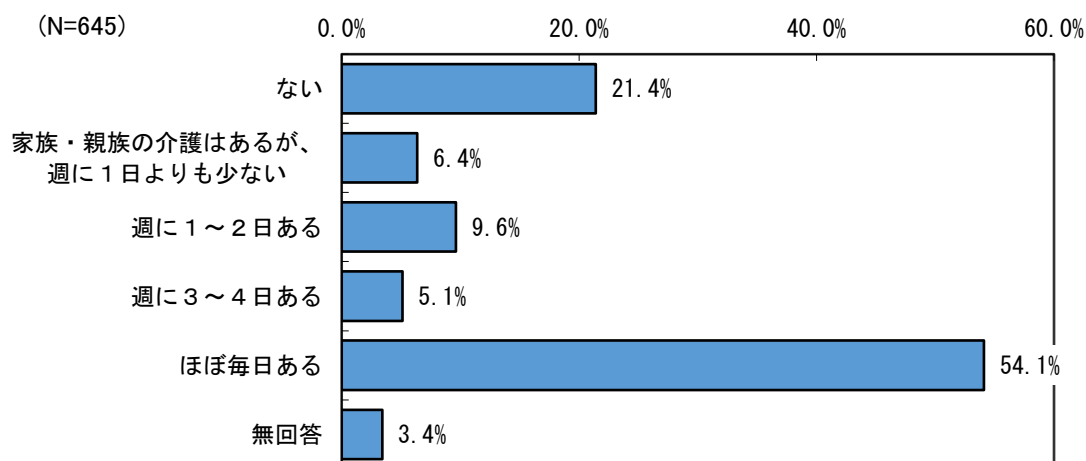
家族構成をみると、「配偶者のいる息子・娘との2世帯」が31.3%で最も多く、次いで「夫婦2人（配偶者65歳以上）」が24.3%、「配偶者のいない息子・娘との2世帯」が23.6%となっています。



(3) 家族・親族からの介護状況

家族・親族からの介護状況をみると、「ほぼ毎日ある」が54.1%で最も多く、次いで「ない」が21.4%、「週に1～2日ある」が9.6%となっています。

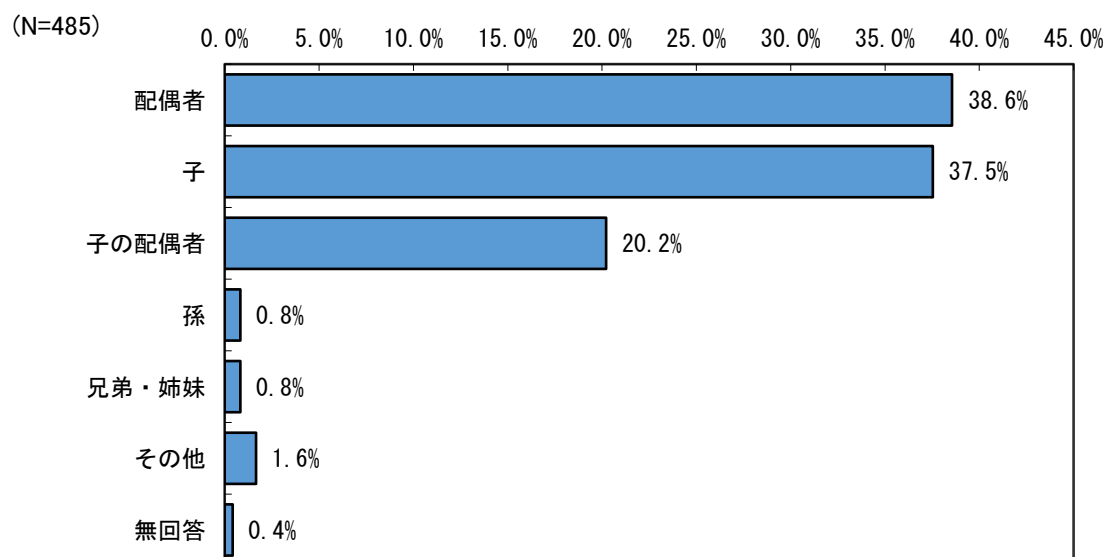
図表 家族・親族からの介護状況



(4) 主な介護者

家族・親族による介護がある方について、主な介護者をみると、「配偶者」が38.6%で最も多く、次いで「子」が37.5%、「子の配偶者」が20.2%となっています。

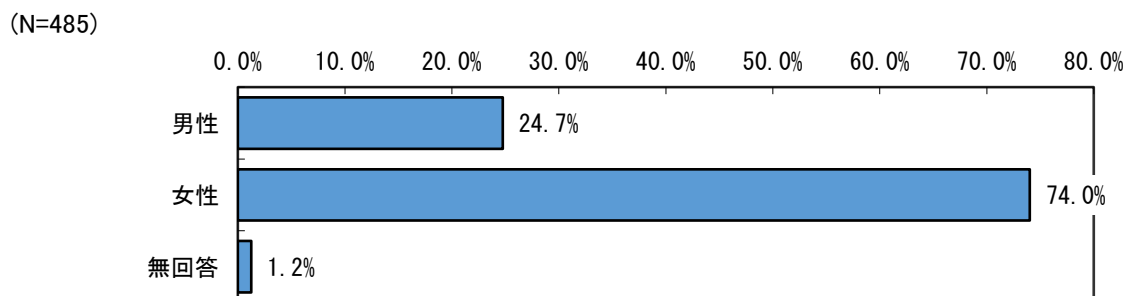
図表 主な介護者



(5) 主な介護者の性別

主な介護者の性別をみると、「女性」が74.0%、「男性」が24.7%となっています。

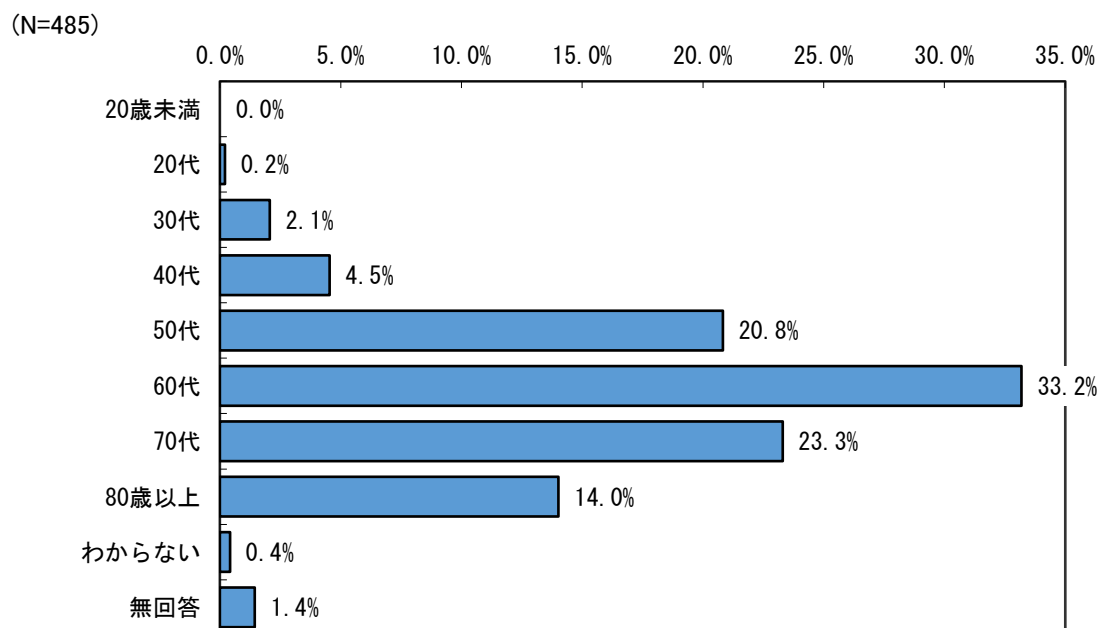
図表 主な介護者の性別



(6) 主な介護者の年齢

主な介護者の年齢をみると、「60代」が33.2%で最も多く、次いで「70代」が23.3%、「50代」が20.8%となっています。

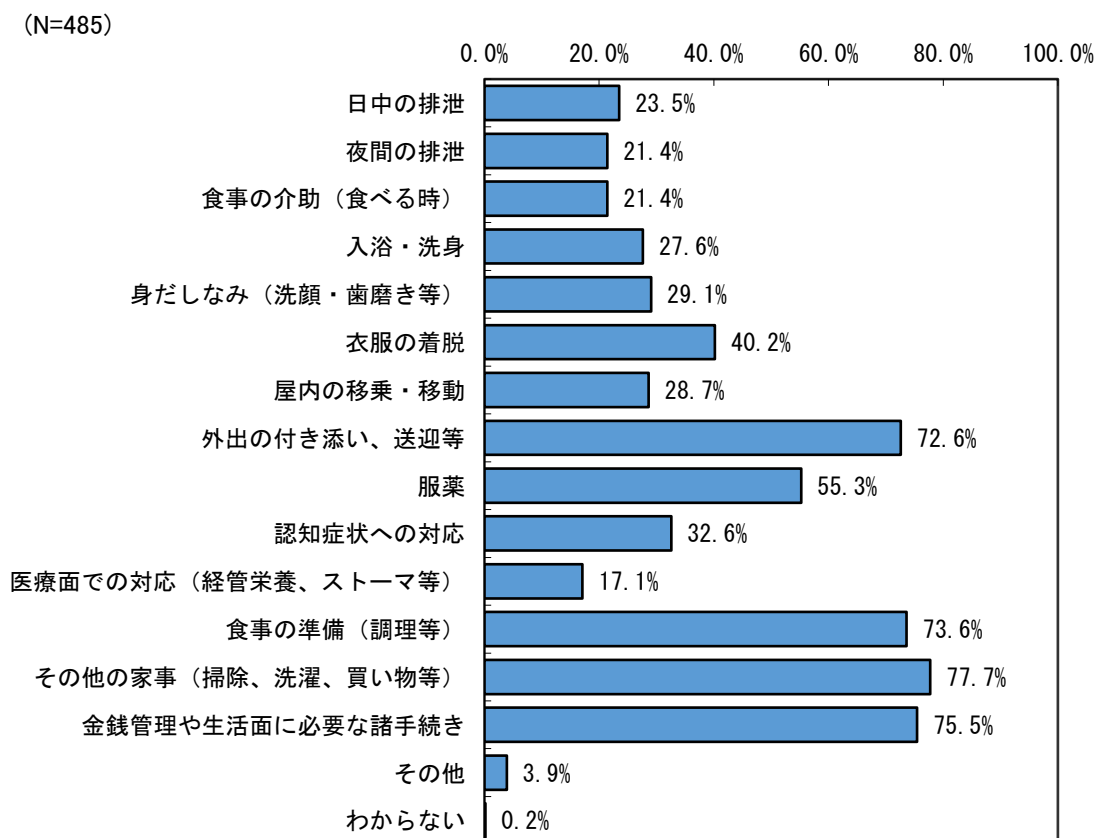
図表 主な介護者の年齢



(7) 主な介護者が行っている介護

主な介護者が行っている介護をみると、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 77.7%で最も多く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 75.5%、「食事の準備（調理等）」が 73.6%となっています。

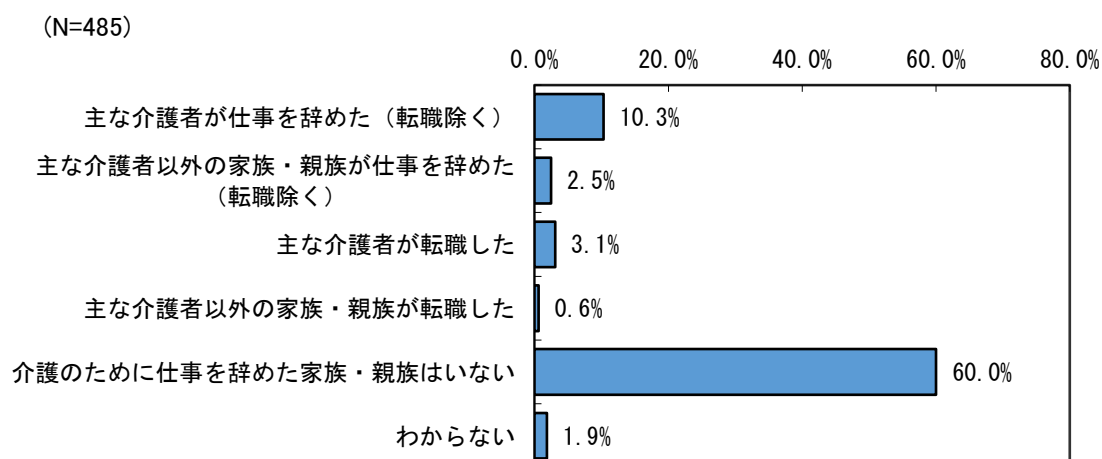
図表 主な介護者が行っている介護（複数回答）



(8) 介護者の離職・転職状況

介護者の離職・転職状況をみると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 60.0%で最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が 10.3%、「主な介護者が転職した」が 3.1%となっています。

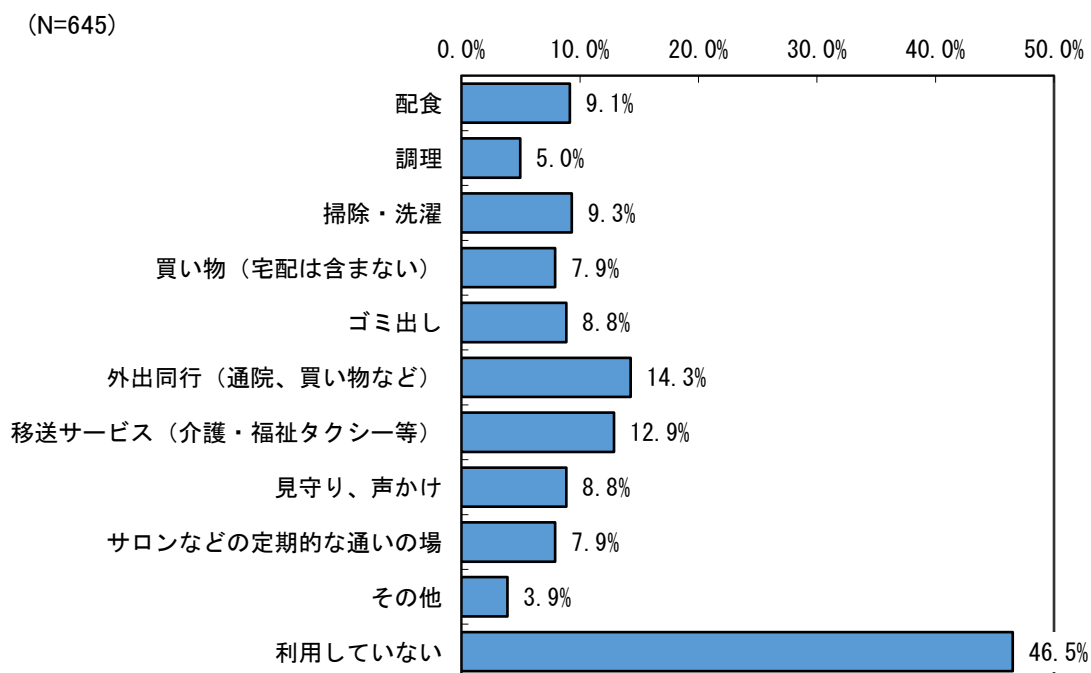
図表 介護者の離職・転職状況（複数回答）



（９）介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況

介護保険サービス以外の支援・サービス利用状況をみると、「利用していない」（46.5％）を除いて、「外出同行（通院、買い物など）」が 14.3％で最も多く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 12.9％、「掃除・洗濯」が 9.3％となっています。

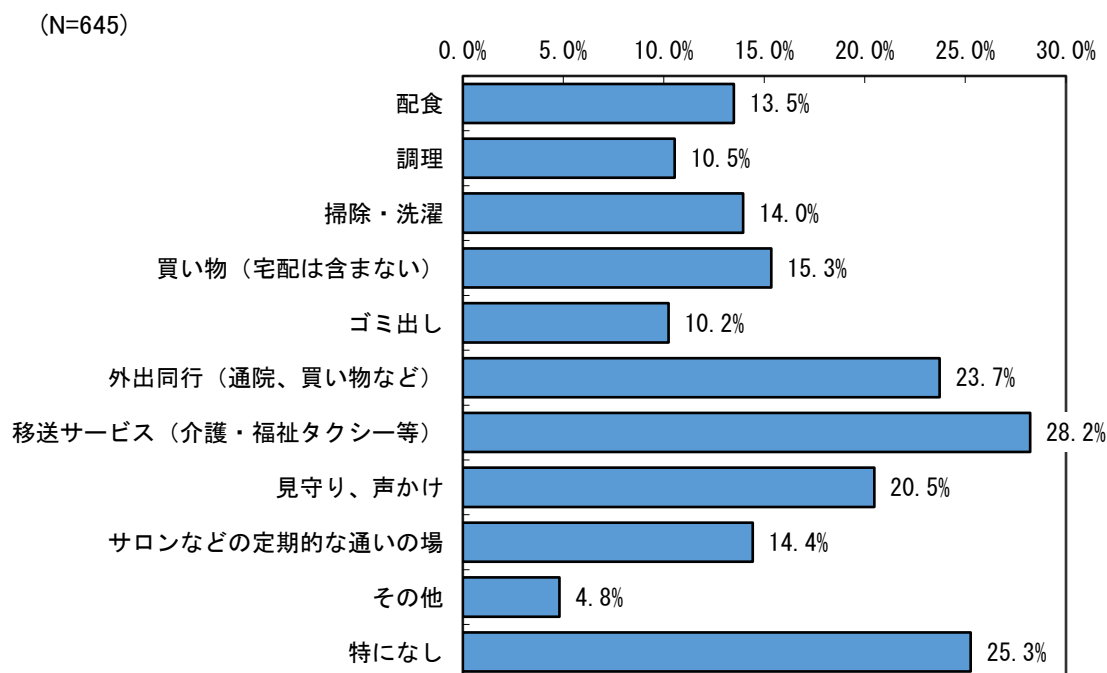
図表 介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



(10) さらなる充実が必要と感じるサービス

さらなる充実が必要と感じるサービスをみると、「特になし」(25.3%)を除いて、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が28.2%で最も多く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が23.7%、「見守り、声かけ」が20.5%となっています。

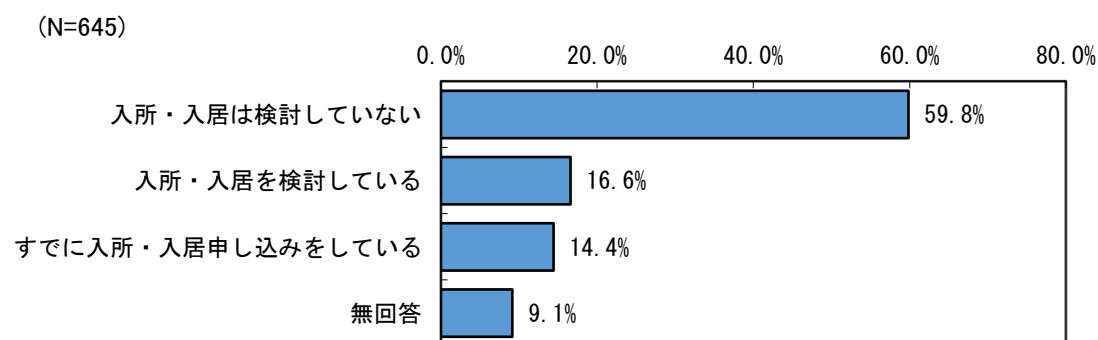
図表 さらなる充実が必要と感じるサービス(複数回答)



(11) 施設等への入所・入居の検討状況

施設等への入所・入居の検討状況をみると、「入所・入居は検討していない」が59.8%で最も多く、次いで「入所・入居を検討している」が16.6%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が14.4%となっています。

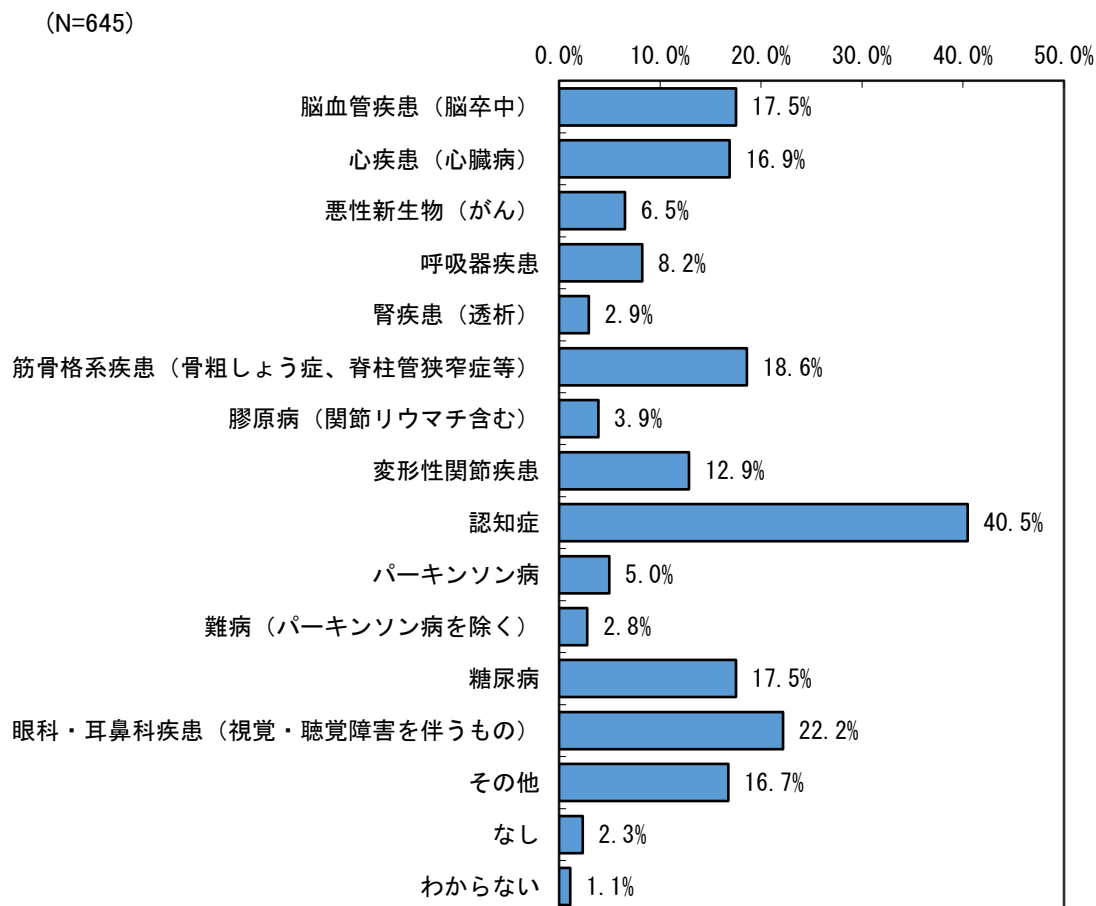
図表 施設等への入所・入居の検討状況



(12) 本人の疾病

本人の疾病をみると、「認知症」が40.5%で最も多く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が22.2%、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が18.6%となっています。

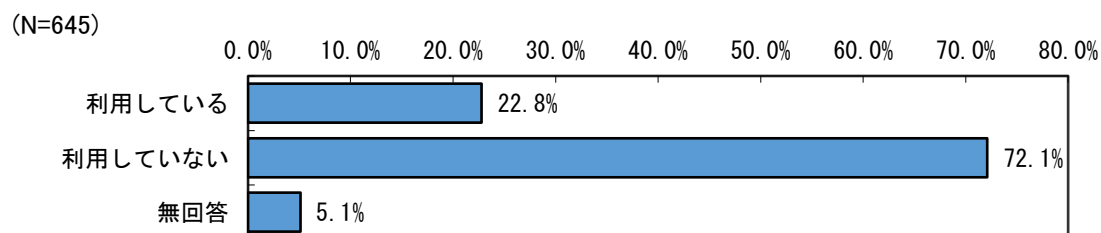
図表 本人の疾病（複数回答）



(13) 訪問診療の利用状況

訪問診療の利用状況をみると、「利用している」は22.8%となっています。

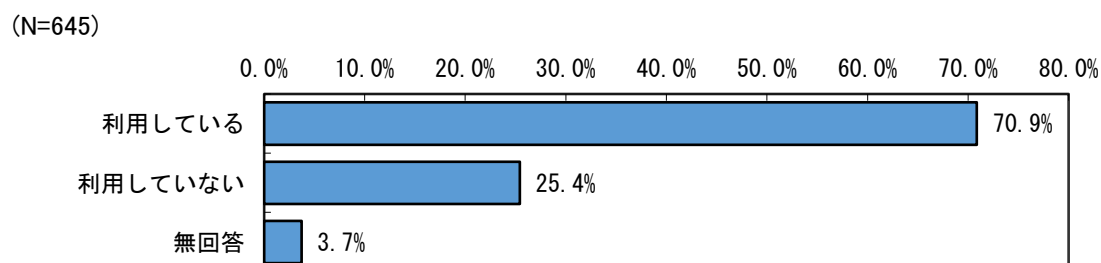
図表 訪問診療の利用状況



(14) 介護保険サービスの利用状況

介護保険サービスの利用状況を見ると、「利用している」は70.9%となっています。

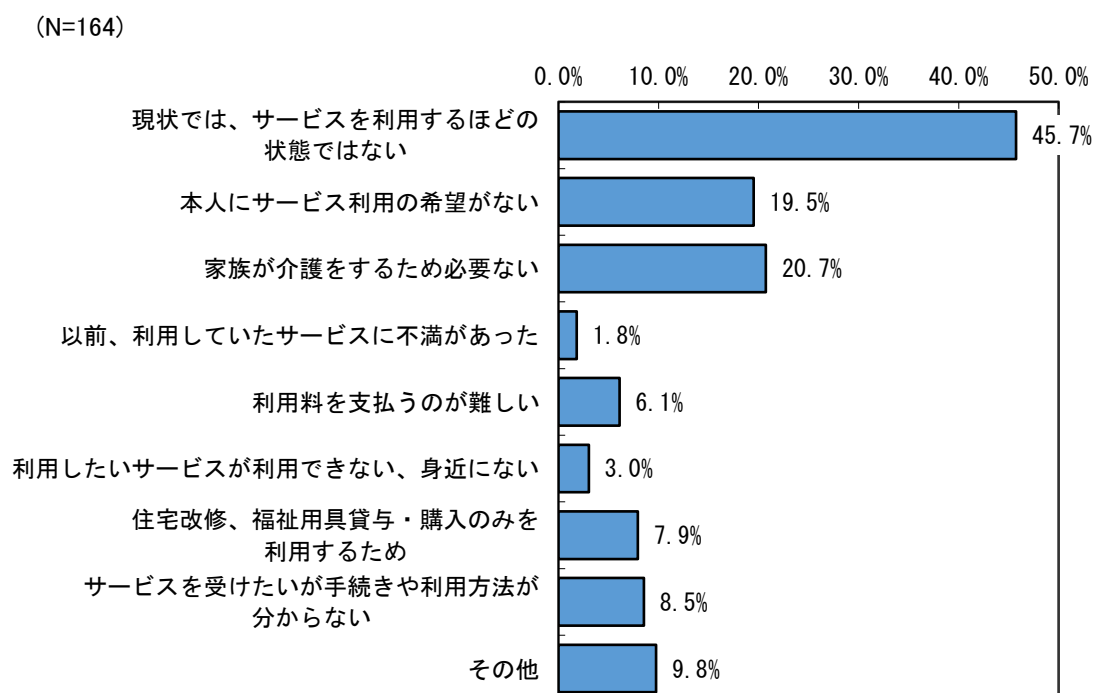
図表 介護保険サービスの利用状況



(15) 介護保険サービスを利用していない理由

介護保険サービスを利用していない理由を見ると、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が45.7%で最も多く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が20.7%、「本人にサービス利用の希望がない」が19.5%となっています。

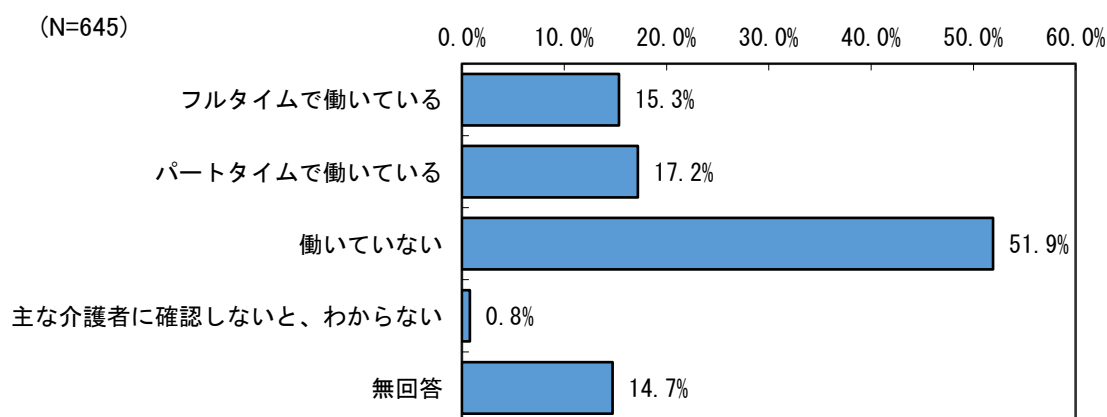
図表 介護保険サービスを利用していない理由（複数回答）



(16) 主な介護者の勤務形態

主な介護者の勤務形態をみると、「働いていない」が51.9%で最も多く、次いで「パートタイムで働いている」が17.2%、「フルタイムで働いている」が15.3%となっています。

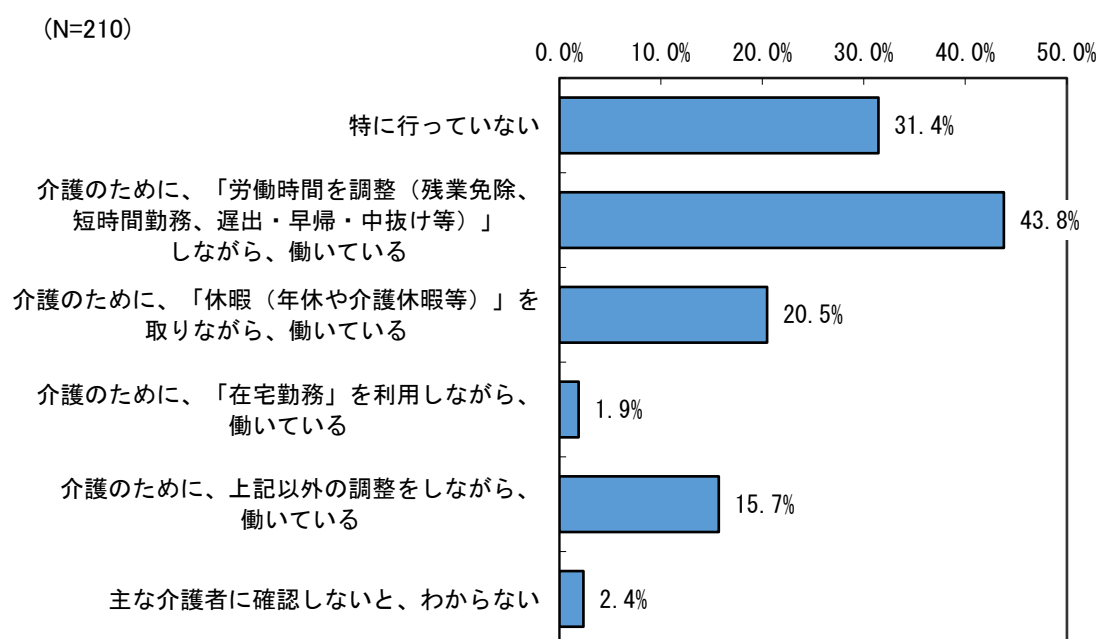
図表 主な介護者の勤務形態



(17) 主な介護者の働き方の調整状況

主な介護者の働き方の調整状況をみると、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が43.8%で最も多く、次いで「特に行っていない」が31.4%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が20.5%となっています。

図表 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）

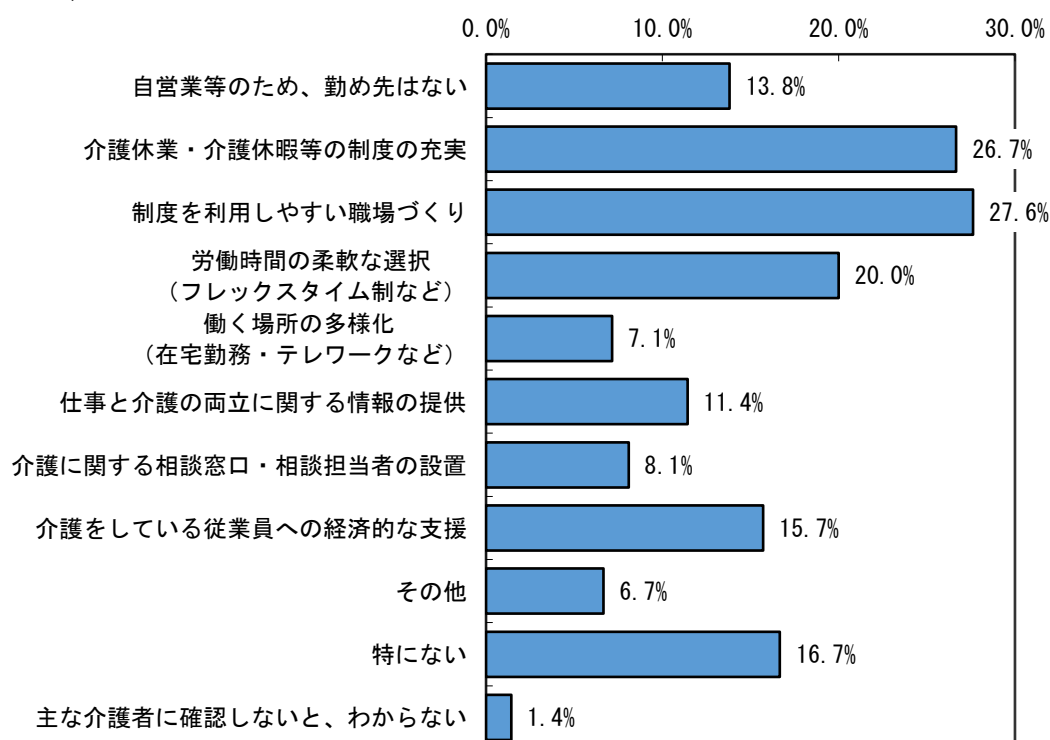


(18) 仕事と介護の両立に効果がありそうな支援

主な介護者について仕事と介護の両立に効果がありそうな支援をみると、「制度を利用しやすい職場づくり」が 27.6%で最も多く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 26.7%、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が 20.0%となっています。

図表 仕事と介護の両立に効果がありそうな支援（複数回答）

(N=210)

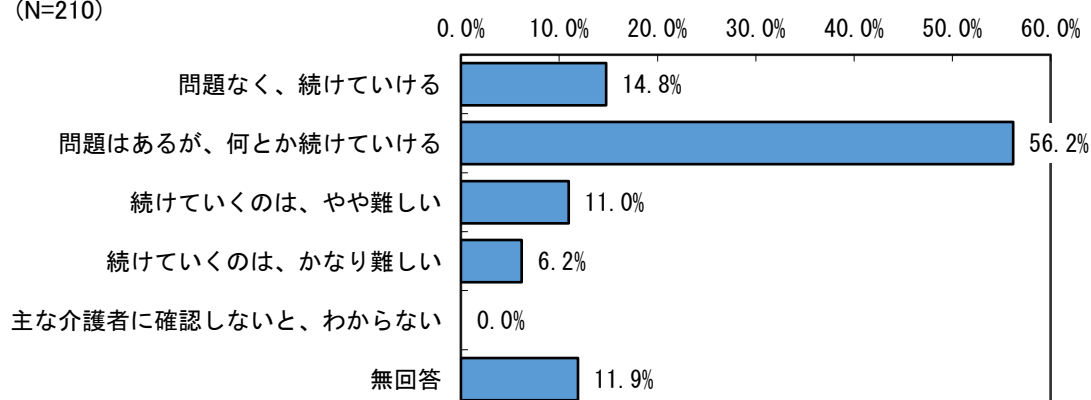


(19) 今後仕事と介護を両立できるか

主な介護者について、今後仕事と介護を両立できるかをみると、「問題はあるが、何とか続けている」が 56.2%で最も多く、次いで「問題なく、続けていける」が 14.8%、「続けていくのは、やや難しい」が 11.0%となっています。なお「無回答」が 11.9%となっています。

図表 今後仕事と介護を両立できるか

(N=210)

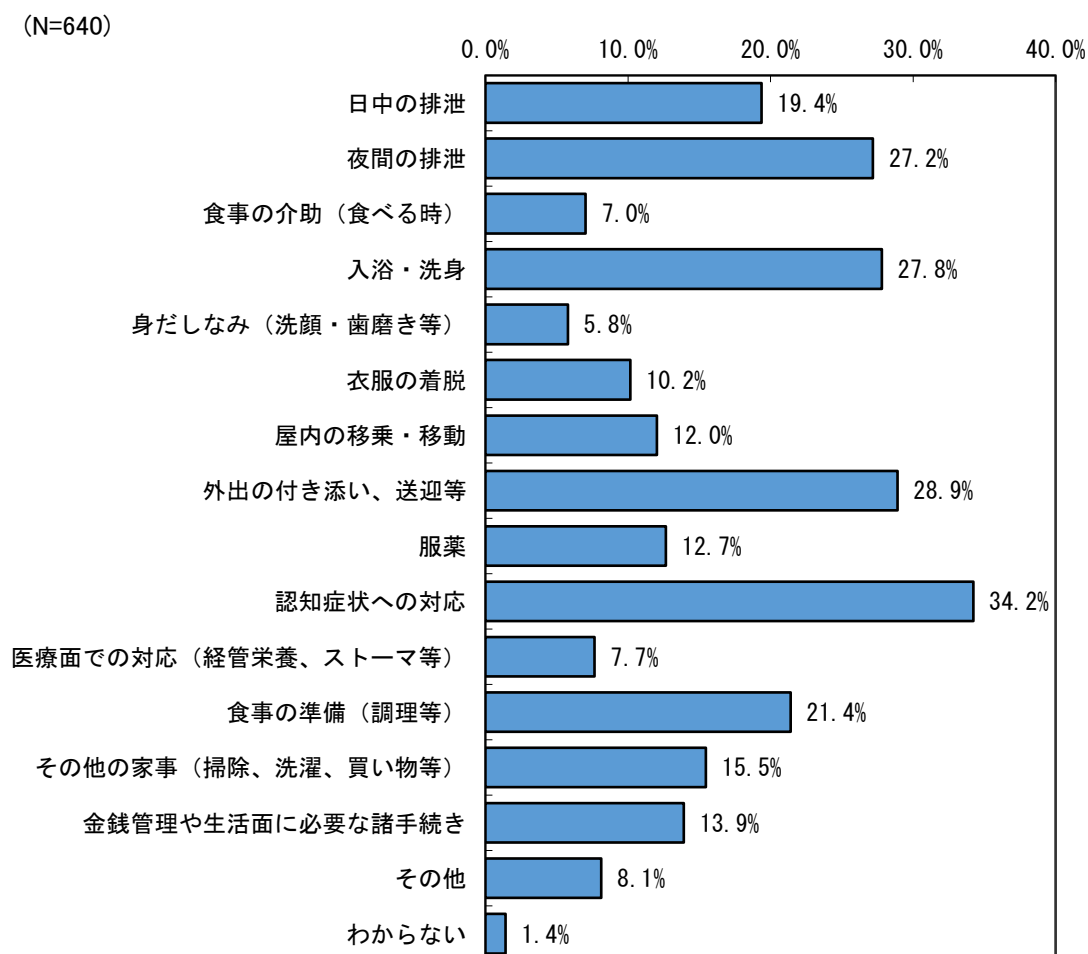


(20) 主な介護者が不安に感じる介護等

主な介護者が不安に感じる介護等をみると、「認知症状への対応」が34.2%で最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が28.9%、「入浴・洗身」が27.8%となっています。

「その他」の内容として、介護者の将来や健康に対する不安や、要介護状態が進行した場合の不安などの意見がみられました。

図表 主な介護者が不安に感じる介護等（複数回答）



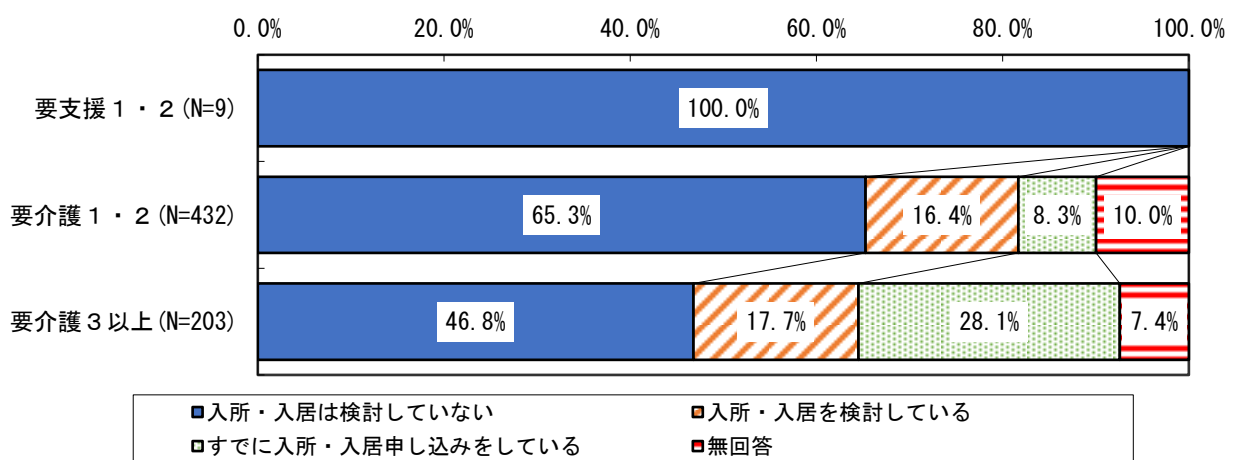
2 クロス集計・分析

(1) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

【施設等への入所・入居の検討状況】

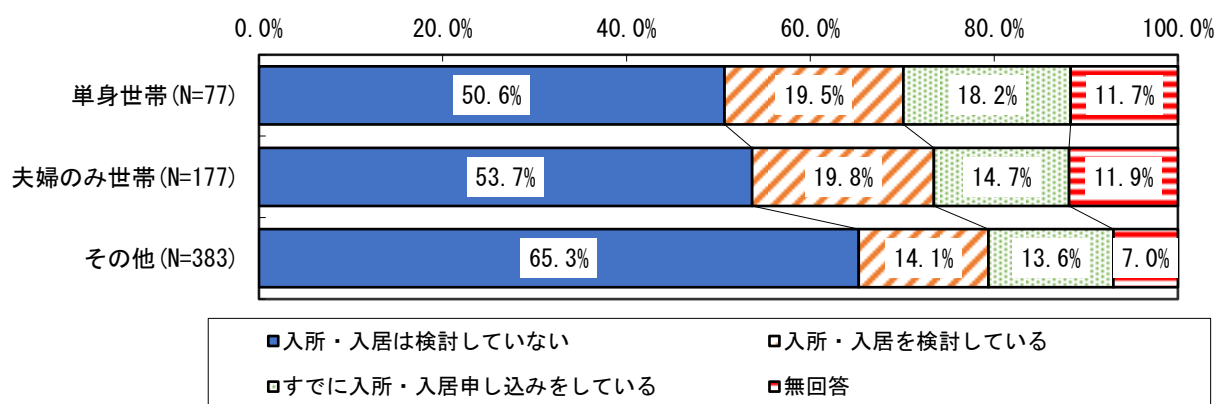
施設等への入所・入居の検討状況を要介護度別にみると、要介護度が重度化するほど、「入所・入居を検討している」、「すでに入所・入居申し込みをしている」の割合が多く、両者の合計は「要介護1・2」が24.7%、「要介護3以上」が45.8%となっています。

図表 要介護度別 施設等への入所・入居の検討状況



世帯類型別にみると、「入所・入居を検討している」と「すでに入所・入居申し込みをしている」の合計は「単身世帯」が37.7%で最も多く、次いで「夫婦のみ世帯」(34.5%)、「その他世帯」(27.7%)となっています。また、その他世帯では「入所・入居は検討していない」が65.3%となっています。

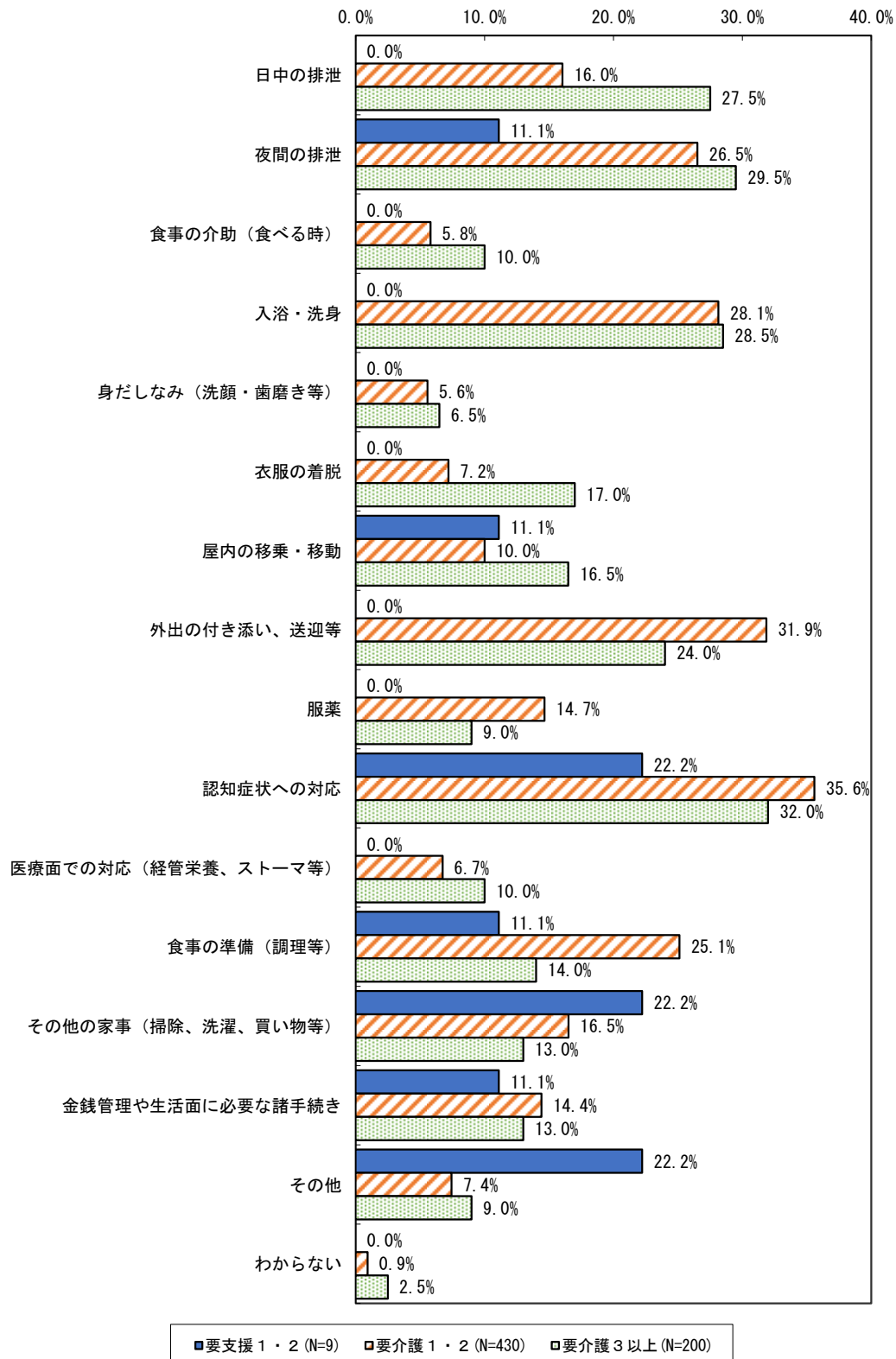
図表 世帯類型別 施設等への入所・入居の検討状況



【主な介護者が不安に感じる介護等】

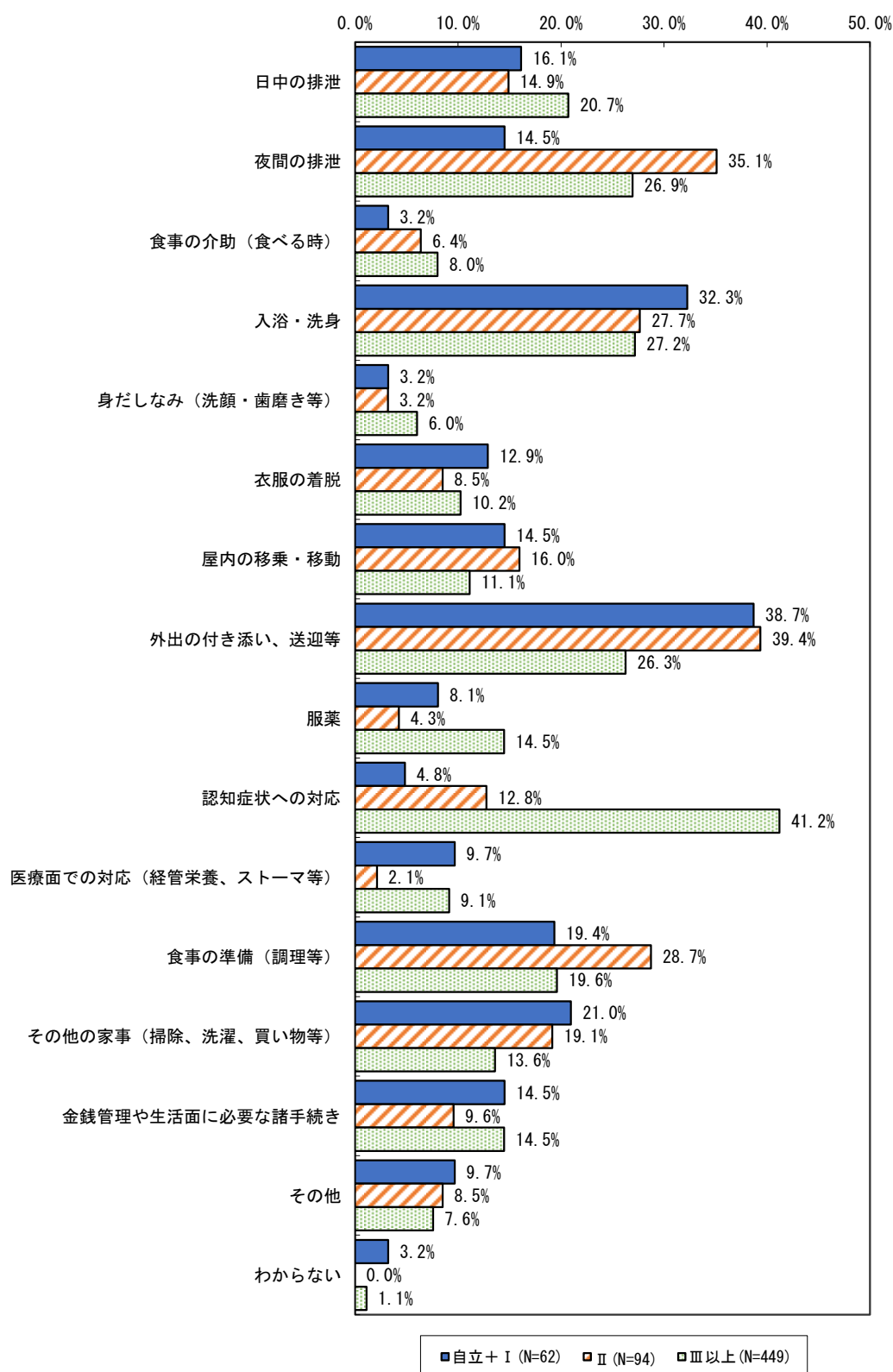
主な介護者が不安に感じる介護等を要介護度別にみると、「要介護１・２」「要介護３以上」とともに「認知症状への対応」(35.6%、32.0%)が最も多く、ついで「要介護１・２」では「外出の付き添い、送迎等」(31.9%)、「要介護３以上」では「夜間の排泄」(29.5%)となっています。

図表 要介護度別 主な介護者が不安に感じる介護等（３つ以内で複数回答）



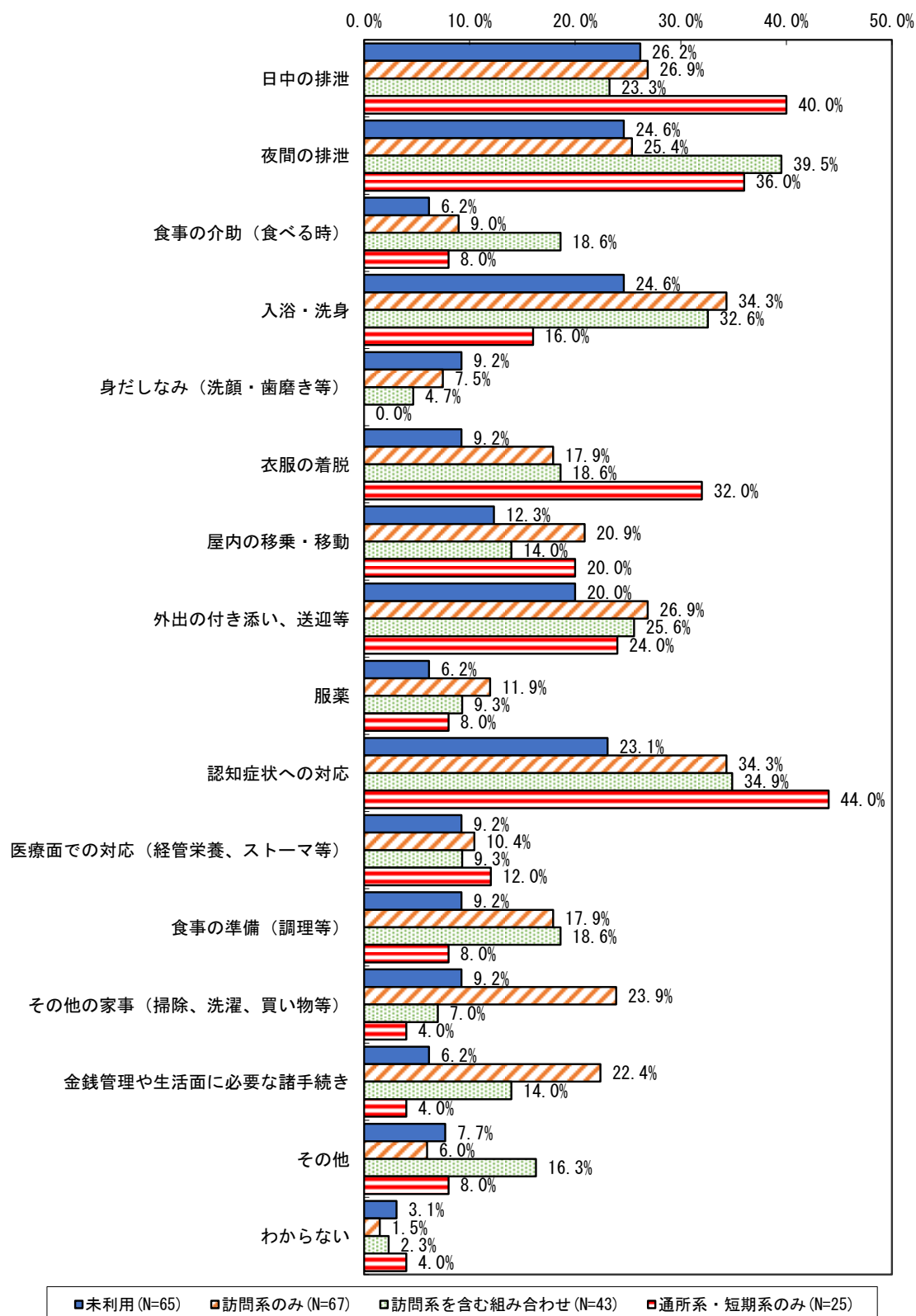
認知症自立度別にみると、Ⅲ以上の方では「認知症状への対応」が最も多く、4割を超えています。また「自立+Ⅰ」「Ⅱ」では「外出の付き添い、送迎等」(38.7%、39.4%)が最も多くなっています。

図表 認知症自立度別 主な介護者が不安に感じる介護等（3つ以内で複数回答）



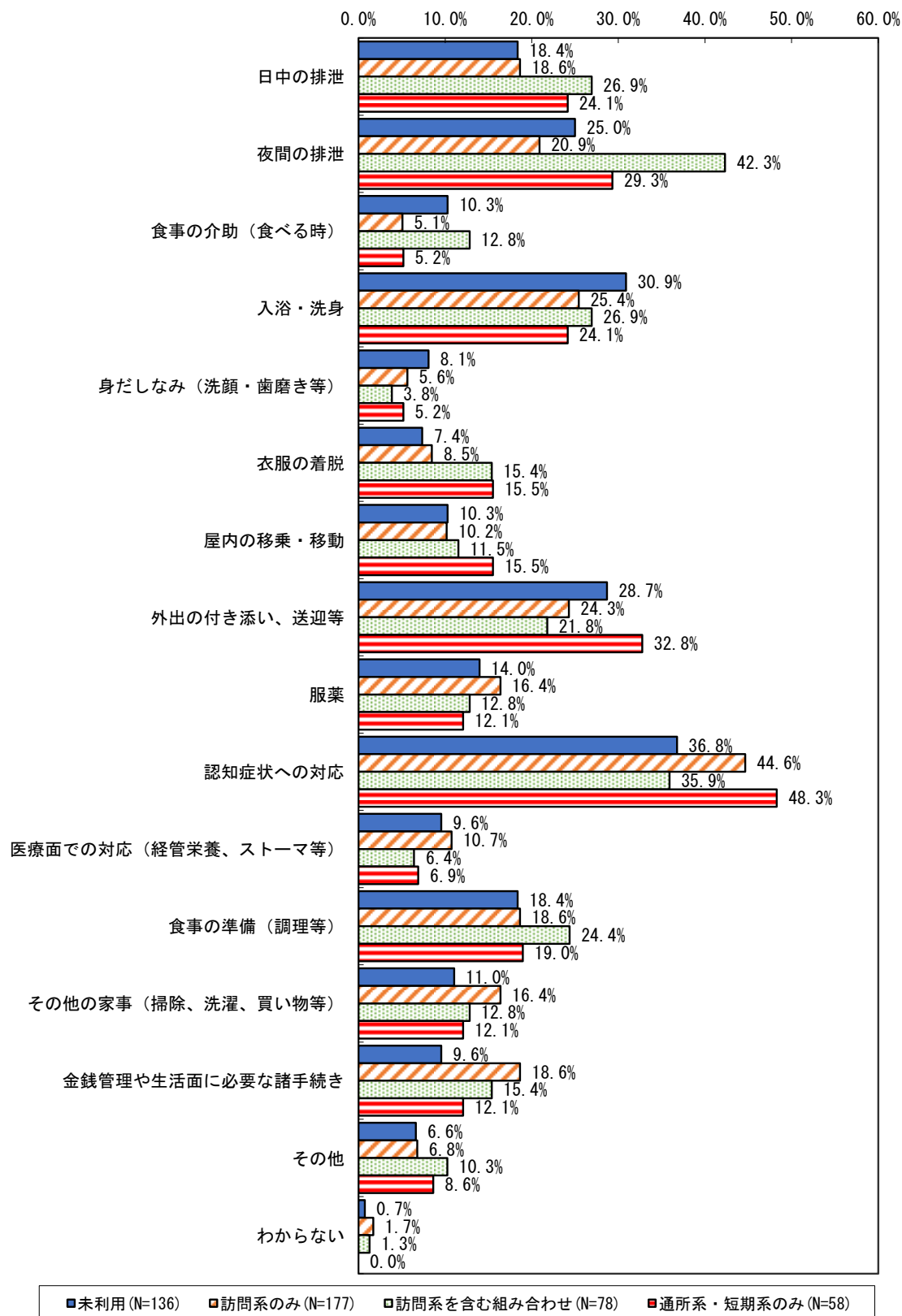
サービスの組み合わせ別にみると、要介護3以上では、「訪問系のみ」では「入浴・洗身」、「訪問系を含む組み合わせ」では「夜間の排泄」、「通所系・短期系のみ」では「認知症状への対応」がそれぞれ最も多くなっています。また、「訪問系のみ」では「その他の家事」が比較的多く、「通所系・短期系のみ」では「衣服の着脱」が比較的多くなっています。

図表 サービスの組み合わせ別 主な介護者が不安に感じる介護等（3つ以内で複数回答）（要介護3以上）



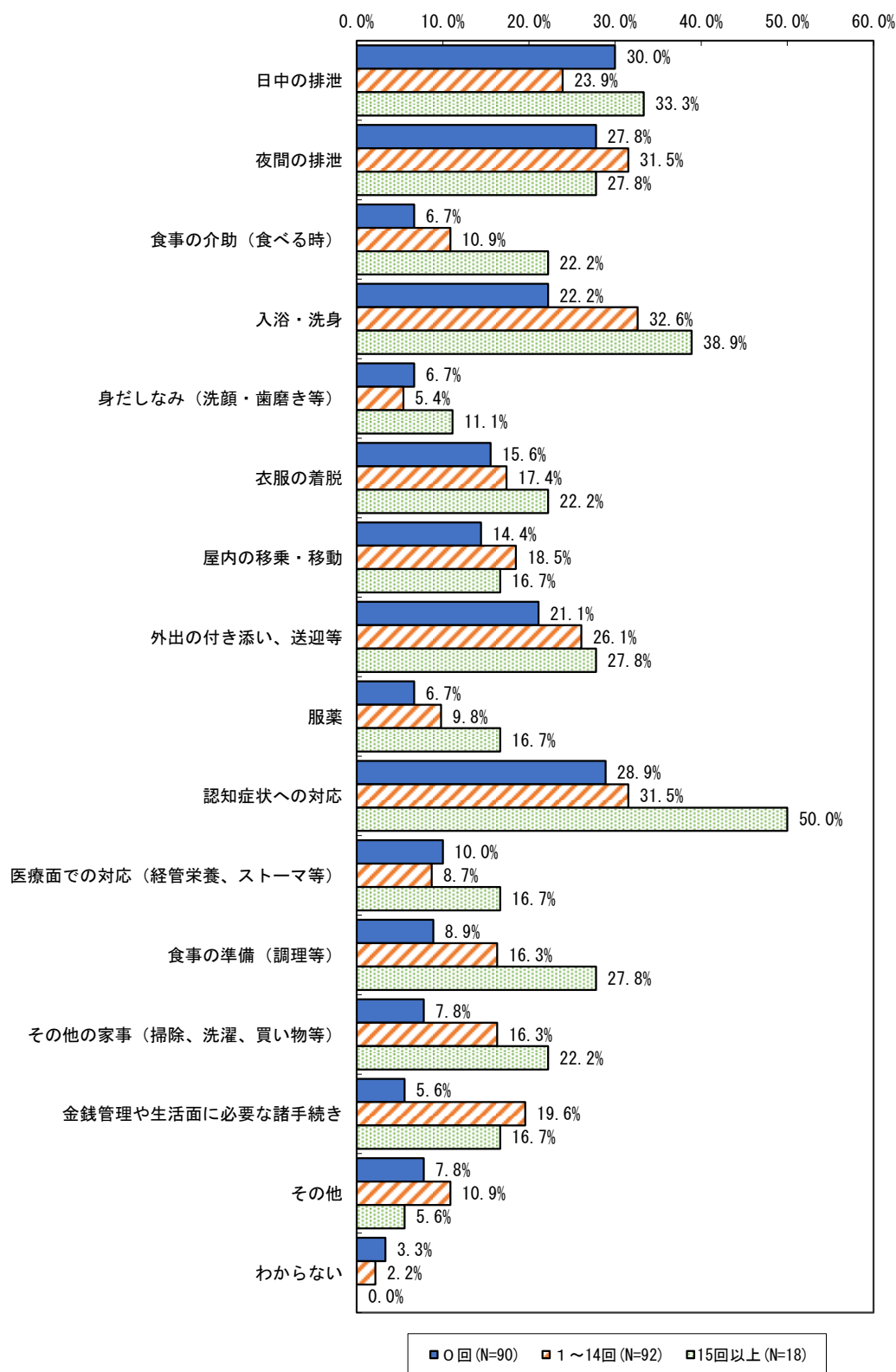
認知症自立度Ⅲ以上では、いずれの組み合わせでも「訪問系を含む組み合わせ」では「夜間の排泄」、それ以外では「認知症状への対応」が最も多くなっています。

図表 サービスの組み合わせ別 主な介護者が不安に感じる介護等（3つ以内で複数回答）（認知症Ⅲ以上）



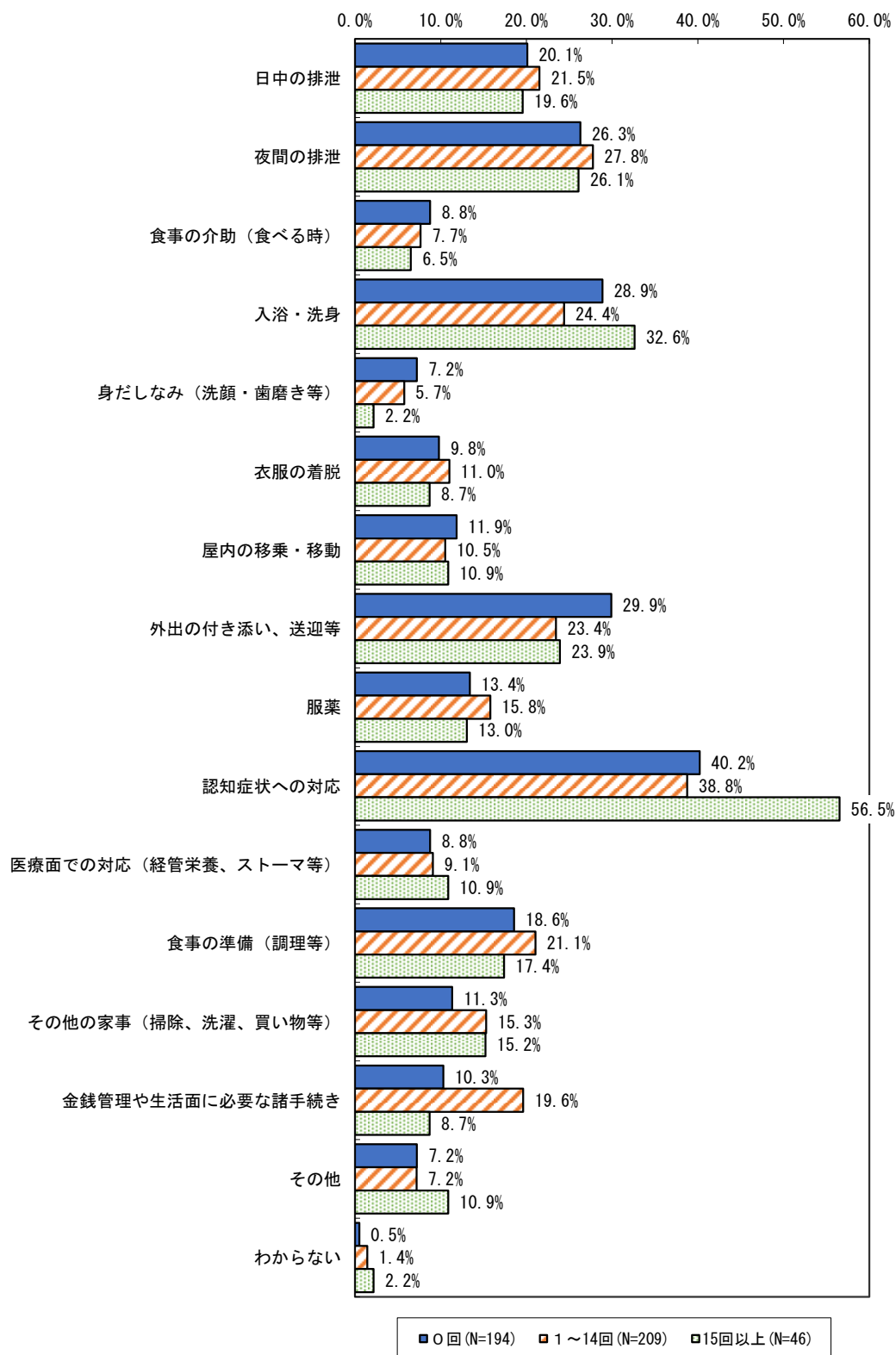
要介護度3以上の訪問系サービスの合計利用回数別にみると、「0回」では「日中の排泄」、「1～14回」では「入浴・洗身」、「15回以上」では「認知症状への対応」がそれぞれ最も多くなっています。

図表 訪問系サービスの合計利用回数別 主な介護者が不安に感じる介護等（3つ以内で複数回答）（要介護度3以上）



認知症自立度Ⅲ以上の訪問系サービスの合計利用回数別にみると、回数によらず「認知症状への対応」が最も多くなっています。また、「0回」では「外出の付き添い、送迎等」が比較的多くなっています。

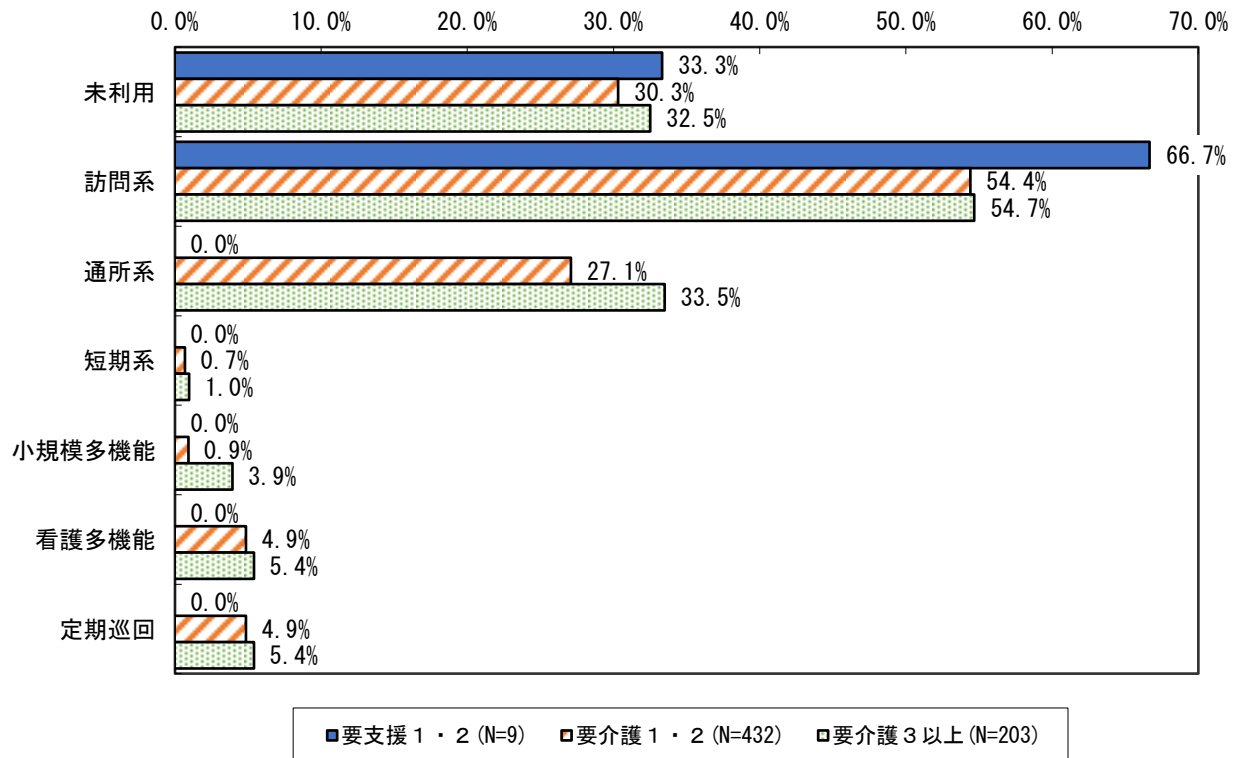
図表 訪問系サービスの合計利用回数別 主な介護者が不安に感じる介護等（3つ以内で複数回答）（認知症Ⅲ以上）



【サービスの組み合わせ】

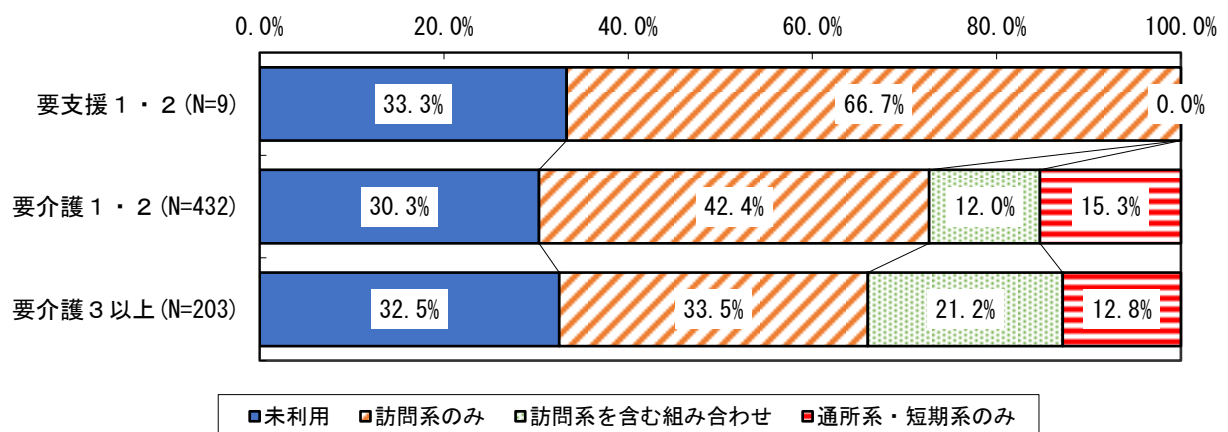
要介護度別にサービスの利用状況をみると、「通所系」は「要介護3以上」が「要介護1・2」に比べて多くなっています。また、「訪問系」は「要支援1・2」が6割以上と多くなっています。

図表 要介護度別 サービスの利用状況（複数回答）

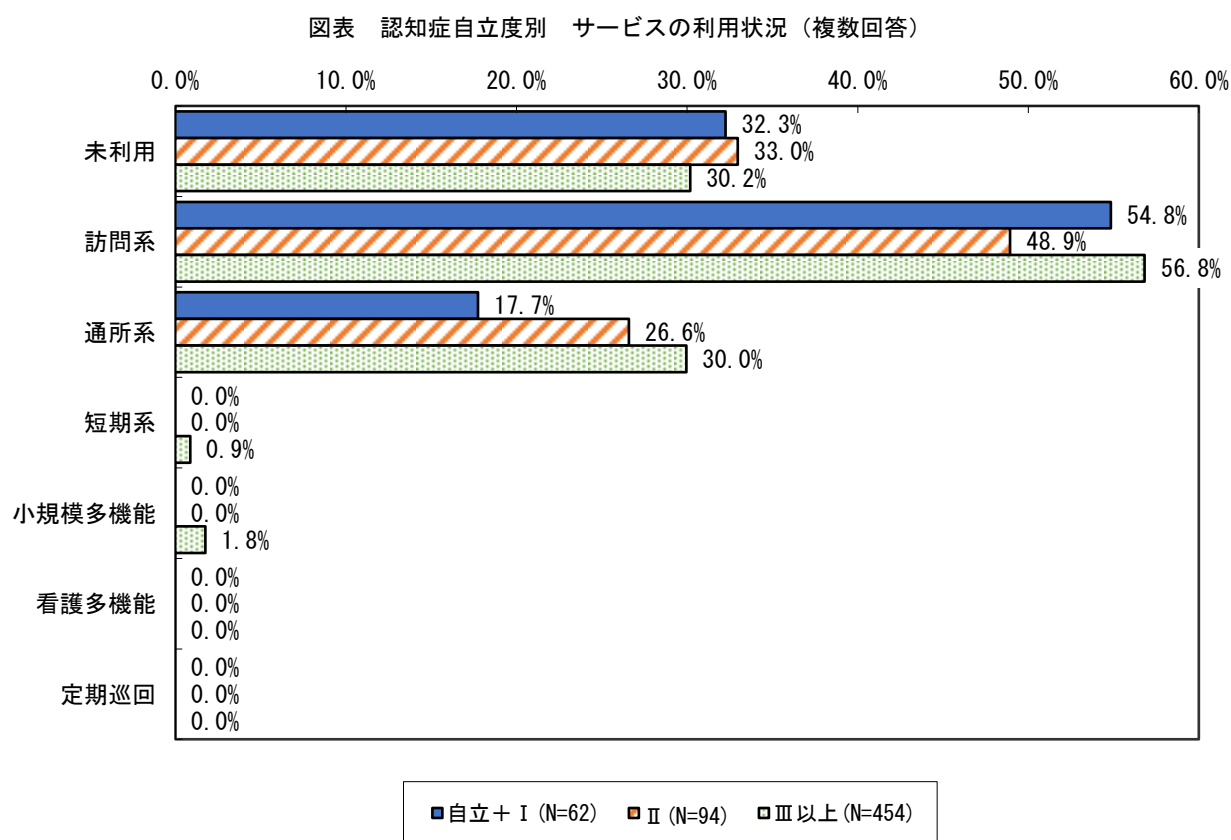


要介護度別にサービスの組み合わせをみると、いずれの要介護度でも「訪問系のみ」が最も多くなっていますが、要介護度が上がると「訪問系を含む組み合わせ」が多くなる傾向がみられます。

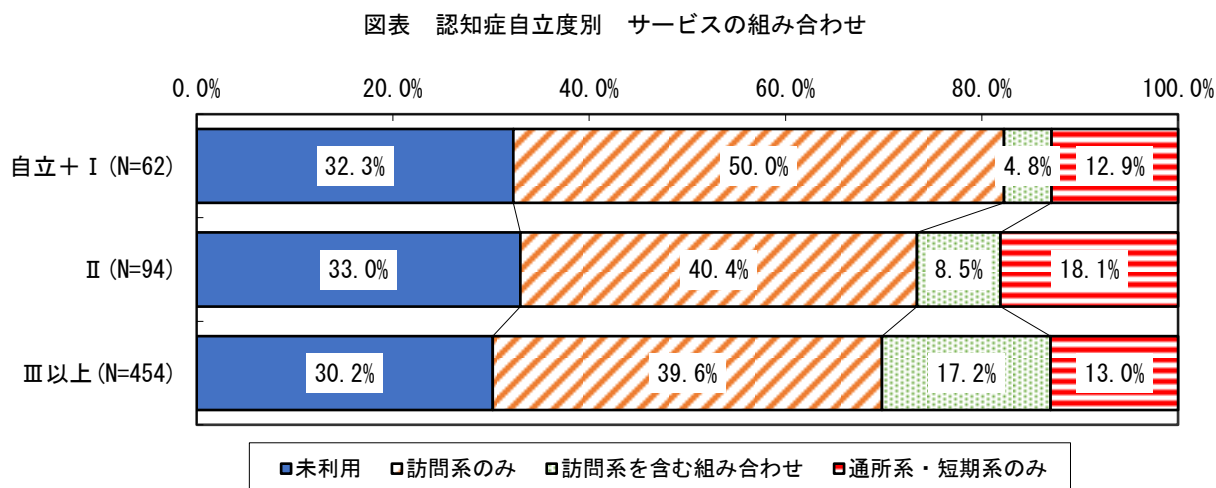
図表 要介護度別 サービスの組み合わせ



認知症自立度別にサービスの利用状況をみると、「通所系」は「Ⅱ」「Ⅲ以上」が多くなっています。また、「訪問系」は「Ⅲ以上」の利用が多くなっています。「未利用」は自立度によらずⅢ割程度となっています。



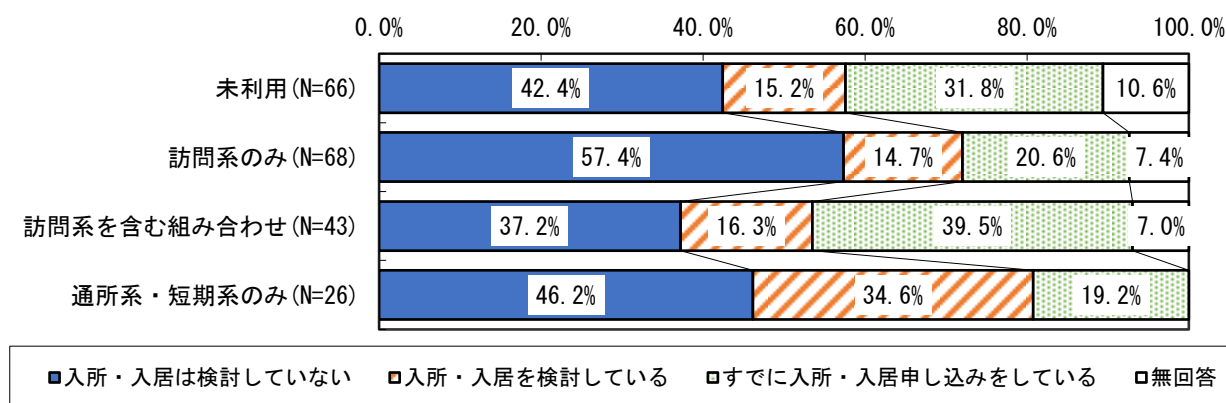
認知症自立度別にサービスの組み合わせをみると、認知症自立度が低くなるにつれて「訪問系を含む組み合わせ」が増加する傾向がみられます。



【施設等への入所・入居の検討状況】

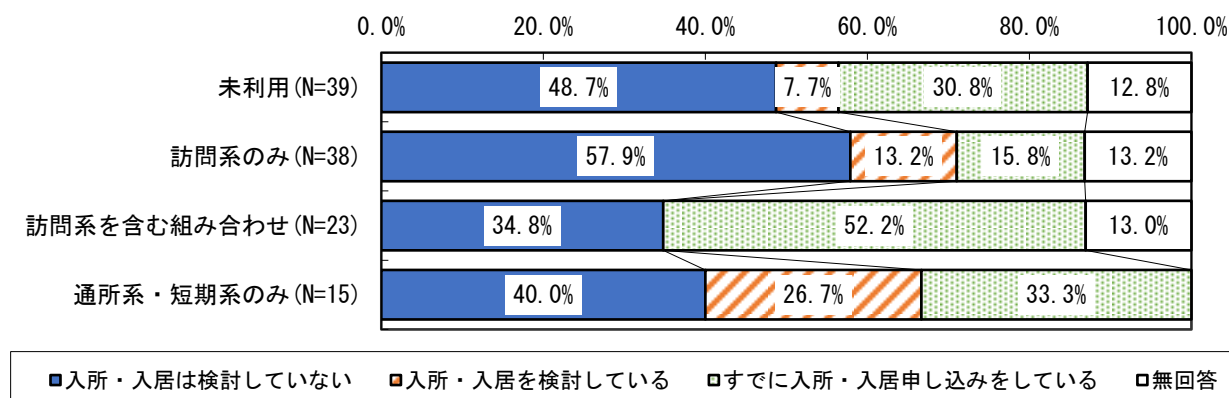
要介護度3以上の施設等への入所・入居の検討状況をサービスの組み合わせ別にみると、「入所・入居は検討していない」の割合は「訪問系のみ」(57.4%)、「通所系・短期系のみ」(46.2%)、「未利用」(42.4%)、の順に多くなっています。

図表 サービスの組み合わせ別 施設等への入所・入居の検討状況（要介護度3以上）



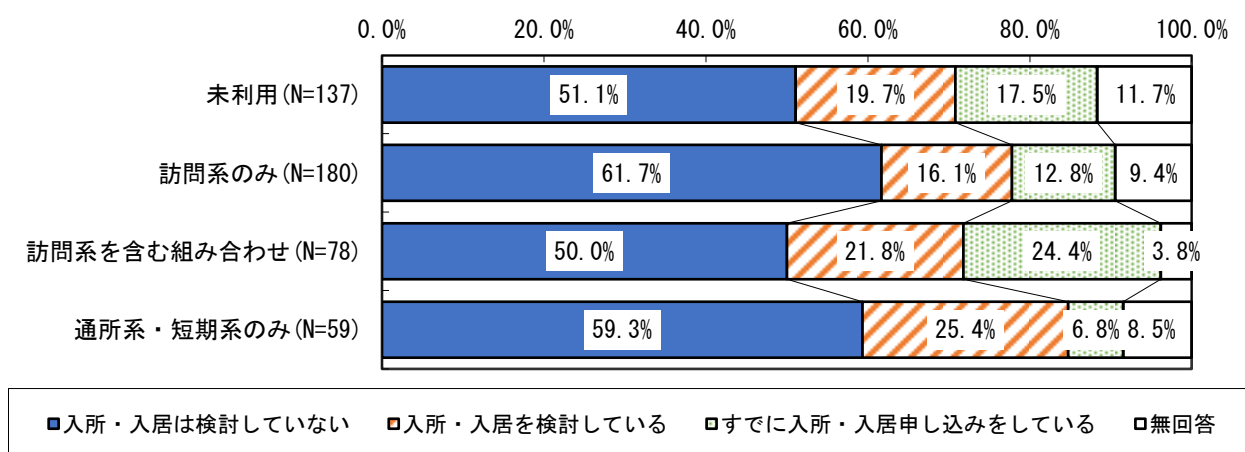
要介護度4以上の施設等への入所・入居の検討状況をサービスの組み合わせ別にみると、「入所・入居は検討していない」は「訪問系のみ」(57.9%)で5割以上となっています。また、「訪問系を含む組み合わせ」と「通所系・短期系のみ」では「入所・入居を検討している」と「すでに入所・入居申し込みをしている」の合計が5割を超えています。

図表 サービスの組み合わせ別 施設等への入所・入居の検討状況（要介護度4以上）



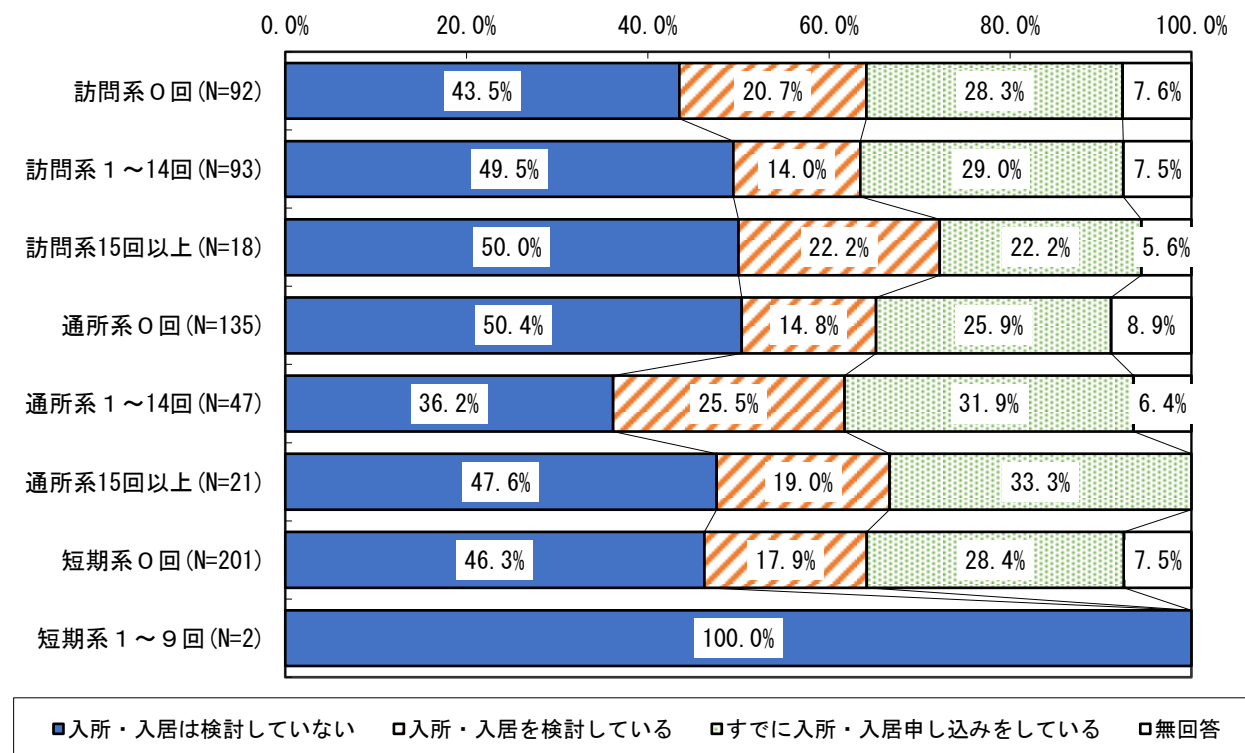
認知症自立度Ⅲ以上の施設等への入所・入居の検討状況をサービスの組み合わせ別にみると、「入所・入居は検討していない」の割合は「訪問系のみ」(61.7%)、「通所系・短期系のみ」(59.3%)、「未利用」(51.1%)の順に多くなっています。また、「入所・入居を検討している」と「すでに入所・入居申し込みをしている」の合計は「訪問系を含む組み合わせ」が46.2%で最も多くなっています。

図表 サービスの組み合わせ別 施設等への入所・入居の検討状況（認知症自立度Ⅲ以上）



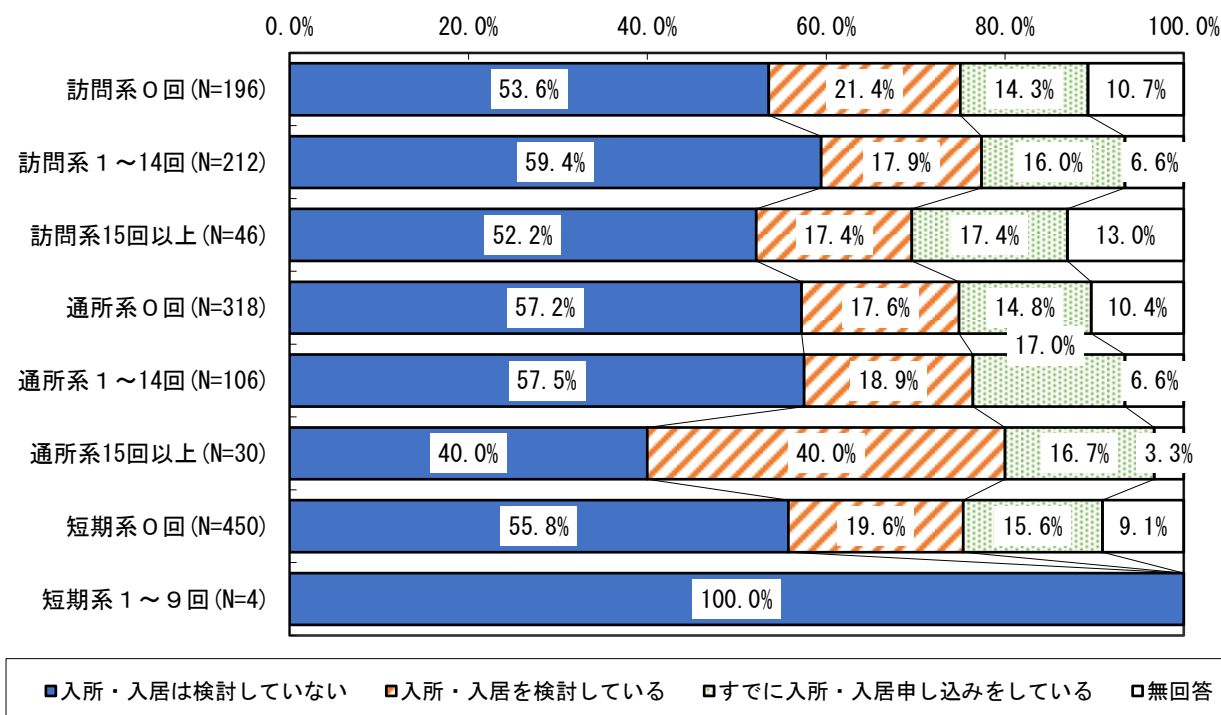
要介護度3以上のサービスの合計利用回数別にみると、「入所・入居は検討していない」の割合は、「訪問系」「短期系」では回数による差はあまりみられません。「通所系」では0回と15回以上が1～9回に比べて多くなっています。また、「入所・入居を検討している」と「すでに入所・入居申し込みをしている」の合計は「通所系1～14回」が57.4%で最も多くなっています。

図表 サービスの合計利用回数別 施設等への入所・入居の検討状況（要介護度3以上）



認知症自立度Ⅲ以上のサービスの合計利用回数別にみると、「入所・入居は検討していない」の割合は、「通所系」の15回以上の利用者を除いて5割以上となっています。

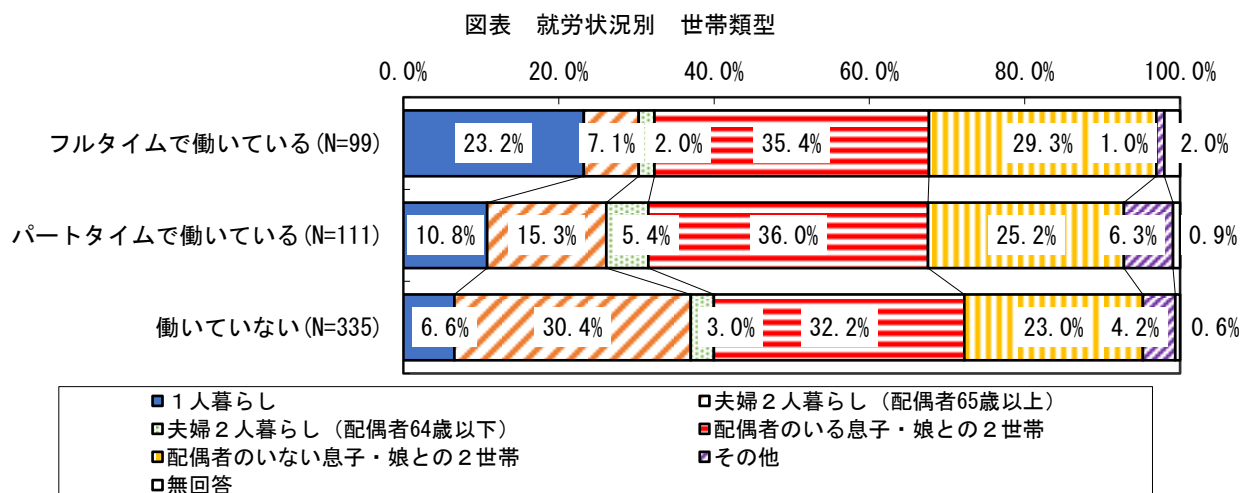
図表 サービスの合計利用回数別 施設等への入所・入居の検討状況（認知症自立度Ⅲ以上）



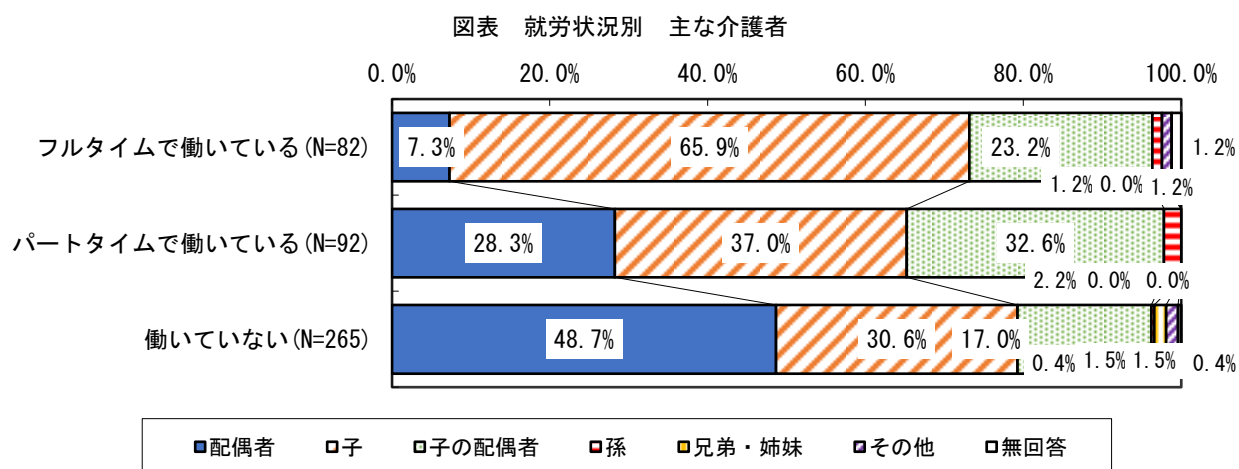
（２）仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

【就労状況別 介護者基本属性】

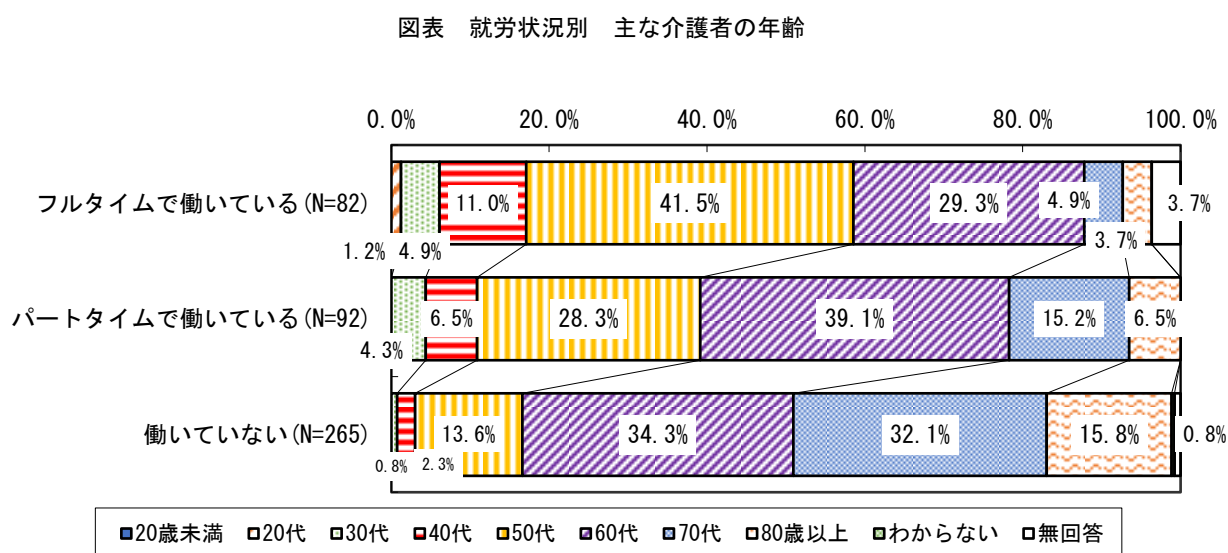
要介護者の世帯類型については、就労形態に関わらず「配偶者のいない息子・娘との２世帯」が最も多く、次いで「その他」となっています。また、要介護者が「単身世帯」の介護者は、フルタイムで働いている人では２割以上となっています。



要介護者と主な介護者の続柄は、主な介護者が働いている場合は「子」、働いていない場合は「配偶者」がそれぞれ最も多くなっています。

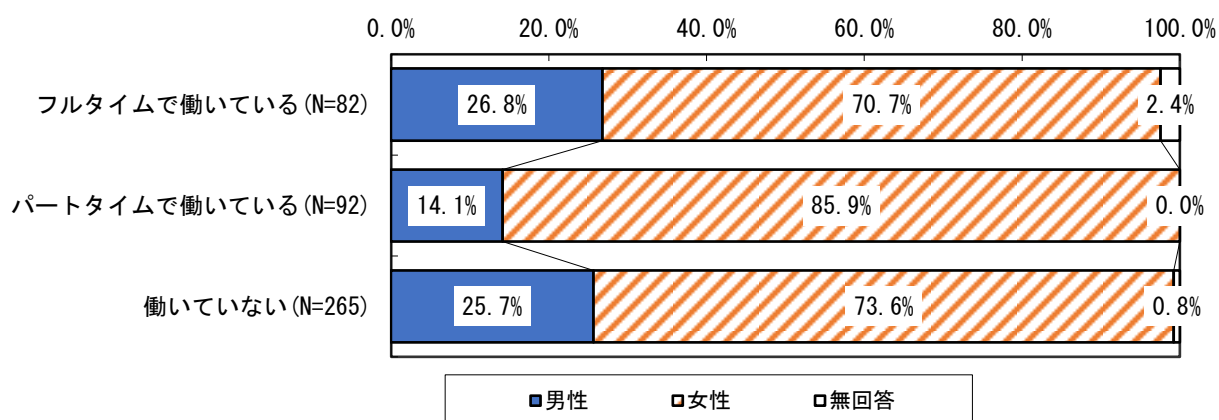


主な介護者の年齢をみると、フルタイム・パートタイムに関わらず介護者が働いている場合は60歳代以下が約8割を占めています。一方、働いていない場合は70歳代以上が約5割を占めています。



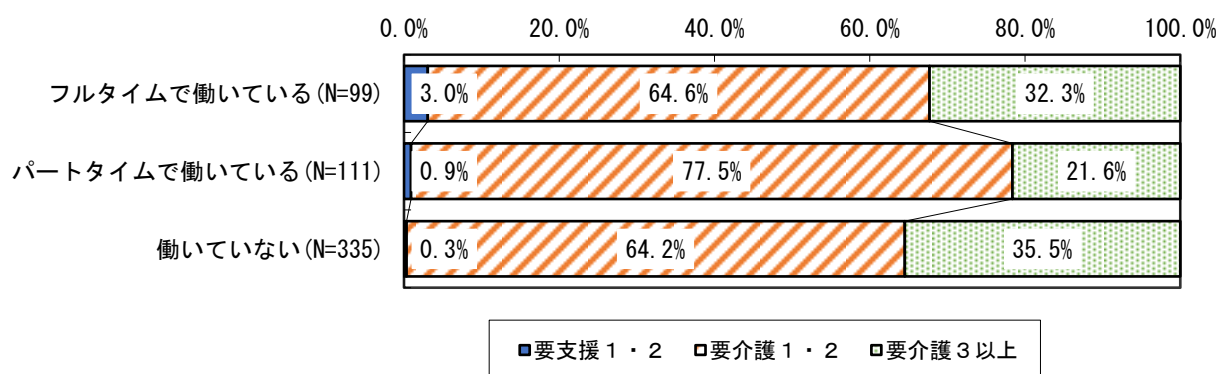
主な介護者の性別をみると、いずれも「女性」が「男性」を上回っていますが、「フルタイムで働いている」では、パートタイムに比べて「男性」の割合が高い傾向がみられました。

図表 就労状況別 主な介護者の性別



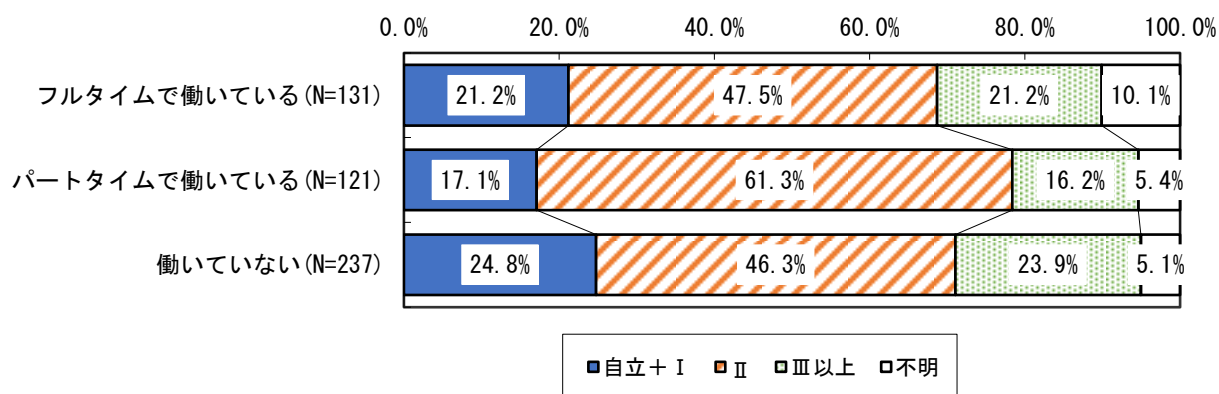
主な介護者の就労状況別に要介護者の介護度をみると、いずれも「要介護1・2」が6割以上となっています。

図表 就労状況別 要介護度



主な介護者の就労状況別に要介護者の認知症自立度をみると、「フルタイムで働いている」では、パートタイムに比べて「自立+Ⅰ」の割合が高い傾向がみられました。また、「パートタイムで働いている」では「Ⅱ」が61.3%となっています。

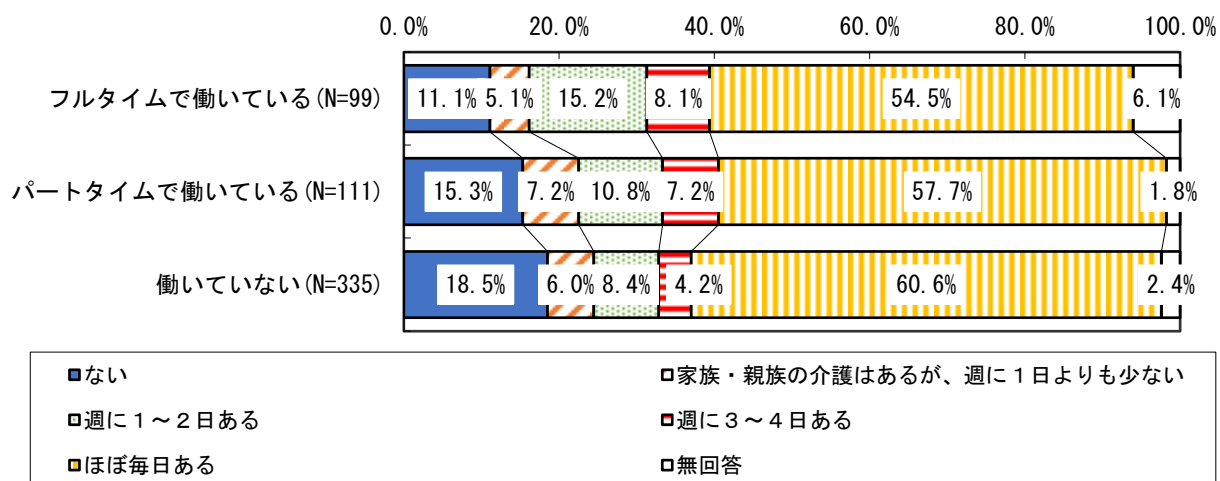
図表 就労状況別 認知症自立度



【就労状況別 介護の状況】

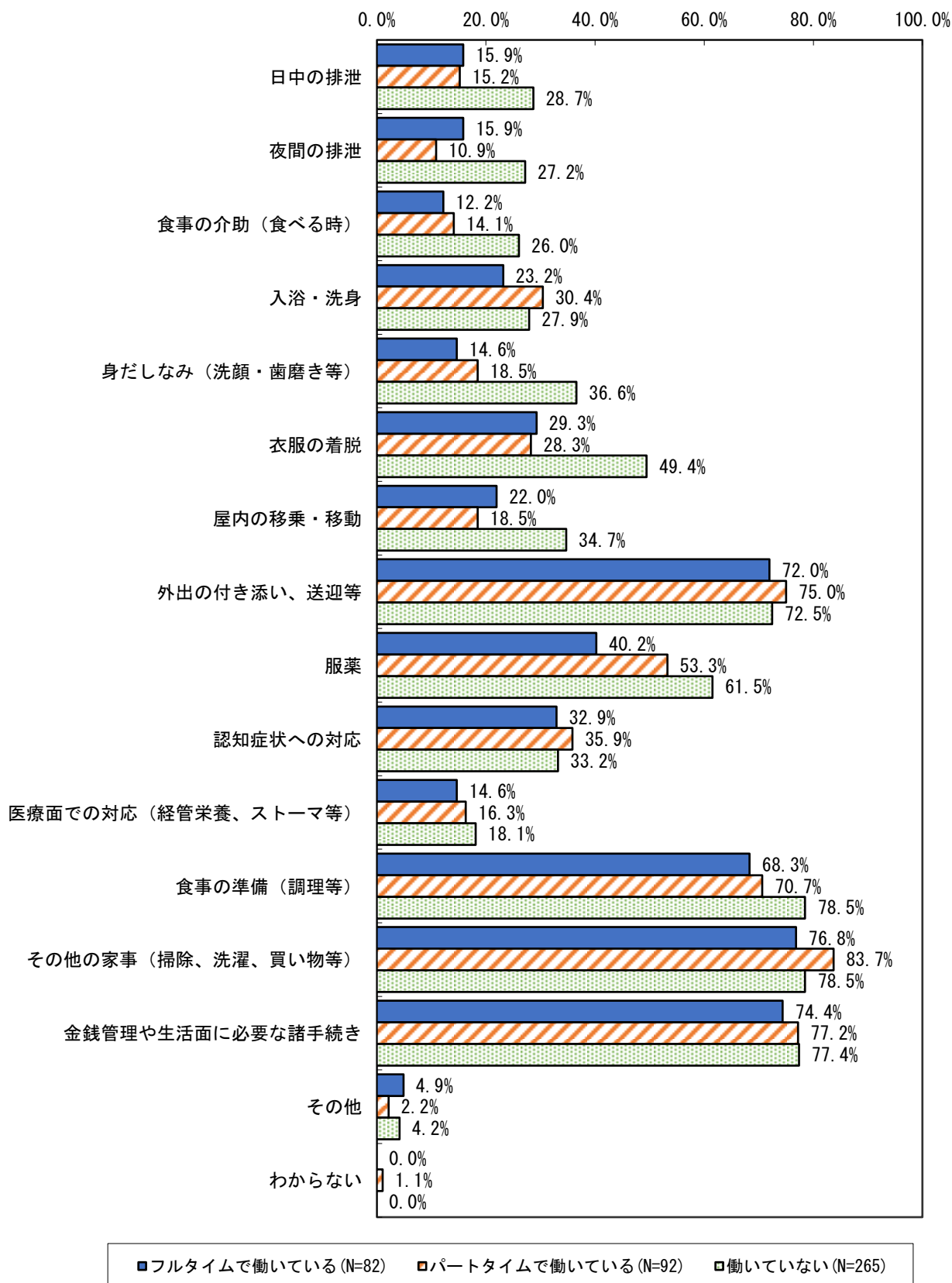
主な介護者の就労状況別に家族・親族からの介護の頻度をみると、「ほぼ毎日ある」はいずれも5割以上となっていますが、「フルタイムで働いている」では54.5%となっており、「パートタイムで働いている」と「働いていない」より少なくなっています。

図表 就労状況別 家族・親族からの介護



主な介護者の就労状況別に主な介護者が行っている介護をみると、概ね「働いていない」、「パートタイムで働いている」、「フルタイムで働いている」の順に介護者が行っている介護は少なくなる傾向がみられ、特に「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」や「衣服の着脱」は差が大きくなっています。

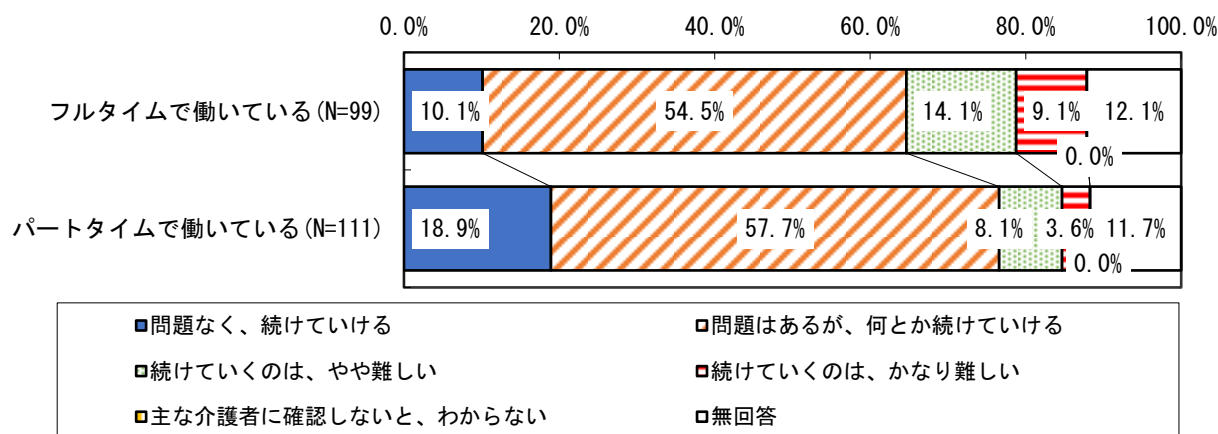
図表 就労状況別 主な介護者が行っている介護（複数回答）



【就労継続の見込み】

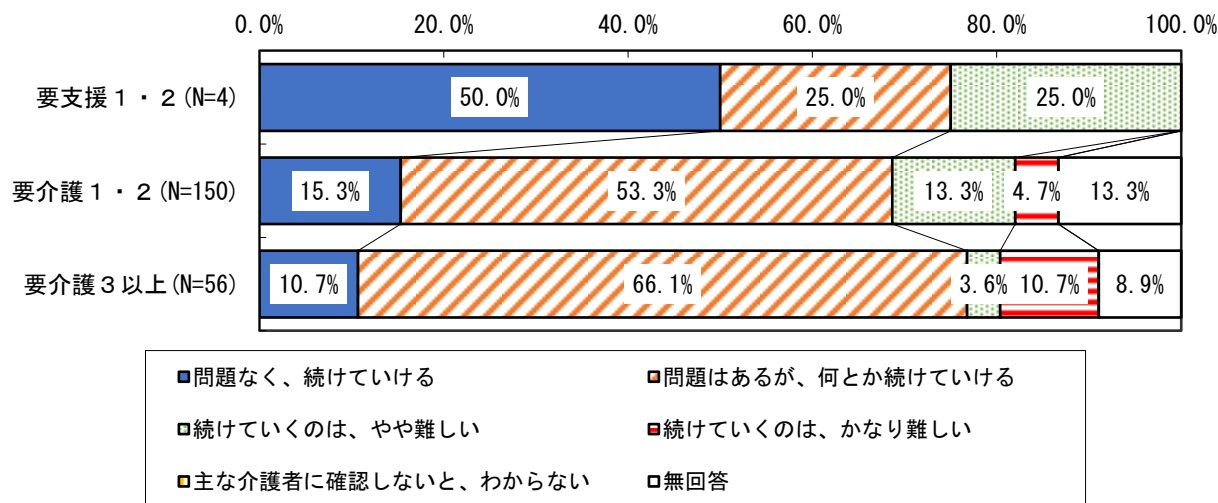
就労している介護者について、今後仕事と介護を両立できるかをみると、就労継続が難しい人の割合（「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」の合計）は「フルタイムで働いている」では25.2%と、「パートタイムで働いている」（11.7%）に比べて多くなっています。

図表 就労状況別 今後仕事と介護を両立できるか



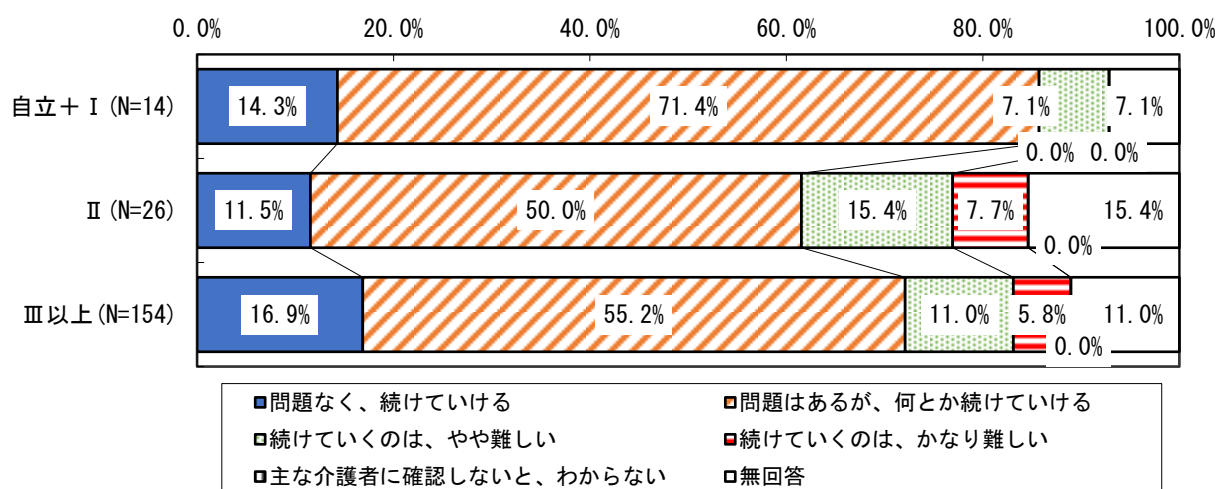
要介護度別にみると、要介護1以上では「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」の合計は6割以上となっています。

図表 要介護度別 今後仕事と介護を両立できるか



認知症自立度別にみると、就労継続が難しい人の割合は「自立＋Ⅰ」で 7.1%、「Ⅱ」で 23.1%、「Ⅲ以上」で 16.8%となっており、Ⅱ以上で就労継続が難しいと感じる人が多くなっています。

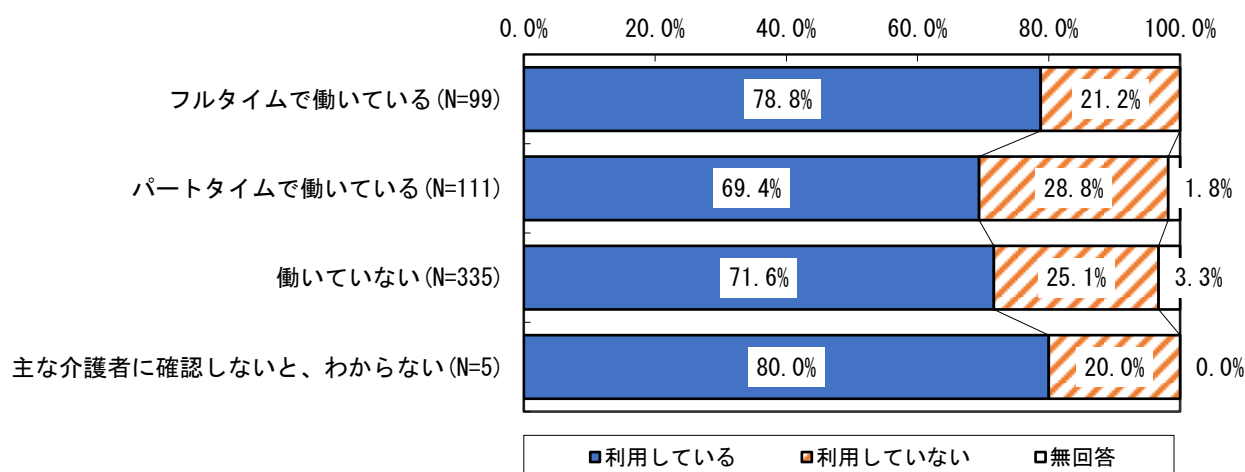
図表 認知症自立度別 今後仕事と介護を両立できるか



【介護保険サービス利用状況】

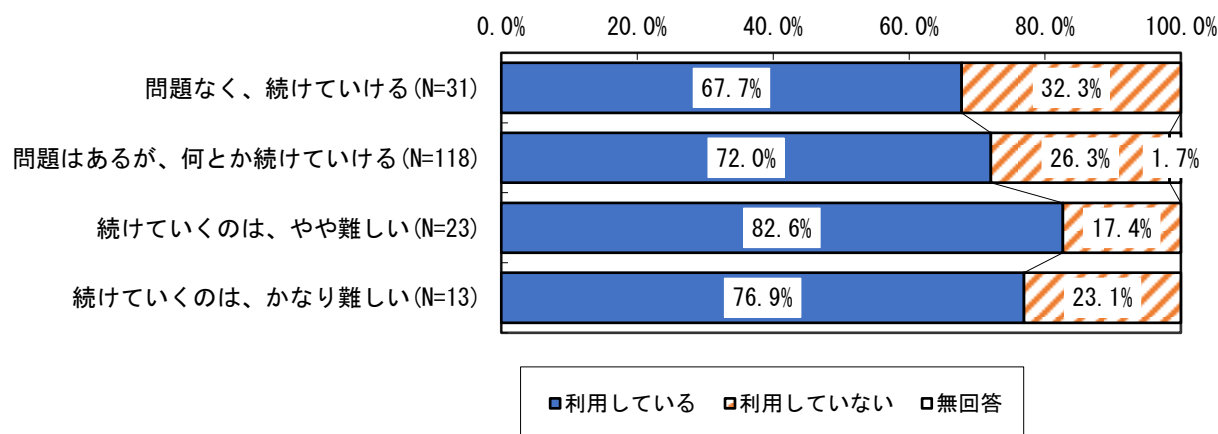
介護者の就労状況別に介護保険サービスの利用状況をみると、「利用している」は就労状況に関わらず7割程度となっています。

図表 就労状況別 介護保険サービスの利用状況



就労している介護者の就労継続見込み別に介護保険サービスの利用状況をみると、「続けていくのは、やや難しい」および「続けていくのは、かなり難しい」では、「問題なく、続けていける」と「問題はあがあるが、何とか続けていける」に比べて、介護保険サービスを利用している割合が高くなっています。

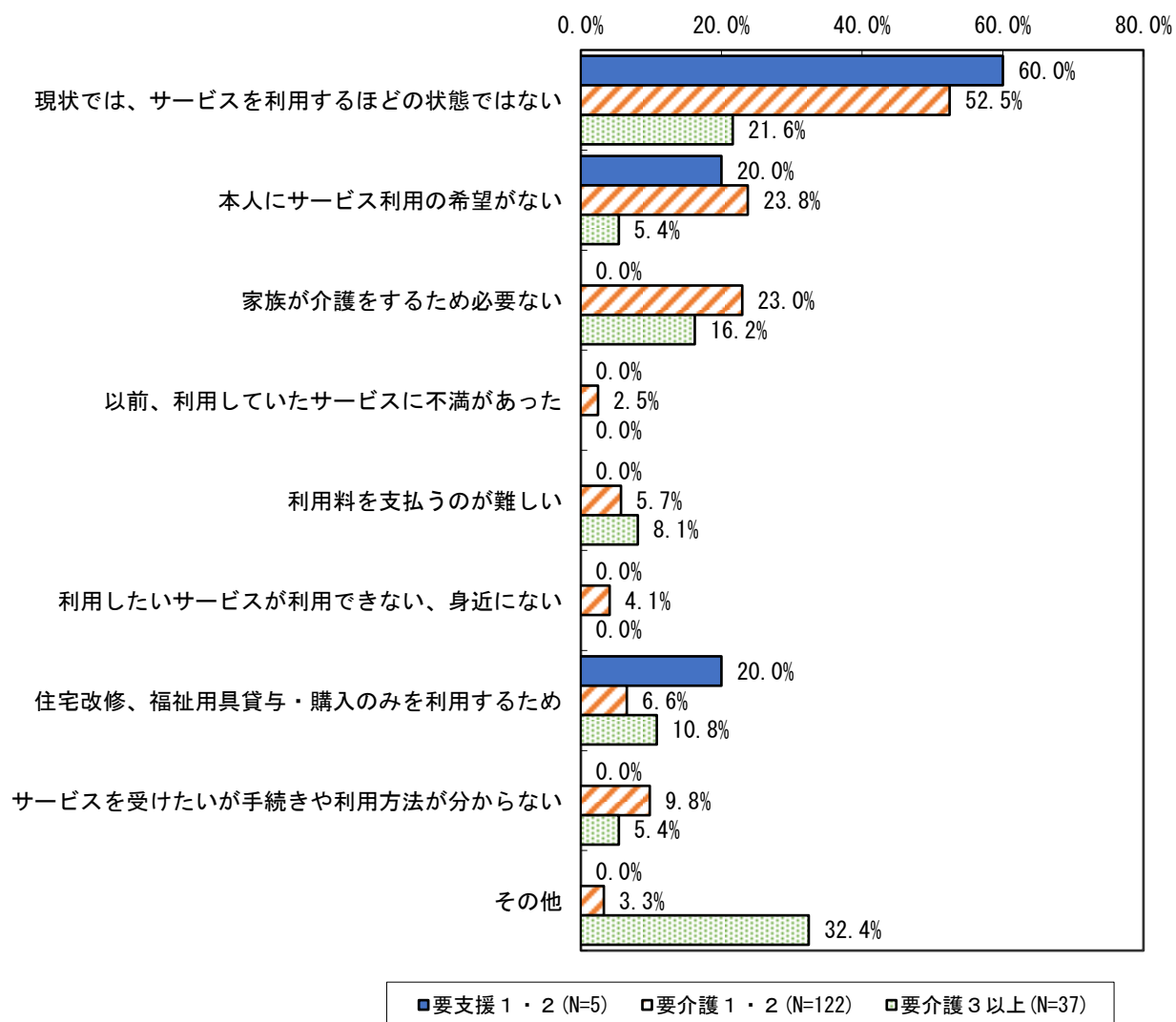
図表 就労継続見込み別 介護保険サービスの利用状況



【介護保険サービスを利用していない理由】

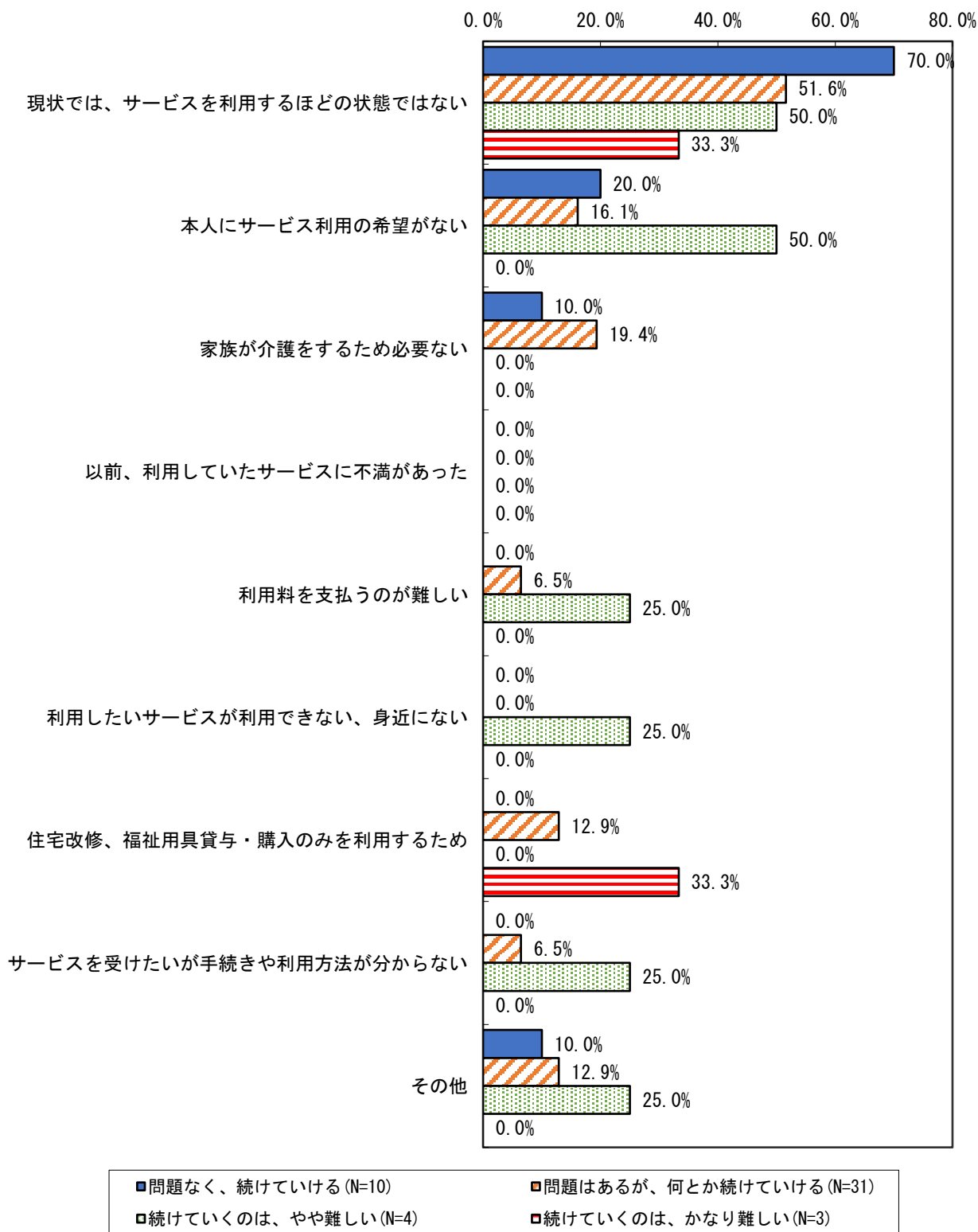
要介護度別に介護保険サービスを利用していない理由をみると、「その他」を除いて、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が最も多くなっていますが、「要介護3以上」では「要支援1・2」および「要介護1・2」に比べて少なくなっています。

図表 要介護度別 介護保険サービスを利用していない理由（複数回答）



就労している介護者の就労継続見込み別に介護保険サービスを利用していない理由をみると、「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」とともに、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が最も多くなっています。

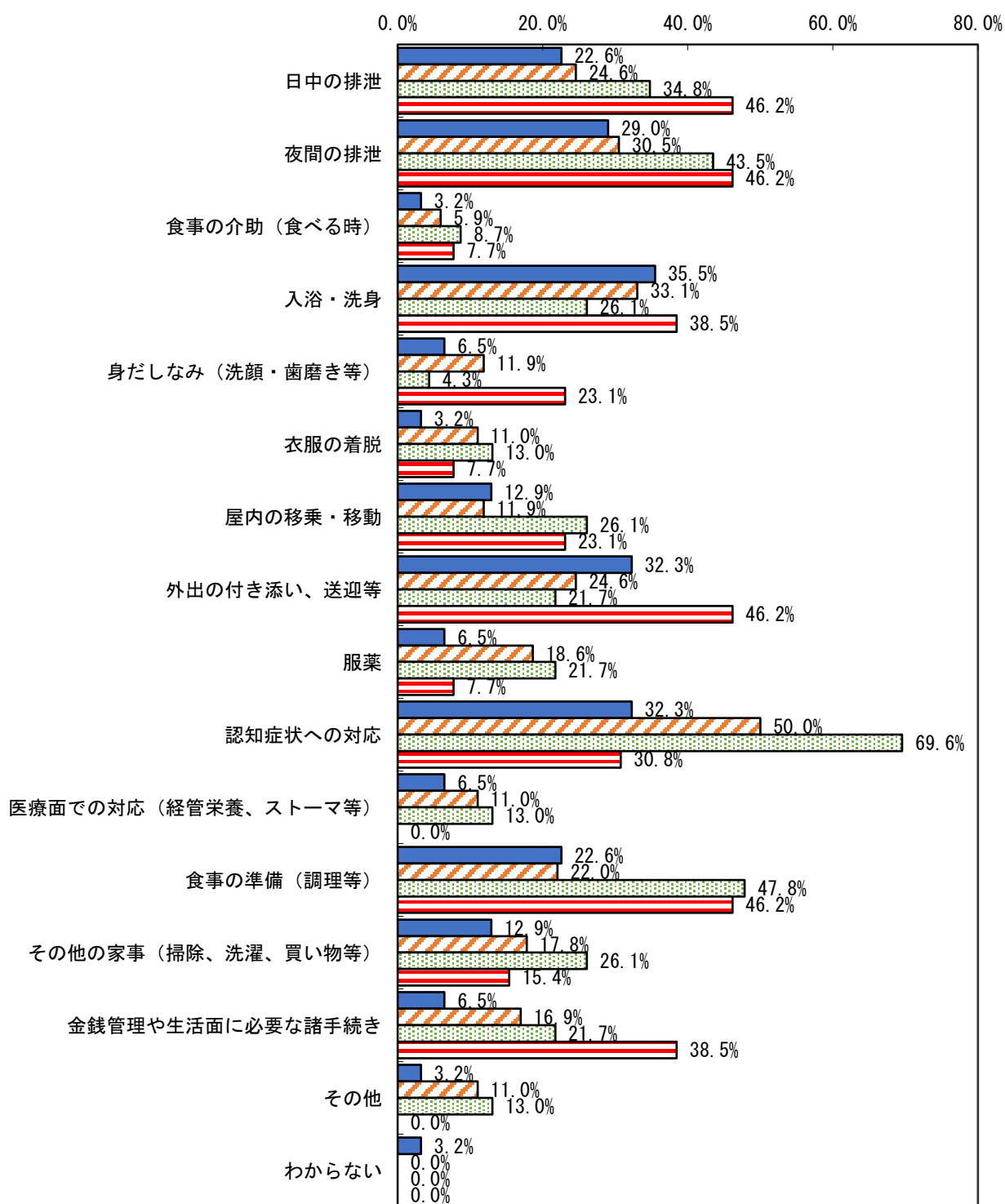
図表 就労継続見込み別 介護保険サービスを利用していない理由（複数回答）



【主な介護者が不安に感じる介護等】

就労している介護者の就労継続見込み別に主な介護者が不安に感じる介護をみると、ほとんどの項目で「続けていくのは、やや難しい」または「続けていくのは、かなり難しい」人が「問題なく、続けていける」または「問題はあるが、何とか続けていける」人より多くなっており、「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「屋内の移乗・移動」、「食事の準備（調理等）」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」などで、特に差が大きくなっています。

図表 就労継続見込み別 主な介護者が不安に感じる介護等（3つ以内で複数回答）



■問題なく、続けていける (N=31)

▨問題はあるが、何とか続けていける (N=118)

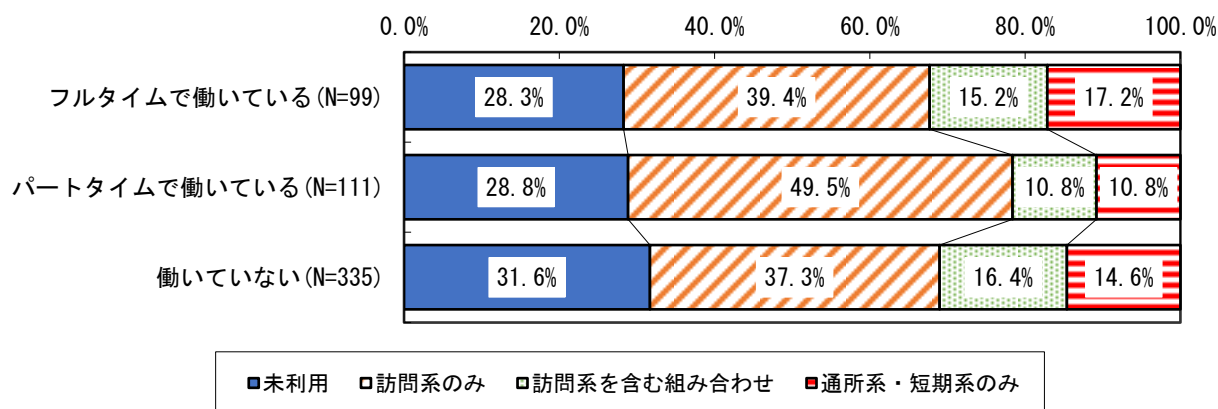
▨続けていくのは、やや難しい (N=23)

■続けていくのは、かなり難しい (N=13)

【サービス利用の組み合わせ】

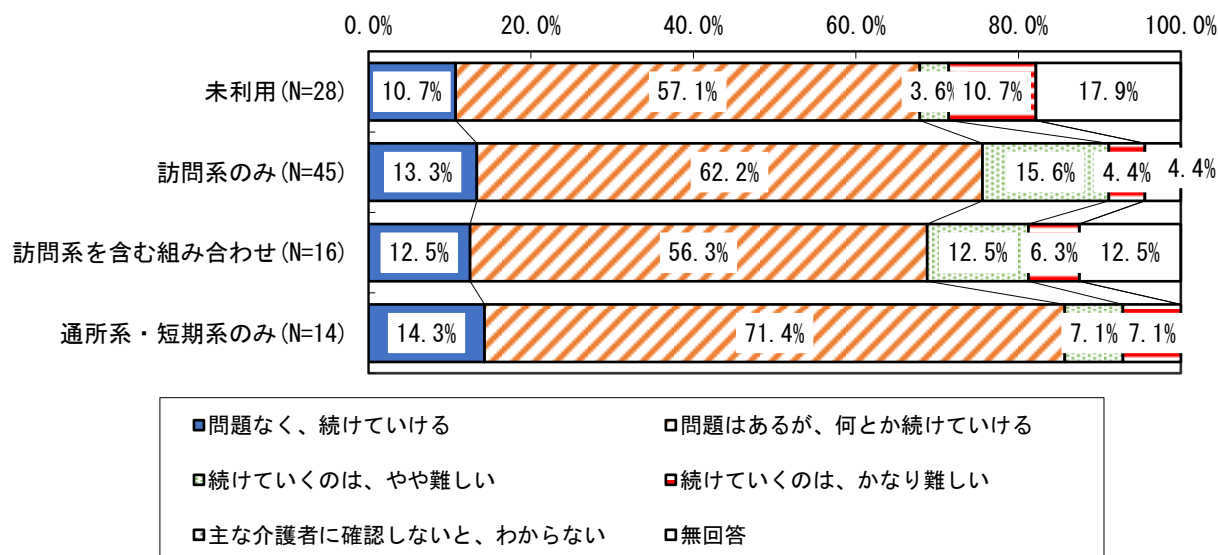
介護者の就労状況別にサービス利用の組み合わせをみると、「パートタイムで働いている」では「訪問系のみ」の割合が介護者が「フルタイムで働いている」または「働いていない」場合に比べてやや高く、「訪問系を含む組み合わせ」と「通所系・短期系のみ」の割合が低くなっています。

図表 就労状況別 サービス利用の組み合わせ



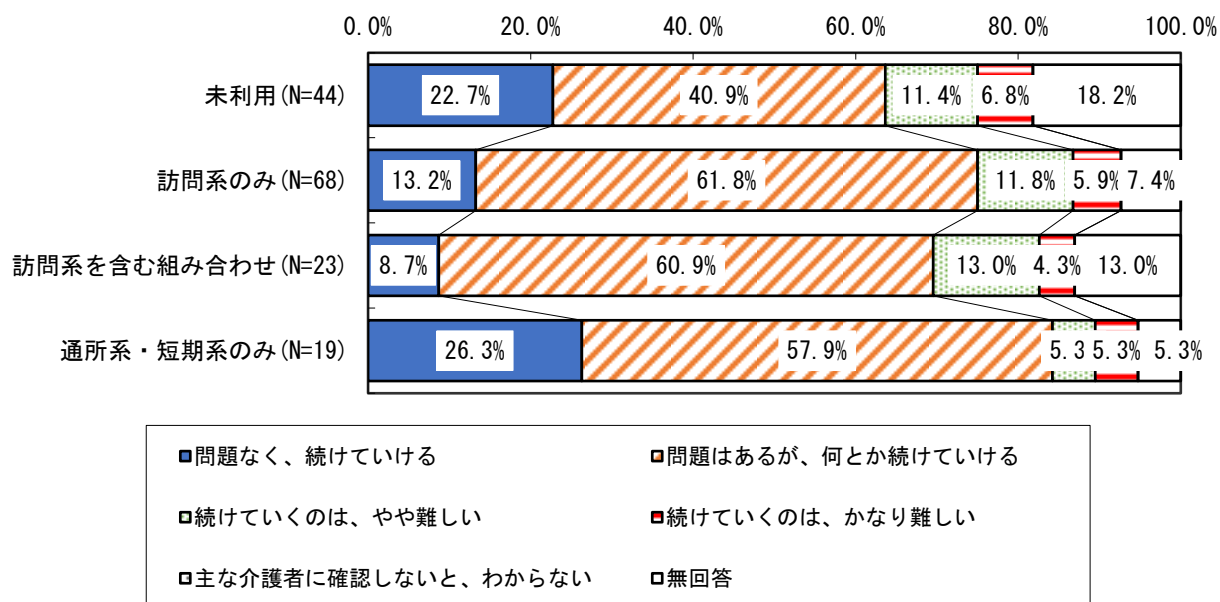
要介護2以上の要介護者について、サービス利用の組み合わせ別に介護者の就労継続見込みをみると、就労を続けていける人の割合（「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」の合計）は、「通所系・短期系のみ」では8割を超えていますが、「未利用」、「訪問系のみ」ではやや少なくなっています。

図表 サービス利用の組み合わせ別 就労継続見込み（要介護2以上）



認知症自立度Ⅱの要介護者について、サービス利用の組み合わせ別に介護者の就労継続見込みをみると、就労を続けていける人の割合はいずれも5割以上となっていますが、「通所系・短期系のみ」では84.2%と多くなっています。

図表 サービス利用の組み合わせ別 就労継続見込み（認知症自立度Ⅱ以上）

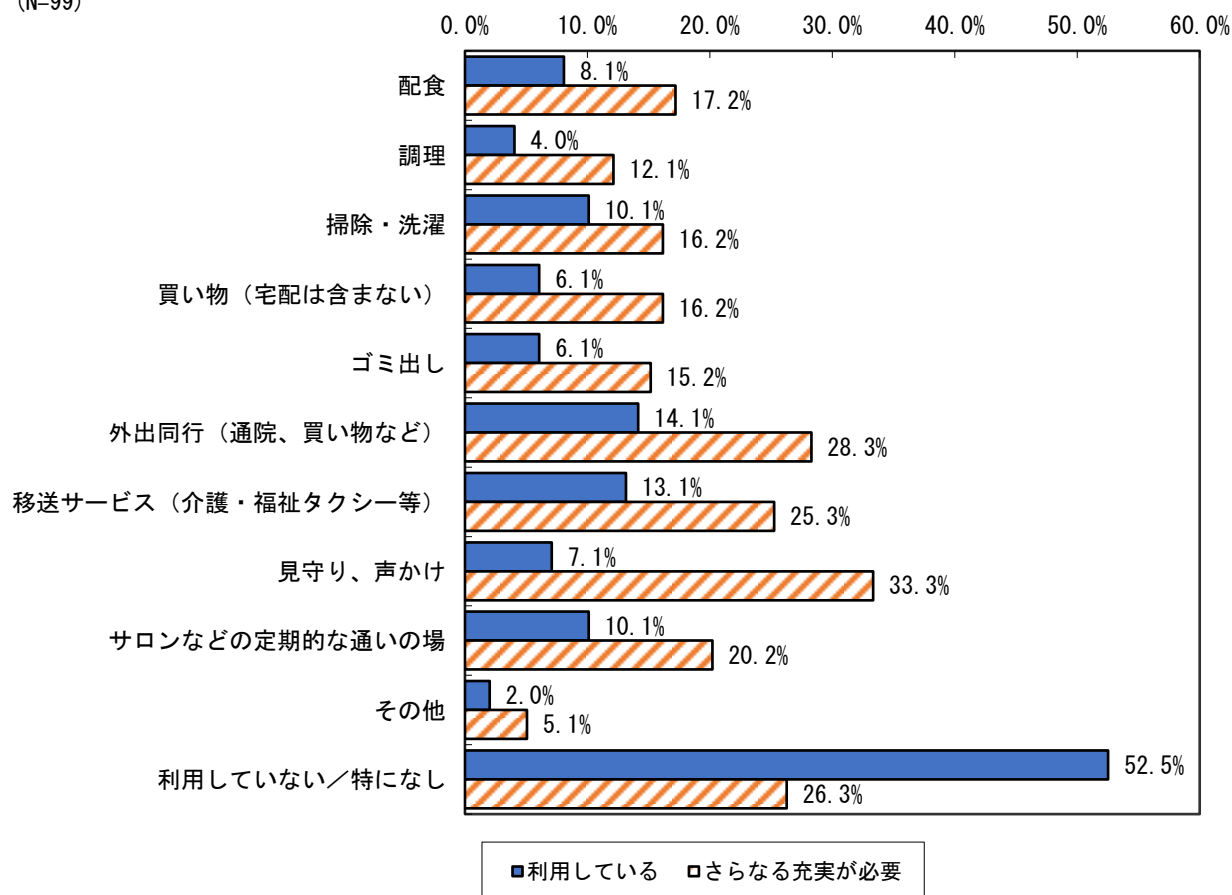


【保険外の支援・サービス】

フルタイムで働いている介護者について、現在利用している保険外の支援・サービスと、在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスの差をみると、多くの生活支援サービスでさらなる充実が必要と感じているが、現在は利用していない状況がみてとれます。特に「見守り、声かけ」「外出同行（通院、買い物など）」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」などは差が大きくなっています。

図表 保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）

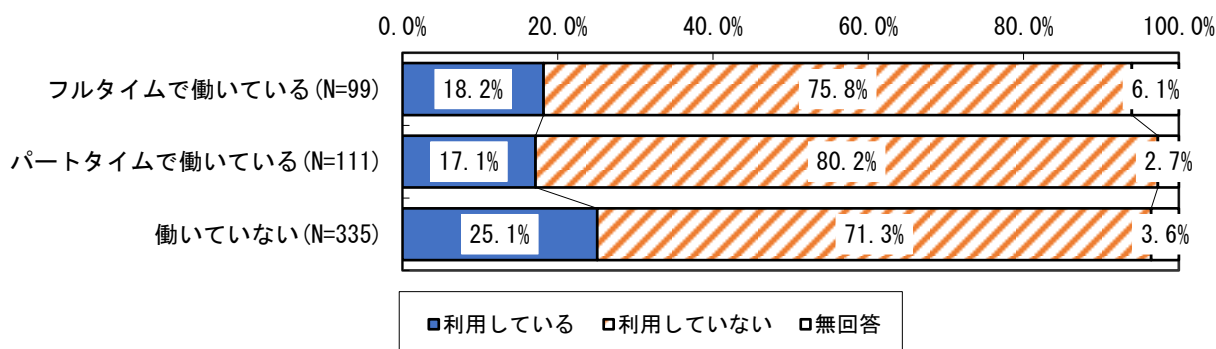
(N=99)



【訪問診療の利用状況】

介護者の就労状況別に訪問診療の利用状況をみると、「利用している」は「働いていない」（25.1%）、「フルタイムで働いている」（18.2%）、「パートタイムで働いている」（17.1%）の順に多くなっています。

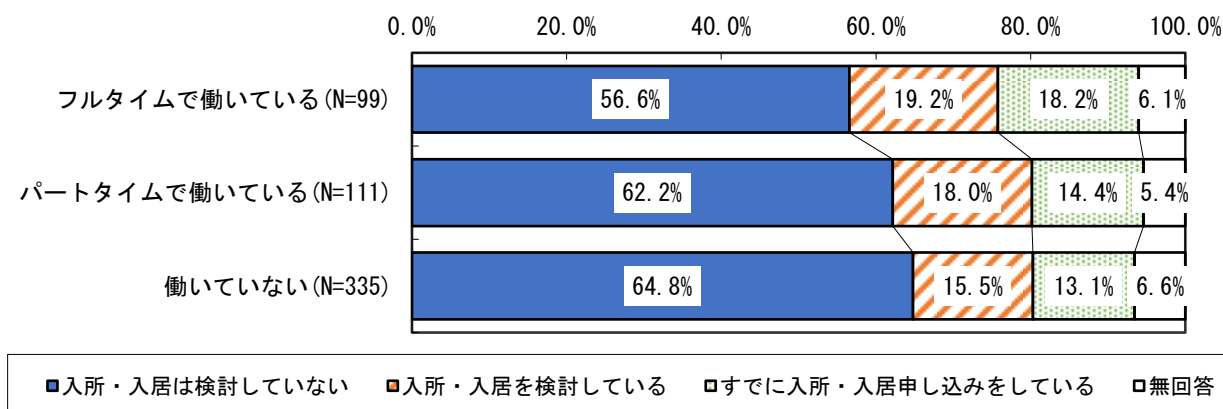
図表 就労状況別 訪問診療の利用状況



【施設等への入所・入居の検討状況】

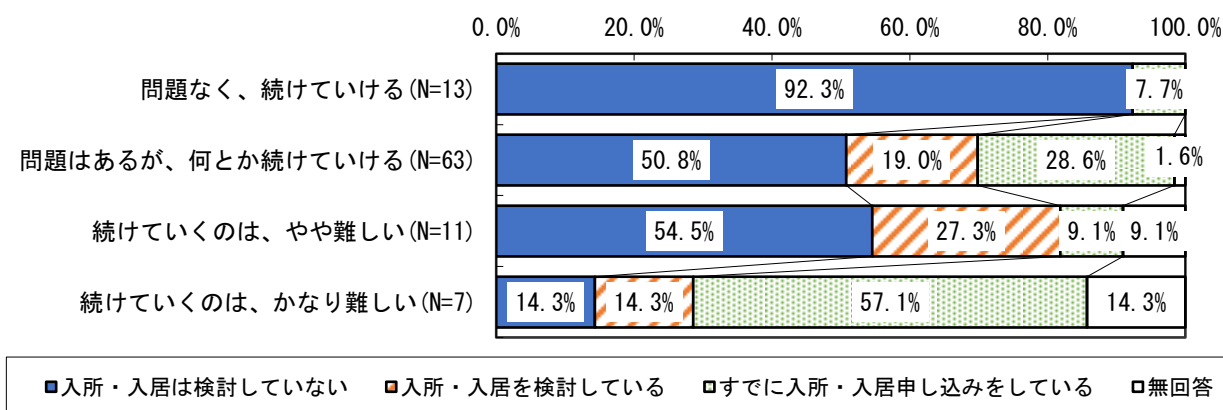
介護者の就労状況別に施設等への入所・入居の検討状況をみると、就労状況による差はあまりありませんが、「フルタイムで働いている」では「入所・入居は検討していない」が56.6%とやや少なくなっています。

図表 就労状況別 施設等検討の状況



要介護2以上の要介護者について、介護者の就労継続の見込み別に施設等への入所・入居の検討状況をみると、就労継続が困難なほど「入所・入居を検討している」「すでに入所・入居申し込みを検討している」が多くなっています。

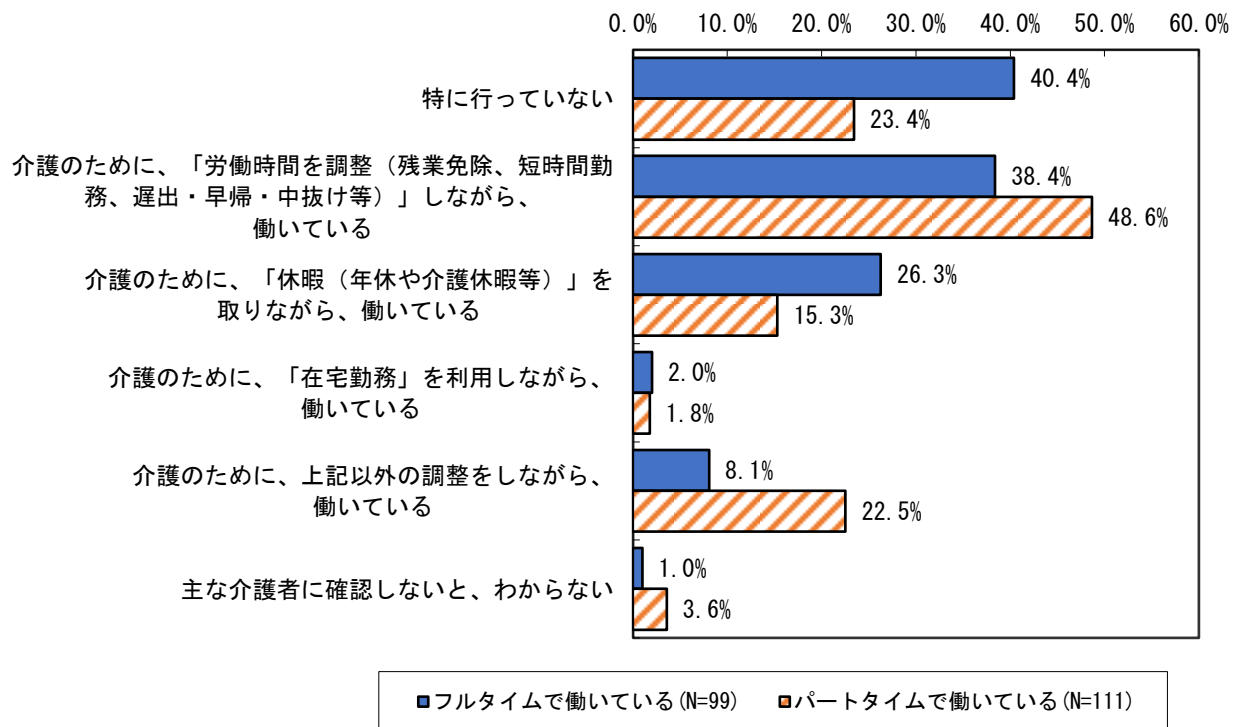
図表 就労継続見込み別 施設等検討の状況（要介護2以上）



【働き方の調整状況と効果的な勤め先からの支援】

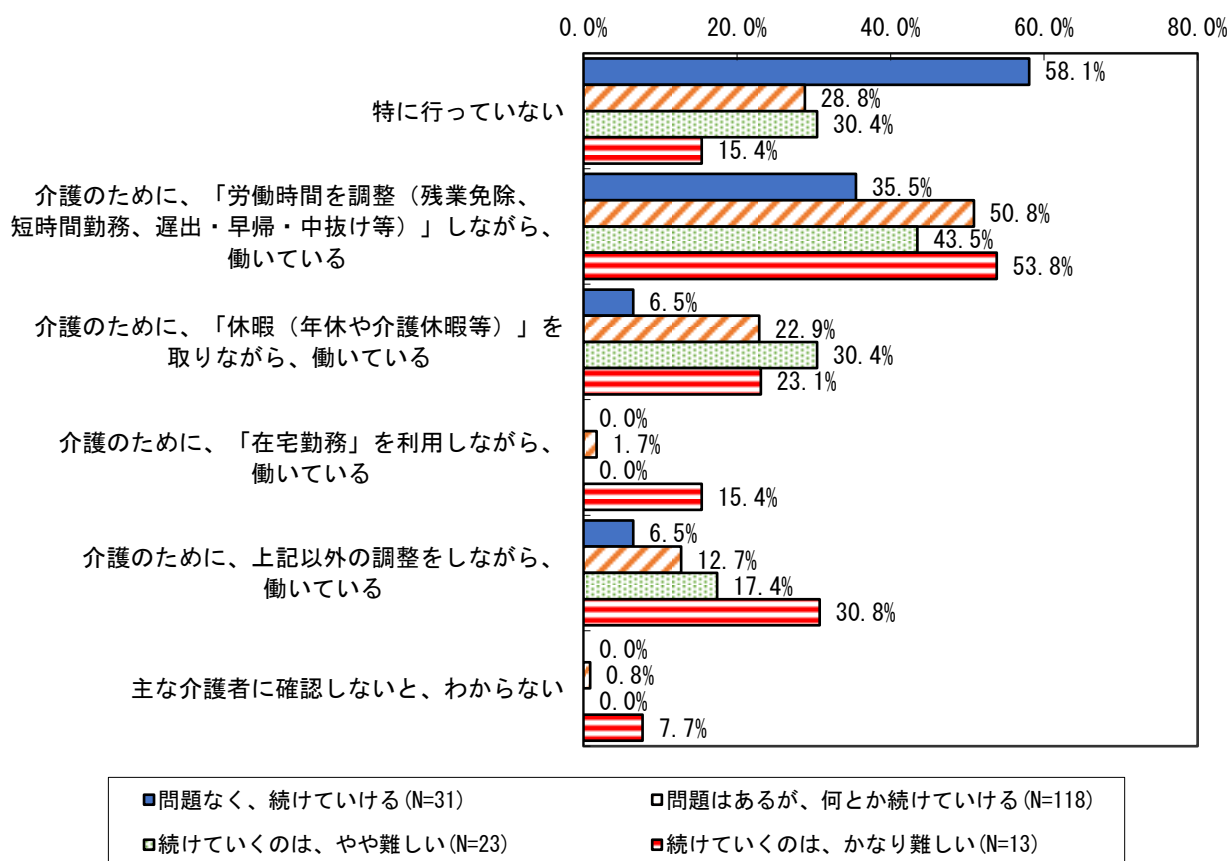
介護者の職場における働き方の調整状況をみると、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」は「フルタイムで働いている」が 38.4%、「パートタイムで働いている」が 48.6%となっています。また、「特に行っていない」は「フルタイムで働いている」が「パートタイムで働いている」より多くなっています。

図表 就労状況別 介護のための働き方の調整状況



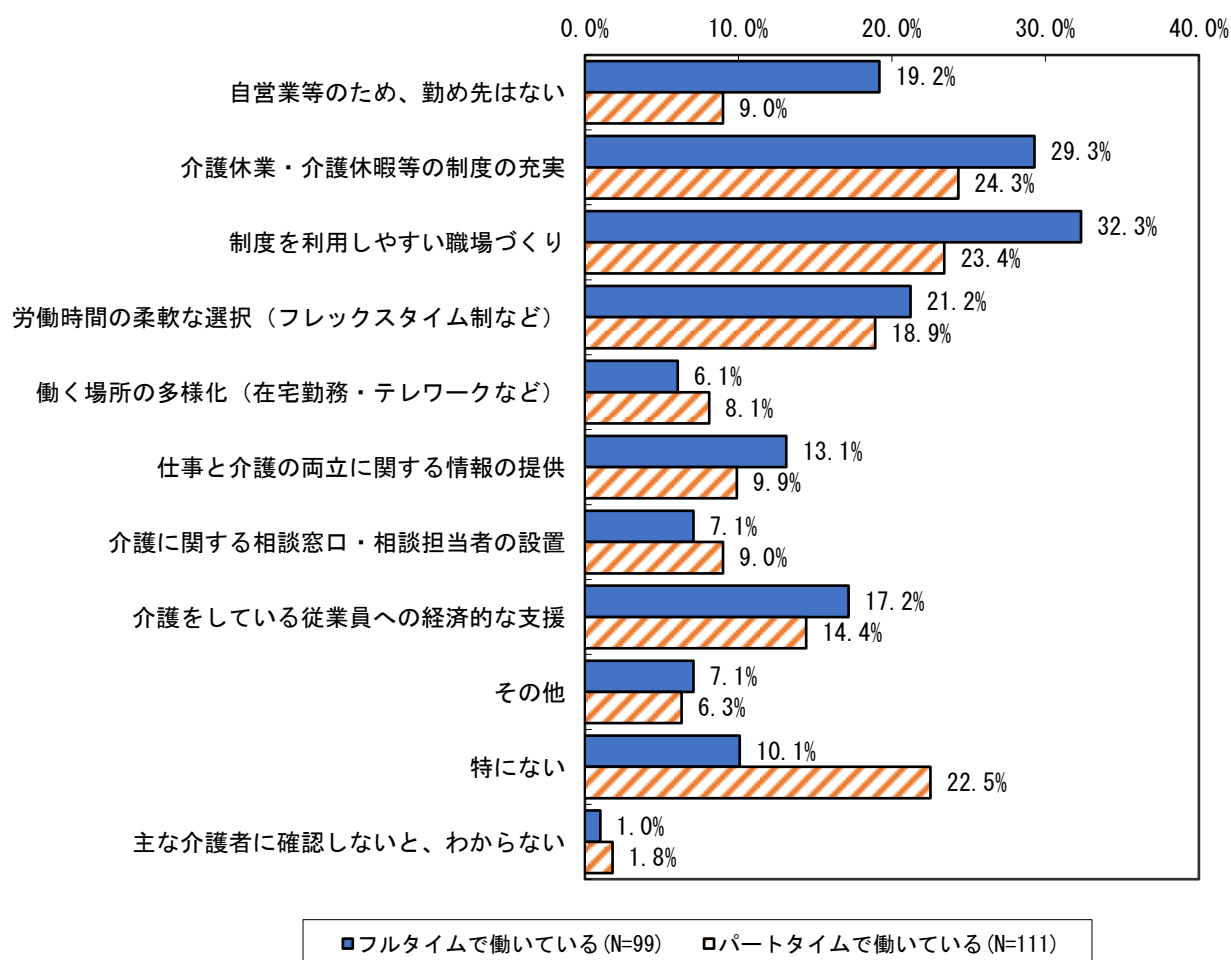
介護者の就労継続見込み別に職場における働き方の調整状況をみると、「問題なく、続けていける」では「特に行っていない」、それ以外では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」がそれぞれ最も多くなっています。

図表 就労継続見込み別 介護のための働き方の調整状況



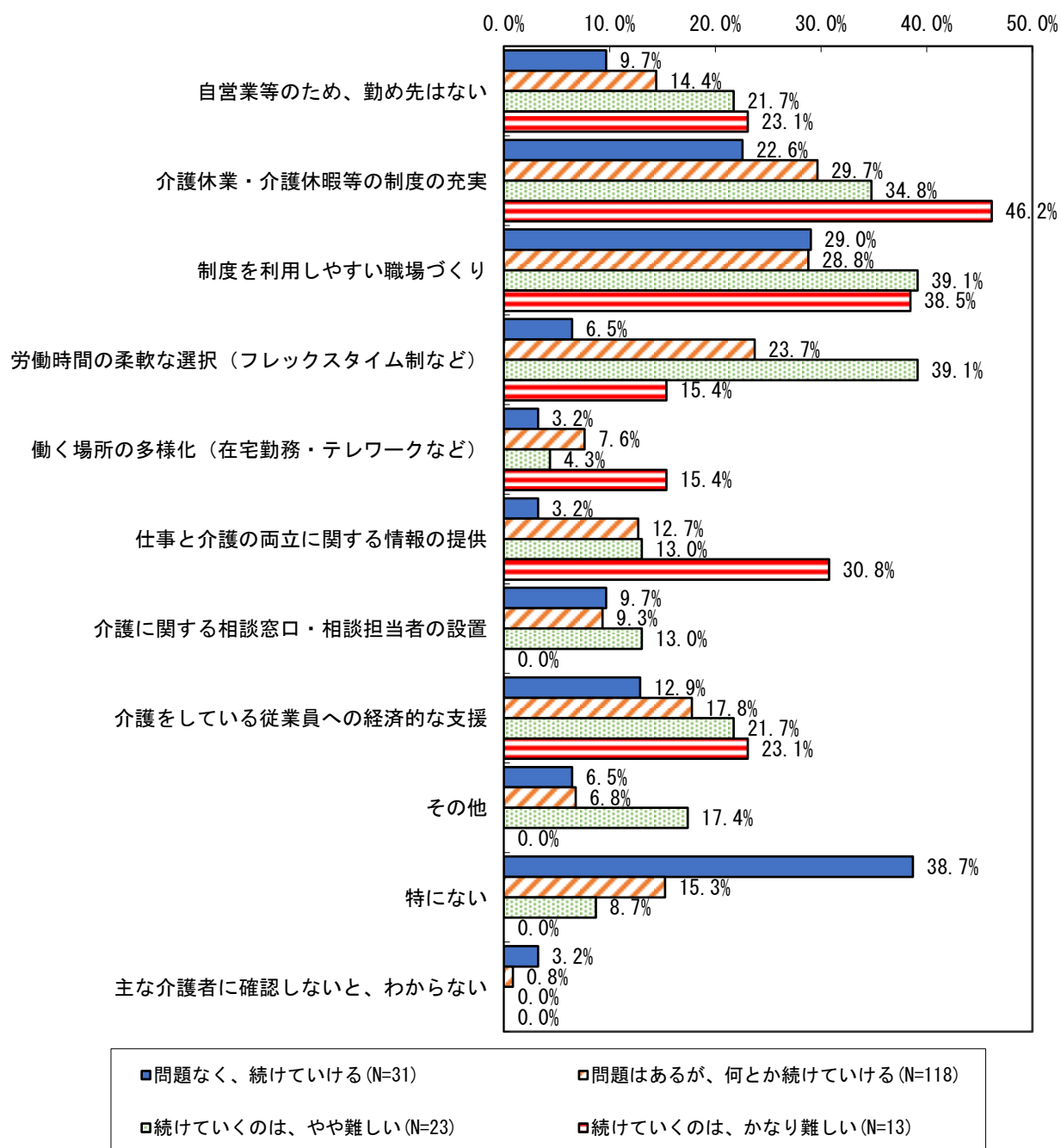
就労している介護者について効果的な勤め先の支援をみると、フルタイムでは「制度を利用しやすい職場づくり」、パートタイムでは「介護休業・介護休暇等の制度の充実」がそれぞれ最も多くなっています。また、「パートタイムで働いている」では、「特にない」が「フルタイムで働いている」の2倍以上多くなっています。なお、「フルタイムで働いている」では「自営業等のため、勤め先はない」が19.2%となっています。

図表 就労状況別 効果的な勤め先の支援



介護者の就労継続見込み別に効果的な勤め先の支援をみると、どの項目もおおむね就労継続が困難なほど多い傾向がみられます。

図表 就労継続見込み別 効果的な勤め先の支援

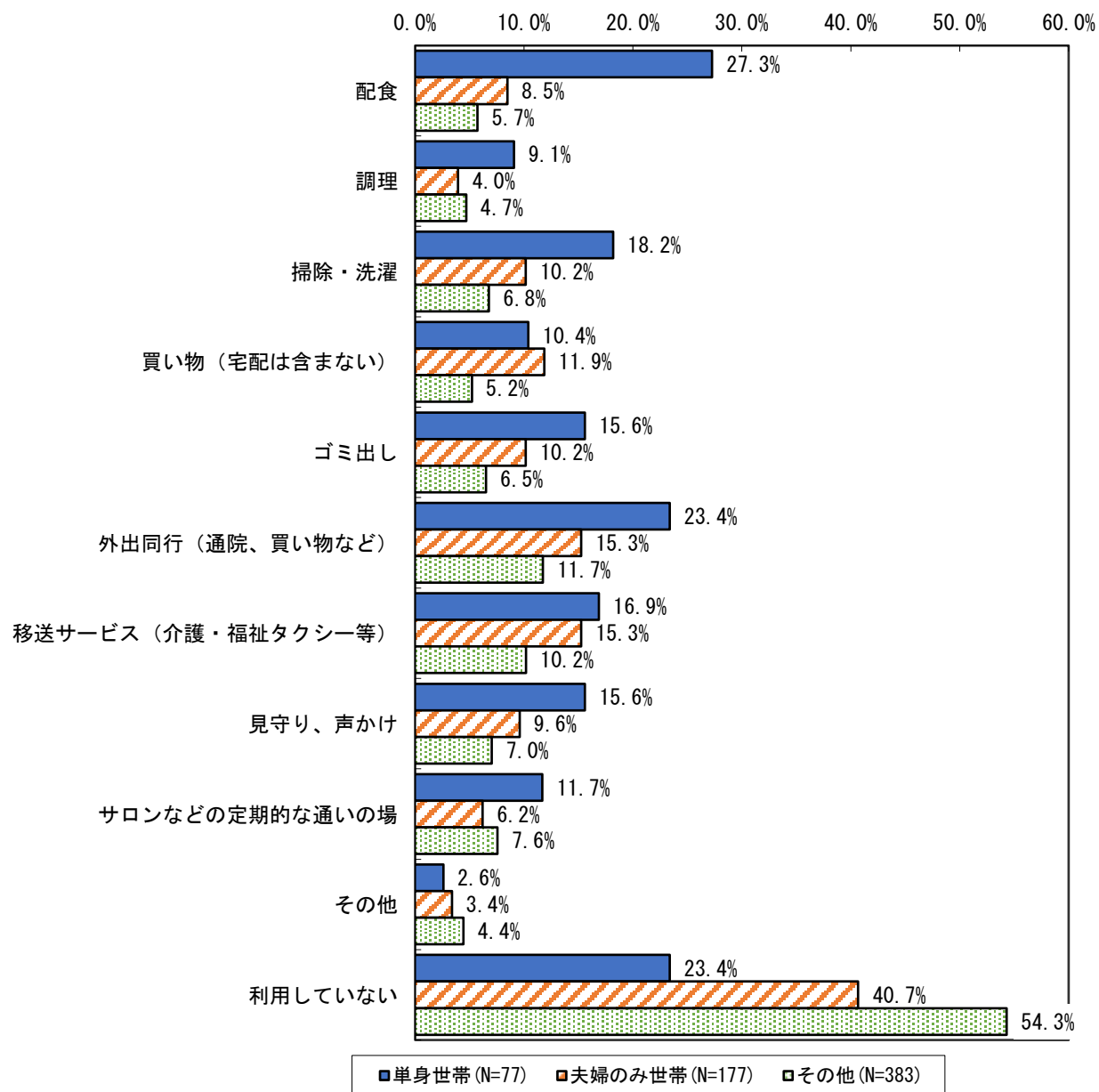


（３）保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

【保険外の支援・サービス】

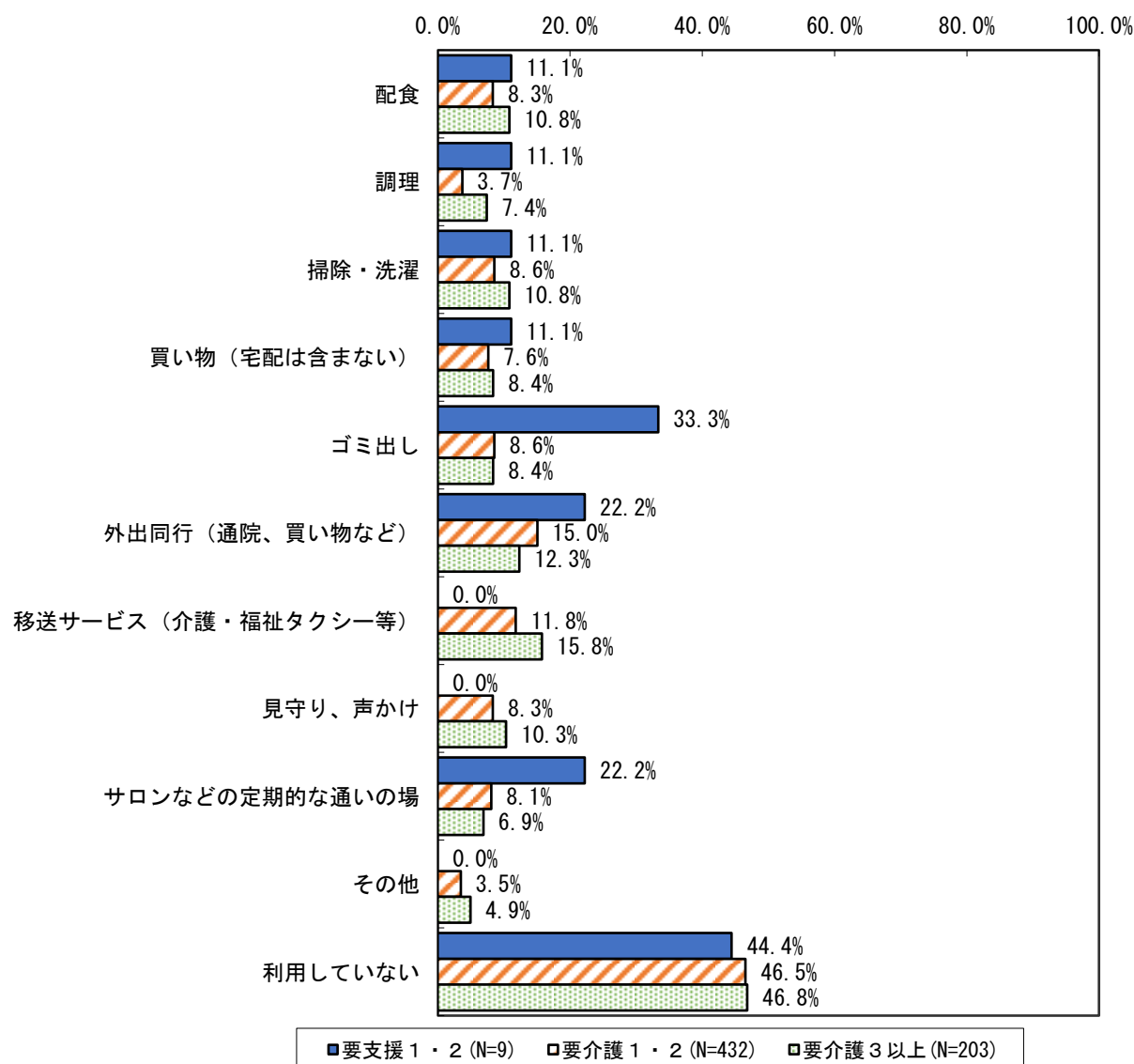
世帯類型別に保険外の支援・サービスの利用状況をみると、単身世帯では各サービスを利用している割合が比較的高くなっており、「利用していない」は23.4%となっています。

図表 世帯類型別 保険外の支援・サービスの利用状況



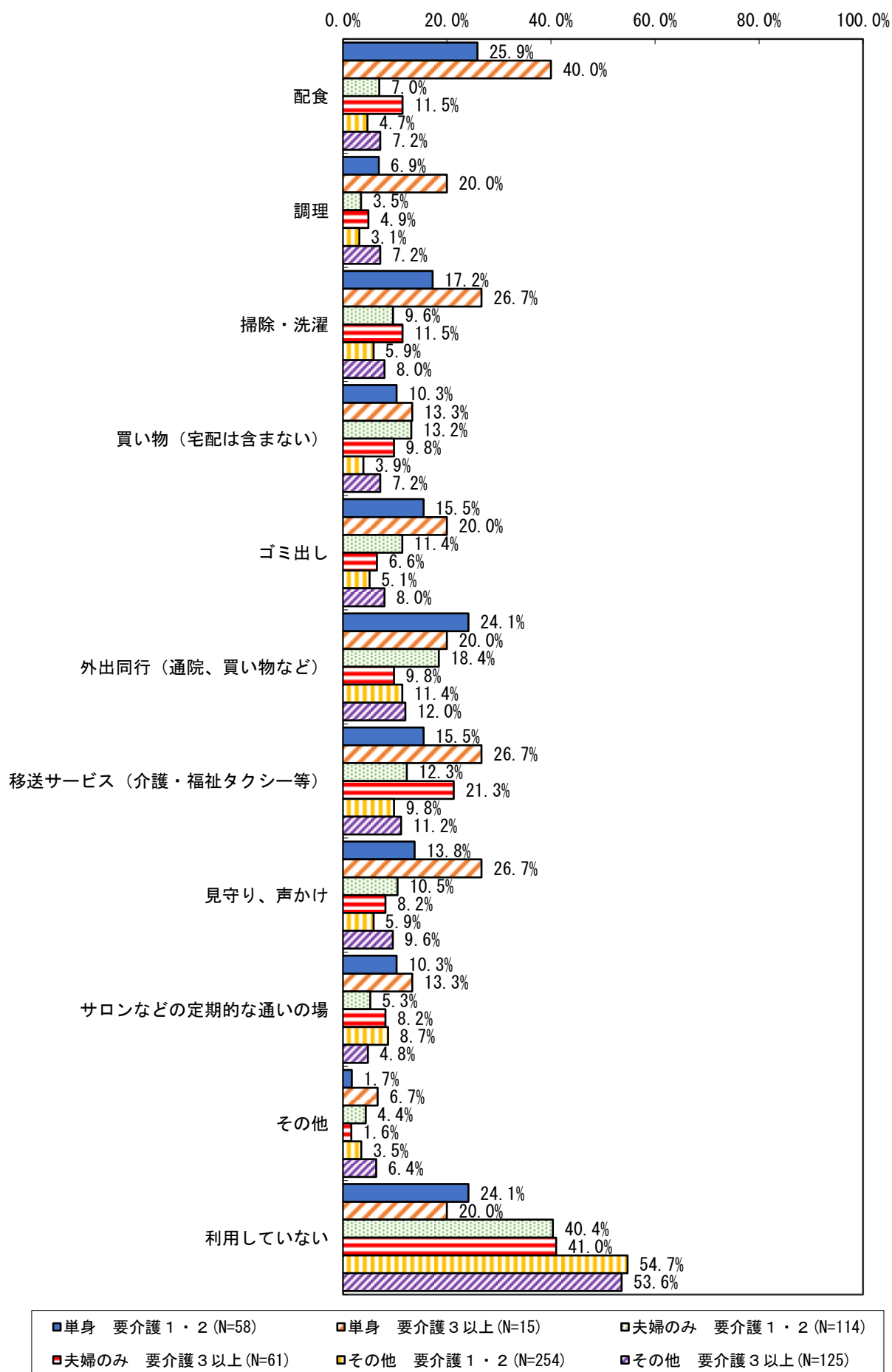
要介護度別に保険外の支援・サービスの利用状況をみると、「ゴミ出し」や「外出同行（通院、買い物など）」、「サロンなどの定期的な通いの場」は要支援１・２では利用している人の割合が比較的高くなっています。要介護１・２と要介護３以上では利用状況に大きな差はみられません。また、「利用していない」はいずれの要介護度も45%前後となっています。

図表 要介護度別 保険外の支援・サービスの利用状況



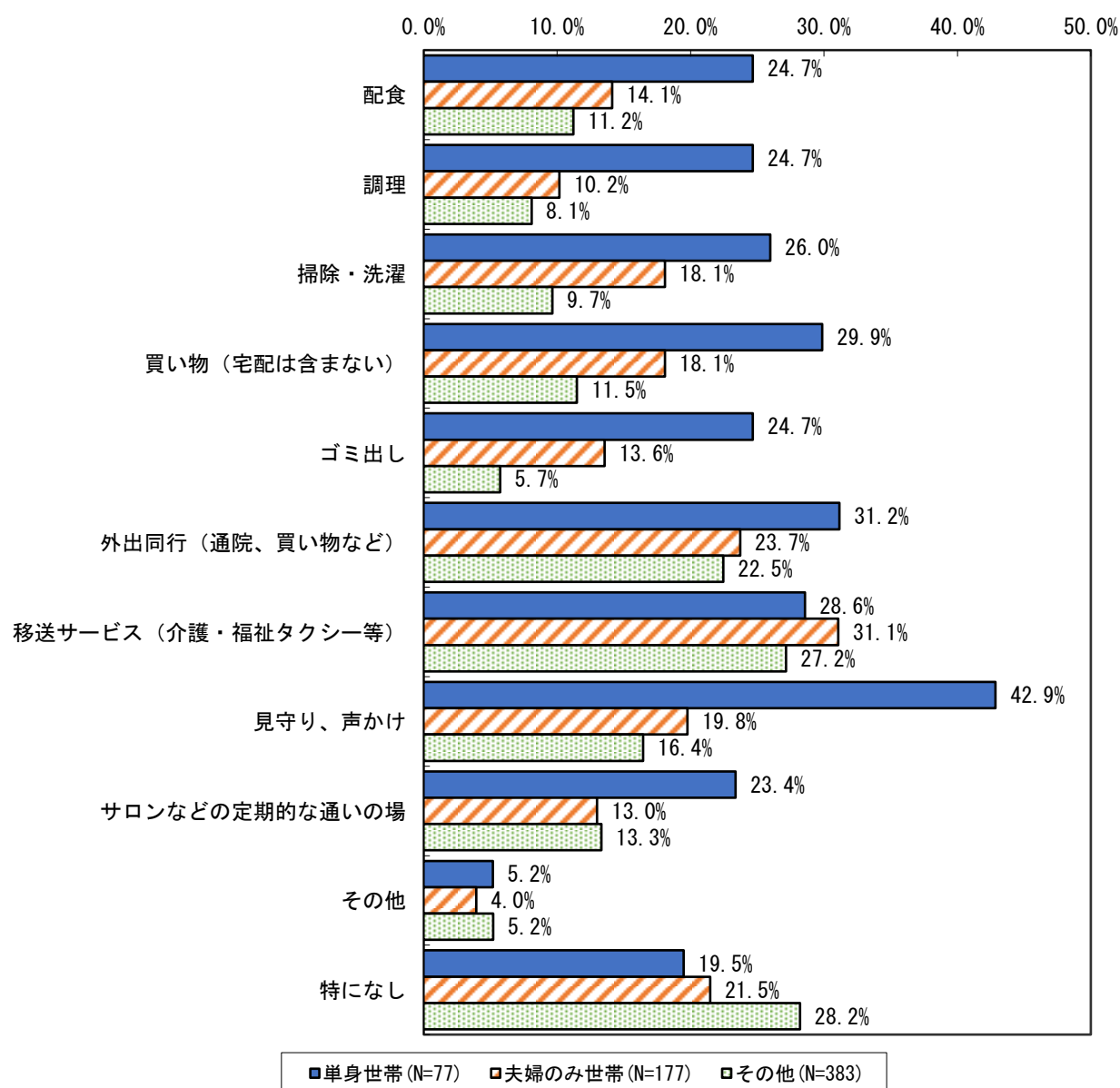
要介護１以上について世帯類型別に保険外の支援・サービスの利用状況をみると、「単身要介護３以上」で「配食」、「調理」、「掃除・選択」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」を利用している人の割合が高くなっています。「利用していない」は夫婦のみ世帯とその他の世帯では要介護度による差はみられません。

図表 世帯類型・要介護度別 保険外の支援・サービスの利用状況（要介護１以上）



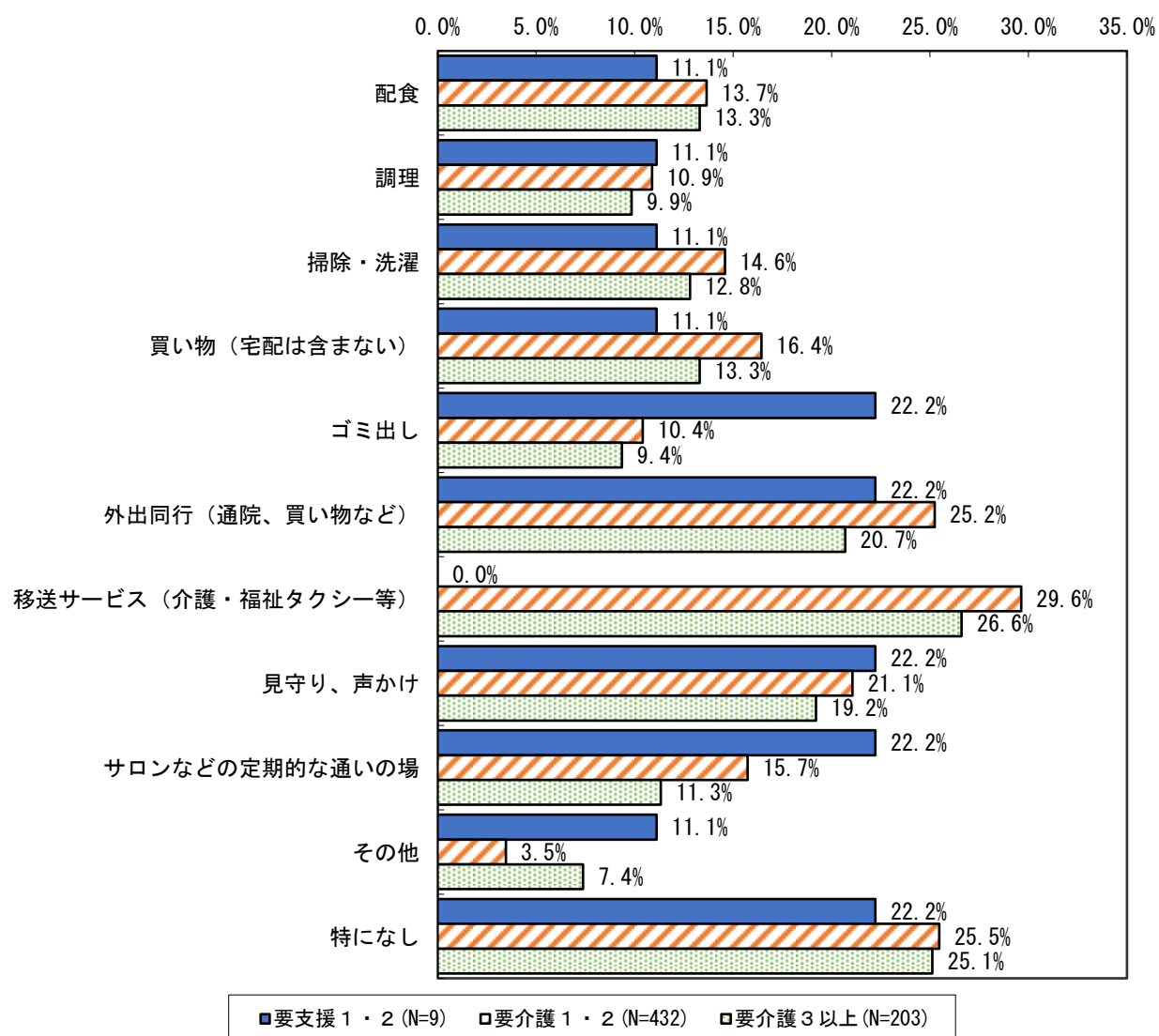
世帯類型別に在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスをみると、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」を除くいずれの支援・サービスも単身世帯のニーズが高く、「見守り、声かけ」は 42.9% となっています。「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」はいずれの世帯類型でも 30% 前後となっており、差は見小さくなっています。

図表 世帯類型別 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



要介護度別に在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスをみると、要介護１・２と要介護３以上では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が最もニーズが高くなっています。

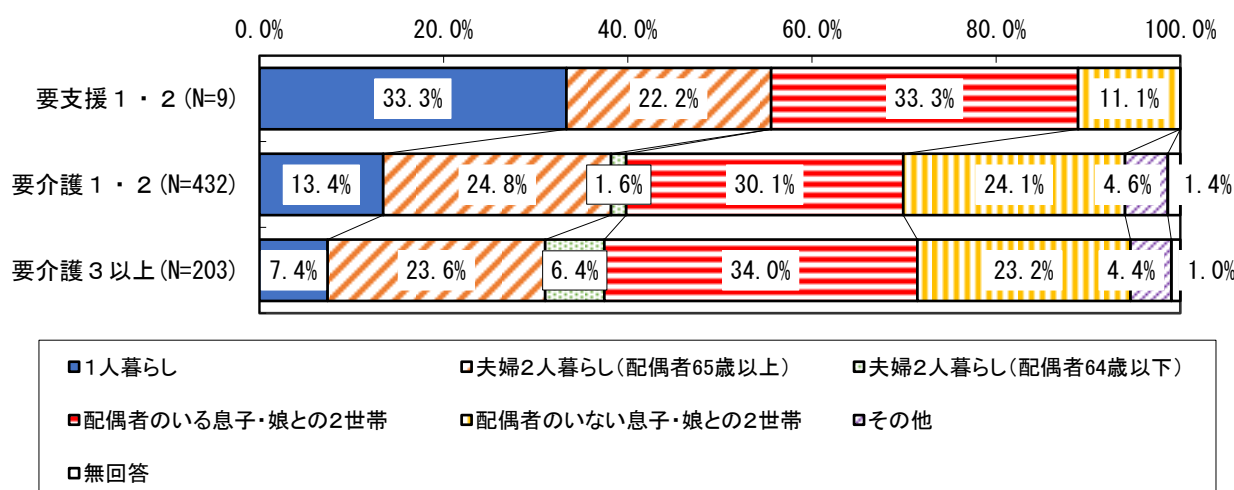
図表 要介護度別 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



（４）将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

要介護度別の世帯類型の割合をみると、要介護度の重度化に伴い、「１人暮らし」の割合が減少し、「配偶者のいない息子・娘との２世帯」の割合が増加しています。

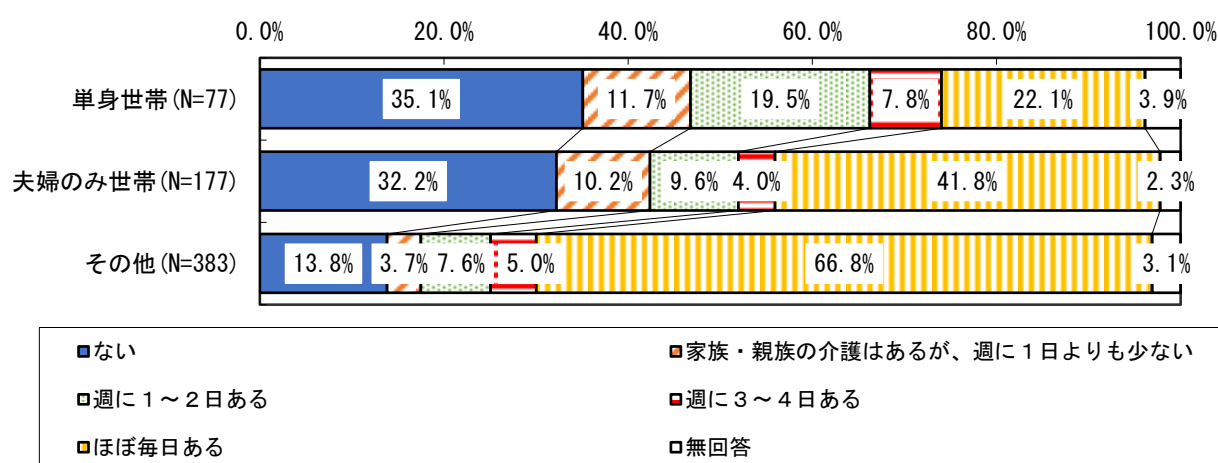
図表 要介護度別 世帯類型



【家族等による介護の頻度】

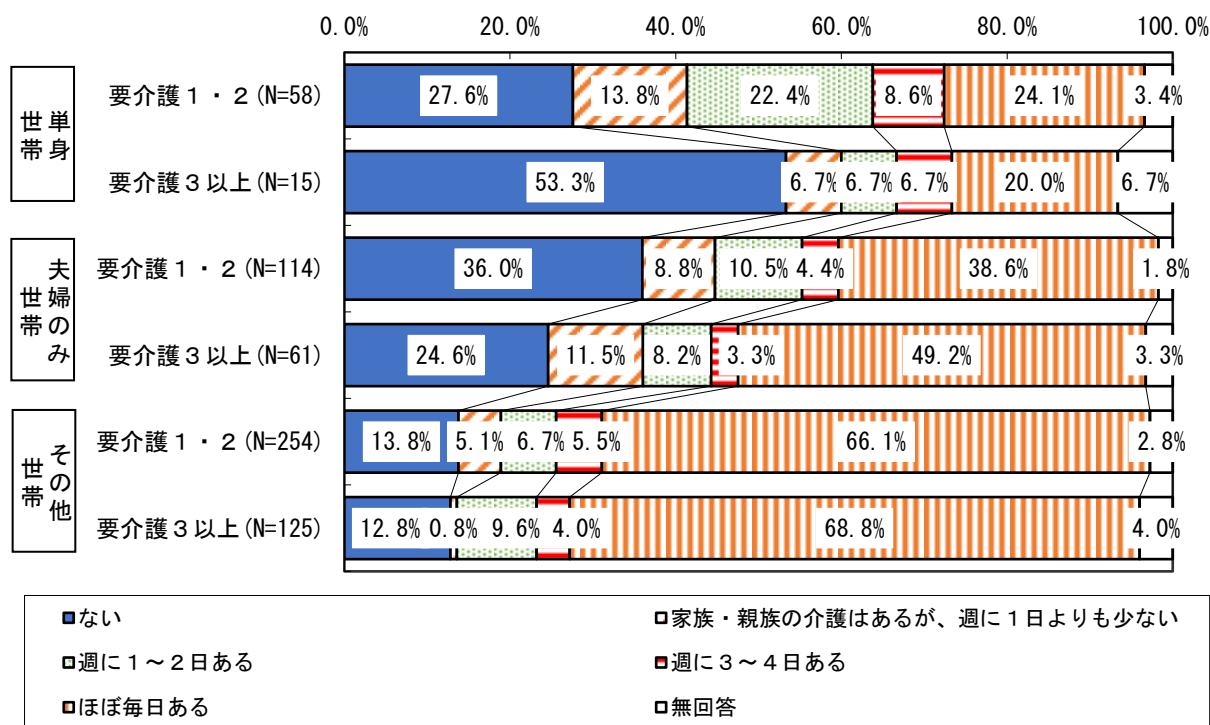
世帯類型別に家族等による介護の頻度をみると、単身世帯では「ない」が最も多く、夫婦のみ世帯とその他の世帯では「ほぼ毎日ある」が最も多くなっています。

図表 世帯類型別 家族等による介護の頻度



世帯類型・要介護度別に家族等による介護の頻度をみると、「ほぼ毎日ある」は夫婦のみ世帯とその他の世帯ではいずれの要介護度でも最も多くなっています。一方、単身世帯の要介護3以上では「ない」が53.3%となっています（ただし、回答数が少ない点に留意が必要です）。

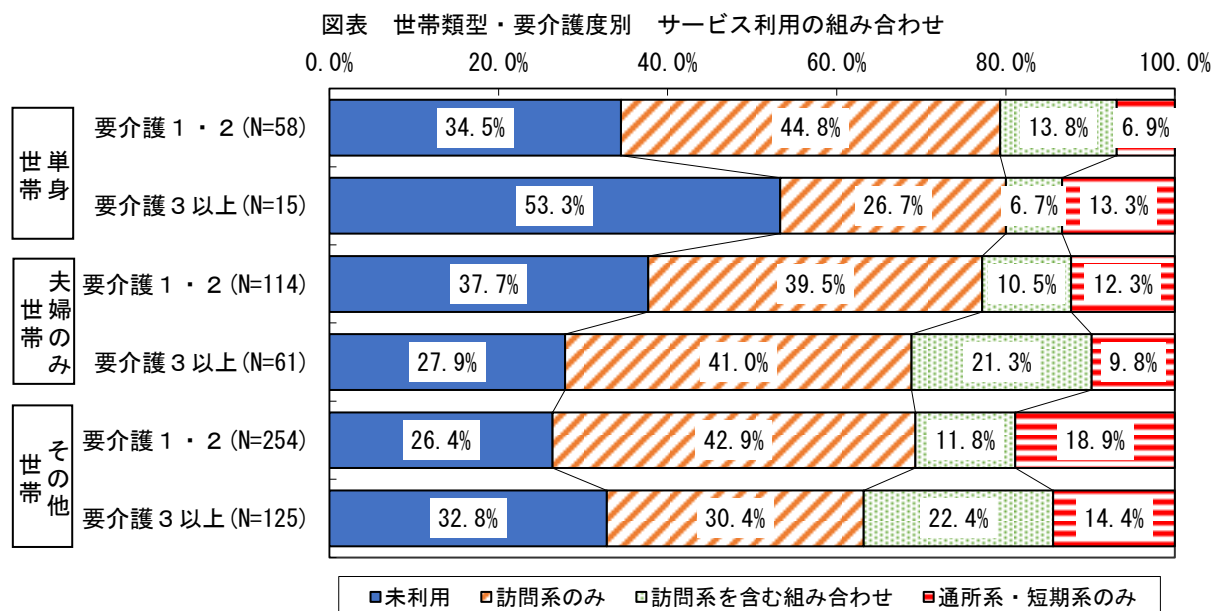
図表 世帯類型・要介護度別 家族等による介護の頻度



※「要支援1・2」は件数が少ないため省略。

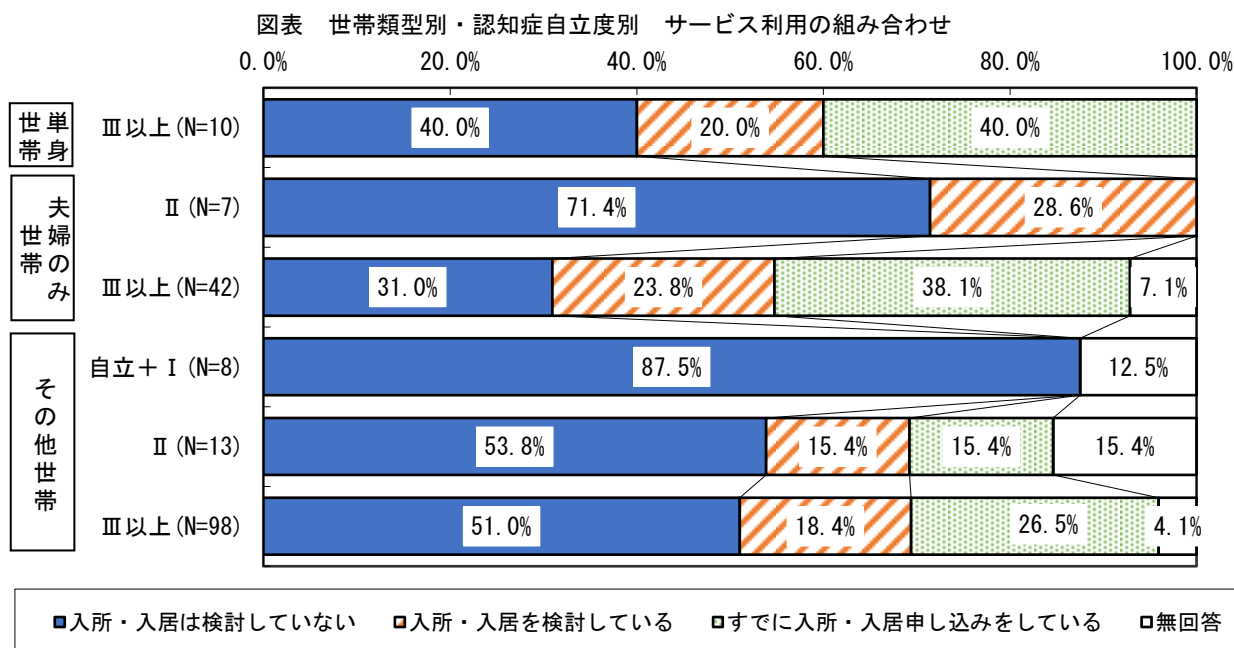
【サービス利用の組み合わせ】

世帯類型別・要介護度別にサービス利用の組み合わせをみると、単身世帯の要介護3以上とその他の世帯の要介護3以上を除いて、「訪問系のみ」が最も多くなっています。「訪問系を含む組み合わせ」は夫婦のみ世帯の要介護3以上とその他性の要介護3以上で約2割となっています。



※「要支援1・2」は件数が少ないため省略。

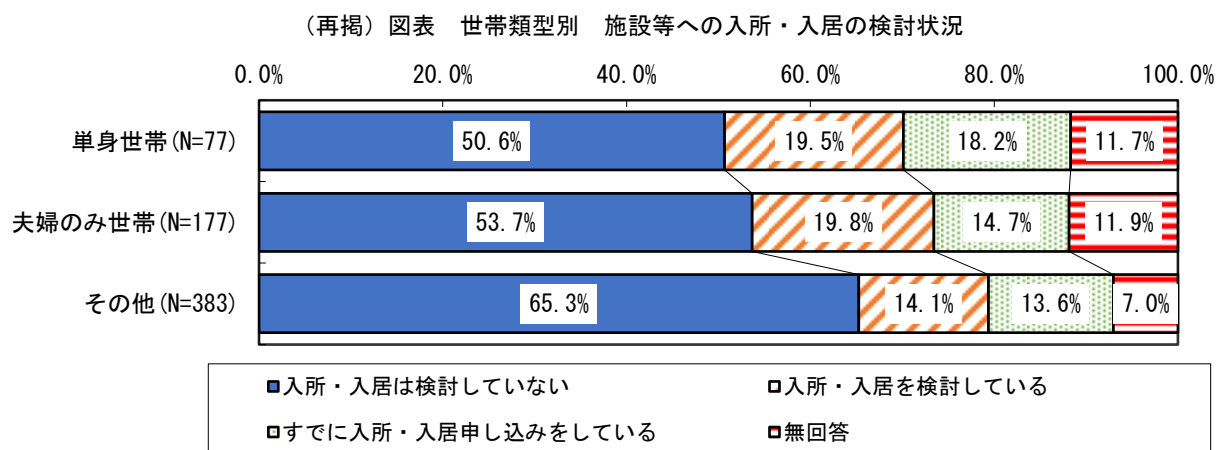
認知症自立度別にサービス利用の組み合わせをみると、「入所・入居を検討している」と「すでに入所・入居申し込みをしている」を合わせた割合は「夫婦のみ世帯」のⅢ以上では6割以上となっていますが、「その他世帯」のⅢ以上では5割未満となっています。



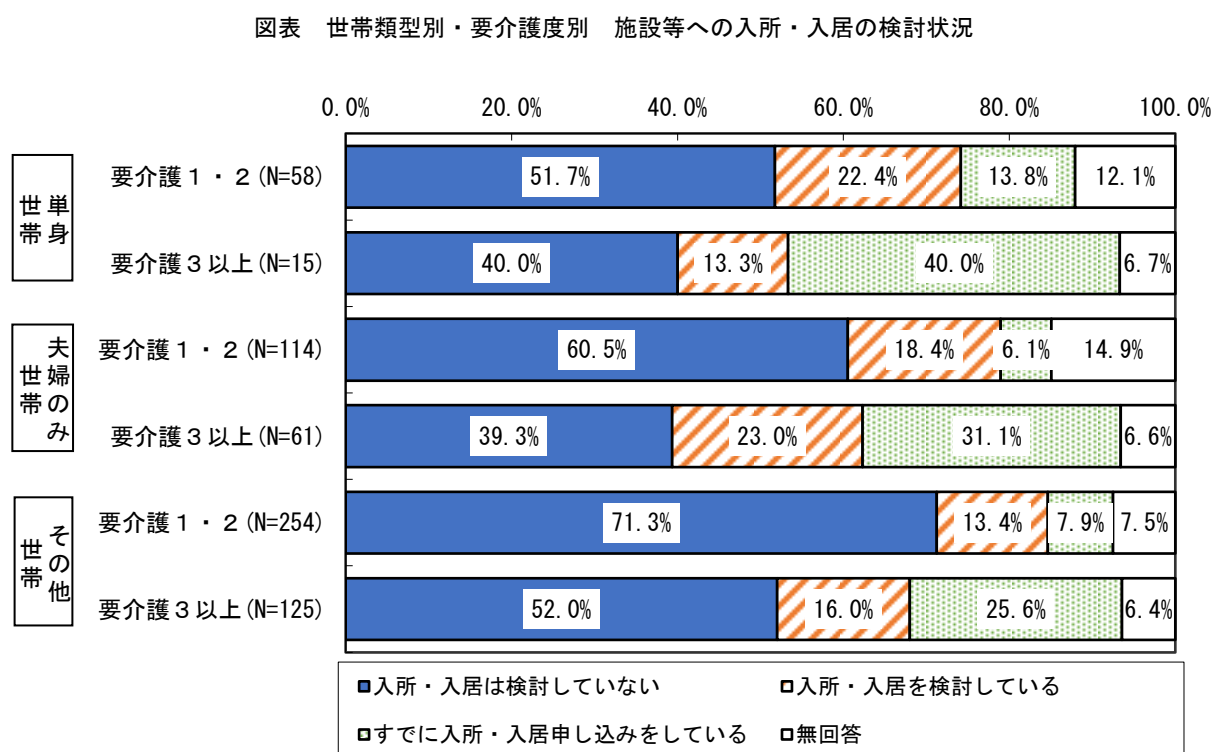
※単身の「自立+Ⅰ」「Ⅱ」、夫婦のみの「自立+Ⅰ」は件数が少ないため省略。

【施設等への入所・入居の検討状況】

世帯類型別に施設等への入所・入居の検討状況をみると、「入所・入居を検討している」と「すでに入所・入居申し込みをしている」の合計は単身世帯(44.3%)、夫婦のみ世帯(39.3%)、その他世帯(27.1%)の順に多くなっています。また、その他世帯では「入所・入居は検討していない」が59.6%となっています。



要介護度別・世帯類型別に施設等への入所・入居の検討状況をみると、いずれも要介護の重度化に伴い「入所・入居は検討していない」の割合が減少していますが、「その他世帯」では要介護3以上でも「入所・入居は検討していない」が5割以上となっています。



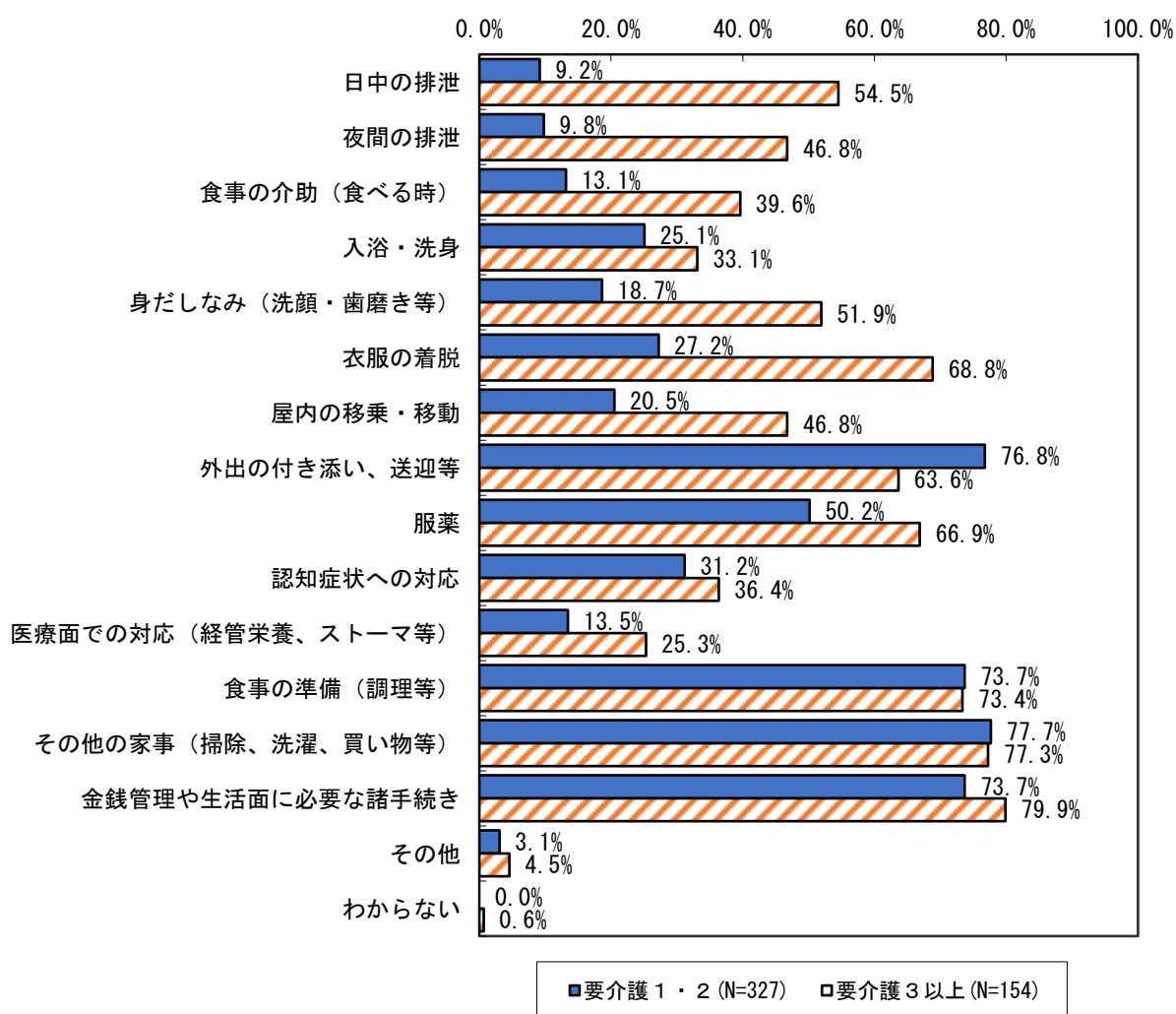
※要支援1・2は件数が少ないため省略。

（５）医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

【主な介護者が行っている介護】

要介護度別に主な介護者が行っている介護をみると、いずれの要介護度でも「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」は7割以上と多くなっています。また、要介護1・2では「外出の付き添い、送迎等」が76.8%、「服薬」が50.2%となっていますが、それ以外の介護では4割未満となっており要介護3以上に比べて少なくなっています。

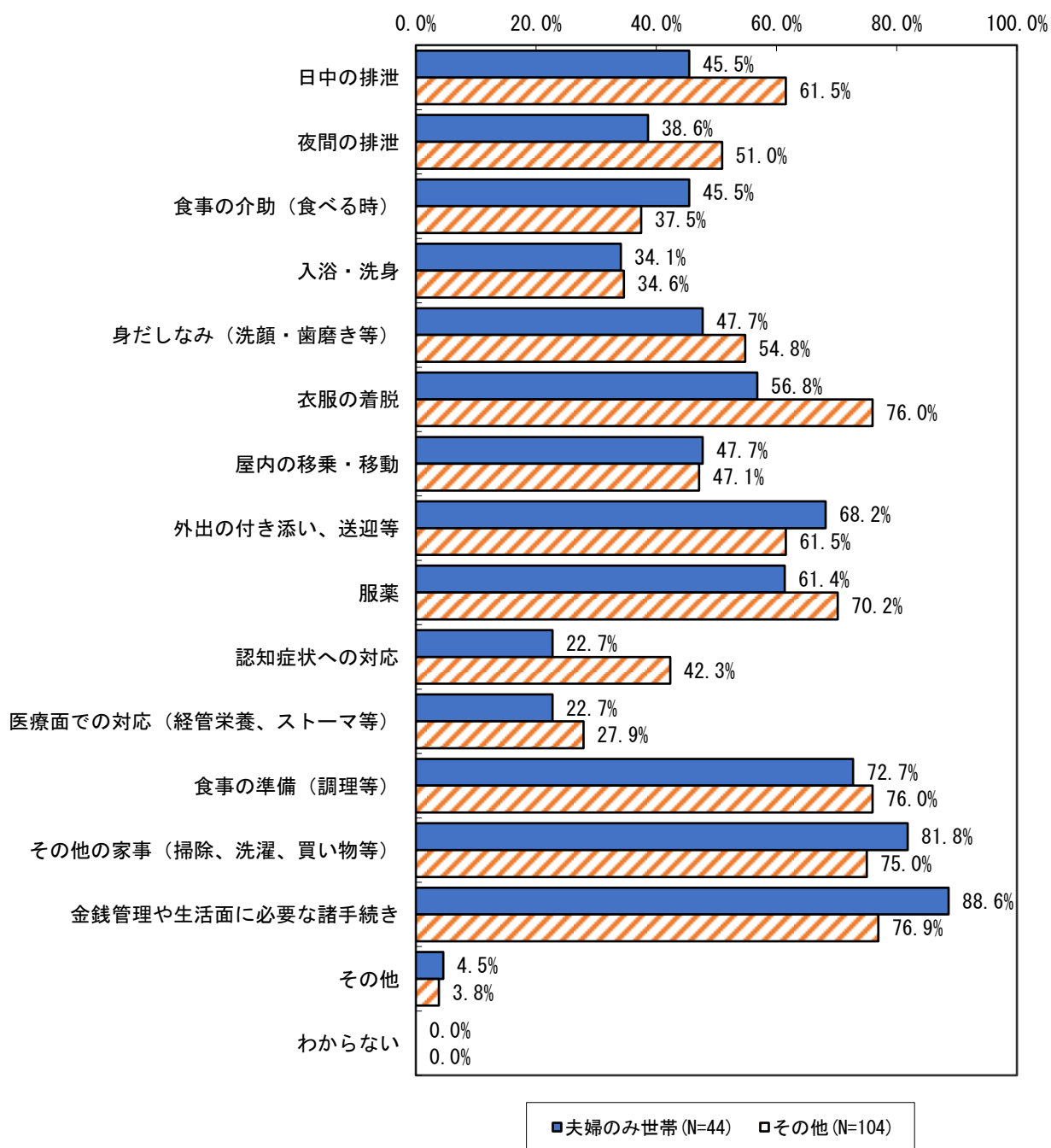
図表 要介護度別・主な介護者が行っている介護



※「要支援1・2」は件数が少ないため省略。

要介護3以上について世帯類型別に主な介護者が行っている介護をみると、いずれの世帯類型も「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」は7割以上と多くなっています。「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「認知症状への対応」は「夫婦のみ世帯」では比較的少なくなっています。

図表 世帯類型別・主な介護者が行っている介護（要介護3以上）

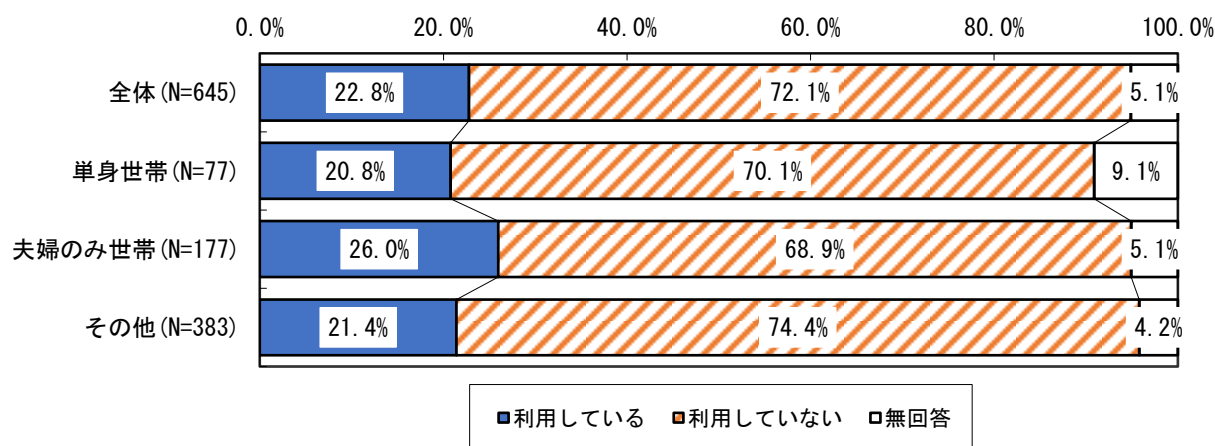


※「単身世帯」は件数が少ないため省略。

【訪問診療の利用状況】

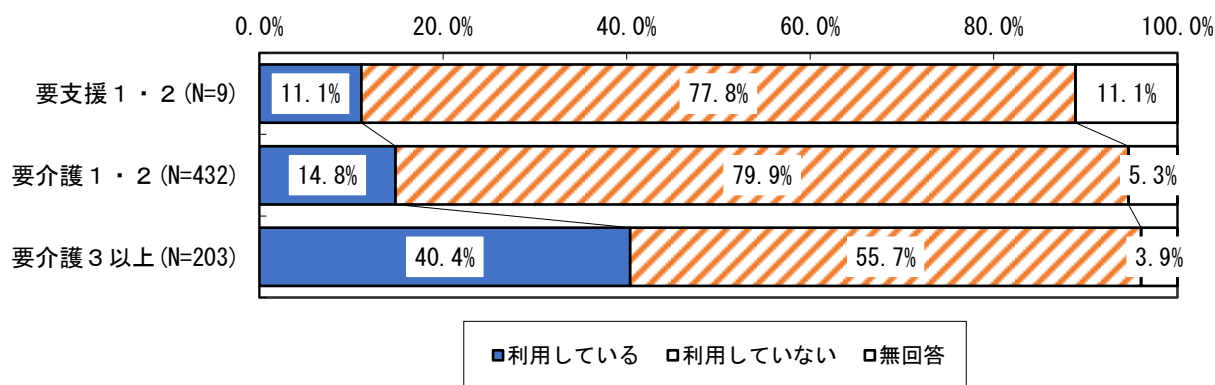
訪問診療の利用状況を見ると、「利用している」は全体では22.8%となっています。また、世帯類型別にみると、「単身世帯」が20.8%、「夫婦のみ世帯」が26.0%、「その他」が21.4%となっており、単身世帯の利用が少なくなっています。

図表 世帯類型別 訪問診療の利用状況



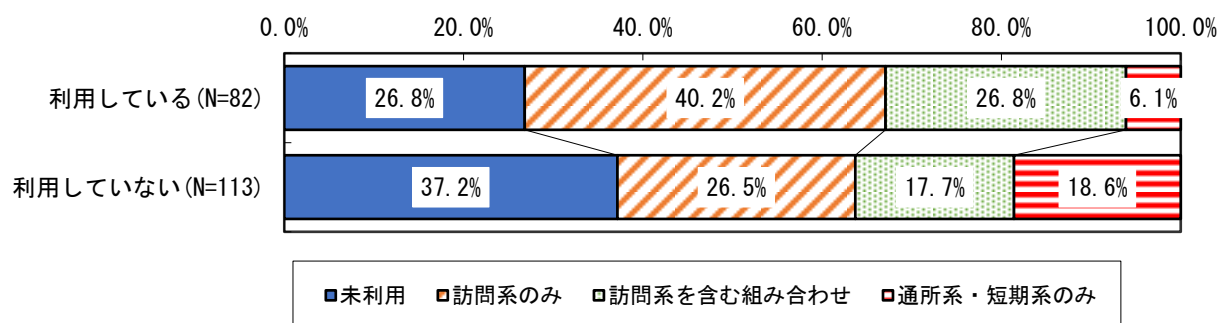
要介護度別に訪問診療の利用状況を見ると、「利用している」は要介護度の重度化に伴って増えており、「要介護3以上」では40.4%となっています。

図表 要介護度別 訪問診療の利用状況



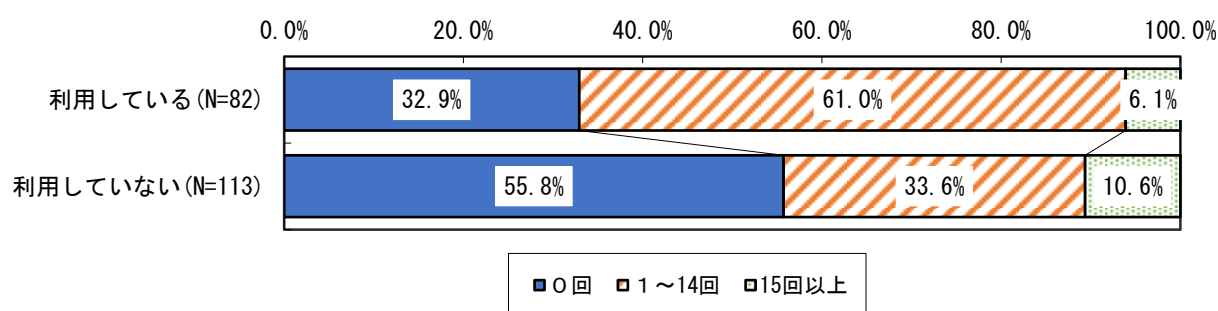
要介護3以上について訪問診療の利用状況別にサービス利用の組み合わせをみると、「利用している」では「訪問系のみ」が40.2%、「訪問系を含む組み合わせ」が26.8%となっており、何らかの訪問系サービスを利用している人が6割以上となっています。一方、「利用していない」は「通所系・短期系のみ」が18.6%となっており、「利用している」より多くなっています。

図表 訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）

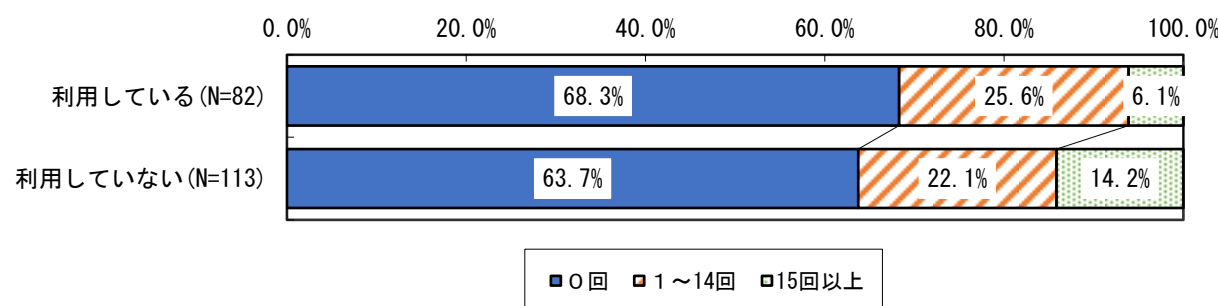


要介護3以上について訪問診療の利用の有無別に訪問系・通所系・短期系のそれぞれのサービス利用回数をみると、訪問系サービスでは訪問診療の利用回数が多い利用者が多くなっています。一方、通所系及び短期系サービスでは訪問診療の利用状況による大きな差はみられませんでした。

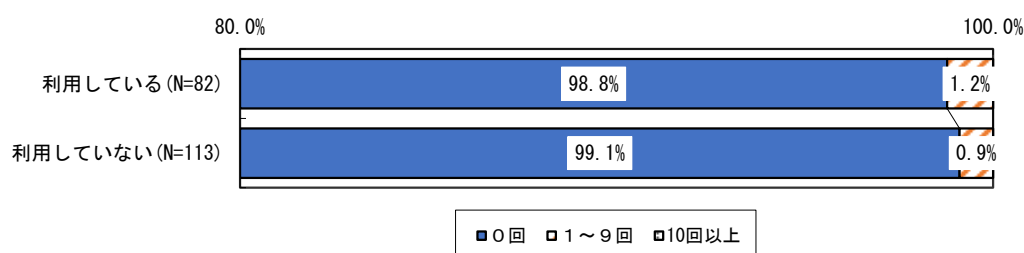
図表 訪問診療の利用の有無別・訪問系サービスの利用回数（要介護3以上）



図表 訪問診療の利用の有無別・通所系サービスの利用回数（要介護3以上）



図表 訪問診療の利用の有無別・短期系サービスの利用回数（要介護3以上）



湖南省介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査結果報告書

令和2年3月

発行 湖南省

〒520-3223 滋賀県湖南省夏見 588 番地

TEL 0748-71-2356 / FAX 0748-72-1481

E-mail kaigo@city.shiga-konan.lg.jp
